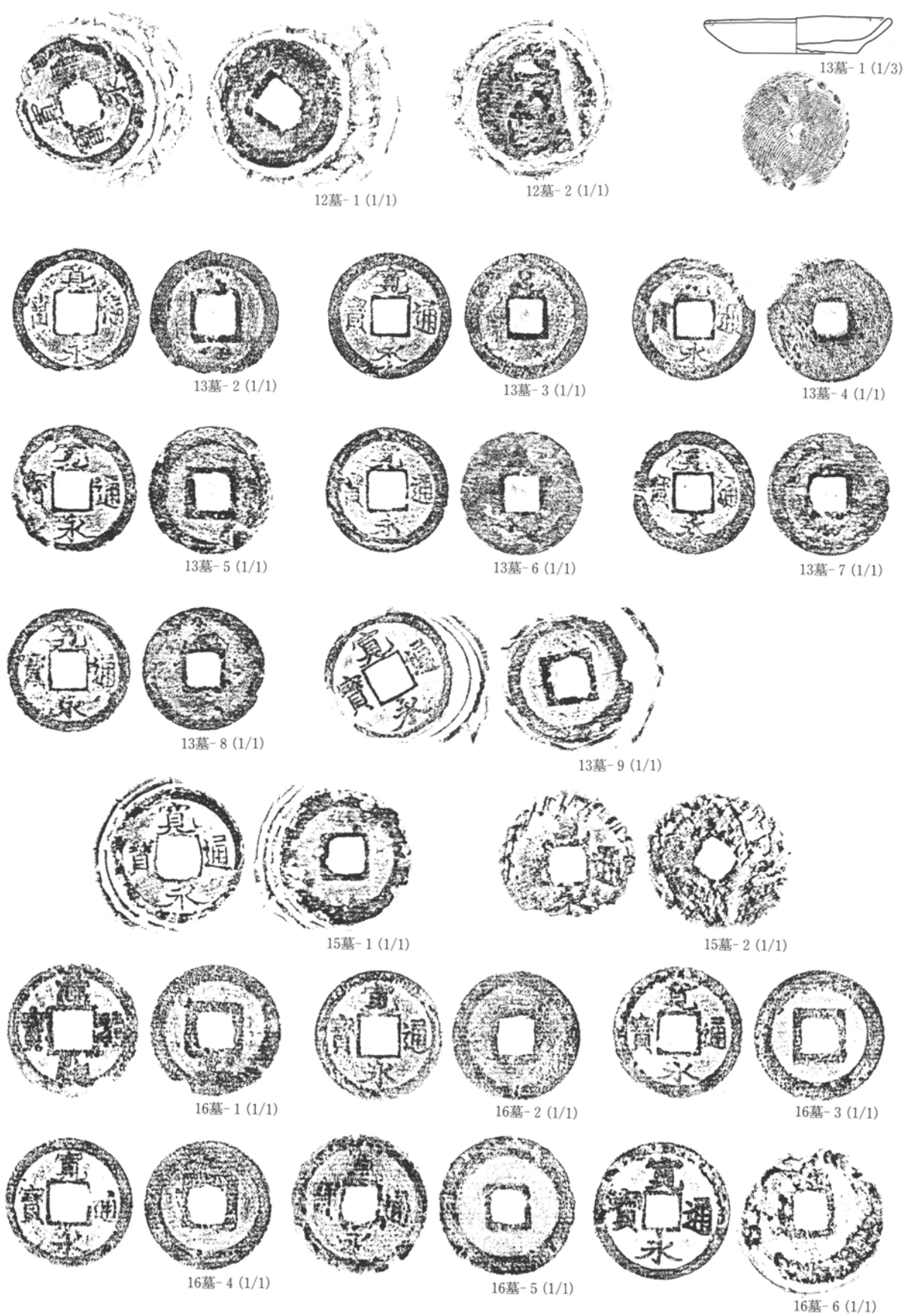
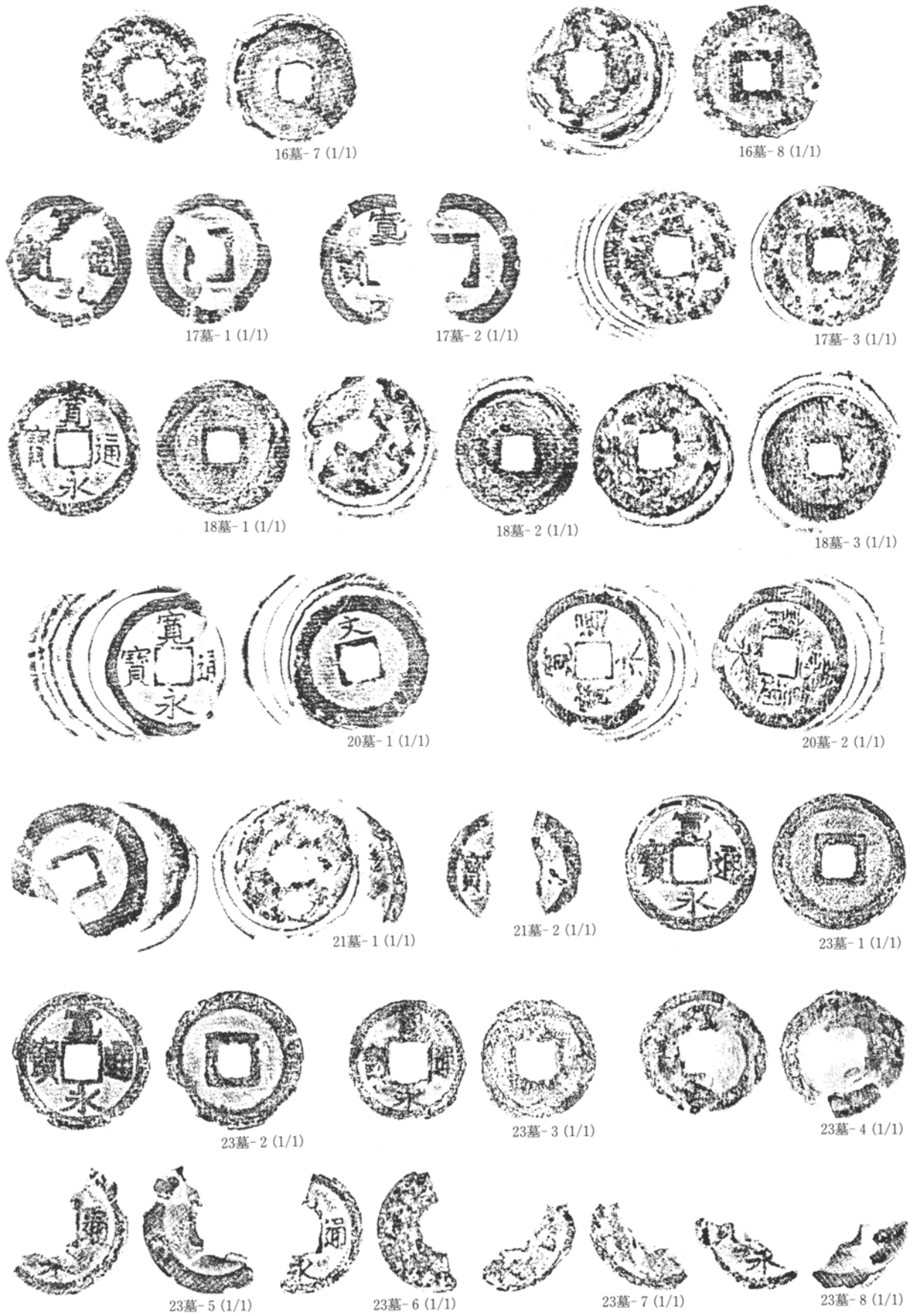


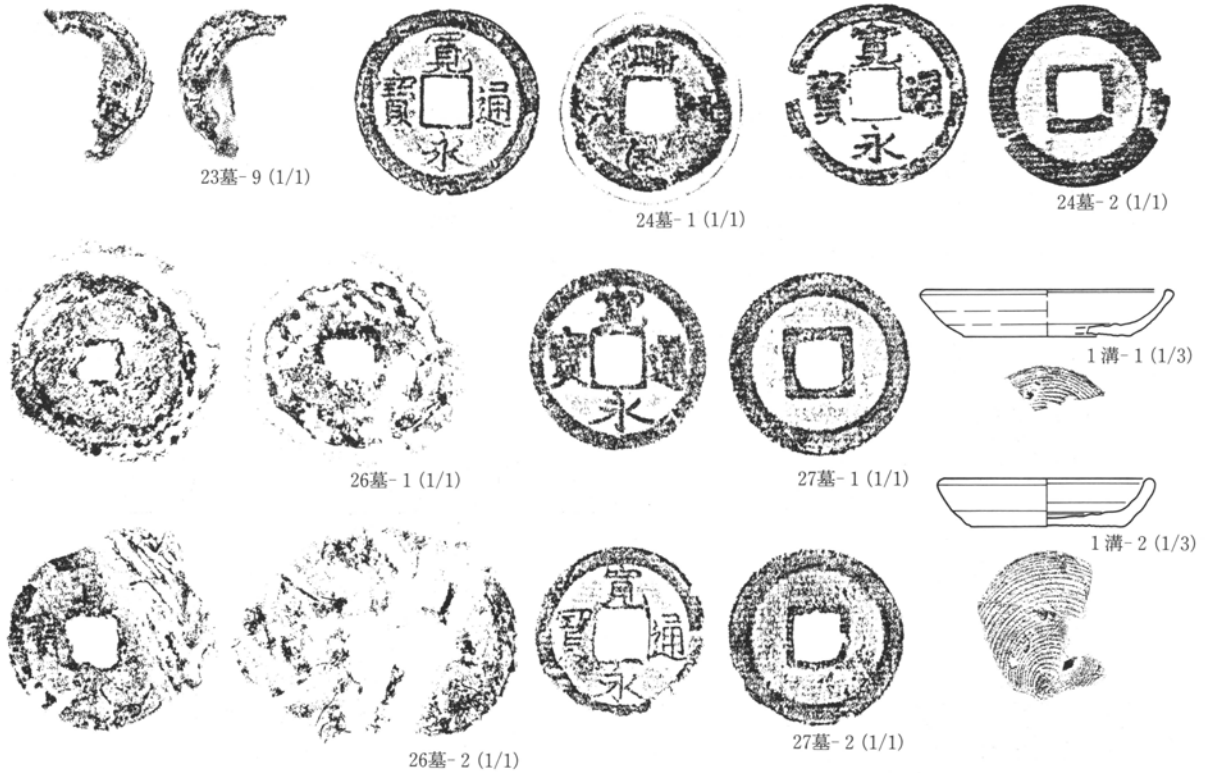
第198図 8～10号土墳墓出土遺物



第199图 12·13·15·16号土壙墓出土遗物



第200图 16~18·20·21·23号土墳墓出土遺物



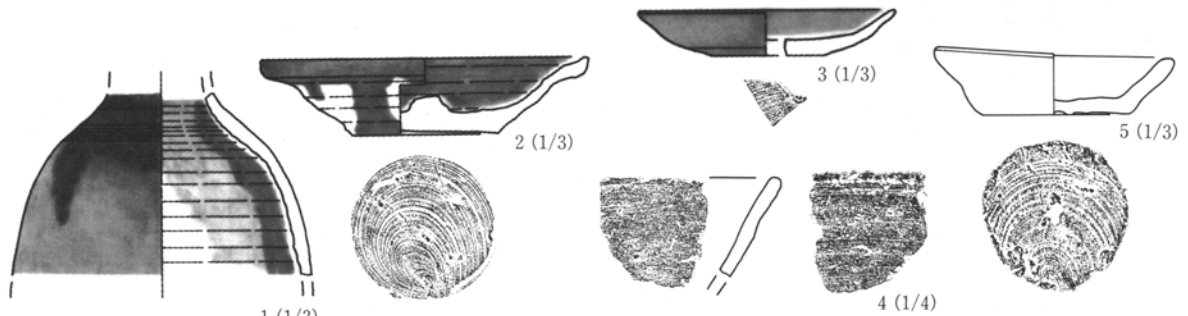
第201図 23・24・26・27号土墳墓、1号溝出土遺物

(5) 遺構外出土遺物

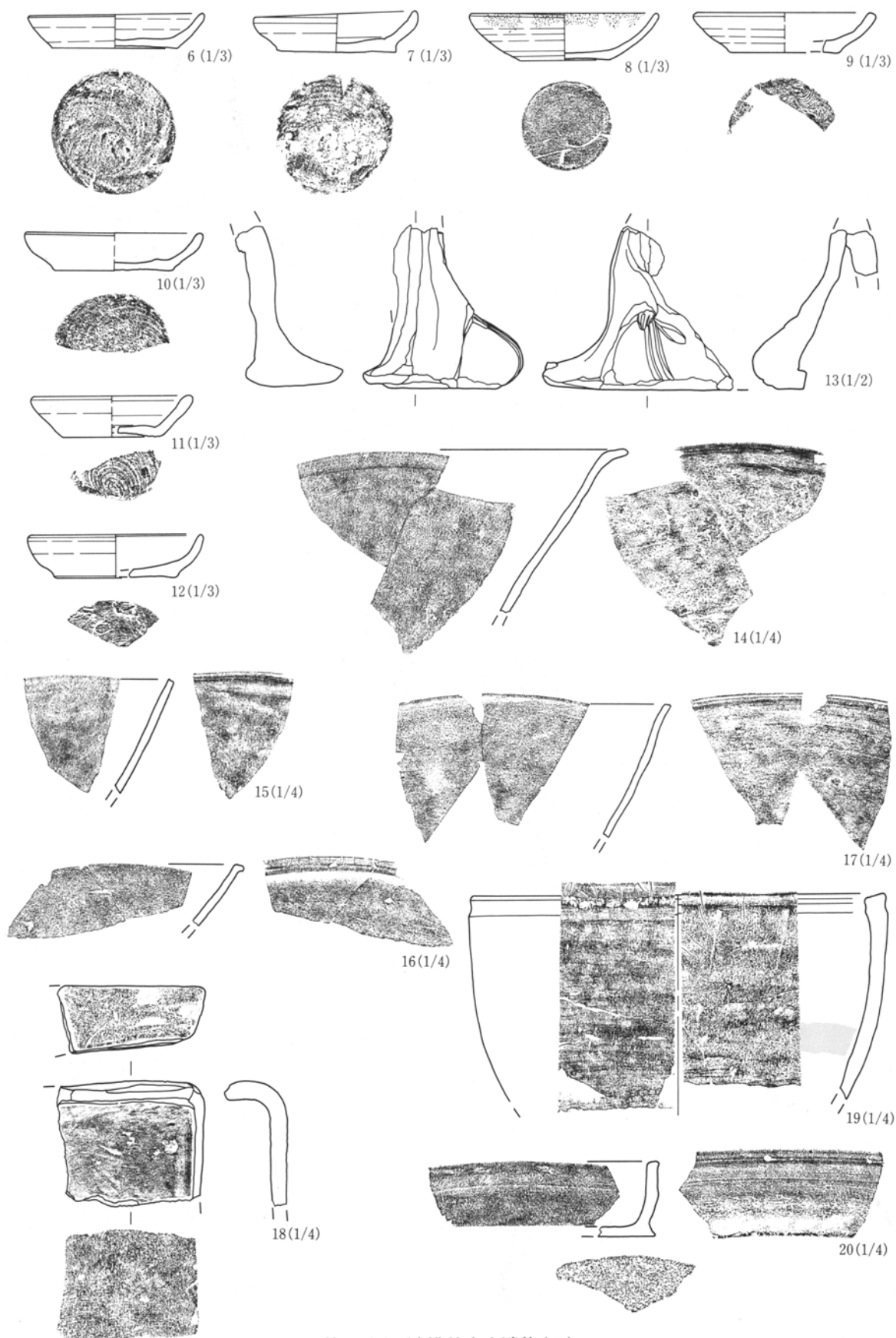
遺構外出土遺物のうち、ここでは中近世に属するもののみ取り上げる（第202～205図、PL-94～99）。

伊勢山遺跡は墓地であったことから、通常的生活用具は少なく、少量の陶器、土器の破片が出土したのみである。陶器は徳利、壺蓋、灯明皿、片口鉢（1～4）、土器は皿と焙烙、土鍋、火鉢、十能などがある（5～23）。皿は口縁部に油煙が付着したものがあり（8）、灯明皿として使われたものと考えられる。

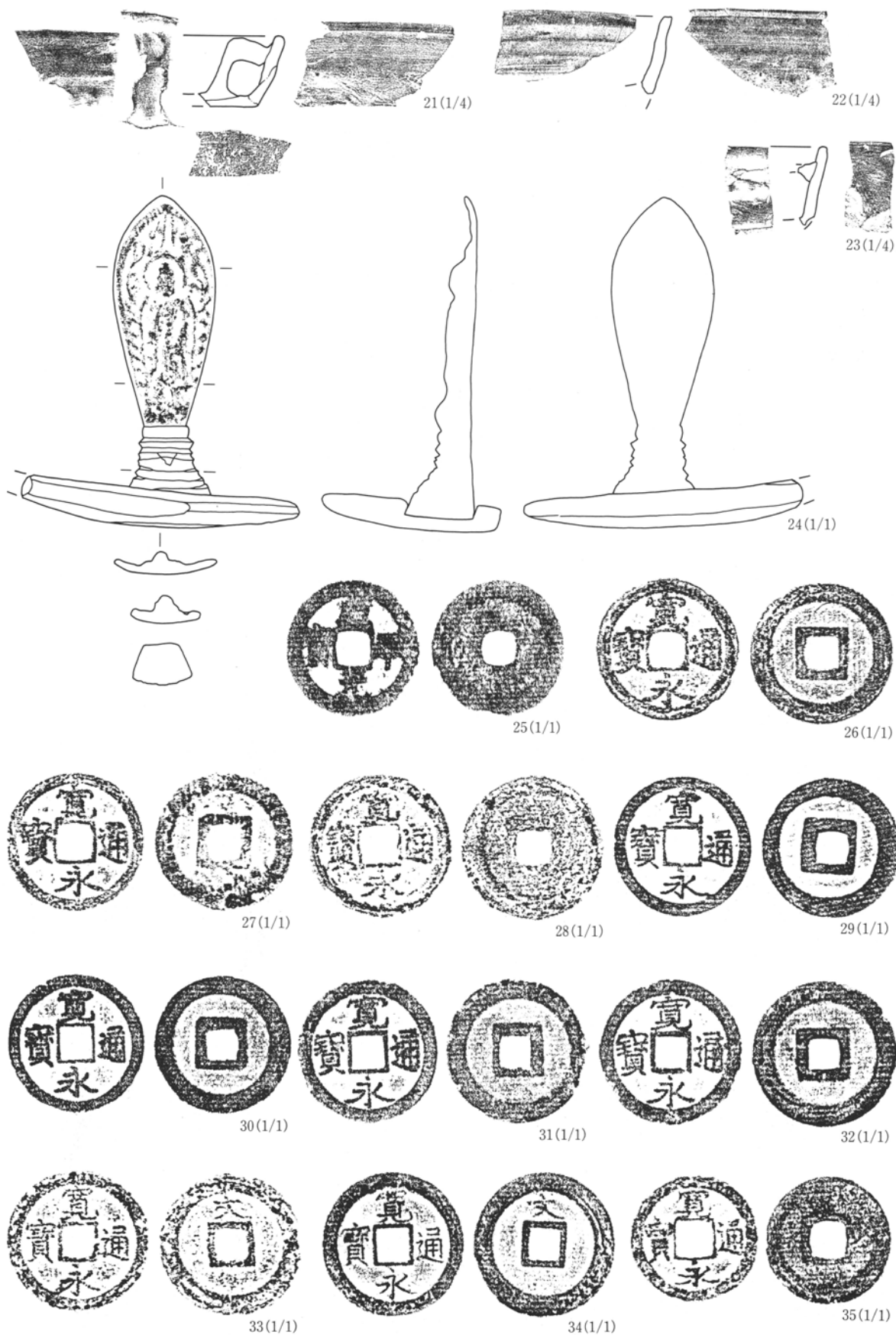
また、墓に副葬されたと思われる多量の古銭が出土した。古銭は合計126枚見つかっているが、そのうち遺存状態の良好なもの24枚の拓影を載せた（第204・205図）。大半が寛永通寶で、うち「古寛永」が20枚（26～32）、「文銭」が12枚（33・34）、「新寛永」28枚（35～39）、鉄一文銭2枚（40）、鉄四文銭3枚（41・42）、詳細のわからないものが1枚ある。寛永通寶以外では、文久永寶6枚（43～47）、熙寧元寶（25）と天保通寶（48）が各1枚、一銭銅貨2枚、銭種わからないものが50枚である。この他にやはり副葬品と考えられる小型の仏像が1体出土した（24）。このように多量の副葬品と思われる遺物が出土していることから、本来はより多くの土墳墓が残されていたものと推測される。



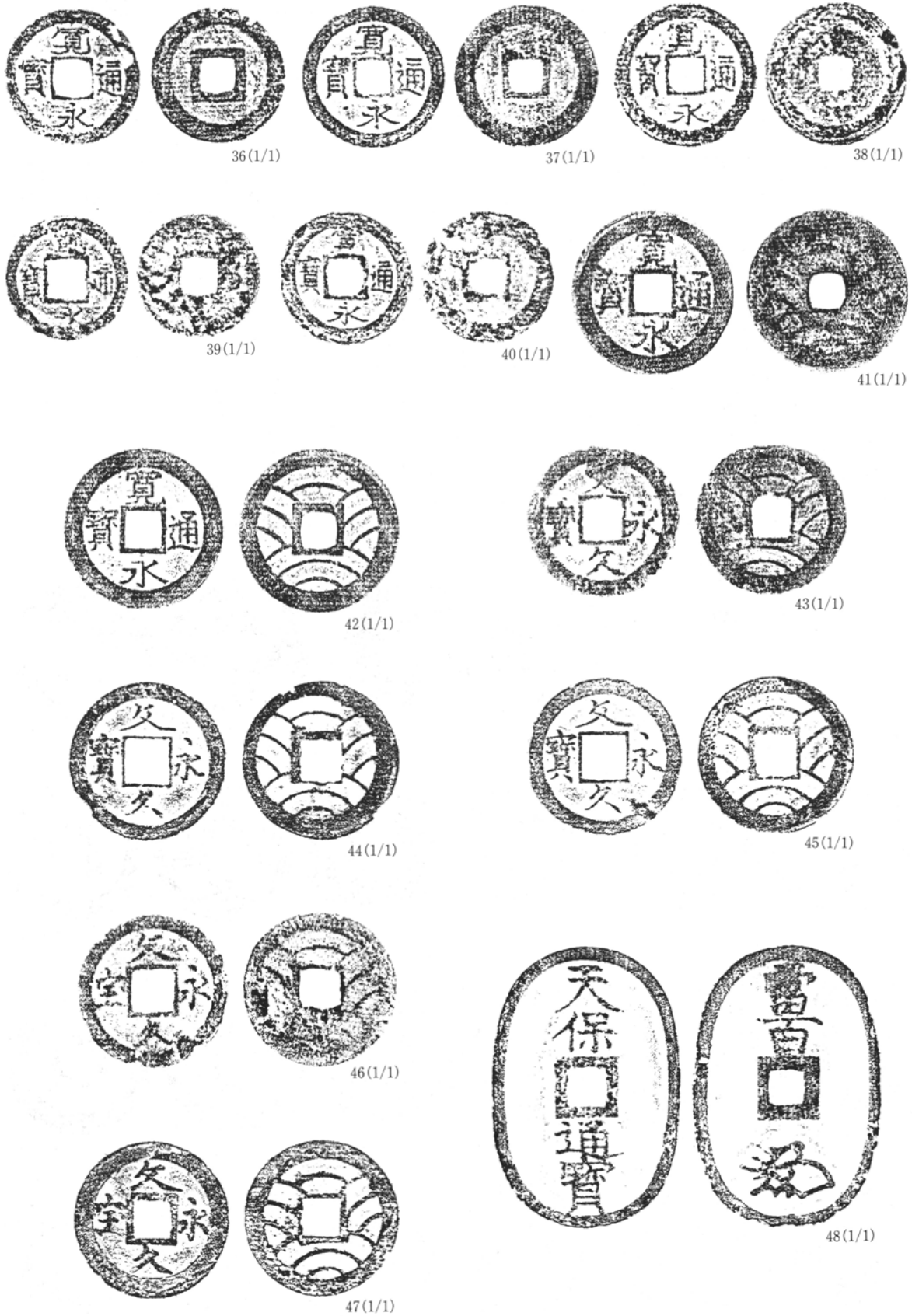
第202図 遺構外出土遺物(1)



第203図 遺構外出土遺物(2)



第204図 遺構外出土遺物(3)



第205圖 遺構外出土遺物(4)

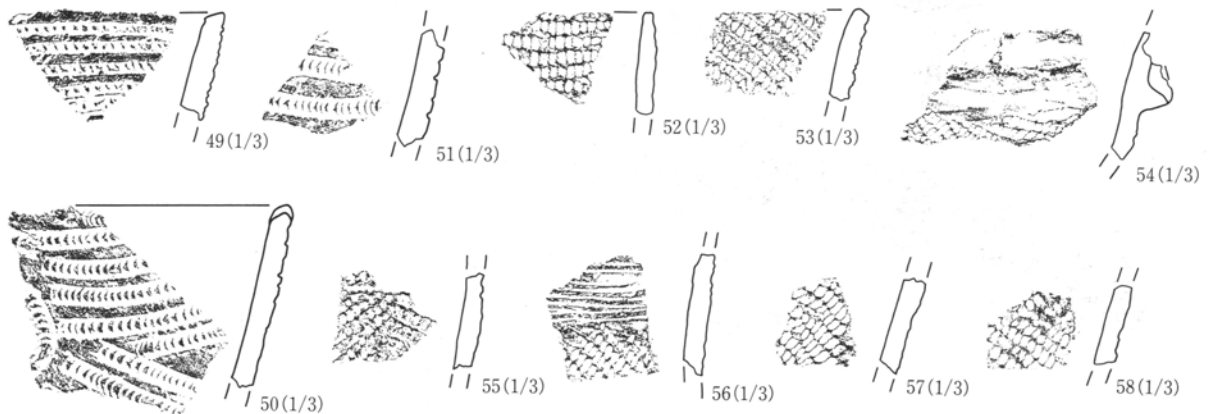
III 遺構外出土遺物

中近世の遺構覆土や攪乱中から、縄文・古墳時代の遺物が出土した（第206～208図）。いずれも混入したもので、遺物が本来属していた遺構はすでに失われており、確認できなかった。

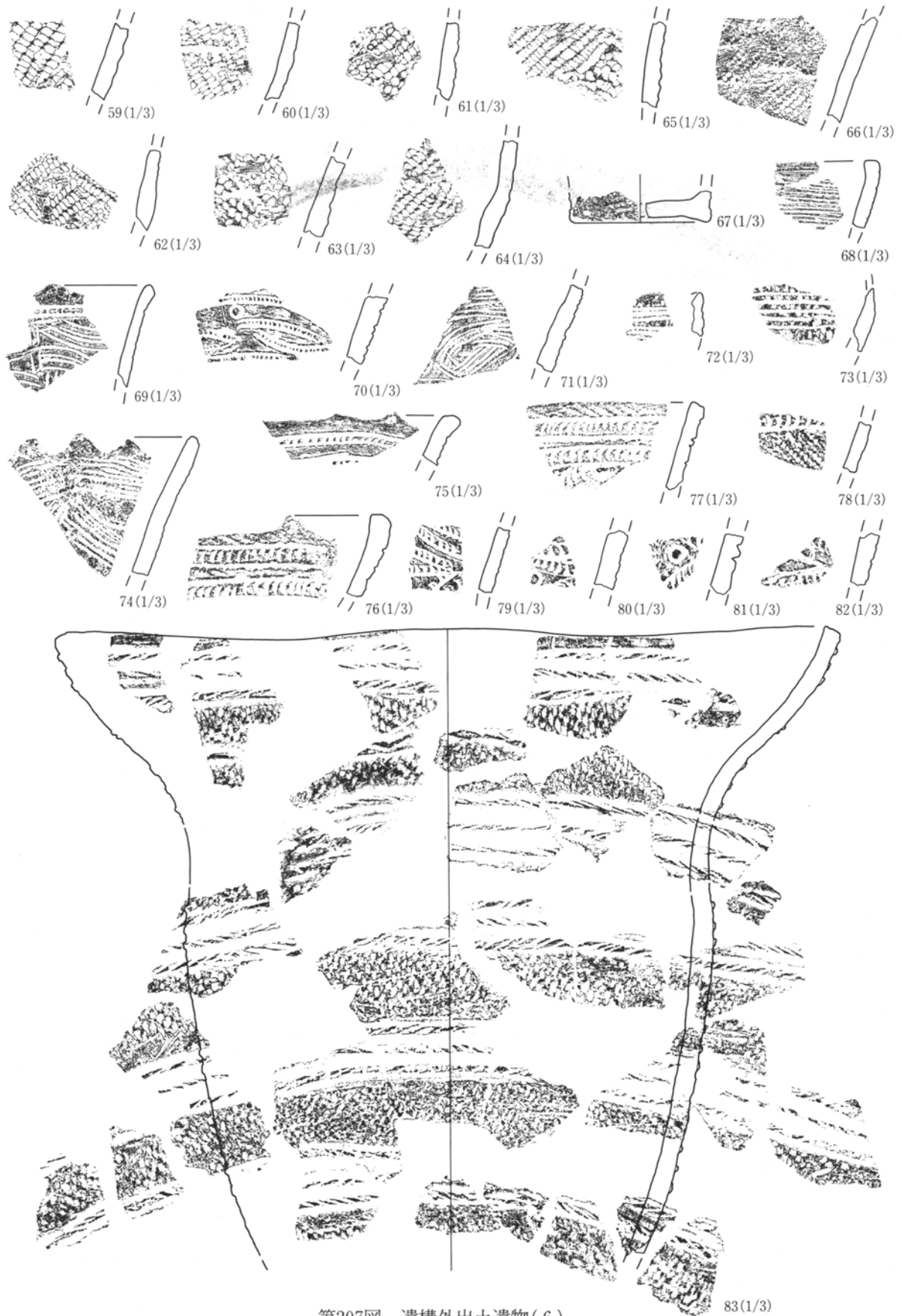
縄文時代の遺物は土器と少数の石器である。調査区南西よりのH-0、G-0・10、F-0・10グリッド周辺にややまとまって分布していた。いずれの土器も深鉢の小破片で遺存状態は悪く、器形が復元できるものは1個体だけであった。時期は、すべて前期の中葉から後半に位置付けられる。49～51は有尾式の土器で、半截竹管による連続爪形文が施され、胎土には繊維を含む。49・50は口縁部破片で、50は小突起を持つ波状を呈する。51は50と同一個体である。52～67は黒浜式で、胎土には繊維が含まれる。52・53は口縁部破片で、54は隆帯を貼付、56は平行沈線が施文される。67は底部破片である。68～95は諸磯b式で、中でも68～71、84～88はより古い段階に属する。68・69・74・75・77・89は口縁部破片で、小突起を持つ物や、波状の物がある。88は底部破片。平行沈線や半截竹管による連続爪形文などによって文様が描かれる。円形の刺突文を持つ物もある。83は唯一器形が復元できた個体で、キャリパー状の深鉢である。口縁は緩やかな波状を呈し、口縁から胴部下位まで浮線文がめぐる。浮線文は上面に刻みを付し、3条1組で5段確認できた。96～99は浮島式である。97は口縁部破片で、半截竹管による平行沈線や連続爪形文が施文される。石器はごくわずかの剥片類が出土したのみであるが、凹基無茎鏃が1点含まれていた（100）。縦長の二等辺三角形形状で、基部がわずかに内湾する。石材は黒色安山岩である。

古墳時代に属する遺物は少数の土師器のみである（101～105）。4号土壌墓の覆土内からまとまって出土しており、本来の遺構はその近辺にあったと思われる。器種はS字口縁の台付甕（101）、S字状の口縁を持つ小型甕（102）、器台（103）、鉢（104）、小型甕（105）で、全て前期に属する。

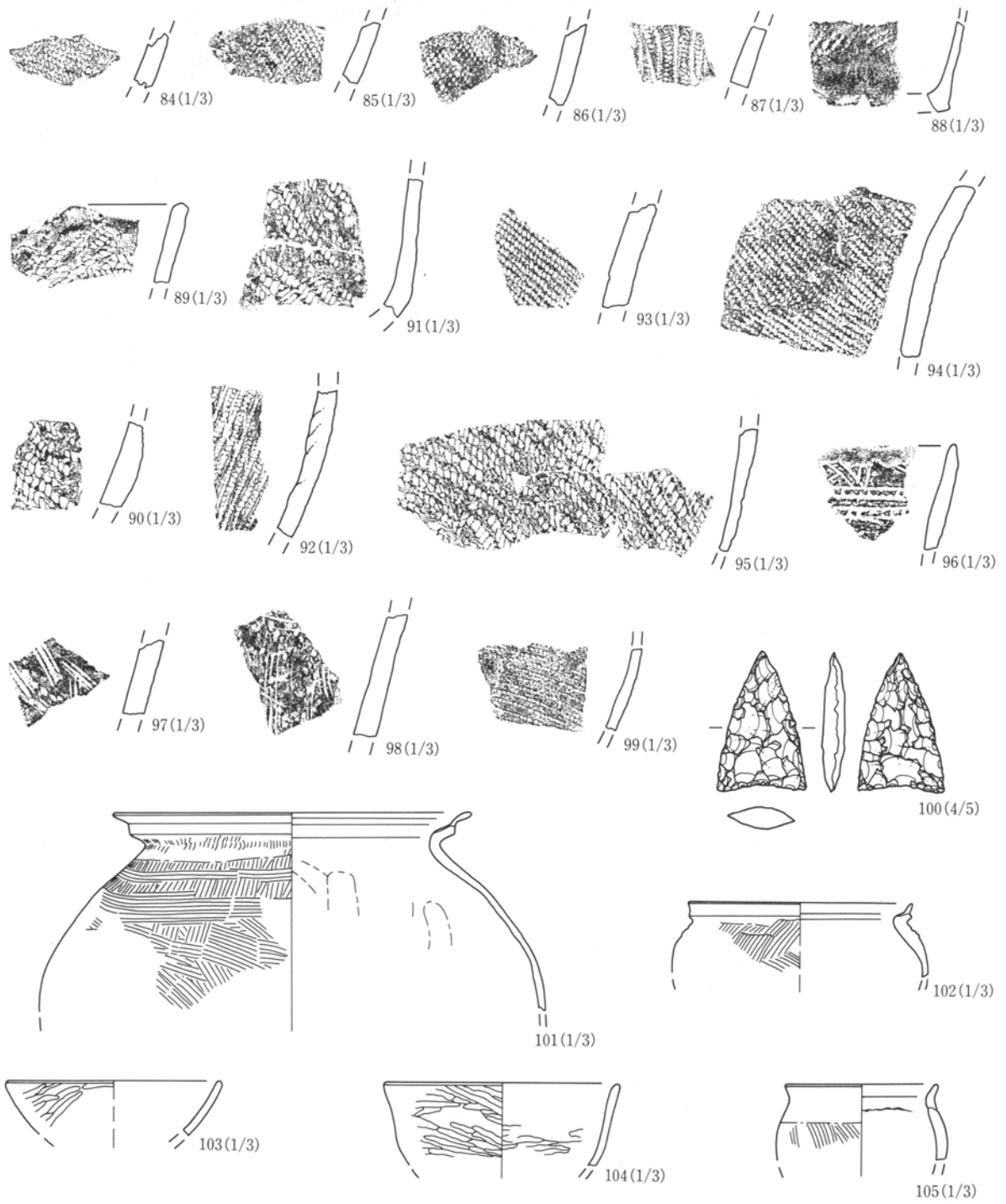
本遺跡は近世以降現代まで墓地として利用されていたことに加え、調査着手前の墓地の移転によってかなり大きく攪乱されている。そのため縄文・古墳時代の遺物は全て本来の遺構から離れ、表土や攪乱、近世の遺構からの出土である。古墳時代の遺物に関しては、隣接する波志江西宿遺跡に同時期の集落がある。本遺跡はこの集落の縁辺部にあたり、わずかに遺物の分布が見られる程度である。縄文時代の遺物については、西側に隣接する波志江中屋敷東遺跡で、縄文時代前期関山式期を中心とする包含層と少数の土坑が発見されている。時期的には本遺跡の方が若干新しいが、中屋敷東遺跡と同様に小規模な土坑群などが存在した可能性が考えられる。



第206図 遺構外出土遺物（5）



第207図 遺構外出土遺物(6)



第208図 遺構外出土遺物(7)

第4章 まとめ

1 波志江西宿遺跡

I 古墳時代遺構・遺物について

杉田 茂俊

波志江西宿遺跡では古墳時代の遺構として竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡2棟、土坑62基、ピット3個が検出された。

1. 掘立柱建物跡・土坑

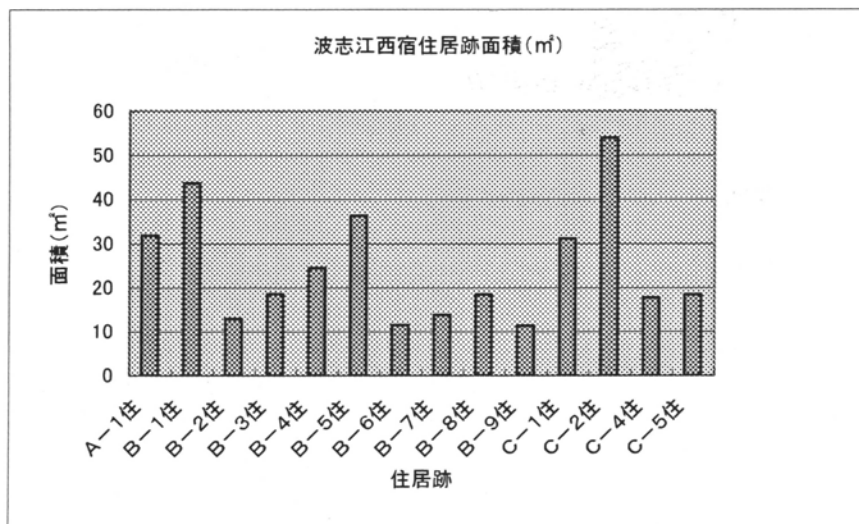
掘立柱建物跡と土坑は、As-Cを覆土に含むものの、出土遺物は無いため、遺構の時期も細分化が難しく、竪穴住居跡との関わりを明らかにすることはできなかった。掘立柱建物跡の主軸は、竪穴住居跡と合致するものとしないうちがあった。このことから、主軸の合致する竪穴住居跡と併存した可能性も考えられる。なお、井戸は検出されていない。

2. 竪穴住居跡

竪穴住居跡は19軒検出されているが、そのうち4軒が調査区外に住居跡の範囲が及ぶものや上部からの大きな削平を受けていたため、全てを調査することができたのは、15軒であった。住居跡は全て竈を持たないもので長方形・正方形を呈し、規模も様々であった。

住居跡の面積を下グラフにした。これを見ると、C区2号住居跡が最大でB区1号住居跡、B区5号住居跡と続く。このうちC区2号住居跡・B区1号住居跡からは、甕・壺・高坏・手捏土器・石製模造品が出土する。C区2号住居跡からは大量の小型壺が出土し、B区1号住居跡は、斧形の石製模造品が出土する。いずれも大型の住居跡で日常用具の他に手捏土器・石製模造品といった祭祀的な遺物も出土することなどから、集落を治めていた指導者の住居跡と考えられる。

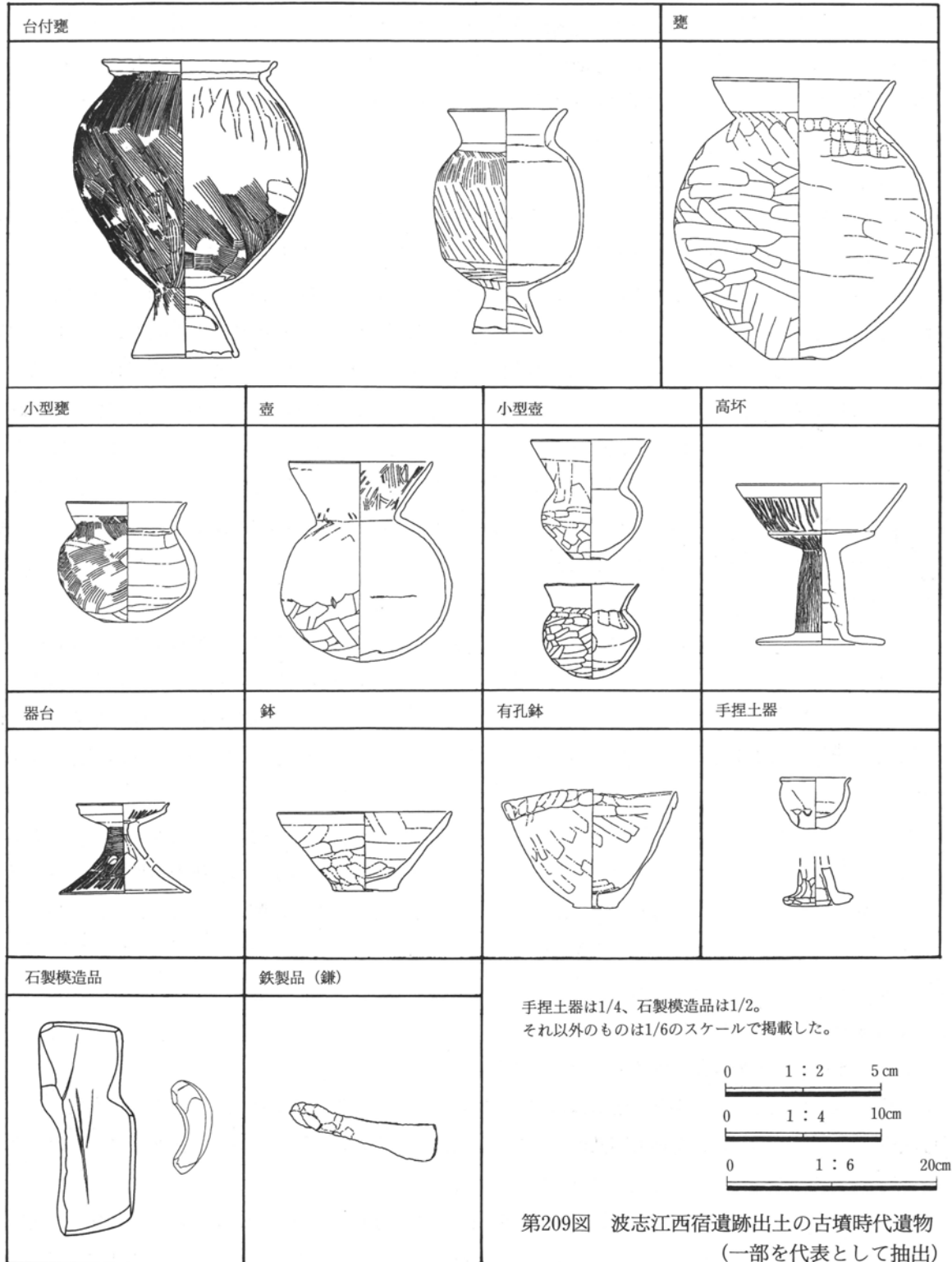
検出された竪穴住居跡の出土遺物を見ると、S字状口縁台付甕を甕の主体とするもの、単口縁平底甕が主体でS字状口縁台付甕がわずかにあるもの、単口縁平底甕だけのものがある。一部に単口縁台付甕がある。甕の全体的な割合としては、単口縁甕が多く、S字状口縁台付甕は少ない。また、隣接する波志江中宿遺跡のA区1号住居跡からは、S字状口縁台付甕の末期と思われる台付甕も出土している。壺の完形品は量的に少なく、口縁部破片・胴部のみのものが多い。高坏は長脚化したものがほとんどである。小型器台も少ない。



住居跡	面積(㎡)
1 A-1住	31.74
2 B-1住	43.8
3 B-2住	12.8
4 B-3住	18.49
5 B-4住	24.4
6 B-5住	36.26
7 B-6住	11.49
8 B-7住	13.7
9 B-8住	18.4
10 B-9住	11.21
11 C-1住	31.03
12 C-2住	54
13 C-4住	17.64
14 C-5住	18.31

面積が測定できない住居跡は除く。

小型壺は、完形品が多い。特殊遺物としては、鉄製鎌・石製模造品等が住居内より出土している。鉄製鎌に関しては、古墳時代前期において稀少品である。石製模造品の斧形も県内の例は18例と少ない。これらのことから、波志江西宿遺跡の集落跡は、S字状口縁台付甕から単口縁平底甕に主体が移っていく4世紀末から5世紀初頭の時期と考える。



第209図 波志江西宿遺跡出土の古墳時代遺物 (一部を代表として抽出)

II 波志江西宿遺跡出土のS字状口縁台付甕について

杉田 茂俊

波志江西宿遺跡出土のS字状口縁台付甕（以下S字甕）はほぼすべてが住居跡から出土している。その数は遺物の全体量から見ればあまり多くはない。本遺跡の東側に隣接する波志江中宿遺跡(註1)A区粘土採掘坑から多くのS字甕が出土している。詳細に関しては、波志江中宿遺跡の報告書を参照されたい。本稿では、本遺跡出土のS字甕を検討し、既存の編年と対比させ、波志江中宿遺跡出土のものと比較・検討できればと考える。

器種組成

本遺跡の住居跡でS字甕が主体的な甕として出土するのは、B区8号住居跡、C区3号住居跡である。B区8号住居跡は、甕2種類（S字甕・単口縁甕）、壺2種類（口縁外反の広口壺・直口壺）、小型甕（S字）で完形のもの無く、遺物量も少ない。甕はS字甕2点、単口縁甕口縁片1点。壺はすべて口縁片である。高坏・小型器台・小型壺等は見られない。C区3号住居跡は、甕2種類（S字甕・単口縁甕）、壺1種類（直口壺）、小型壺1種類、器台1種類、有孔鉢1種類、鉄製鎌1点である。甕は7点中、4点がS字甕、残りの3点が単口縁甕である。単口縁甕の中には外面にハケメの施される平底甕がある。壺の量的な割合は少なく、ひさご壺の系統と思われる直口壺1点のみである。大型の壺を見ることはできない。小型壺は、口縁片が1点出土して。器台は、口唇部が外側にやや開き、器受部に稜をもつ。脚は裾が広がり、上位に横位のミガキが施される珍しいものもある。有孔鉢は完形のもので1点で口縁部に帯状に粘土を貼り付けている。鉄製鎌は古墳時代前期の住居跡からの出土は稀少例である。

S字甕の型式的特徴

B区8号住居跡出土S字甕の口縁部は、ほぼ直立に立ち上がりシャープさは無くゆるやかである。口唇部はつまみ上げまではいかないが、わずかに面をとっている。平たい部分はわずかにある程度。1段目よりも2段目の方が長い。頸部内面は、ヘラナデがされているが、面をとるまでには至らない。胴部はすべてでは無いが残存部分で判断する限り、長胴傾向にあり、肩の張りも緩やかである。肩部のハケメの平行線は認められない。

C区3号住居跡出土のものは4個体あるが、口縁部がやや外傾し、外面の稜はシャープさは無く、ごくわずかに段になる程度である。口唇部はつまみ上げての面取りは無く、丸みをもつ。平たい部分もほとんど無い。頸部内面は、ヘラナデが施されているが、面をとるまでには至らない。胴部は、長胴化し肩の張りもゆるやかである。肩部のハケメの平行線は認められない。器壁は3～5mm程度。脚部はラッパ状に外側に開き、内面の折り返しもすべてに認められる。

S字甕の製作技法について

本遺跡出土のS字甕の推測される製作技法をまとめておく。

胎土 C区3号住居跡のS字甕の色調はにぶい黄橙色から白色に近い浅黄橙色のもので、暗褐色のような色調を呈するものは無い。東海地方西部のような白色を意識したかは不明である。B区8号住居跡のS字甕は、褐灰色でどちらかという暗褐色に近い色を呈する。

成形 口縁は一段目と二段目の輪積みとで、一段目の上に二段目をのせて積み上げるものが多い。胴部は上半指でナデ上げ、最大径付近が薄いものの、3～5mm程度のものがほとんどである。脚部は胴部底面と脚

部天井面に砂粒の多い粘土を貼り付けて補強する。

整形 外面は、ヘラケズリを施し形を整える。ハケメの間ないし下に砂粒が横に動く様子が観察できる。その後ハケメを施す。ハケメは頸部から胴部上半は左下がりで1段、胴部中半から脚部は上方へ2～3段ほどに分け、細かいハケメを雑に施す。脚部からのハケメが胴部へ連続してつながっている様子が観察できる。これには胴部下半で止まるものと胴部中半まで引き上げるものがある。このようなことからハケは脚部から入れて胴部へ施したものと思われる。ハケ工具は、頸部の残存のよい部分で確認する限り、2cm以上の幅をもつ。目の間隔は、1～2mm程で細かいハケメと思われる。内面は口縁から頸部は形を整えてから横ナデを施す。頸部はヘラナデをしてから口縁部と一緒に横ナデをされている。横位のハケメが施された形跡は見られない。胴部は横位のナデと縦位に指でナデ上げている。下半に弱い横位のハケメを施す。

以上が本遺跡出土のS字甕についての推測される製作技法である。S字甕を製作する際の規格性は守っているものの、形状について細かく一つ一つの部分を見ると傾いたもの、歪んだものがあったりと仕上がりにややばらつきがあるように思える。

S字甕の編年の位置付け

S字甕の編年について現時点では、群馬県内において井野川流域の土器を対象にした田口一郎氏の編年(註2)、東海西部地方を対象とした赤塚次郎氏の廻間編年(註3)などが代表的なものである。ここでは田口一郎氏の編年に対比させてみたいと思う。田口一郎氏の編年ではS字甕を7つに形式分類し、これを主にしてS字甕をもつ土器群を7つに細分化した。口縁部に刺突紋を廻らすI類(廻間A類に対応)と器形や技法はそのままで刺突紋を略したII a類(廻間B類古に対応)をI期。II b類(廻間B類中に対応)のみの場合をII期。頸部内面の横位のハケメが喪失し、ヘラナデを施すII c類と胴部がやや長胴化し、肩部にハケメの平行線をもつIII a類と胴部に丸みをもち、肩部のハケメの平行線を略したIV a類をIII期。III a類よりも長胴で内外面にヘラケズリが認められ、肩部にハケメの平行線をもつIII b類、口縁部は外反し丸味をもち、胴部はヘラケズリの後、細かいハケメを施すIV b類、IV b類をベースに通常的口縁部の上部に拡張部が付加される(通常的口縁の3倍程の長さのものが多い)V類をIV期。口縁部にバリエーションをもつが、いずれもシャープさが無く退化的で、胴部は長胴化が著しい。内外面にヘラケズリの後、細かく雑なハケメを施すIV c類、IV類の亜種か、模倣された「S字甕もどき」か、というVI類をV期。IV c類と胴部外面のハケメを喪失したVII類をVI期。VII類のみの場合をVII期とした。本遺跡出土のS字甕は、前述したように口縁部はシャープさは無くなり、わずかに段になる程度である。胴部は長胴化し、外面にヘラケズリを施してからハケメを施す。ハケも比較的細かいというような特徴をもつ。以上のことから田口一郎氏の編年と対比させると、本遺跡出土のものは、IV c類にあたり、V期に相当すると考える。

波志江中宿遺跡出土のS字甕との対比

波志江中宿遺跡出土のS字甕との対比を試みたいと思う。対象とするのは、波志江中宿遺跡A区粘土採掘坑出土のもの(報告されている47点)としたい。詳細は波志江中宿遺跡(註1)報告書を参照されたい。波志江西宿遺跡B・C区間の道路から波志江中宿遺跡A区までの距離はわずかに100mを越える程度である。波志江中宿遺跡A区粘土採掘坑から大量のS字甕が出土しているが、その形態は様々である。ここでは、簡単にまとめたいと思う。口縁部は、シャープなもの・ゆるやかなものがある。口唇部に面をとるものと、とらないものがある。また、口縁部から肩部の変換に間があるものもある。頸部外面は沈線の入るもの、ハケを施す際にえぐられるもの等がある。内面は横位のハケメを施すもの、ヘラナデを施し面をとるもの面をとらないものがある。胴部はゆるやかな膨らみをもち、胴部中ほどが張る胴張型と胴部上半の肩部が張る肩張型に分

類される。肩部のハケメの平行線は、入るものと入らないものがあるが、入らないものの割合が多い。頸部から胴部上半のハケメは左下がりで1段、胴部下半のハケメは2～3段施す。ハケメを施す前に外面をケズリ形を整える。脚部はラッパ状に開く。胎土は灰白色から浅黄橙色の間のもので多く、白色を意識しているのかもしれない。以上を田口一郎氏の編年に対比させると、細部では、頸部内面の横位のハケメを施すこと、口唇部・頸部内面に面をとること、頸部外面に沈線を施すこと、肩部にハケメの平行線を入れるなど古い要素をもちながらも全体としては、III a類よりも長胴で内外面にヘラケズリが認められ、肩部にハケメの平行線をもつIII b類、口縁部は外反し丸みをもち、胴部はヘラケズリ後、細かいハケメを施すIV b類、IV b類をベースに通常的口縁部の上部に拡張部が付加されるV類にあたり、IV期付近に相当するのではないかと考える。波志江中宿遺跡出土のS字甕の概要を簡単にまとめた。S字甕の口縁部、胴部、脚部の形態・技法等についてそれぞれ見ていきたい。

口縁部

波志江西宿 口縁外面の稜はシャープさは無くゆるやかで、口唇部のつまみ上げての面とりも見られない。頸部内面は、ヘラナデをするが面を取るまでには至らない。

波志江中宿 シャープなもの、ゆるやかなものがある。口唇部の面取りもあるものとなないものがある。どちらかというとしっかりとるものは少ない。頸部から胴部の変換に間があるものがある。頸部外面は沈線の入るものがある。頸部内面は面をとり、横位のハケメを施すもの、ヘラナデを施すものがある。面をとらないものの方が多い。

胴部

波志江西宿 長胴化し、肩の張りもゆるやかである。胴部最大径の平均値は21.66cm、胴高19.28cmである。外面はヘラケズリで整えた後にハケメを施す。胴部上半のハケメは、1回で左下がりに施す。肩部にハケメの平行線は見られない。胴部下半のハケメは、2～3回で左上がりに施す。内面は縦位・横位のナデ、横位の弱いハケメを施す。底面を砂粒の多い粘土で補強する。

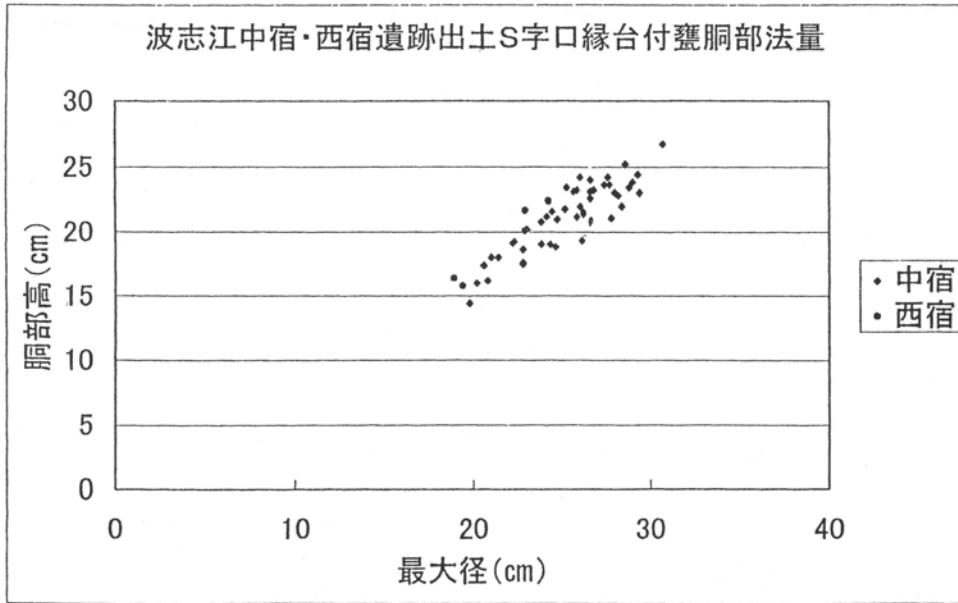
波志江中宿 ゆるやかな膨らみをもち、胴部前半が張る胴張型と胴部上半の肩部が張る肩張型がある。胴部最大径の平均値は25.33cm、胴高の平均値は21.18cmである。ハケメの方向とは違う向きに砂粒が動く様子が観察できるものもあるので、ヘラケズリを施し、形を整えてからハケメを施していると思われるが、ハケメが丁寧に施されているので明瞭でない。胴部上半のハケメは、1回で左下がりに施す。胴部下半のハケメは2～3回で左上がりに施す。肩部のハケメの平行線は施されるものとそうでないものがある。内面は縦位・横位のナデ、横位のハケメ、横位のケズリを施す。底面を砂粒の多い粘土で補強する。

脚部

波志江西宿 ラッパ状に開き、ややエンタシス状である。折り返しが認められる。

波志江中宿 ラッパ状に開く。開く角度の大きいもの、ややエンタシス状を呈するものがある。折り返しが認められる。

以上をまとめると、口縁部外面の稜の角度、頸部内面の調整方法、肩部のハケメの平行線の有無、胴部の膨らみの具合、といったところに相違がみられる。特に胴部の最大径の差は胴部法量比較図の通りで波志江中宿遺跡のS字甕の方が大きい。前述した通り、波志江西宿遺跡と波志江中宿遺跡A区は隣接している。推測になるが波志江中宿遺跡出土のS字甕は専門集団が粘土採掘をするとともに製作していたもので、波志江西宿遺跡のS字甕はホームメイド的なものかもしれない。出土したS字甕の形状の差は、地域差とは捉えにくく、現段階では波志江中宿遺跡出土のS字甕が古く、波志江西宿遺跡出土のS字甕が新しいという時間差



第210図 胴部法量比較図

があると捉えたい。

本稿を作成するにあたって大木紳一郎氏に多大なご助言、ご指導をいただいた。記して感謝する次第である。また、先学諸氏には敬意を表し、筆者の力量不足による誤解、曲解の点はお叱責、ご批判いただければ幸いである。

<註>

註1 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000『波志江中宿遺跡』

註2 田口一郎 1981『S字口縁台付甕の分類と編年』『元島名将軍塚古墳』高崎市教育委員会

註3 赤塚次郎 1990『考察』『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター

<参考文献>

田口一郎 1999『北関東西部におけるS字口縁甕の波及と定着』『S字甕を考える』第7回東海考古学フォーラム三重大会

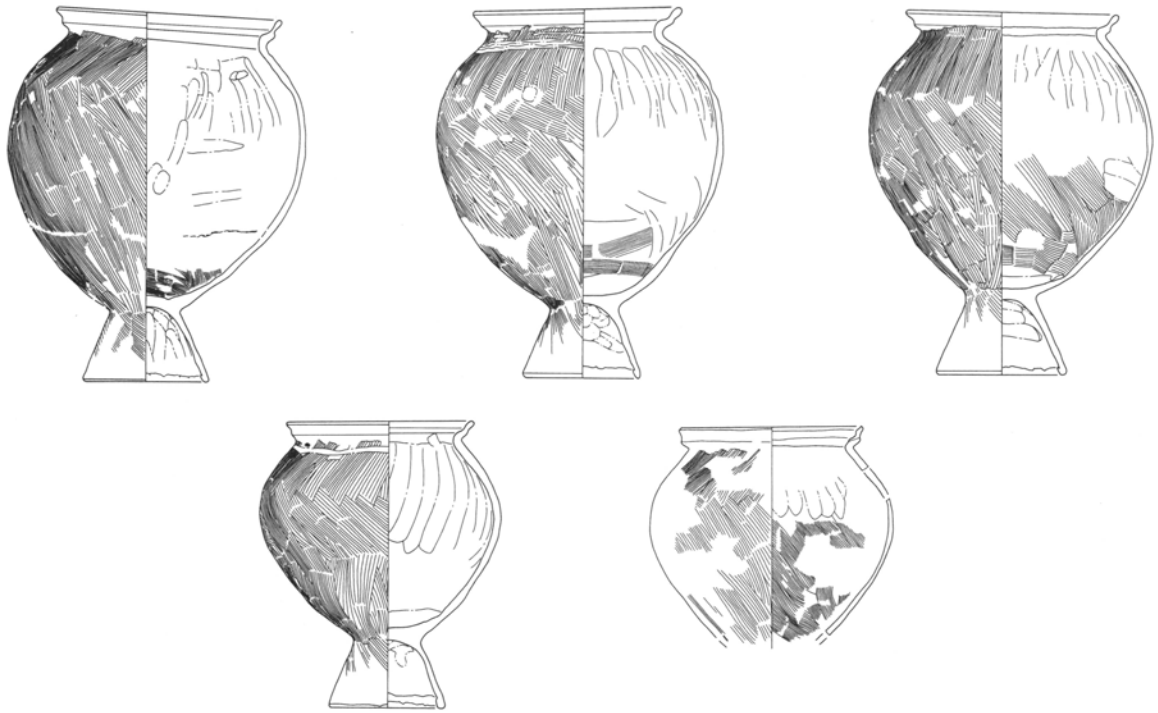
田口一郎 1981『S字口縁台付甕の分類と編年』『元島名将軍塚古墳』高崎市教育委員会

大木紳一郎 2001『元総社西川遺跡出土の古墳時代前期の土器について』『元総社西川遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000『波志江中宿遺跡』

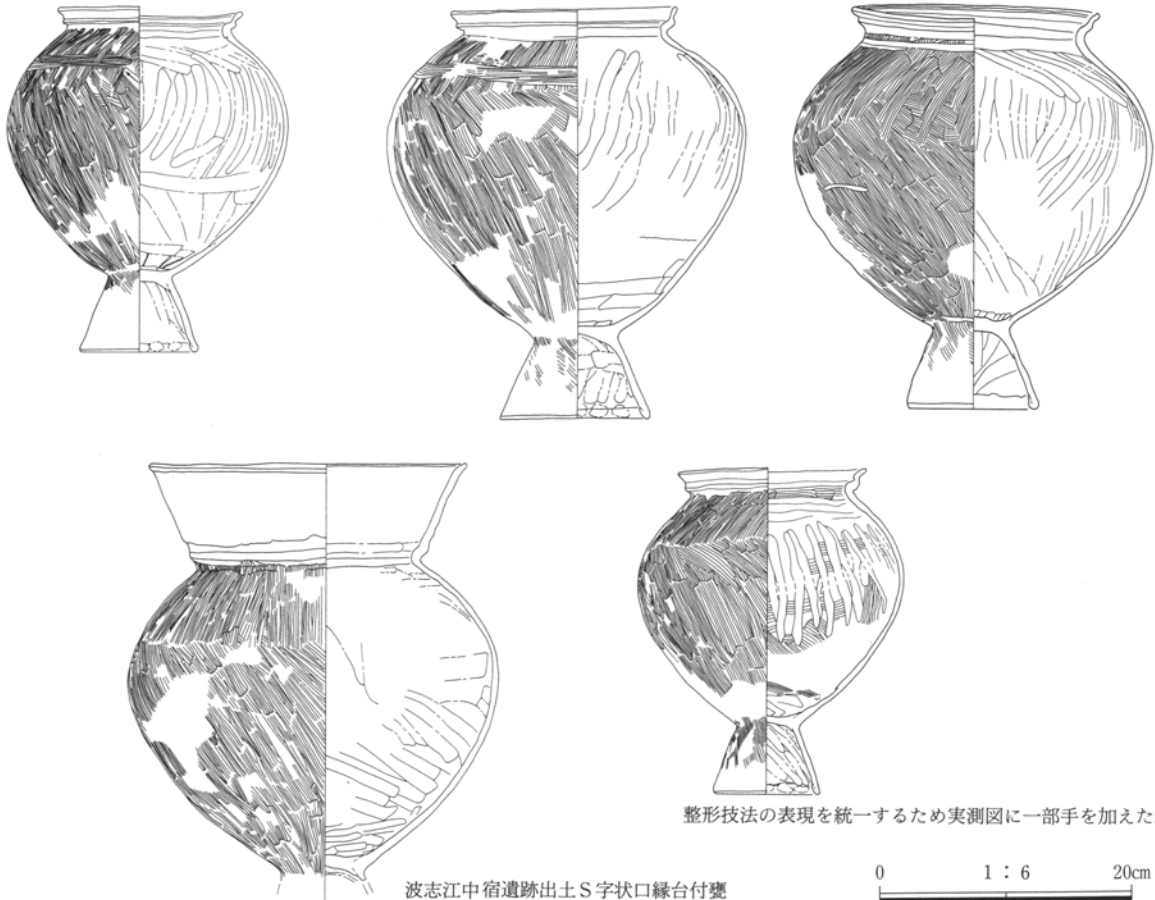
小泉範明・飯島義雄 1998『石田川式土器の再検討(1)―甕形土器を中心として―』『群馬県立歴史博物館紀要』群馬県立博物館

友廣哲也 1997『石田川式土器考』『古代 第104号』早稲田大学考古学会

かみつけの里博物館 1998『第2回特別展―人が動く・土器も動く―古墳が成立する頃の土器の交流』



波志江西宿遺跡出土S字状口縁台付甕



波志江中宿遺跡出土S字状口縁台付甕

第211図 波志江西宿・波志江中宿遺跡出土S字状口縁台付甕

III 波志江西宿遺跡出土の斧形石製模造品について

杉田 茂俊

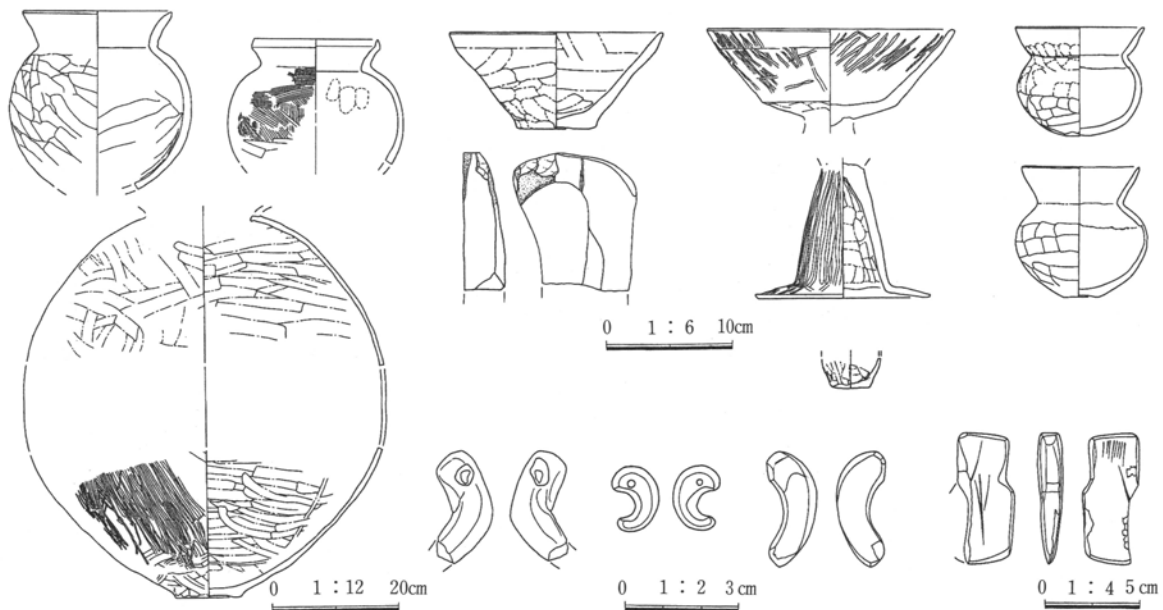
はじめに

波志江西宿遺跡(以下本遺跡)古墳時代住居跡からは、石製模造品が4点出土している。その内容は、斧形・剣形・勾玉形の3種類で、勾玉形の1点を除き未製品と思われる。剣形・勾玉形の石製模造品の出土例は、群馬県内を見ても数多くあるが、斧形石製模造品の出土例は、古墳出土のものを含めても十数例である。そこで本稿では、4世紀末から5世紀初頭の竪穴住居跡から出土した斧形石製模造品を取り上げ、既存の編年に対照させ、検討してみたい。

波志江西宿遺跡出土の斧形石製模造品

本遺跡B区1号住居跡は、竈を持たない住居跡で6.70m×6.99mのほぼ正方形を呈する。面積46.8㎡である。出土遺物は、単口縁甕、二重口縁壺、単口縁壺、高坏、小型壺、小型甕、鉢、有孔鉢、手捏土器、土製勾玉、斧形・勾玉形石製模造品(勾玉形1点を除き未製品)、砥石が出土する。高坏には、坏部内面に二次的な焼成によるものと思われる痕跡があり、器表面が激しく剝離するものもある。また、S字状口縁台付甕の胴部の小片も出土する。竈が無いことや出土遺物から、この住居跡は4世紀末から5世紀初頭に位置づけられると考える。

斧形石製模造品は未製品であり、出土位置は床面から6cmほど上である。石材は滑石質蛇紋岩で黒味をおびた青灰色を呈している。刃部の1/3が欠損している。刃先にわずかな面をとる。全長6.8cm、刃部の幅は残存で2.3cm、肩部は残存で2.7cm、袋部の長さは2.1cm、幅2.5cm、厚さ1.3cmを測る。袋部の断面は隅丸の長方形のような形を呈し、丸味は無く、平板な作りである。穿孔や袋部の合わせ目は認められない。表面・裏面ともに整形時の工具によるものと思われる縦位の線刻がある。おおまかに形を作ってから磨いているが、工具の痕跡がかなり残るので、雑な作りである。袋状の斧を模造するが、袋部は扁平化しているので実用品を忠実に模していない。また、刃部は1/3が欠損するが刃先の面を見ると、刃先の面を取った後から欠損した部



第212図 波志江西宿遺跡 B区1号住居出土遺物

分を磨いた痕跡があり、丸味がある。このことから刃部の欠損は、製作途中で欠損してしまったものと思われる。

群馬県内出土の斧形石製模造品

(1)上並榎南遺跡 高崎市

3号井戸覆土中より出土する。石臼等も一緒に出土している。

(2)本宿・郷土遺跡 富岡市

MT 9号溝跡より出土する。時期・石材が不明瞭のようで『古墳時代?、粘板岩?』と報告されているが、形状がはっきりしないので斧形石製模造品か疑問がある。

(3)内匠遺跡 富岡市

15号住居跡より出土する。竈をもつ竪穴住居である。出土遺物は甕、坏、鉢、斧形石製模造品などである。斧形石製模造品は2点で覆土中より出土している。2点とも滑石製、作りは粗雑で、袋部が無い。

(4)井出村東遺跡 群馬町

第28号住居址の覆土中より出土する。竈をもつ竪穴住居である。出土遺物は、坏、高坏と石製の斧形模造品と紡錘車である。斧形石製模造品は長さ3.5cm・幅0.6cm・重さ9.2gで石材は変玄武岩である。

(5)三ッ寺I遺跡 群馬町

豪族居館内より出土する。手斧を模したものが2点、表裏を平滑にして穿孔したものが3点である。青灰色の良質な原石を用いて丁寧な作りをしている。

(6)久保遺跡 富岡市

調査はされていないが、土地所有者により偶然発見された。刃部を片刃に表したものが4点、袋状の柄部を表したものが1点出土する。

(7)長者屋敷天王山古墳 高崎市

全長約50mの造り出し付円墳と思われる。時期は4世紀後半。主体部は不明である。石製模造品は刀子形2、斧形2、鑿形1、勾玉形10が出土する。石釧も伴出する。

(8)剣崎天神山古墳 高崎市

30mほどの円墳。時期は5世紀前半。主体部は不明である。鏡2面、埴1、杵1、槽1、琴柱形石製品、石製模造品が出土する。石製模造品は刀子形71、斧形1、鎌形1である。

(9)長瀬西古墳 高崎市

30mほどの円墳。時期は5世紀中葉～後半。主体部は竪穴式石槨。石製模造品は刀子形35、斧形4、鎌形3、勾玉形7、白玉形1612の石製模造品が出土する。その他、鏡が1面、甲冑が出土する。

(10)玉村町13号墳 玉村町

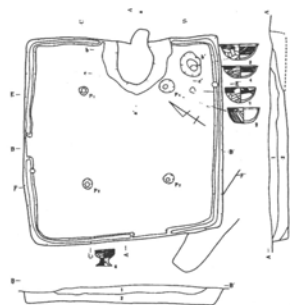
20mほどの円墳。時期は5世紀末前後。主体部は破壊されていて不明であるが、竪穴式石槨と思われる。斧形石製模造品1点が葺石を覆う土の中から出土する。

(11)舞台遺跡1号墳 前橋市

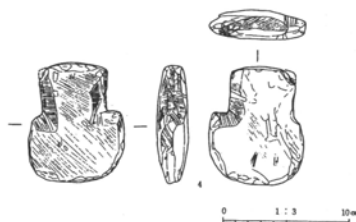
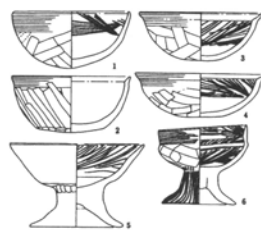
42mほどの帆立貝形古墳。時期は5世紀後半。主体部は竪穴系のもので推定される。石製模造品は刀子形67、斧形9、鎌形2、勾玉形1、白玉形203、有孔円板15が出土。石製模造品は、前方部に容器状のものに納めて土坑に埋められていた。その他、下駄2、鉄鏃5などが出土する。

(12)大山鬼塚古墳 甘楽町

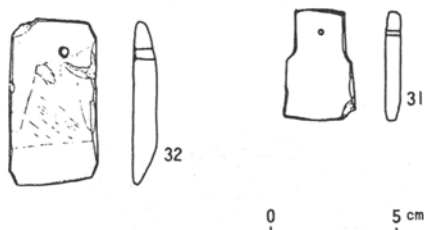
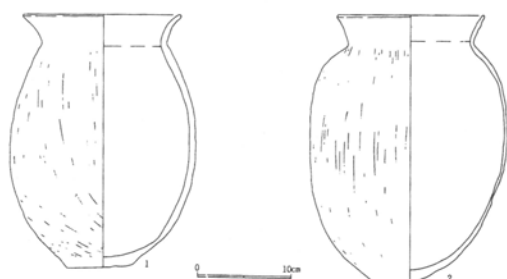
円墳であるが規模は不明である。時期は5世紀後半。主体部は舟形石槨。石製模造品は刀子形5、斧形3、



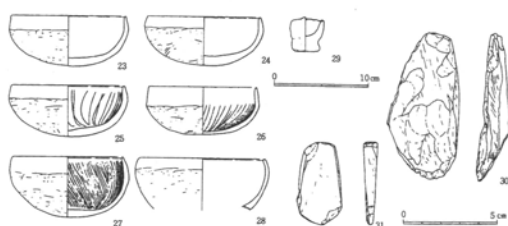
井出村東遺跡



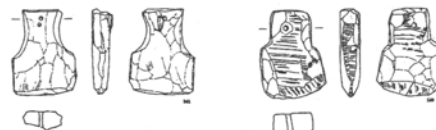
上並榎南遺跡



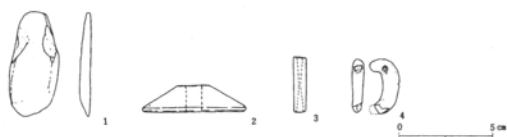
久保遺跡



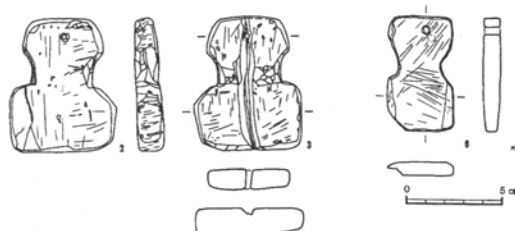
内匠遺跡



三ッ寺 I 遺跡

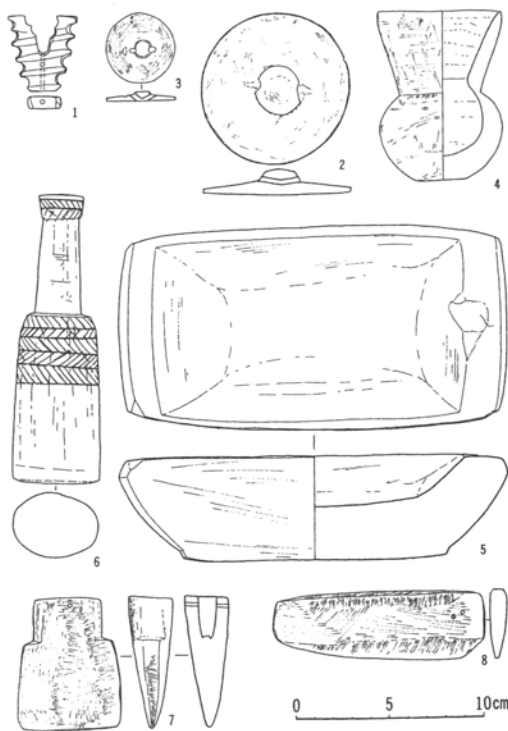


本宿・郷土遺跡

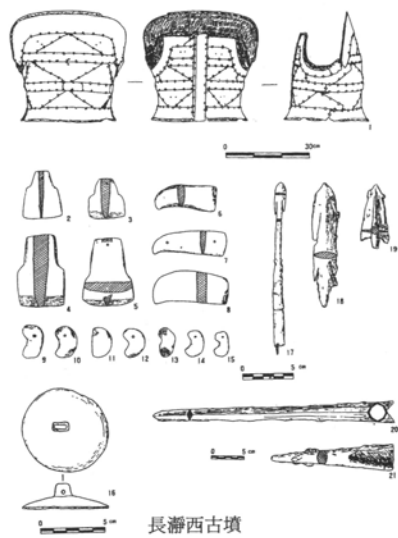
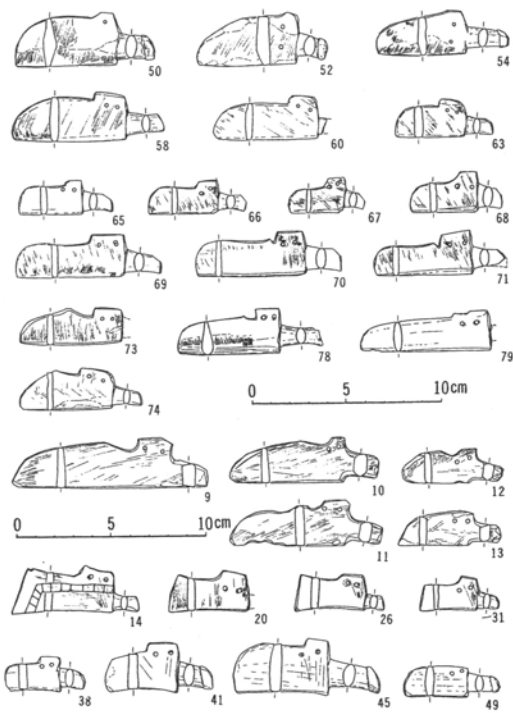


築瀬二子塚古墳

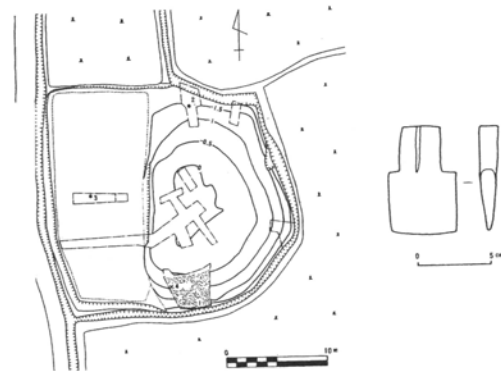
第213図 群馬県内出土斧形石製模造品(1)



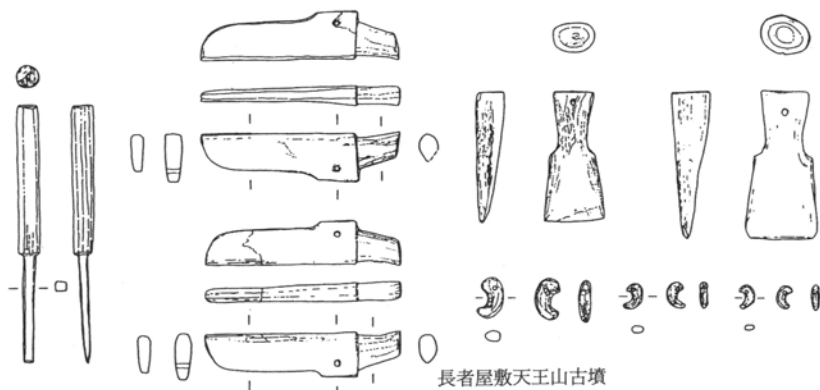
劍崎天神山古墳



長瀬西古墳

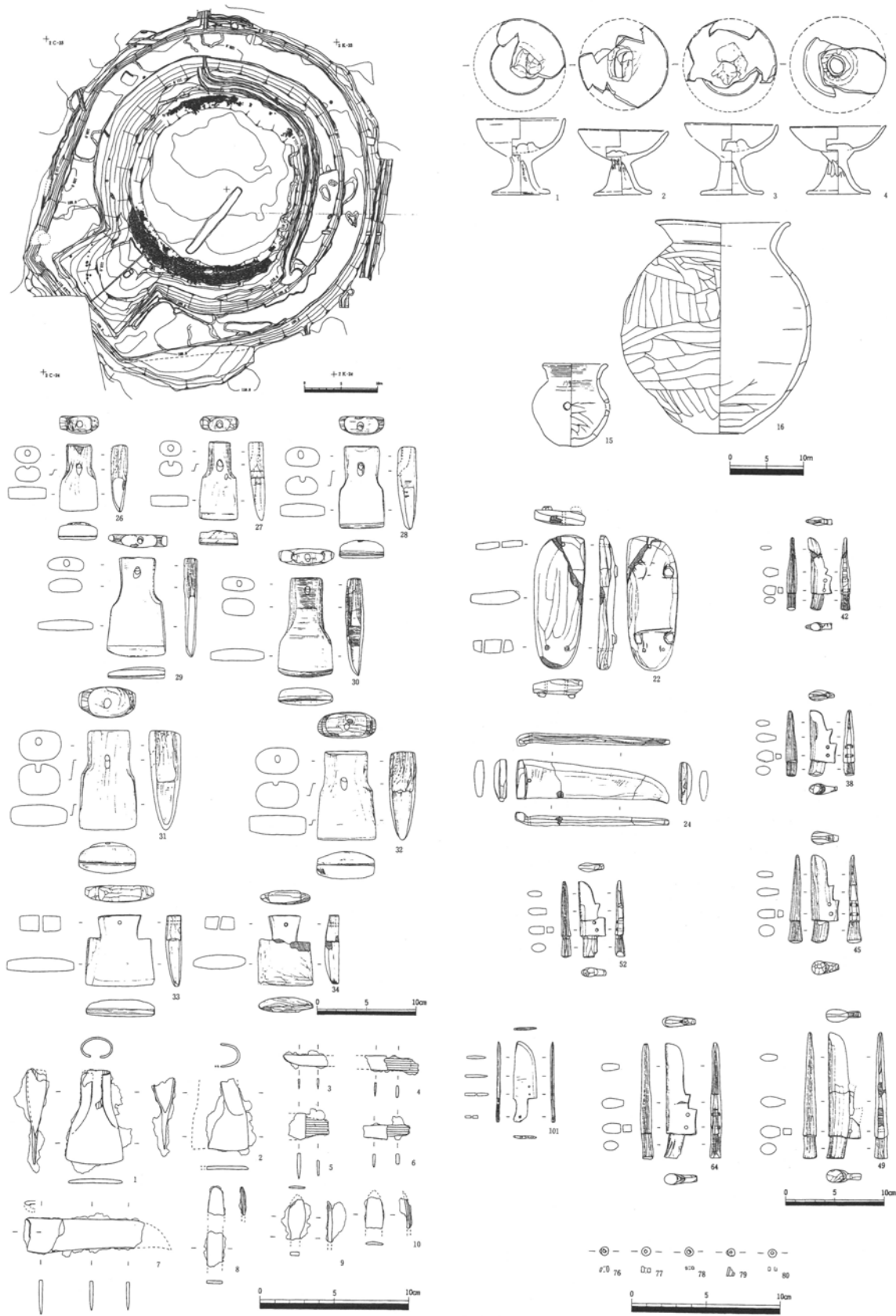


玉村町13号墳



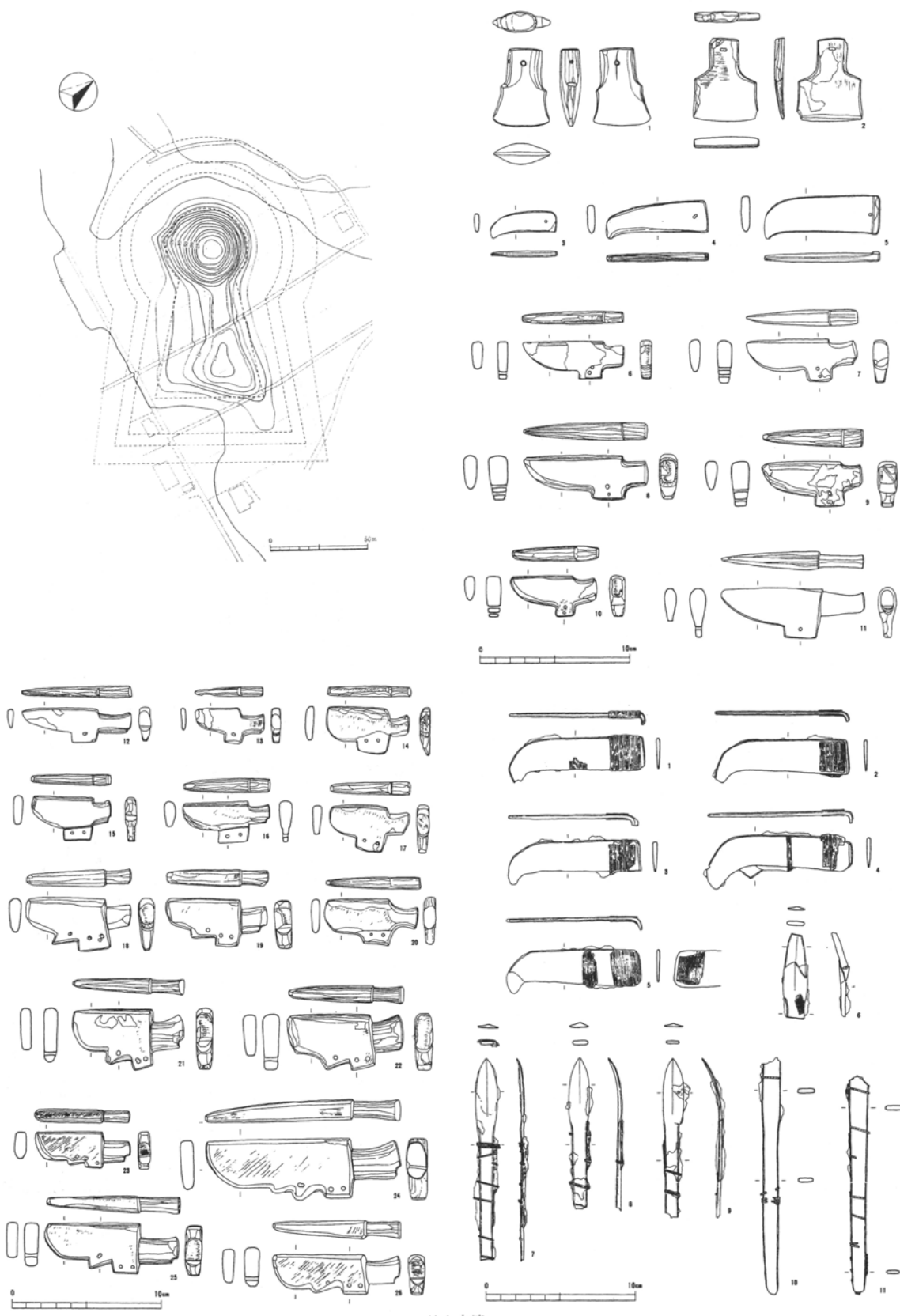
長者屋敷天王山古墳

第214図 群馬県内出土斧形石製模造品(2)



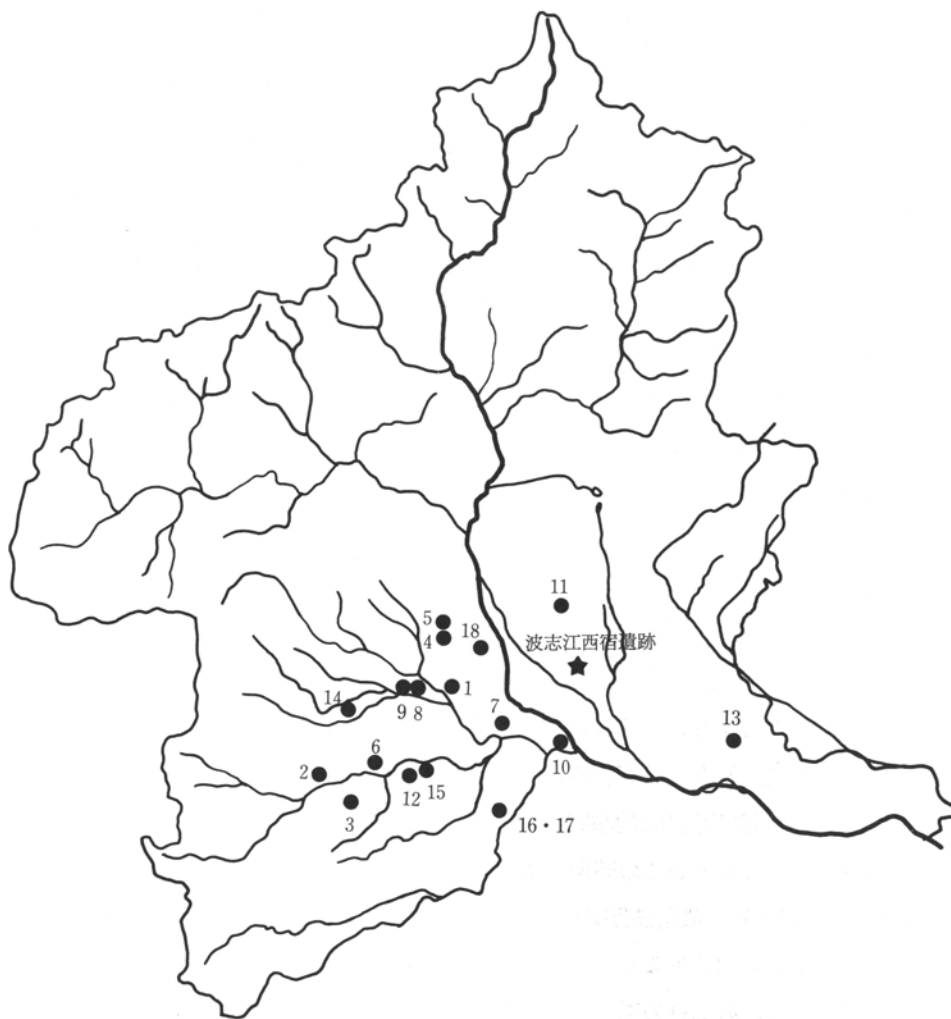
舞台遺跡1号墳

第215図 群馬県内出土斧形石製模造品(3)



鶴山古墳

第216図 群馬県内出土斧形石製模造品(4)



第217図 群馬県内における斧形石製模造品の出土分布図

白玉形58が出土する。その他、鏡3面、管玉27が出土する。

(13) 鶴山古墳 太田市

全長102mの前方後円墳。時期は5世紀後半。主体部は竪穴式石室。石製模造品は刀子形21、斧形2、鑿形3が出土する。その他、甲冑等が良好に出土する。

(14) 築瀬二子塚古墳 安中市

石室内より3点出土する。刃部は肉厚で、刃先の表現を欠く。うち1点は背面の中心に縦方向の溝が刻まれている。この溝は刃部まで達している。

この他、未公開であるが吉井町の片山1号墳(15)。この古墳は4世紀末から5世紀初頭の時期で滑石製の石製模造品が出土する。藤岡市の神田で短冊形が1点、袋状のものが3点出土している(16)。伝藤岡市神田出土で袋状のものが1点ある(17)。前橋市総社町付近出土のもので短冊形が1点、袋状のものが4点ある(18)。

以上18が群馬県内で出土する斧形石製模造品の類例である。古墳が8例、豪族居館が1例、住居跡・遺構外が9例である。18例中、16例が現在の利根川より西の地域からの出土で、利根川より東は2例である。圧倒的に西部からの出土例が多い。これは、蛇紋岩・滑石・緑色片岩の産地である「三波川帯」がひかえていること、石製模造品製作址も石材の産地に近い鍋川・神流川地域に多く検出されていることから石製模造品

の中心が群馬県西部にあったからだと考える。また、群馬県東部の本遺跡を除く2例は、舞台遺跡1号墳、鶴山古墳といずれも古墳からの出土で時期は5世紀後半である。

遺構外のものを除けば、5世紀後半以降の時期のものが多く、4世紀末～5世紀前半の時期のものは少ない。本遺跡出土の斧形石製模造品は、4世紀末から5世紀初頭のものとして位置づける。5世紀前半までの例は、長者屋敷天王山古墳・剣崎天神山古墳・片山1号墳で(註1)、いずれも西毛地域で、古墳からの出土である。そして、長者屋敷天王山古墳・剣崎天神山古墳出土のものは袋部に丸味があり、ソケット状になっている。以上のように同時期の例で見れば、本遺跡例のみ未製品で作りは粗雑である。本遺跡と時期が近いと言われる吉井町の片山1号墳の斧形石製模造品の袋部は丸味があり、作りも本遺跡例より丁寧である(註1)。

既存の編年における本遺跡出土の斧形石製模造品

石製模造品の編年については、古墳から出土する石製模造品の編年を設定された白石太一郎氏のものと群馬県内の製作址より出土する土師器を用いて編年を試案した深澤敦仁氏のものにそれぞれ対照させたい。

○白石太一郎氏の編年

白石太一郎氏は石製模造品の古墳への埋納の編年について4期を設定された(註2)。1期は写実的な農工具が副葬される段階。2期は農工具に加えて勾玉や鏡などの模造品が多くなり、関東では酒造具、機織具、下駄等が加わる。1期に比べると形式化するものの、写実性は失われていない。群馬県内の古墳では剣崎天神山古墳がこの時期にあたる。3期は有孔円板、小形粗製剣形石製品が加わり、刀子形石製品では柄の短いものが主流になる段階。酒造具、下駄等はこの段階で消滅する。群馬県内では白石稲荷山古墳がこの時期にあたる。4期は石製模造品が埋納される最終段階で刀子形石製品が粗製化する時期としている。群馬県内の古墳では築瀬二子塚古墳がこの時期にあたる。

また、白石氏は関東地方の一般の集落遺跡の竪穴住居跡に滑石製の石製模造品がみられるようになるのは、和泉式の時期からで、前半期の例は少なく、一般化するのはその後半期からという。模造品の種類は剣、有孔円板、勾玉、白玉が中心で、農工具の類はほとんどみられないようで、集落内の一般の住居内での祭祀に石製模造品が用いられるのは、5世紀中葉から6世紀後半までで、その中心は5世紀後半から6世紀前半ということになろうと述べている。

古墳出土の例を用いての編年に住居出土の例を当てはめることは難があるかもしれないが、本遺跡出土のものは、白石氏の編年に当てはめると勾玉形石製模造品(未製品)が共伴することから2期に当たると考える。白石氏が述べるように集落内の住居跡で石製模造品を用いることが一般化するの、5世紀中葉からということ、鬼高期以降の住居跡のかまど付近から白玉等が出土する例が多いことから裏付けられる。斧形石製模造品も井出村東遺跡、内匠遺跡の住居跡から出土するが、いずれも鬼高期の住居跡である。4世紀末から5世紀初頭の斧形石製模造品出土例を見ると、長者屋敷天王山古墳・剣崎天神山古墳・片山1号墳と古墳からの出土で、住居跡出土のものは現在のところ本遺跡例のみである。白石氏も古墳への埋納は4世紀末から5世紀初頭の段階では行われているが、集落内より石製模造品が出土するのは5世紀中葉からみられるとしている。

○深澤敦仁氏の編年

深澤氏は、群馬県西部の製作址において共伴する土師器を用いてⅠ～Ⅵ段階を設定された(註3)。Ⅰ段階はS字状口縁台付甕、前期東海西部系大型高坏を主体とする古墳時代前期的土器相。この段階では、製作品は管玉を主として、琴柱形石製品・勾玉で、石材は蛇紋岩が圧倒的主体で珪質頁岩・緑色凝灰岩を用いる。製作址の分布は烏川流域に集中し、鐙川流域に存在しない。Ⅱ段階は古墳時代前期末から中期初頭と呼ばれ

ている土器相。石材・製作地の分布はⅠ段階とほぼ同じ状況。ただし、遺跡数が少ないので根拠に乏しい。Ⅲ段階はいわゆる和泉式的土器相。この段階の製作品は、管玉・勾玉・白玉・剣形・有孔円板・紡錘車で、製作の主体は白玉である。石材は蛇紋岩が主体で、わずかに滑石が含まれる。製作地も鎭川流域に集中する。Ⅳ段階は胴部が球形の単口縁平底甕、有稜の長脚高坏、多様な坏等の組み合わせとなる段階。管玉・勾玉・白玉・剣形・紡錘車等が製作され、その主体は白玉・剣形である。石材は蛇紋岩と滑石が使われるが、滑石の割合が増加する。製作地の分布は鎭川流域に集中する。Ⅴ段階は胴部が球形の単口縁平底甕に胴部が長胴化した単口縁平底甕が加わり、高坏も有稜の長脚高坏に鉢形と柱状で裾部との境が屈折する脚をもつ高坏、須恵器坏蓋模倣坏を坏にもつ高坏が加わる。その他に多様な坏の組み合わせとなる段階。この段階の製作品は、管玉・白玉・紡錘車等である。石材・製作地の分布はⅣ段階とほぼ同じ状況である。Ⅵ段階は胴部が長胴化した単口縁平底甕、須恵器坏蓋模倣坏、浅い坏と長脚の高坏の組み合わせとなる段階。この段階から須恵器が積極的に参画してくる動きが見られる。この段階の製作品は、管玉・勾玉・白玉・剣形・有孔円板・紡錘車がある。製作の主体は圧倒的に白玉である。石材は滑石が圧倒的主体で、蛇紋岩は皆無、あるいは極めて微量である。製作地の分布は、鎭川流域・烏川流域・群馬県東部にまで広がる。Ⅰ～Ⅵ段階の製作地の数に着目すると、Ⅰ・Ⅱ段階は検出例は少なく、Ⅲ段階以降に検出例が増加する。

本遺跡、B区1号住居跡の出土遺物は、胴部外面がヘラケズリの単口縁平底甕とハケ調整を施した単口縁平底甕、S字状口縁台付甕の小片、有稜の坏と長い柱状でやや裾広がり脚をもつ高坏等である。斧形石製模造品の石材は、滑石質蛇紋岩である。これを深澤氏の編年に当てはめるとⅡ～Ⅲ期に該当すると考える。

まとめ

現在のところ、群馬県内で斧形石製模造品が出土した例は18例と少ない。群馬県東部となると本遺跡例を含めて3例である。本遺跡以外では、舞台遺跡1号墳、鶴山古墳からの出土で、古墳の時期は5世紀後半と考えられている。本遺跡の斧形石製模造品は、共伴する土師器より4世紀末から5世紀初頭の時期と考える。そして、白石氏の編年では2期、深澤氏の編年ではⅡからⅢ段階に当てはまり、石製模造品が集落において一般化する初期の段階のものとする。

また、群馬県内で本遺跡例と近い時期と考えられる類例は古墳出土のものが多く、作りも丁寧である。それとは対照的に、本遺跡例は扁平で作りは粗雑である。このことから、石製模造品の作りが丁寧であるから時期が古い、あるいは粗雑であるから時期が新しいということは、一概に判断できないと考える。最後に本遺跡出土の斧形石製模造品に関して仮説を提示して今後の課題としたい。

古墳からの出土が主体となる斧形石製模造品が住居跡から出土することは、どのような意味を持つのか。群馬県内で検出された製作地からの斧形石製模造品出土例は現在のところ無い(註4)。古墳から出土するようなものが住居跡から出土するということは、本遺跡集落の集団が古墳の造営や副葬品を納めることに何らかの関わりを持つ集団であったのではないかとすることを現段階では仮説として考えている。

本稿を作成するにあたり石塚久則氏、大木紳一郎氏、徳江秀夫氏、加部二生氏、深澤敦仁氏には多大なご助言、ご指導をいただいた。記して感謝する次第である。また、先学諸氏には敬意を表し、筆者の力量不足による誤解、曲解の点のご叱責、ご批判いただければ幸いである。

<註>

註1 加部二生氏の御教示。

註2 白石太一郎 1985 「神まつりと古墳の祭祀—古墳出土の石製模造品を中心として—」 『国立歴史民俗博物館研究報告第7集 共同研究「古代の祭祀と信仰」本篇』

註3 深澤敦仁 2001 「群馬県の石製品・石製模造品製作址について」 『考古聚英 梅澤重昭先生退官記念論文集』

註4 深澤敦仁氏の御教示。

<参考文献>

- 群馬県史編さん委員会 1981 『群馬県史 資料編3』
石川正之助・右島和夫 1986 「鶴山古墳出土遺物の基礎調査Ⅰ」 『群馬県立歴史博物館調査報告書第2集』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985 「上並榎南遺跡」
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 「年報18」
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000 「年報19」
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 「三ッ寺Ⅰ遺跡」
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986 「下佐野遺跡Ⅱ地区(1)縄文時代・古墳時代編」
群馬町井出村東遺跡調査会 1983 「井出村東遺跡」
富岡市市史編さん委員会 1987 『富岡市史 自然編 原始・古代・中世編』
富岡市教育委員会 1981 『本宿・郷土遺跡』
富岡市教育委員会 1982 『内匠遺跡』
安中市市史刊行委員会 2001 『安中市史 第四巻 原始古代中世資料編』
東京国立博物館 1983 「東京国立博物館図版目録 古墳遺物篇(関東Ⅱ)」
群馬県教育委員会 1990 「舞台・西大室丸山」
右島和夫・徳田誠志 1998 「東国における石製模造品出土古墳—高崎一号墳の基礎調査から—」 『高崎市史研究9』
白石太一郎 1985 「神まつりと古墳の祭祀—古墳出土の石製模造品を中心として—」 『国立歴史民俗博物館研究報告第7集 共同研究「古代の祭祀と信仰」本篇』
第8回東日本埋蔵文化財研究会 1998 「古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題」
第2回東日本埋蔵文化財研究会 1993 「古墳時代の祭祀 第Ⅱ分冊—東日本編Ⅱ」
女屋和志雄 1988 「群馬県における古墳時代の玉作」 『群馬の考古学』
女屋和志雄 1997 「鐮川流域の古墳時代玉作」 『緑埜遺跡群・緑埜上郷遺跡・竹沼遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
外山和夫 1976 「石製模造品類を出土した高崎市剣崎天神山古墳をめぐる」 『考古学雑誌』
深澤敦仁 2001 「群馬県の石製品・石製模造品製作址について」 『考古聚英 梅澤重昭先生退官記念論文集』
白石太一郎 2001 『日本史リブレット4 古墳とその時代』

IV 中近世遺構・遺物について

桜井 美枝

波志江西宿遺跡では中近世の遺構として掘立柱建物跡1棟、建物跡1棟、井戸24基、土坑188基、溝45条が調査されている。

これらの遺構のうち、確実に中世に属すると断定できる遺構は少ない。B区48・49号土坑は、覆土中にAs-B軽石が再堆積の状態を確認されたことから、中世までさかのぼる可能性がある。この2基の土坑は隣接して構築されており、主軸方位もほぼ一致することから、同時期に造られたものと考えられる。この他に中世遺構の可能性のあるものとしては、土壙墓と考えられる隅円長方形の土坑があげられる。このタイプの土坑10基のうち、古銭を伴うものが3基あった。古銭は初鋳年が南唐から北宋にかけてのもので、中世に渡来銭として日本に多量に流入した銭貨である。ただし、これらの渡来銭は、17世紀初頭の1636年に徳川幕府によって寛永通寶が公鋳されるまで、広く日本国内で流通していた。渡来銭から寛永通寶への移行は、かなり短期間に急速に進行していったと考えられているが、寛永通寶の公鋳開始までは渡来銭が近世墓に埋納される例は一般的であった。従って、本遺跡の土壙墓も、中世から17世紀初頭までの年代が与えられよう。古銭の出土がなかった土坑も、大きさや形状、覆土の状況が似通っており、C区北西部にまとまっていることから、同時期の遺構とする。その他の遺構は、出土遺物の年代や覆土にAs-A軽石を含むものが多いことから、近世に構築されたものと考えられる。

近世の土坑は大きく2種類に分けられた。1つは掘り方がほぼ円形で、桶のようなものを埋め込んだ土坑である。使用状況での直径は、おおよそ1m前後である。掘り方の壁面には粘土が貼り付けてあり、桶を固定していたものと思われる。A区で3基、C区で10基見つかっている。隣接して作られているものが多い。近世の遺跡ではしばしばこのような遺構が認められ、トイレ、もしくは肥桶のような機能が想定されている。類例は元総社寺田、白倉下原、東長岡戸井口遺跡、西横手遺跡群などで報告されている。もう1つは、長方形形状で、壁がほぼまっすぐに立ち上がる土坑である。A区で61基、B区17基、C区23基、D区1基、合計102基見つかっている。大きさは様々で、最も小さいものは長さが75cm、大きいものは8mに達する。完形のもの66基については、5mを超えるものが8基あるが、4分の3は1mから4mの範囲におさまる。長さが様々なのに対して、幅は変位が小さく、50cmから80cmの間に8割以上が入る。概して長さに比して幅は狭く、幅が1mを超えるものはわずかに2基だけである。複数のものが近接しており、長軸方向も平行、もしくは直交する向きに揃っていることから、一定の規格のもとに作られたものであろう。遺物の出土は少なく、機能を想定させるようなものは見つかっていない。

近世の遺構の分布は、A区の西半、B区東半、C区東半からD区にかけての3つのまとまりに大きく分けられる。これらの区域では、いずれも地割りを区画するような大小の溝が見つかっており、それらの溝で画された中に遺構が集中して分布している。掘立柱建物や長方形の土坑などは、長軸方向が周囲を廻る溝に並行、もしくは直交するように造られている。これらのことから、上記の3つの区画内に屋敷などが建てられていたものと考えられる。3つの区画に作られた屋敷の時期は、出土遺物から判断する限り大きな差は認められない。いずれの地区の遺構からも17世紀代から近現代までの遺物が出土しているが、主体は18～19世紀の江戸時代後半のものである。建物の痕跡はB区とC区で各1棟見ただけであるが、長方形の土坑や桶を埋め込んだ土坑、井戸などが屋敷に付帯する施設として想定される。これらの遺構は重複して造られており、屋敷がある程度長期の期間存続していたことを伺わせる。特にC区では、1号建物跡の構築され

た段階と、それよりも古い段階の2時期に屋敷が営まれていたものと推測される。1号建物跡とそれに伴うと考えられるC区33号溝の桁行方位と走行が、それ以前の溝や長形状土坑の主軸方位とずれているためである。両者の間に時間的な断絶があるか否かは確定できないが、主軸がずれていることや、1号建物跡の構築に先立って整地した痕跡が認められることから、古い段階の屋敷が廃絶、あるいは取り壊された後に新しい屋敷が造られたのであろう。このC区33号溝からは昭和の遺物も出土しており、複数回掘り直されて昭和の段階まで継続していた。

近世の各遺構の年代については、確実に特定できるものは少ない。唯一C区26号溝とC区7号井戸はある程度存続時期の特定が可能である。この2つの遺構は同時に使われていたものと考えられるが、26号溝は、覆土上位にAs-A軽石を一次堆積の状態で含んでいる。土層断面の観察から、As-Aの降下時にはかなり埋没しており、浅い幅広の窪地状になっていた。新しい遺物も若干含まれるが、As-A降下段階で埋まりきっていないことから、その後の混入と考えて差し支えないであろう。事実、完全に埋没していた7号井戸では、出土遺物の全てが17世紀後半から18世紀前半までのものである。このことから、以上2つの遺構は17世紀後半以降に作られ、As-Aの降下した1783年以前に廃絶していたことがわかる。ここから出土した遺物は本遺跡の近世遺物の中では古い時期に属しており、これらの遺構が最も古い段階に作られたものと考えられる。これよりも古い可能性がある遺構としては、柱穴内から16世紀末から17世紀初頭の瀬戸美濃陶器が出土したB区1号掘立柱建物跡があげられる。これは覆土中にAs-Aを含まないことから、As-A降下以前に埋没した可能性があるが、わずか1点のみの遺物であるので断定はできない。いずれにしても、出土遺物の年代から見て、17世紀後半以降に本遺跡に屋敷が造られていったと判断できよう。以後継続して近現代まで営まれていた。

<参考文献>

- 永井久美男編 1994 『中世の出土銭』 兵庫埋蔵銭調査会
 // 編 1994 『近世の出土銭』 兵庫埋蔵銭調査会
 // 編 1998 『近世の出土銭 II』 兵庫埋蔵銭調査会
 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996 『元総社寺田遺跡 III』
 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997 『白倉下原・天引向原遺跡 V』
 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『東長岡戸井口遺跡』
 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『西横手遺跡群』

表1 波志江西宿遺跡土坑一覧

形状	想定される機能	法量平均(cm)	遺構数	遺構名
隅円長方形	土墳墓	長 152.5 幅 111.1	10	C区 74・739・751・921・1019・1076・1094・1109・1115・1116号土坑
円形(桶土坑)	トイレ or 肥桶	長 113.1 幅 105.1	13	A区 82・83・112、C区 1011~1015・1017・1018・1039・1059・1067号土坑
長方形~隅円長方形	不明	長 262.8 幅 66.9	102	A区 363・366・368・371~379・383・386・388・389・392~403・405~408・411~417・420・422~431・433・436・438・440・441・452~456・461、B区 31・59・79・80・90~93・97・117~119・124・153・154・156・221、C区 39・79・99・120・146・228・256・284・927・952~954・990~992・995・996・1005・1021・1081・1096・1119・1120、D区 2号土坑

2 伊勢山遺跡

I 検出された遺構と遺物

桜井 美枝

伊勢山遺跡では、旧石器時代の石器と縄文時代前期の土器、古墳時代前期の土師器、近世の土壇墓とそれに伴う遺物が出土した。

旧石器時代の遺物は、石器が2点出土したのみである。2点とも黒色頁岩製の縦長剥片で、As-BP下位から暗色帯上位にかけての層位から出土した。断片的な資料のため時期の特定は難しいが、隣接する波志江西宿遺跡と同様の層位から石器群が見つかっており、一連の石器分布に含まれる可能性が高い。

縄文時代の遺物は、少数の土器片とわずかな石器のみである。時期は前期で、小規模な土坑群などが存在した可能性が考えられる。

古墳時代ではごくわずかの土師器破片が見ついている。時期は古墳時代前期で、S字状口縁台付甕を含む。同時期の集落が波志江西宿遺跡にあり、さらにその東側の波志江中宿遺跡では粘土採掘坑も発見されている。本遺跡にも同時期の遺構が存在した可能性はあるが、非常に少数の資料であり、波志江西宿遺跡の集落の西端がわずかにかかっている程度であろう。

近世の土壇墓は、円形から楕円形状のもの、長方形のもの、正形状のものに大きく分けられる。このうち長方形のものが11基、円形から楕円形状のものが14基、正形状のものが3基あった。形状の違いによって分布が大きく偏ることはないが、同じタイプのもものが隣接して作られる傾向は認められる。特異な形態として掘り込み面が正方形で、底面に円形の掘り込みをもつタイプがあげられる。2基見つかり、5m程の間隔を置いて隣接して作られていた。副葬品は特に他の墓との差異はないが、他の形状に比べ規模が大きく、農村の有力層の墓である可能性も考えられよう。

これらの土壇墓は、その多くに古銭が伴う。古銭は少ないもので2枚、多いものでは16枚出土しており、その铸造年代を手掛かりとして墓のおおよその構築年代を推測することができる。最も多く出土している寛永通寶については3期に区分されており、その特徴によって铸造年代の幅の特定が可能である。1期はいわゆる「古寛永」といわれるもので、1636年から1659年に铸造された。2期は背面上位に「文」の文字を鑄出したもので、「文銭」と呼ばれている。铸造年代は1668年から1683年である。3期は「新寛永」と呼ばれるもので、1697年から1747年と、1767年から1781年にかけて铸造された。ここまでの寛永通寶は全て銅製の一文銭で、他に鉄製の一文銭（1739～1747年、1765～1779年、1835～1867年）、真鍮四文銭（1786～1788年、1821～1825年、1854～1857年）や鉄四文銭（1860年以降）などが作られた。

墓から出土した古銭のうち、初鑄年が最も古いのは、16号土壇墓出土の元祐通寶の1086年である。ただし、「新寛永」が共伴するため年代の基準とはならない。一方1号土壇墓では出土した寛永通寶9枚のうち8枚（残り1枚は付着のため銭種不明）、2号土壇墓では6枚の寛永通寶全てが「古寛永」である。また3号土壇墓では、「古寛永」が6枚、「文銭」が5枚出土している。従って、1・2号土壇墓は「古寛永」の鑄造開始から「文銭」の開始以前、3号土壇墓は「文銭」の鑄造開始から「新寛永」の開始以前の段階に、それぞれ構築された可能性が高い。17号土壇墓も銭種の判明したものは全て「古寛永」であったが、錆による付着のためその他5枚が確認できず、時期の特定はできない。5号土壇墓は「新寛永」の他に寛永通寶真鍮四文銭と文久永寶四文銭が出土。このうち最も新しいのは文久永寶四文銭で、1863年から1865年に鑄造された。このことから、5号土壇墓の構築年代は、文久永寶の初鑄年である1863年以降と判断される。6・9・10・12・

13・15・16・18・20・21・23・24・26・27号土墳墓は全て「新寛永」が伴うことから、1697年以降に作られたことがわかる。このうち、10号土墳墓では寛永通寶鉄一文銭が、9・12・13・26号土墳墓からは銭種不明の鉄銭が出土している。寛永通寶鉄一文銭は初鑄年が1739年であることから、10号土墳墓の構築年代はそれ以降となる。江戸時代に徳川幕府が公鑄した鉄銭は寛永通寶だけであり、本遺跡から出土した銭種不明の鉄銭も寛永通寶である可能性が高い。従って、9・12・13・26号土墳墓も1739年以降の構築と推測される。4号土墳墓からも銭種不明の鉄銭が出土し、同様の年代が与えられよう。8号土墳墓からは覆土中より大正年間の一銭銅貨が出土しているが、共伴するのは穴あきの鉄銭である。7・11・14・19・22・25・28号土墳墓は出土遺物が無かったが、墓の規模や形状から近世の遺構と推測される。

以上から、伊勢山遺跡に墓がつくられ始めた年代は、寛永通寶の初鑄年である1636年以降であることが特定できた。実際は、古銭の出土があった21基の墓のうち、「新寛永」を伴うものが14基と多く、1697年以降に作られたものが大半を占める。この年代は、墓石に記された年号からも裏付けることができる。先述の通り伊勢山遺跡には多数の墓所があったが、調査開始以前に墓石等は全て新しい墓地に移築した。移築前に墓石の調査を行ったところ、記された享年が読み取れたものが合計300基あり、このうち明治時代よりも前の年号をもつものが170基であった(表2)。最も古いものは寛永15年(1638)、新しいものが慶応2年(1866)である。「新寛永」の初鑄年である1697年を境に考えると、それ以前のもものが6基、以降のもものが164基となり、土墳墓出土の古銭から推測した墓の年代とよく一致する。

土墳墓出土の古銭と墓の年号から導き出された伊勢山遺跡の墓の構築年代は、東側に隣接する波志江西宿遺跡に屋敷が営まれていた年代とほぼ一致する。波志江西宿遺跡でも土墳墓は発見されているが、全て中世から近世初頭のもので、屋敷よりも古い段階に位置付けられる。従って、17世紀中葉以降、波志江西宿遺跡に屋敷が造られたのとはほぼ時期を同じくして、本遺跡が墓域となっていくものと推測される。

<参考文献>

- 永井久美男編 1994 『中世の出土銭』 兵庫県埋蔵銭調査会
 // 編 1996 『中世の出土銭 補遺 I』 兵庫県埋蔵銭調査会
 // 編 1994 『近世の出土銭』 兵庫県埋蔵銭調査会
 // 編 1998 『近世の出土銭 II』 兵庫県埋蔵銭調査会
 鈴木公雄 1993 「渡来銭から古寛永通宝へー出土六道銭からみた近世前期銭貨流通史の復元ー」 『論苑考古学』 天山舎
 // 1999 『出土銭貨の研究』 東京大学出版会

表2 伊勢山遺跡墓石年号一覧

墓の年号	西 暦	数量	備 考	墓の年号	西 暦	数量	備 考
寛永	1624~1643	1	寛永15年(1638年)	天明	1781~1788	13	
天和	1681~1683	1	天和元年(1681年)	寛政	1789~1800	15	
元禄	1688~1703	6	1697年以前4基、以後2基	享和	1801~1803	7	
宝永	1704~1710	1		文化	1804~1817	14	
享保	1716~1735	16		文政	1818~1829	13	
天文	1736~1740	5	1739年以前2基、以後3基	天保	1830~1843	10	
寛保	1741~1743	4		弘化	1844~1847	4	
延享	1744~1747	3		嘉永	1848~1853	5	
寛延	1748~1750	1		安政	1854~1859	2	
宝暦	1751~1763	12		万延	1860	2	
明和	1764~1771	10		文久	1861~1863	8	
安永	1772~1780	15		慶応	1865~1867	2	

*この他に、明治：55基、大正：26基、昭和：48基、平成：1基あり。

第5章 自然科学分析

1 波志江西宿遺跡古墳時代住居跡出土の炭化材樹種同定分析

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

当遺跡は、関東平野北部の伊勢崎市に所在する。ここでは、当遺跡の古墳時代前期の竪穴住居跡から出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。住居跡出土炭化材の樹種同定からは、建築材樹種の選択性や居住空間で利用していたと思われる樹種を明らかにして、当時の生活で使われていた木材樹種の資料を得ることができる。

調査した試料は、A区1号住の1試料、C区2号住の27試料、C区3号住の13試料である(第218図)。

2. 炭化材樹種同定の方法

まず、炭化材の横断面(木口)を手で割り実体顕微鏡で観察して、分類群のおおよその目安をつける。アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節・クリなどは横断面の管孔配列が特徴的であるため、実体顕微鏡下の観察で同定可能であるが、それ以外の分類群については3方向の破断面(横断面・接線断面・放射断面)を走査電子顕微鏡で拡大して観察し、同定を決定した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、走査電子顕微鏡(日本電子㈱製 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

3. 結果

同定結果の一覧を、表3に示した。以下に各住居跡ごとの樹種同定結果と、同定根拠とした材組織の観察結果を検出分類群ごとに記載する。

A区1号住

No1は、クヌギ節であった。

C区2号住

建築材の破片と思われる26試料は、クヌギ節が25試料、コナラ節が1試料(No12)であった。クヌギ節は材構造の特徴から広放射組織のところを割れ安いので炭化後に薄く割れた可能性も考えられるが、No4・No5・No13は厚み約2cmの板状破片が多く入っていた。またNo15(クヌギ節)は、放射径9cmで26年輪が数えられたみかん割りの形状であった。No17(クヌギ節)は、年輪線の配列が比較的整った横断面の輪郭と関連性が見られないことから、原材から必要な形に切り出した分割材の可能性も考えられた。No10(クヌギ節)には、おそらく内樹皮の部分が薄く付いているのが観察された。1試料だけ検出されたコナラ節(No12)は、直径約3cmと推定される丸木に近い破片で、約17年輪が数えられた。クヌギ節の炭化材は樹芯部が外れた破片が殆どであったのに対し、コナラ節の材は丸木に近い形状であった。

貯蔵穴からは、クヌギ節と樹皮が検出された。樹皮は厚いコルク質のようであることから、クヌギ節の樹皮の可能性もあると思われる。

C区3号住

建築材の破片と思われる9試料は、クヌギ節が8試料、タケ亜科が1試料(No6)であった。クヌギ節のうち、No1は薄板状、No2・No3・No5は大きな部材破片のようであった。No6のタケ亜科は多数が採取されていて、いずれも直径約1~1.5cmの硬い程で明瞭な節部があり、横断面の組織からも竹類と思われる。

貯蔵穴からは、コナラ節(No8内容物)、クヌギ節(No9内)、そして針葉樹のヒノキ科が検出された。い

ずれも、薄い小破片であった。

材組織記載

(1) ヒノキ科 Cupressaceae PL-100 1a-1c (C区3号住貯蔵穴)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の量は比較的少なくその仮道管の肥厚も顕著ではない。早材部の分野壁孔は、輪郭が丸く、その孔口はやや斜めの楕円形や円形に開いたヒノキ型で、1分野に2～4個ある。

ヒノキ属、アスナロ、クロベの可能性が考えられるが、小破片のため十分な観察できず、ヒノキ科までしか特定できなかった。

(2) コナラ属コナラ亜属クヌギ節 Quercus subgen. Q. sect. Cerris ブナ科 PL-100 2a-2c (C区2号住No.3)

年輪の始めに大型の管孔からなる1～3層の孔圏部があり、孔圏外は小型で孔口が丸く厚壁の管孔が単独で放射方向に配列する環孔材。広放射組織があり、接線状・網状の柔組織が顕著である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、チロースが発達している。放射組織は同性、単列のものと集合状の広放射組織があり、道管との壁孔は柵状である。

クヌギ節は、暖帯の山野に普通の落葉高木で、クヌギとアベマキが属する。

(3) コナラ属コナラ亜属コナラ節 Quercus subgen. Q. sect. Prinus ブナ科 PL-100 3a-3c (C区2号住No.12)

年輪の始めに大型の管孔が配列する孔圏部があり、孔圏外は小型で孔口が多角で薄壁の管孔が火炎状に配列する環孔材。そのほかの形質は、前述のクヌギ節と同様である。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワが属する。

(4) タケ亜科 Gramineae subfam. Bambusoideae イネ科 PL-100 4 (C区3号住No.6)

いずれも直径約1～1.5cmの硬い稈で、稈の中心は中空で、膨れた節部と出芽痕が観察された。節部は稈鞘痕の段差が少しある程度である。横断面において維管束の配列は不整中心柱であり、維管束鞘が発達し特に稈の外周部において発達している。

タケ亜科はいわゆる竹・笹の仲間で約12属が含まれるが、破片から分類群を特定するのは困難である。

4. まとめ

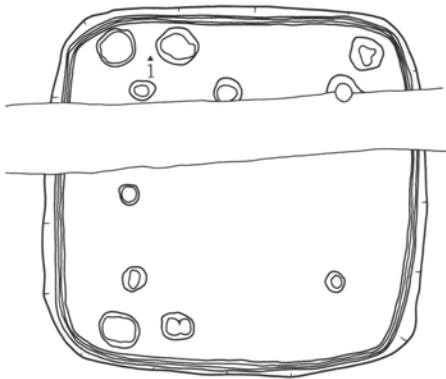
当遺跡の古墳時代前期の3住居跡からは、クヌギ節・コナラ節・ヒノキ科の炭化材と、タケ亜科の多数の炭化した稈が検出された。このうち、3住居跡のいずれからもクヌギ節が圧倒的に優占出土したことから、クヌギ節の材が建築材として主に使用されていたと推測される。この事はクヌギ節の炭化材がコナラ節に比べて、大きな破片や大きな材の一部破片であったことから示唆される。

多数のタケ亜科の稈(Na.6)は、C区3号住の壁際から出土していることから、屋根材または壁材の可能性が考えられるであろう。

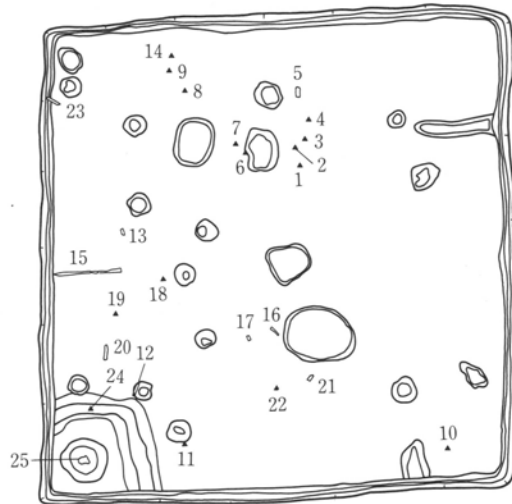
貯蔵穴から出土した炭化材はいずれも小破片で、C区2号住ではクヌギ節、C区3号住ではコナラ節・クヌギ節・ヒノキ科であった。クヌギ節やコナラ節は、建築材と推定される炭化材からも検出されているが、針葉樹のヒノキ科は検出されていない。

なお、近隣遺跡の古墳時代前期の住居建築材樹種調査結果は、波志江中野面遺跡ではクヌギ節よりコナラ節が多く使われており、光仙房遺跡では当遺跡と同じくクヌギ節が優占出土しコナラ節は少なかった。いずれも、クヌギ節またはコナラ節のどちらかを優占して使用していた点は共通性がある。しかし、クヌギ節またはコナラ節のどちらの材を優占的に利用するのかという事が、重要な意味があったのかどうかは、いまの時点では不明である。

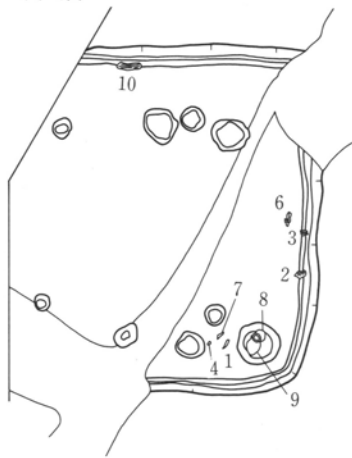
A区1号住居



C区2号住居



C区3号住居



第218図 炭化材出土状況

表3 波志江西宿遺跡住居跡出土炭化材樹種同定結果

遺構	試料	樹種	備考	遺構	試料	樹種	備考
A区1号住居	No.1	クヌギ節		C区2号住居	No.20	クヌギ節	
C区2号住居	No.1	クヌギ節		C区2号住居	No.21	クヌギ節	
C区2号住居	No.2	クヌギ節		C区2号住居	No.22	クヌギ節	
C区2号住居	No.3	クヌギ節		C区2号住居	No.23	クヌギ節	
C区2号住居	No.4	クヌギ節	厚み2cmの板状破片多い	C区2号住居	No.24	クヌギ節	
C区2号住居	No.5	クヌギ節	厚み2cmの板状破片多い	C区2号住居	No.25	クヌギ節	
C区2号住居	No.6	クヌギ節		C区2号住居	貯蔵穴	クヌギ節 樹皮	厚くコルク質の樹皮
C区2号住居	No.7	クヌギ節		C区2号住居	No.なし	クヌギ節	
C区2号住居	No.8	クヌギ節		C区3号住居	No.1	クヌギ節	ビニール袋の炭化材
C区2号住居	No.9	クヌギ節		C区3号住居	No.2	クヌギ節	薄板状
C区2号住居	No.10	クヌギ節	一部に樹皮残存	C区3号住居	No.3	クヌギ節	大きな部材破片か?
C区2号住居	No.11	クヌギ節		C区3号住居	No.4	クヌギ節	大きな部材破片か?
C区2号住居	No.12	コナラ節	直径約3cmの丸木に近い破片。中心に樹芯。約17年輪。	C区3号住居	No.5	クヌギ節	大きな部材破片か?
C区2号住居	No.13	クヌギ節	厚み2cmの板状	C区3号住居	No.6	タケ亜科	直径約1~1.5cm タケ・ササ類の硬い桿多数
C区2号住居	No.14	クヌギ節		C区3号住居	No.7	クヌギ節	
C区2号住居	No.15	クヌギ節	みかん割り材 放射径9cmで26年輪あり	C区3号住居	No.8内容物	コナラ節	薄い破片
C区2号住居	No.16	クヌギ節		C区3号住居	No.9(内)	クヌギ節	
C区2号住居	No.17	クヌギ節	分割材?	C区3号住居	No.10	クヌギ節	2パックあり
C区2号住居	No.18	クヌギ節		C区3号住居	No.11	クヌギ節	
C区2号住居	No.19			C区3号住居	貯蔵穴	ヒノキ科	

2 波志江西宿遺跡出土木器の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

当遺跡から出土した近世に属する木製品の樹種同定結果を報告する。主に井戸から出土した桶材・きぬた・櫛・漆器などである。県内の遺跡において、近世の木製品の樹種調査が実施され報告された事例は、まだ多くは無いようである。県内における樹種利用の変遷を知る上で、今回の調査は資料の蓄積となる。

2. 方法

群馬県埋蔵文化財調査センターにおいて作成された材組織プレパラートを、光学顕微鏡で観察し同定した。材組織標本は、徒手による薄片法で作成されており、材の横断面(木口)・接線断面(板目)・放射断面(柁目)の3方向を薄く剥ぎ取りスライドグラスの上に並べ、ガムクロラールで封入されている。

3. 結果

各木器の樹種同定結果を、表4に示した。

桶の側板・底板には、スギ・ヒノキ・ヒノキ属・ネズコ・アスナロの針葉樹材が使われていた。一方桶の把手は、クリ(A区3井戸-15)やコナラ節またはシイノキ属(C区8井戸-2)の広葉樹材であった。

曲物側板はヒノキ、板はヒノキ科・コナラ節、きぬたと丸棒はアカマツ、たがはアスナロ、櫛はカマツカであった。漆器碗7点のうち、6点はブナ属で1点がクリであった。用途不明の木片は、ヒノキ属・ヒノキ科・マツ属複雑管束亜属・クリ・コナラ節であり、これらの樹種は器種が判明している製品からも検出されている。

同定された樹種の材組織を、分類配列順に簡単に記す。

アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc. マツ科 PL-101 1a-1c(樹種No1)

垂直と水平の樹脂道があり、分野壁孔は窓状、放射仮道管がありその内壁には先端が鋭利な鋸歯状肥厚が顕著である。

マツ属複雑管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科

マツ属複雑管束亜属のアカマツまたはクロマツの材である。放射仮道管内壁の肥厚の形状により、アカマツは鋭利な鋸歯状をなし、クロマツは比較的ゆるやかな鋸歯状である。当試料の壁は不朽しているため、アカマツとクロマツの識別はできなかった。

スギ *Cryptomeria japonica* D.Don スギ科 PL-101 2(樹種No17)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は多くその仮道管壁は極めて厚い。分野壁孔は孔口が水平に大きく開いたスギ型、1分野に主に2個ある。

ネズコ *Thuja standishii* Carr. ヒノキ科 PL-101 3(樹種No20)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。分野壁孔は孔口がやや大きいヒノキ型や小さなスギ型である。孔口の開口はスギほど大きくはなく、輪郭も主に円形であり、1分野に2~4個ある。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. PL-101 4(樹種No19)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行が急で晩材の量が極めて少ないものと、早材から晩材への移行が緩やかなものがある。分野壁孔は孔口が斜めに細く開いたヒノキ型、1分野におもに2個ある。

ヒノキ属 *Chamaecyparis* ヒノキ科

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。分野壁孔の孔口は典型的なヒノキよりやや大きく開いているものが目立ち、サワラの可能性が高いが断定には至らなかったものである。

アスナロ *Thujaopsis dolabrata* sieb. et Zucc. ヒノキ科 PL-101 5(樹種No48)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。分野壁孔は小さなスギ型、1分野に2~6個ある。ネズコの分野壁孔よりやや小さく、1分野の壁孔数も多いものが目立つことから、アスナロと同定した。

ヒノキ科 Cupressaceae

仮道管・放射組織・樹脂細胞からなる針葉樹材、分野壁孔は1分野に2~4個、壁孔の外形は丸くヒノキ型のようなものであるが細胞壁の不朽により分野壁孔の詳細は不明であることから、分類群を絞ることができなかった。

針葉樹 conifer

針葉樹材の分類に重要な放射断面を欠いていたため、分類群は特定できなかった。

樹脂道は無く、仮道管にらせん肥厚も無い。

ブナ属 *Fagus* ブナ科 PL-101 8a-8c(樹種No52)

丸みをおびた小型の管孔が密在し、年輪界では極めて小型となり分布数も減る散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は階段数が10~20本の階段穿孔と単穿孔がある。放射組織は異性、1~3細胞幅のものと幅が広く背の高い放射組織があり、道管との壁孔は大きなレンズ状である。

コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 PL-101 7a-7c(樹種No36)

年輪の始めに大型の管孔が配列し、晩材部では薄壁・角形で小型の管孔が火炎状・放射状に分布する環孔材。道管の穿孔は単一、放射組織は単列と広放射組織がある。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 PL-101 6a-6b(樹種No26)

年輪の始めに中型の管孔が配列し除々に径を減じ、晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一、放射組織は単列同性のみである。

コナラ属コナラ節またはシイノキ属 *Q.* subgen. *Q.* sect. *Prinus* or *Castanopsis* ブナ科

年輪の始めに大型の管孔があり、晩材部は非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。横断面が小さいため孔部部の管孔配列の特徴が十分に分からない。細胞幅の狭い集合放射組織がある。コナラ節またはシイノキ属の可能性が考えられる。

カマツカ *Pourthiaea villosa* (Thunb.) Decaisne var. *laevis* (Thunb.) Stapf バラ科 PL-101 9a-9c(樹種No22)

小型の管孔が単独または少数が接して均一に分布し、分布数も多い散孔材。木部柔細胞は散在・短接線状が多くある。道管の穿孔は単一、内腔にはかすかにらせん肥厚がある。放射組織はほぼ同性、1~3細胞幅、主に2細胞幅、垂直に連結する大型結晶細胞が観察された。

4. まとめ

井戸から検出された桶の側板・底板は、スギ・ヒノキ・ネズコ・アスナロの針葉樹材であった。関東地方では近世の桶には、スギやヒノキが多く、スギやヒノキほど多くはないがアスナロやネズコの報告もある(能城、1992、山田、1993、松葉1999など)。当遺跡から出土した桶も同様な樹種選択性で、作成されていたことが確認された。繋ぎ合わせて作成された桶底は、A区3号井戸-11・12はスギでC区3号井戸-2はアスナロで同一樹種であったが、A区3号井戸-9・10は同じヒノキ科の材ではあるがヒノキとネズコであった。

桶・樽のたがは竹や銅板である事が多いが、C区7号井戸-17・18のたがと思われる2本の材はアスナロであり、珍しい事例と思われる。ヒノキやアスナロの材は割裂性が高く、薄く剥ぎやすいことから、たがとして作成された可能性はあるかも知れない。

漆器碗7点は、ブナ属6点とクリ1点で、ブナ属が多い傾向がみられた。

C区7号井戸から出土した刀鞘2点は、黒漆跡が残る13はアスナロで、漆が認められない14はヒノキであった。14は漆を掛けずに作成するために白木の美しさで知られるヒノキを選択したのかも知れない。

A区9号井戸から出土した櫛はカマツカであり、櫛の用材として知られてはいるが(農商務省山林局編、1912など)、遺跡からの報告事例はあまり聞かない。近世では、イスノキ・モッコク・ツゲなどが櫛材として多く知られている(能城、1992、松葉、1997など)。

<引用文献>

能城修一、1992、新宿区細工町遺跡から出土した木製品の樹種、174-187、「細工町遺跡」、新宿区厚生部遺跡調査会。

山田昌久、1993、日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成-用材から見た人間・植物関係史、1-242、植生史研究 特別第1号。

松葉礼子、1997、溜池遺跡出土木製品の樹種同定、1-30、「溜池遺跡 第II分冊」、地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会。

松葉礼子、1999、溜池遺跡・汐留遺跡・墨田区三遺跡から出土した木製品の樹種から類推される近世江戸城周辺の木材消費、59-70、植生史研究 第7巻第2号。

農商務省山林局 編、1912、「木材の工芸的利用」、大日本山林会、東京。(復刻版、1985、林業科学技術振興所、東京)。

表4 波志江西宿遺跡出土木器樹種同定結果

樹種 No	材 組 織 標 本 No	木 器 番 号	器 種	樹 種	時 期
1	No.1	A-2 井戸-1	きぬた	アカマツ	近世
2	No.2	A-2 井戸-3	桶 底板	針葉樹	近世
3	No.3	A-2 井戸-4	桶 側板	スギ	近世
4	No.4	A-2 井戸-2	桶 側板	ヒノキ	近世
5	No.5-①	A-3 井戸-15	桶 側板	スギ	近世
6	No.5-②	A-3 井戸-14	桶 側板	スギ	近世
7	No.5-③	A-3 井戸-21	桶 側板	スギ	近世
8	No.5-④	A-3 井戸-23	桶 側板	スギ	近世
9	No.5-⑤	A-3 井戸-24	桶 側板	スギ	近世
10	No.5-⑥	A-3 井戸-18	桶 側板	スギ	近世
11	No.5-⑦	A-3 井戸-20	桶 側板	スギ	近世
12	No.5-⑧	A-3 井戸-19	桶 側板	スギ	近世
13	No.5-⑨	A-3 井戸-16	桶 側板	スギ	近世
14	No.5-⑩	A-3 井戸-22	桶 側板	スギ?	近世
15	No.5-⑪	A-3 井戸-25	桶 側板	スギ?	近世
16	No.5-⑫	A-3 井戸-17	桶 側板	スギ	近世
17	No.5-⑬A	A-3 井戸-11	桶 底板	スギ	近世
18	No.5-⑬B	A-3 井戸-12	桶 底板	スギ	近世
19	No.5-⑭A	A-3 井戸-9	桶 底板	ヒノキ	近世
20	No.5-⑭B	A-3 井戸-10	桶 底板	ネズコ	近世
21	No.5-⑮	A-3 井戸-15	桶 把手	クリ	近世
22	No.6	A-9 井戸-2	櫛	カマツカ	近世
23	No.7	A-7 井戸-4	木片 用途不明	ヒノキ科	近世
24	No.8	A-7 井戸-3	板	ヒノキ科	近世
25	No.9	A-7 井戸-2	丸棒 用途不明	アカマツ	近世
26	No.10	A-7 井戸-5	木片 用途不明	クリ	近世
27	No.11-①	A-6 井戸-4	桶 側板	ヒノキ属	近世
28	No.11-②	A-6 井戸-5	桶 側板	ヒノキ属	近世
29	No.11-③	A-6 井戸-2	桶 側板	ネズコ?	近世
30	No.11-④	A-6 井戸-1	桶 側板	ヒノキ	近世
31	No.11-⑤	A-6 井戸-3	桶 側板	ヒノキ	近世
32	No.11-⑥	A-6 井戸-6	桶 底板	ヒノキ	近世
33	No.12	A-4 井戸-17	桶 底板	ヒノキ?	近世
34	No.13	C-7 井戸-20	木片 用途不明	マツ属複雑維管束亜属	近世
35	No.14	C-7 井戸-21	板 用途不明	コナラ節	近世
36	No.15	C-7 井戸-22	木片 用途不明	コナラ節	近世
37	No.16-②	C-7 井戸-18	たが	アスナロ	近世
38	No.16-③	C-7 井戸-17	たが	アスナロ	近世
39	No.17	C-7 井戸-15	曲物 側板	ヒノキ	近世
40	No.18	C-7 井戸-8	漆器 椀	ブナ属	近世
41	No.19-①	C-7 井戸-9	漆器 椀	ブナ属	近世
42	No.19-②	C-7 井戸-12	漆器 椀	クリ	近世
43	No.19-③	C-7 井戸-11	漆器 椀	ブナ属	近世
44	No.19-④	C-7 井戸-10	漆器 椀	ブナ属	近世
45	No.19-⑤	C-7 井戸-7	漆器 椀	ブナ属	近世
46	No.20-①	C-7 井戸-13	刀鞘	アスナロ	近世
47	No.20-②	C-7 井戸-14	刀鞘	ヒノキ	近世
48	No.22-①	C-3 井戸-2	桶 底板	アスナロ	近世
49	No.22-②	C-3 井戸-3	桶 底板	アスナロ	近世
50	No.24	C-8 井戸-2	桶 把手	コナラ節 or シイノキ属	近世
51	No.25	C-9 井戸-7	桶 底板	ネズコ	近世
52	No.27	D-1 井戸-37	漆器 椀	ブナ属	近世
53	No.28	D-1 井戸-38	木片 用途不明	ヒノキ属	近世

3 伊勢山遺跡の自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 伊勢山遺跡のテフラ分析

1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、年代の不明な土層が検出された伊勢山遺跡においても、地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、採取された試料を対象に火山ガラス比分析と屈折率測定などのテフラに関する分析を行って示標テフラの層位を把握し、土層の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、AトレンチとEトレンチの2地点である。

2. 土層の層序

(1) Aトレンチ

Aトレンチでは、下位より暗灰褐色土（層厚5cm以上）、風化の進んだ黄白色軽石層（層厚7cm、軽石の最大径16mm）、褐色土（層厚17cm）、灰色石質岩片混じり暗褐色土（層厚37cm、石質岩片の最大径7mm）、褐色土（層厚7mm）、褐色土（層厚9cm）、軽石混じり黄橙色粗粒火山灰層（層厚3cm、軽石の最大径2mm）、褐色砂質土（層厚12cm）、橙色軽石層（層厚3cm、軽石の最大径3mm）、黄白色軽石混じり褐色土（層厚23cm、軽石の最大径5mm）、黄白色軽石混じりで下位より若干色調が暗い褐色土（層厚12cm、軽石の最大径3mm）、黄色軽石を多く含む褐色土（層厚9cm、軽石の最大径6mm）が認められる（第219図1）。

(2) Eトレンチ

Eトレンチでは、下位より風化した白色軽石混じり灰色粘土層（層厚23cm以上、軽石の最大径11mm）、灰色粘土層（層厚24cm）、黄色土（層厚3cm）、暗褐色土（層厚4cm）、黒褐色土（層厚10cm）、風化の進んだ黄色軽石層（層厚1cm、軽石の最大径2mm）、暗褐色土（層厚26cm）、灰色土ブロック混じり褐色土（層厚13cm）、黄褐色土（層厚14cm）、黄色軽石に富む黄褐色砂質土（層厚8cm、軽石の最大径5mm）、黄灰色土（層厚8cm）、褐色土（層厚31cm）、暗褐色土（層厚19cm）が認められる（第219図2）。

3. 火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

AトレンチおよびEトレンチにおける土層の年代に関する資料を得るために、2地点において基本的に厚さ5cmごとに採取された試料のうちの18点を対象に火山ガラス比分析を行い、火山ガラスで特徴づけられる示標テフラの降灰層準の把握を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料15gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 分析篩により、1/4-1/8mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別比率を求める。

(2) 分析結果

AトレンチとEトレンチにおける分析結果を、ダイヤグラムにして第219図3と4に示す。また、火山ガラス比分析の結果の内訳を表5に示す。Aトレンチでは、いずれの試料からも火山ガラスが少量ずつ検出された。いずれの試料でも、スポンジ状に発泡した軽石型ガラスが認められる。試料2には、ほかに透明のバブル型ガラス(0.4%)や分厚い中間型ガラス(0.4%)も認められる。

Eトレンチでも、いずれの試料からも火山ガラスが検出された。試料17の軽石層には、ほかの試料と比較してより多くの軽石型ガラスが含まれている(2.4%)。また、試料9以上の試料には、分厚い中間型が比較的顕著に認められる傾向がある。試料9や7には比較的多くの中間型ガラス(3.2%)が含まれており、試料5にとくに多く含まれている(10.0%)。この試料には、ほかにスポンジ状や繊維束状に発泡した火山ガラスも比較的多く含まれている。

これらの結果から、Aトレンチでは試料2付近に透明なバブル型ガラスで特徴づけられるテフラ、またEトレンチでは、試料9付近と試料2付近に中間型ガラスで特徴づけられるテフラの降灰層準があると考えられる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

示標テフラとの同定精度を向上させるために、Aトレンチの試料1とEトレンチの試料17の2試料について、温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993)により屈折率測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表6に示す。Aトレンチの試料1には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれており、斜方輝石(γ)の屈折率は1.702-1.709である。一方、Eトレンチの試料17には、重鉱物として斜方輝石のほか単斜輝石や角閃石が含まれており、斜方輝石(γ)の屈折率は1.702-1.709である。とくにこの試料には、 β 石英も比較的多く含まれている。

5. 考察—示標テフラとの同定

Aトレンチの風化した黄色軽石層は、その層相から約4.1~4.4万年前^{*1}に榛名火山から噴出した榛名八崎軽石(Hr-HP, 新井, 1962, 大島, 1986)に同定される。Eトレンチの最下位の灰色粘土層中に含まれる白色軽石についても、Hr-HPに由来すると考えられる。Aトレンチの試料2付近に降灰層準がある透明なバブル型ガラスで特徴づけられるテフラは、火山ガラスの特徴から、約2.4~2.5万年前^{*1}に始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 1992, 松本ほか, 1987, 池田ほか, 1995)と考えられる。

Eトレンチの試料17の軽石層は、その層相、 β 石英が比較的多く含まれていること、重鉱物の組合せ、斜方輝石の屈折率などから、約1.9~2.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 早田, 1996, 未公表資料)の最下部にある室田軽石(MP, 早田, 1990)と考えられる。

Aトレンチの試料1のテフラ層は、その層相、重鉱物の組合せ、斜方輝石の屈折率などからAs-BP Groupの中・上部と考えられる。その上位にある橙色軽石層についても、層位や層相などから、As-BP Groupの中・上部と考えられる。これらのテフラとの層位関係から、その上位の褐色土中に含まれる黄白色軽石については、各々約1.7万年前^{*1}と約1.6万年前^{*1}に浅間火山から噴出したと考えられている浅間大窪沢第1軽石(As-Ok1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)と浅間大窪沢第2軽石(As-Ok2, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)に由来する可能性が指摘される。火山ガラスの特徴から、Eトレンチにおいて試料9付近に降灰層準があると考えられるテフラも、これらのテフラに対比される可能性が高い。

Aトレンチの黄褐色砂質土、さらにAトレンチ最上部の褐色土中に含まれる比較的粗粒の黄色軽石については、層位や岩相などから約1.3~1.4万年前*1)に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。

以上のように、Aトレンチでは、Hr-HPより上位の土層中に含まれる後期旧石器時代の示標テフラが認められる。しかしその一方で、Eトレンチにおいては、As-MPとAs-Ok1の間に層位があるAs-BP Group中・上部を認めることができなかった。このことから、Eトレンチ付近では、少なくともAs-MP降灰後に沢が形成され、その沢はAs-Ok1(あるいはAs-Ok2)降灰前に埋没が始まったものと推定される。

6. まとめ

伊勢山遺跡において、地質調査、火山ガラス比分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より榛名八崎軽石(Hr-HP, 約4.1~4.4万年前*1)、始良Tn火山灰(AT, 約2.4~2.5万年前*1)、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約1.9~2.4万年前*1)、浅間大窪沢第1軽石(As-Ok1, 約1.7万年前*1)あるいは浅間大窪沢第2軽石(As-Ok2, 約1.6万年前*1)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前*1)など、多くの旧石器時代の示標テフラを検出することができた。Eトレンチでは、これらのうちAs-BPの中・上部が欠如していることから、このテフラの降灰前後に沢が形成され、As-Ok1(あるいはAs-Ok2)降灰前には埋没が始まったと推定された。

*1 放射性炭素(¹⁴C)年代。

文献

- 新井房夫(1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
新井房夫(1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.
新井房夫(1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
新井房夫(1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p.138-148.
池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫(1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕堆中の炭化樹木の加速器質量分析法による¹⁴C年代. 第四紀研究, 34, p.377-379.
町田 洋・新井房夫(1976) 広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義. 科学, 46, p.339-347.
町田 洋・新井房夫(1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987) 始良Tn火山灰(AT)の¹⁴C年代. 第四紀研究, 26, p.79-83.
中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984) 浅間火山, 黒班~前掛期のテフラ層序. 日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
大島 治(1986) 榛名火山. 日本の地質「関東地方」編集委員会編「関東地方」, p.222-224.
早田 勉(1990) 群馬県 naturally and 風土. 群馬県史通史編, 1, p.37-129.
早田 勉(1996) 関東地方~東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.

表5 伊勢山遺跡における火山ガラス比分析結果

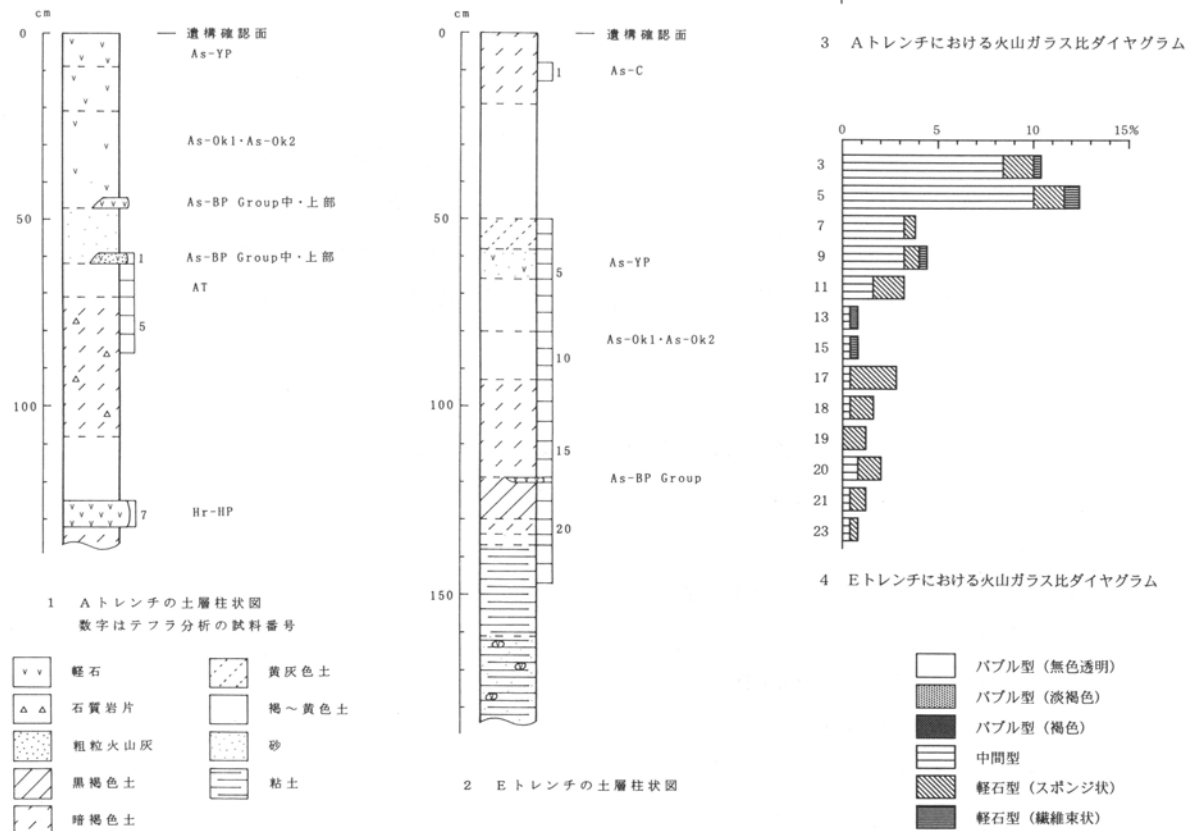
トレンチ	試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(sp)	その他	合計
A	2	1	0	0	1	1	0	247	250
	3	0	0	0	0	2	0	248	250
	4	0	0	0	0	1	0	249	250
	5	0	0	0	0	2	0	248	250
	6	0	0	0	0	1	0	249	250
E	3	0	0	0	21	4	1	224	250
	5	0	0	0	25	4	2	219	250
	7	0	0	0	8	3	0	239	250
	9	0	0	0	8	2	1	239	250
	11	0	0	0	4	4	0	242	250
	13	0	0	0	1	1	0	248	250
	15	0	0	0	0	1	1	248	250
	17	0	0	0	1	6	0	243	250
	18	0	0	0	1	3	0	246	250
	19	0	0	0	0	3	0	247	250
	20	0	0	0	2	3	0	245	250
	21	0	0	0	1	2	0	247	250
	23	0	0	0	1	1	0	248	250

数字は粒子数。bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型。cl：無色，pb：淡褐色，br：褐色。

表6 伊勢山遺跡における屈折率測定結果

トレンチ	試料	重鉱物	斜方輝石(γ)
A	1	opx>cpx	1.702-1.706
E	17	opx>cpx,ho	1.702-1.709

屈折率の測定は、温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）による。opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：角閃石



第219図 各試料採取地点の土層柱状図と火山ガラス比ダイアグラム

II. 伊勢山遺跡における植物珪酸体分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 2000)。

2. 試料

分析試料は、AトレンチとEトレンチの2地点から採取された計6点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550°C・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-5}g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。ヨシ属 (ヨシ) の換算係数は6.31、ネザサ節は0.48、クマザサ属 (チシマザサ節・チマキザサ節) は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4. 分析結果

(1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表7および第220図1、2に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す (PL-102)。

[イネ科]

キビ族型、ヨシ属、ウシクサ族A (チガヤ属など)、シバ属、Bタイプ

[イネ科-タケ亜科]

ネザサ節型 (おもにメダケ属ネザサ節)、クマザサ属型 (チシマザサ節やチマキザサ節など)、ミヤコザサ節型 (おもにクマザサ属ミヤコザサ節)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等

(2) 植物珪酸体の検出状況

1) Aトレンチ (第220図1)

Hr-HP直下層(試料1)について分析を行った。その結果、イネ科Bタイプが比較的多く検出され、ヨシ属、ウシクサ族A、シバ属、ネザサ節型、ミヤコザサ節型なども検出された。イネ科Bタイプはヌマガヤ属に類似しており、氷期の湿地性堆積物からは普通に検出されている。タケ亜科の比率を見ると、ミヤコザサ節型の比率が高く、ネザサ節型の比率も比較的高くなっていることが分かる。

2) Eトレンチ (第220図2)

As-YP混層(試料2)からAs-BP Groupの下層(試料6)までの層準について分析を行った。その結果、As-BP Groupの下層(試料6)では、イネ科Bタイプが比較的多く検出され、ネザサ節型、ミヤコザサ節型なども検出された。As-BP Groupの上層(試料5)からAs-YP混層(試料2)にかけては、ミヤコザサ節型が大幅に増加してクマザサ属型も増加傾向を示しており、イネ科Bタイプは見られなくなっている。

おもな分類群の推定生産量によると、As-BP Groupの上層からAs-YP混層にかけては、ミヤコザサ節型が優勢であり、とくにAs-YPの下層ではミヤコザサ節型が卓越していることが分かる。タケ亜科の比率を見ると、As-BP Groupの下層ではネザサ節型、As-BP Groupの上層からAs-YP混層にかけてはミヤコザサ節型の比率が比較的高くなっていることが分かる。

なお、本地点のAs-BP Group直下には大きな不整合があり、As-BP Groupの下層はATより下位の暗色帯最下部に対比される。

5. 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

榛名八崎軽石(Hr-HP, 約4.1~4.4万年前)直下層の堆積当時は、ヨシ属やイネ科Bタイプの給源植物(ヌマガヤ属?)などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、周辺ではウシクサ族やシバ属、ネザサ節、ミヤコザサ節なども生育していたと推定される。始良Tn火山灰(AT, 約2.4~2.5万年前)より下位の暗色帯最下部の堆積当時も、おおむね同様の状況であったと考えられる。

タケ亜科のうち、メダケ属ネザサ節は温暖、クマザサ属は寒冷の指標とされており、ネザサ率(両者の推定生産量の比率)の変遷は、地球規模の氷期-間氷期サイクルの変動とよく一致することが知られている(杉山・早田, 1996)。ここでは、ネザサ率が比較的高いことから、当時は比較的温暖な気候であったと推定される。この温暖期は、最終氷期の亜間氷期(酸素同位体ステージ3)に対比されると考えられる。

浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約1.9~2.4万年前)の上層から浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前)にかけては、クマザサ属(おもにミヤコザサ節)などのササ類を主体としたイネ科植生が継続されていたと考えられ、とくにAs-YPの下層ではミヤコザサ節が繁茂する状況であったと推定される。ここでは、クマザサ属(おもにミヤコザサ節)が卓越していることから、当時は寒冷な気候条件で推移したと考えられる。

クマザサ属は氷点下5°C程度でも光合成活動をしており、雪の中でも緑を保っていることから、大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけてはシカなどの草食動物の重要な食物となっている(高槻, 1992)。気候条件の厳しい氷期にクマザサ属などのササ類が豊富に存在したことは、当時の動物相を考える上でも重要である。

文献

- 杉山真二(1987) タケ亜科植物の機動細胞珪酸体, 富士竹類植物園報告, 第31号, p.70-83.
杉山真二・早田勉(1996) 植物珪酸体分析による宮城県高森遺跡とその周辺の古環境推定-中期更新世以降の氷期-間氷期サイクルの検討-。日本第四紀学会 講演要旨集, 26, p.68-69.

杉山真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.

高槻成紀 (1992) 北に生きるシカたち—シカ、ササそして雪をめぐる生態学—. どうぶつ社.

藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p. 15-29.

表7 伊勢山遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料	Eトレンチ					Aトレンチ
			2	3	4	5	6	1
イネ科	Gramineae (Grasses)							
キビ族型	Paniceae type			7				
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)							7
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		13					15
シバ属	<i>Zoisia</i>							7
Bタイプ	B type						95	109
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)							
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>		50		14	13	54	7
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)		88	49	41	26		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>		269	345	280	138	60	22
未分類等	Others		175	70	89	59	18	29
その他のイネ科	Others							
表皮毛起源	Husk hair origin						12	
棒状珪酸体	Rod-shaped		288	77	82	20	125	66
茎部起源	Stem origin		6					
未分類等	Others		506	331	335	257	411	444
植物珪酸体総数	Total		1394	876	840	514	774	706

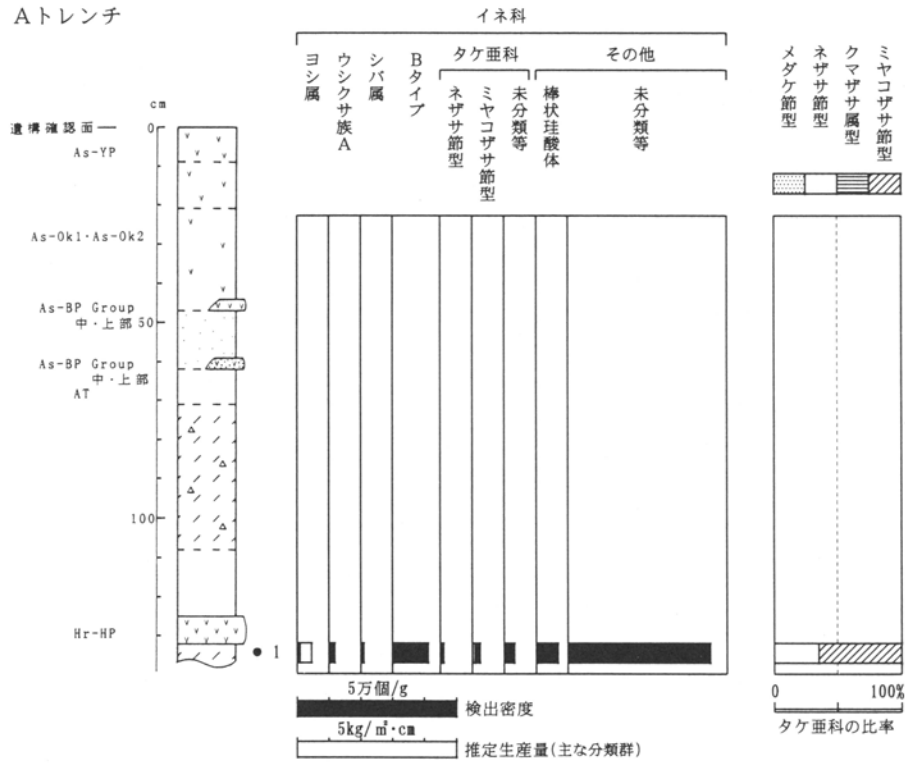
主な分類群の推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)							0.46
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>		0.24		0.07	0.06	0.26	0.03
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)		0.66	0.37	0.31	0.20		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>		0.81	1.03	0.84	0.41	0.18	0.07

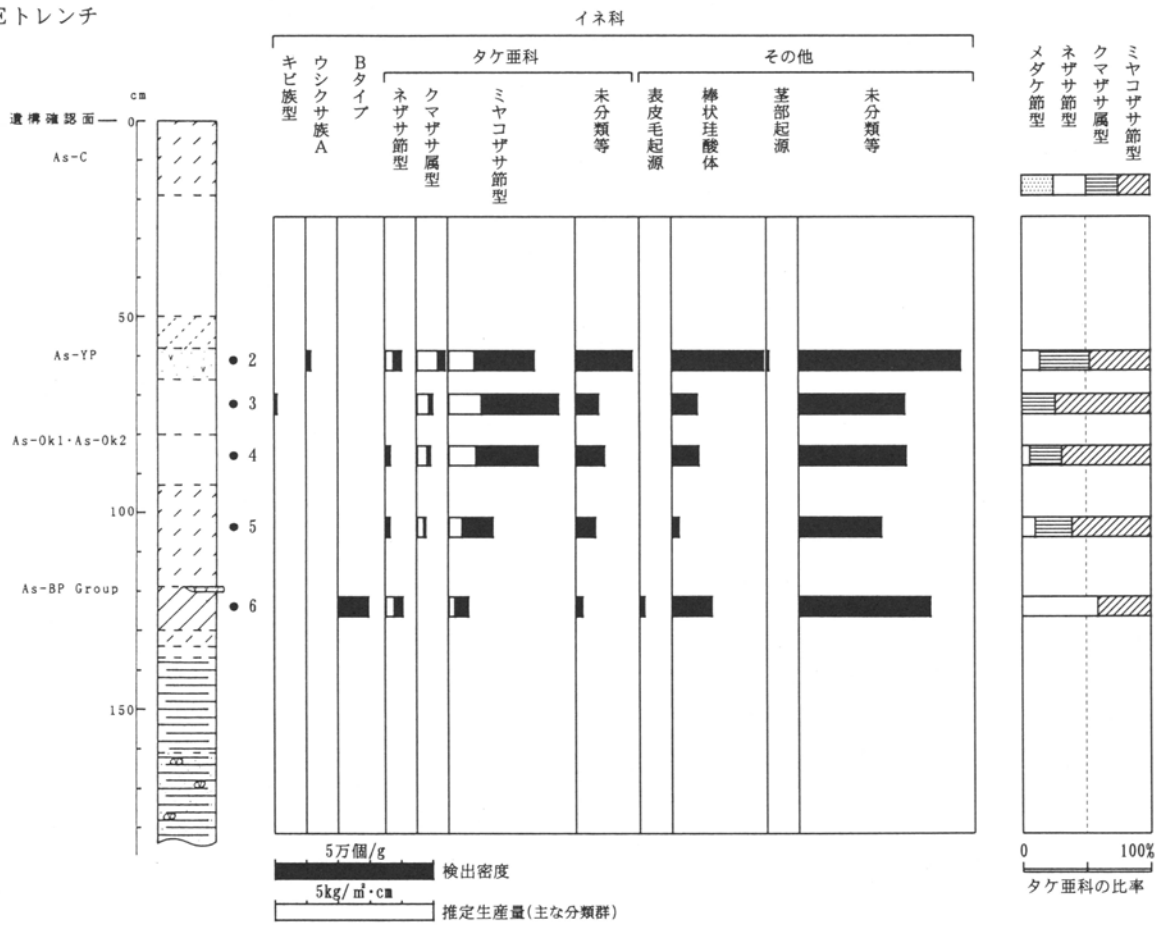
タケ亜科の比率 (%)

メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>							
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>		14		5	9	59	35
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)		39	26	25	29		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>		47	74	69	61	41	65

Aトレンチ



Eトレンチ



第220図 各トレンチにおける植物珪酸体分析結果

波志江西宿遺跡古墳時代観察表

A区1号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	甕	+7~+61	口-(13.2) 底-(6.0) 高-(17.6)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部~胴部上半、横位のナデ。胴部中半~下半、斜位のナデ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、ナデ。指頭圧痕。胴部下半横位ナデ。接合痕あり。	3/4
2	甕	+39~ +53	口-(17.2) 底- 高-(4.9)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：器表面摩滅し、剥離する部分有り。口縁部やや外反する。横ナデ。一部横ナデ後、斜位のナデ。頸部~胴部上半、斜位のケズリ。頸部、ケズリの際のえぐれた痕跡有り。 内面：口縁部、横ナデ。頸部~胴部上半、横位のナデ。頸部に接合痕あり。	口縁片
3	甕	+39	口-(19.0) 底- 高-(4.0)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：横ナデ。頸部、ハケメ後ナデ。 内面：横ナデ。頸部に接合痕あり。	口縁片
4	台付甕	+1~+5	口-(14.2) 底- 高-(5.0)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部~胴部上半、左下がりの斜位のハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部~胴部上半、指ナデ。	口縁片
5	台付甕	+7~+46	口-(13.5) 底- 高-(5.3)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：口縁部、横ナデ。頸部~胴部上半、左下がりの斜位のハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、ケズリ。胴部上半、横位のナデ。指ナデ。	口縁片
6	器台	+60.5	口-(19.5) 底- 高-(3.7)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：横ナデ。 内面：横ナデ。	器受部破片
7	甕	覆土	口-(16.2) 底- 高-(5.4)	①細砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、横位・斜位のナデ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、横位のナデ。	口縁片
8	壺	+7	口-15.4 底- 高-(7.0)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：口縁部上半、斜位のハケメ後横ナデ。口縁部下半、斜位の弱いハケメの後、斜位のミガキ。中位に凸帯。頸部、斜位のハケメ。 内面：口縁部上半横ナデ。口縁部下半横位のナデ、ハケメ。	口縁部
9	壺	+42~ +73	口-23.4 底- 高-(8.8)	①細砂粒混 ②酸化③明褐色	外面：横ナデの後、縦位のミガキ。中位に凸帯。 内面：口縁部、横ナデの後、縦位のミガキ。頸部、横位のナデ。	口縁片
10	高坏	+31~ +76	口- 底-(15.0) 高-(12.3)	①砂粒混②酸化 ③赤褐色	外面：縦位のミガキ。裾部、横ナデ。 内面：しぼり込み。積上げ痕あり。裾部、横ナデ。	脚部
11	高坏	+56~ +66	口- 底- 高-(10.2)	①砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：坏底部、縦位のミガキ。脚部、縦位のミガキ。裾部、横位のナデ。 内面：ハケ状工具による横位の調整痕。積上げ痕あり。	脚部片
12	高坏	+55.5~ +67	口- 底- 高-(5.6)	①砂粒混②酸化 ③赤褐色	口縁上部欠損、剥落。外面：口縁部、横ナデの後、縦位のミガキ。底部、横位のナデ。ダレた稜を持つ。 内面：一部器表面剥離。口縁部、横ナデの後、縦位のミガキ。底部、ナデ。器表面の摩滅により不明瞭。	坏部
13	高坏	-1	口-(15.4) 底- 高-(4.7)	①砂粒混②酸化 ③浅黄褐色	外面：器表面摩滅、調整痕不明瞭。口縁~頸部、横ナデ後、斜位のミガキ。 内面：器表面摩滅、調整痕不明瞭。口縁部、横ナデ。	坏部片
14	高坏	+59	口- 底-12.4 高-(8.2)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：脚部、縦位・斜位のナデ。裾部、横ナデ。 内面：しぼり込み。横位のナデ。裾部、横ナデ。	脚部
15	高坏	+42	口- 底- 高-(5.4)	①砂粒混②酸化 ③赤褐色	外面：器表面やや摩滅。縦位のミガキ。 内面：縦位のナデ。	脚部
16	小型甕	-3	口-9.6 底- 高-(5.1)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：口縁部~頸部、横ナデ、胴部、横位・斜位のナデ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、横位のナデ。指頭圧痕あり。	口縁~胴部
17	小型壺	+39~ +50	口-(8.6) 底- 高-(4.1)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：器表面摩滅。一部剥離。横ナデ。 内面：器表面一部剥離。横ナデ。	口縁片

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
18	小型壺	-1	口- - 底-(4.0) 高-(4.3)	①細砂粒混②酸化 ③明黄褐色	外面：縦位のミガキ。 内面：横位のハケメ。	胴部～底部
19	有孔鉢	+43	口- - 底-(4.5) 高-(3.3)	①砂粒混②酸化 ③にぶい赤褐色	外面：横位のナデ。 内面：縦位のナデ。	底部片
20	甕	+62	口- - 底-(8.6) 高-(2.3)	①砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：器表面摩滅、調整痕不明瞭。斜位のケズリ。 内面：横位のナデ。	底部片
21	壺?	+45	口- - 底- - 厚- 0.3	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 黄褐色	外面：押圧隆帯を付け、その上に付加条第2種と思われる 縄文を横位に施す。 内面：ナデ。東関東系のもと思われる。	破片

A区2号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	台付甕	-3	口-(20.0) 底- - 高-(5.1)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、左下がりの斜位のハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、横位のナデ。指ナデ。	口縁片
2	台付甕	-3	口-(18.2) 底- - 高-(2.7)	①砂粒混②酸化 ③外：黒褐色 内：鈍い橙色	外面：横ナデ。 内面：横ナデ。	口縁片
3	台付甕	覆土	口-(19.2) 底- - 高-(3.2)	①細砂粒多 ②酸化③淡黄色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、ハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、ナデ。	口縁片
4	台付甕	-5～-3	口- - 底- 9.2 高-(8.6)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：底部、左上がりのハケメ。脚部、右下がりのハケメ。 内面：底部、横位の弱いハケメ。脚部、斜位の指ナデ。裾部、折り返しあり。	脚部
5	台付甕	-6～-5	口- - 底- 7.8 高-(3.4)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：斜位のハケメ。 内面：ナデ。指頭圧痕。裾部、折り返しあり。	脚部
6	壺?	覆土	口- - 底- - 厚- 0.4	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 黄橙色	外面：横位の波状文。下向きの連弧文、付加条第2種の縄文(LR+1)を施す。 内面：ナデ。東関東系のもと思われる。	破片

B区1号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	小型甕	+1～+5	口- 11.8 底- - 高-(14.2)	①砂粒混②酸化 ③淡黄色	外面：口縁部やや外反する。口縁～頸部、横ナデ。胴部、ケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部上半、ナデ。胴部下半、ケズリ。	底部欠損
2	小型甕	+8～+24	口-(9.8) 底- - 高-(9.8)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：口縁部、横ナデ。頸部～胴部、縦位・横位のハケメ。 胴部下半、横位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、ナデ。指頭圧痕。	破片
3	甕	+1.5～ +8	口-(15.5) 底- - 高-(8.6)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、ケズリ後横位のナデ。胴部上半、横位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部～胴部上半、横位のナデ。	口縁部～胴部上半
4	甕	+9～+17	口-(16.0) 底- - 高-(10.2)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 赤褐色	外面：口縁部～頸部、横ナデ。胴部上半、斜位のケズリ。 内面：器表面一部摩滅。口縁部、横ナデ。頸部～胴部、横位・斜位のナデ。	口縁部～胴部上半
5	甕	+8	口- - 底- - 高-(27.0)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：胴部横位・斜位のケズリ。 内面：器表面摩滅。胴部上半、横位・斜位のナデ。下半、斜位のケズリ。	1/4
6	甕	+9～+17	口- - 底- - 高-(22.6)	①砂粒混(粗砂粒含)②酸化 ③橙色	外面：器表面摩滅により調整痕不明瞭。胴部上半、斜位のナデ。胴部中半～下半、斜位のナデ。ケズリ。ミガキ。一部ミガキ後のケズリを施す。 内面：器表面摩滅により調整痕不明瞭。一部剝離あり。胴部～底部、横位のナデ。	1/3

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
7	甕	+6	口- 底- 高-(22.1)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：器表面やや摩滅。胴部斜位のケズリ。 内面：器表面摩滅。一部剥離。胴部、横位のナデ。	1/2
8	甕	+8~+20	口- 底- 7.5 高-(19.0)	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい 褐色	外面：胴部~底部、縦位・斜位のケズリ。胴部に指頭圧痕 あり。底面、ケズリ。 内面：強い横位・斜位のナデ。	胴部~底部
9	壺	-10	口-(25.0) 底- 高-(6.2)	①砂粒混②酸化 ③にぶい赤褐色	外面：横ナデ後、縦位のミガキ。 内面：横ナデ後、横位・斜位のミガキ。	口縁片
10	壺	-3~0	口-(16.0) 底- 高-(6.6)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部外反する。横ナデの後、縦位のミガキ。頸部、 横位・斜位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ後縦位のミガキ。頸部、横位・斜位 のケズリ。	口縁片
11	小型壺	+9~+17	口- 10.1 底- 2.0 高- 8.6	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ後、指頭圧痕。胴 部上半、ナデ。下半、横位のケズリ。 内面：器表面剥離多い。口縁部、横ナデ。胴部、ナデ。	2/3
12	小型壺	+10	口- 9.3 底- 2.7 高- 10.3	①粗砂粒混②酸 化③にぶい橙色	外面：器表面摩滅。底部付近剥離。口縁部、横ナデ。頸部、 ナデ。胴部中位~底部。横位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、器表面摩滅。剥離により調 整痕不明。接合痕あり。	ほぼ完形
13	小型壺	+9	口- 10.6 底- 高- 10.6	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。頸部、斜位ケズ リ。胴部中半~底部、横位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部~底部、器表面摩滅。剥離に よる調整痕不明。接合痕あり。	ほぼ完形
14	小型壺	+11	口- 13.0 底- 高- 14.5	①粗砂粒混 ②酸化③赤褐色	外面：口縁やや歪みあり。器表面摩滅により調整痕不明瞭。 口縁部、縦位ナデ後、上位のみ横ナデ。頸部~胴部、斜位 ・縦位のケズリ。 内面：器表面摩滅により調整痕不明瞭。胴部は一部剥離す る。口縁部、横ナデの後、縦位のミガキ。胴部、摩滅によ り調整痕不明。底部、横位のナデ。頸部に接合痕あり。	ほぼ完形
15	小型壺	+10.5	口- 10.7 底- 高- 11.2	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：器表面わずかに摩滅。口縁部、横ナデ。頸部、斜位 のナデ。胴部~底部、斜位・横位のケズリ。 内面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。接合痕あり。	完形
16	小型壺	+17	口- 8.2 底- 3.0 高- 9.6	①粗砂粒混 ②酸化③橙色	外面：器表面摩滅。口縁端部やや外反する。横ナデ。胴部 上半、ナデ。下半、横位のケズリ。 内面：器表面摩滅。口縁部、横ナデ。胴部~底部、ナデ。	ほぼ完形
17	小型壺	0	口-(7.8) 底- 高-(7.7)	①砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：器表面剥離多い。口縁端部、やや内湾。横ナデ。口 縁下半~胴部、斜位のケズリ。 内面：器表面激しく摩滅。口縁部、横ナデ。胴部、横位の ナデ。	破片
18	小型壺	+10	口-(9.1) 底- 高-(4.5)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部上半、横ナデ。口縁部下半、ナデ。頸部~胴 部上半、縦位・斜位のナデ。 内面：器表面剥離により調整痕不明瞭。	口縁片
19	小型壺	+12~ +18	口-(9.8) 底- 高-(3.3)	①砂粒混②酸化 ③にぶい赤褐色	外面：口縁部、横ナデ。一部縦位のナデ。頸部、斜位の弱 いハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、指頭圧痕。	口縁片
20	壺	+9~+17	口- 底-(10.6) 高-(60.6)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：胴部上半、ナデ。胴部下半、ナデ後縦位のミガキ。 底部、斜位のケズリ。 内面：横位のナデ。	胴部上半~ 下半
21	高坏	+5~+15	口- 19.5 底- 高-(7.5)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：器表面摩滅。口縁部、横ナデ。坏部、ナデ後、縦位 のミガキ。坏底部、斜位のナデ。稜をもつ。 内面：器表面激しく剥離。二次的な被熱によるものと思わ れる。横ナデ後、縦位のミガキ。	坏部
22	高坏	0	口- 17.8 底- 高-(6.5)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：口縁部、横ナデ。坏部、ナデの後、縦位のミガキ。 坏底部、斜位のケズリ。稜を持つ。 内面：坏底部周辺、器表面激しく剥離する。二次的な被熱 によるものと思われる。外面に被熱の痕跡は無い。横ナデ の後、縦位のミガキ。	坏部

番号	種器類種	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況備考
23	高坏	+3~+11	口- 19.8 底- - 高- (7.0)	①砂粒混②酸化 ③褐色	外面：坏部、横ナデ後、縦位ミガキ。坏底部、横位のナデ。稜を持つ。接合痕あり。 内面：器表面摩滅により調整痕不明瞭。坏部、縦位ミガキ。	坏部
24	高坏	-24.5~+9	口- 18.2 底- - 高- (5.2)	①粗砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ後ミガキ。坏部、斜位のナデ後、縦位のミガキ。 内面：器表面摩滅。一部剝離。口縁部、横ナデ。坏部ナデ・ミガキ。	坏部
25	高坏	+9~+17	口- 17.8 底- - 高- (4.1)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：器表面摩滅。調整痕不明瞭。口縁部、横ナデ。坏底部、横位のケズリ。 内面：器表面摩滅。調整痕不明。	坏部
26	高坏	+7	口- - 底- 13.7 高- (10.1)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：やや膨らみあり。脚部、縦位のミガキ。裾部、横ナデの後、ミガキ。 内面：しぼり込み。横位のナデ。裾部、横ナデ。	脚部
27	鉢	-11~+6	口- (15.0) 底- - 高- (8.0)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部内湾する。縦位・斜位のナデ。口縁部に接合痕あり。 内面：口縁部、横ナデ。接合痕あり。体部、横位・斜位のナデ。	破片
28	鉢	+20	口- 16.8 底- 6.0 高- 7.5	①砂粒混②酸化 ③赤褐色	外面：口縁部やや内湾する。横ナデ。体部~底部、斜位・横位のナデ。 内面：器表面摩滅により調整痕不明瞭。口縁部、横ナデ。体部~底部、横位のナデ。	1/3
29	小型鉢	-10~-3	口- (6.8) 底- - 高- (4.1)	①細砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：ナデ。口縁部折り返し。 内面：横位・斜位のナデ。	破片
30	有孔鉢	+12	口- - 底- 6.2 高- (5.9)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：体部、ナデ。底部、横位のケズリ。 内面：斜位のナデ。	胴部下半~ 底部
31	手捏	-27 (貯蔵穴内)	口- - 底- 3.0 高- (2.4)	①細砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：ナデ。 内面：胴部下半~底部、ナデ。	底部片
32	甕?	+21	口- - 底- - 厚- 0.6	①砂粒混②酸化 ③暗褐色	外面：ナデの後、櫛描・篋描のような文様あり。 内面：ナデ。	破片
33	甕?	+11	口- - 底- - 厚- 0.6	①砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：強いナデ。櫛描のような文様あり。 内面：ナデ。	破片
34	甕?	+14	口- - 底- - 厚- 0.6	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：ナデ。 内面：ナデ。	破片
35	土製模造品	覆土	長2.9,幅1.5,厚1.2		勾玉形。一部欠損。穿孔付近に接合痕あり。	ほぼ完形
36	石製模造品	+24	長3.0,幅1.3,厚0.6,重3g		勾玉形。珪質準片岩。未製品と思われる。	完形
37	石製模造品	+3	長1.7,幅1.25,厚0.5,重1.3g		勾玉形。滑石。	完形
38	石製模造品	+6	長6.8,幅3.0,厚1.3,重40g		斧形。滑石質蛇紋岩。折面端部やや摩滅。	3/4
39	砥石	+16	長10.9,幅9.8,厚3.2,重460g		磨面6面。デイサイト。	1/2

B区2号住居

番号	種器類種	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況備考
1	甕	-9	口- 16.6 底- 5.2 高- 21.2	①粗砂粒混 ②酸化③赤色	外面：口縁部、横位のナデの後、縦位のケズリ。胴部、縦位・横位のケズリ。底面、ケズリ。 内面：口縁部、ケズリの後、横位のナデ。胴部上半、ナデ。胴部下半、ケズリ。接合痕あり。	ほぼ完形
2	壺	-3~+19	口- 19.4 底- - 高- 7.4	①砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：口縁部上半、斜位のハケメ後、横ナデ。下半、弱い斜位のハケメ。 内面：弱い横位のハケメ。頸部、横位のナデ。	口縁片
3	高坏	覆土	口- - 底- (12.2) 高- (9.7)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：縦位のケズリ後、縦位のナデ。裾部、横ナデ。 内面：しぼり込み。横位のナデ。裾部、横ナデ。	脚部

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
4	高坏	-1~+3	口- 底- 13.8 高-(14.4)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：坏部、横ナデ。坏底部、斜位のケズリ。脚部、縦位のミガキ。裾部、横ナデ。 内面：坏部横ナデ。脚部しぼり込み。ナデ。裾部横ナデ。	3/4
5	小型壺	-2	口-(8.5) 底- 高-(6.6)	①砂粒混②酸化 ③赤褐色	外面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。頸部、斜位の弱いハケメ。胴部、斜位のナデ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、ナデ。	口縁~胴部 破片
6	小型壺	-8~-5	口-(9.2) 底- 高-(10.8)	①粗砂粒混 ②酸化③赤褐色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、縦位のケズリ。胴部上半~下半、横位のケズリ。胴部下半、器表面剥離。 内面：口縁部、横ナデ。頸部~胴部下半、器表面摩滅により調整痕不明。頸部に接合痕あり。	1/4

B区3号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	小型甕	+12	口- 13.2 底- 5.1 高- 11.9	①砂粒混②酸化 ③灰黄色	外面：器形に歪みあり。口縁部、横ナデ。指頭圧痕。頸部~胴部、斜位のケズリの後、縦位・横位のミガキ。 内面：口縁部、横ナデ。口縁部下半、ナデの後ケズリ。頸部~底部、横位のナデ。	完形
2	台付甕	+12~+22	口- 底- 高-(5.1)	①砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：胴部下半、左上がりのハケメ。脚部、斜位のハケメ。割れ口が丸く摩耗しているため、胴部~脚部を切り取るなどして蓋状に転用している可能性あり。 内面：胴部下半~底部、左上がりの弱いハケメ、ナデ。接合痕あり。底部、砂粒のまともに見られない。脚部指ナデ。接合痕あり。	胴部~脚部 片
3	甕	+17	口-(15.0) 底- 高-(5.8)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：口縁部、横ナデ。一部に縦位のハケメ残存。頸部、横位のナデ。胴部上半、縦位・斜位のハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、指ナデ。わずかに指頭圧痕あり。接合痕あり。	口縁片
4	壺	+17~+31	口- 16.1 底- 高-(9.2)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：横ナデの後、縦位・横位のミガキ。 内面：横ナデの後、縦位・横位のミガキ。	口縁部
5	高坏	+14~+38	口-(19.4) 底- 高-(7.2)	①砂粒混②酸化 ③赤褐色	外面：口縁部、横ナデ。坏部~坏底部、斜位のナデ。ごくわずかにミガキあり。 内面：横ナデ。弱いハケメ後、縦位・横位のミガキ。	坏部1/2
6	器台	+26	口-(17.0) 底- 高-(3.1)	①砂粒混②酸化 ③浅黄色	外面：横ナデの後、縦位・横位のミガキ。 内面：横ナデの後、横位のミガキ。 B区7号住居-11と同一個体か。	器受部破片
7	小型壺	+32	口-(11.0) 底- 高-(3.9)	①砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：口縁部、外反。横ナデ。頸部、縦位の弱いハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、横位のケズリ。	口縁片
8	小型壺	+34~+39	口-(11.6) 底- 高-(2.7)	①細砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：横ナデ。 内面：横位ハケメ後、横ナデ。	口縁片
9	小型壺?	+12~+16	口- 底-(6.0) 高-(6.0)	①砂粒混②酸化 ③黒色	外面：斜位のケズリ後、縦位のミガキ。 内面：調整痕不明瞭。ナデ後ケズリ。	胴部~底部 片

B区4号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	甕	+40.5	口-(17.5) 底- 高-(5.5)	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい 赤褐色	外面：口縁部斜位のハケメ後、横ナデ。一部ハケメが残存する。頸部、弱いハケメの後、横ナデ。 内面：口縁部横位ハケメ後、横ナデ。	口縁片
2	甕	+4~ +5.5	口-(14.7) 底- 高-(6.0)	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい 赤褐色	外面：口縁部横ナデ。頸部、縦位・斜位のケズリ。 内面：口縁部横ナデ。頸部接合痕あり。	口縁片
3	甕	+4~+22	口- 20.4 底- 高-(4.1)	①砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：上半、横ナデ。接合痕あり。下半、指頭圧痕。 内面：横ナデ。	口縁片

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
4	甕	+5.5~ +11	口ー 底ー 4.8 高ー(19.0)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：胴部上半~底部、斜位のケズリ。底面、ケズリ。 内面：横位の強いナデ。胴部中半~底部、調整痕不明瞭。	胴部~底部
5	壺	+1~ +5.5	口ー 14.1 底ー 高ー(22.7)	①細砂粒混 ②酸化③橙色	外面：口縁端部やや外反。口縁部左上がりのハケメ後、上半横ナデ、後縦位ミガキ。頸部、縦位・横位のミガキ。胴部、ケズリ・ナデ後、縦位のミガキ。底部、横位のナデ。 内面：口縁部、横位ハケメ後横ナデ、後縦位のミガキ。胴部、横位のナデ。胴部下半~底部、横位のナデ。一部横位のハケメ。接合痕あり。	3/4
6	壺	-2~ +4.5	口ー(16.8) 底ー 高ー(6.3)	①砂粒混(粗砂粒混)②酸化 ③明赤褐色	外面：横ナデ。中半に突帯を持つ。 内面：横ナデ。下半部、斜位のナデ。	口縁片
7	高坏	-48.5 (ピット1 内)	口ー 底ー 高ー(9.8)	①砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：縦位のミガキ。裾部、横ナデ後、縦位のミガキ。 内面：しぼり込み。積上げ痕あり。裾部、横ナデ。	脚部
8	高坏	-1~+10	口ー 底ー 13.7 高ー(8.1)	①砂粒混②酸化 ③暗褐色	外面：縦位のミガキ。裾部横ナデ後、縦位ミガキ。 内面：しぼり込み。横位のケズリ。裾部、横ナデ。	脚部
9	高坏	+2~ +10.5	口ー 底ー 15.6 高ー(11.9)	①砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：大きく膨らむ、縦位のミガキ。裾部、横ナデ後ミガキ。 内面：しぼり込み後ナデ。	脚部
10	高坏	-49 (ピット1 内)	口ー 底ー 13.7 高ー(10.8)	①細砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：脚部、縦位のミガキ。裾部、横ナデ。 内面：横位のナデ。裾部、横ナデ。	脚部
11	器台	覆土	口ー 底ー 高ー(4.2)	①砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：縦位のナデ。透かし3つ。 内面：横位のナデ。	脚部片
12	器台?	+0.5~ +1	口ー 底ー(6.9) 高ー(5.0)	①砂粒混②酸化 ③灰褐色	外面：ナデ。 内面：しぼり込み。ケズリ。	脚部
13	小型壺	+8~+15	口ー(10.0) 底ー 高ー(9.5)	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい 黄橙色	外面：器表面摩滅。口縁部、横ナデ。胴部、斜位・横位のケズリ。 内面：器表面剥離多い。口縁部、横ナデ。胴部、横位のナデ。	1/4
14	小型壺	+8	口ー(9.0) 底ー 高ー(9.8)	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい 橙色	外面：器表面摩滅。一部剥離。口縁部、横ナデ。胴部、ケズリ。 内面：器表面剥離。口縁部、横ナデ後、横位のナデ。	1/4
15	小型壺	+5.5	口ー 9.8 底ー 高ー 13.0	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：器表面剥離あり。口縁部上半、横ナデ。口縁部下半~頸部、縦位の弱いハケメ。胴部上半、縦位・斜位のミガキ。胴部中半~底部、横位・斜位のケズリ。 内面：器表面剥離多い。口縁部、横ナデ。胴部~底部、ナデ。接合痕あり。	4/5
16	小型壺	-1.5~+7	口ー(11.0) 底ー 高ー(12.1)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：口縁部、横ナデの後、縦位のミガキ。胴部、ナデの後、縦位のミガキ。 内面：口縁部、横ナデの後、縦位のミガキ。胴部、斜位のナデ。	1/3
17	小型壺	+6.5	口ー 9.8 底ー 高ー(4.2)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：縦位ケズリ後ナデ、後上半のみ横ナデ。 内面：横ナデ。	口縁片
18	小型壺	+12.5	口ー(13.5) 底ー 高ー(6.0)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：横ナデ後、縦位のミガキ。頸部、斜位のナデ。 内面：横ナデ後、縦位のミガキ。	口縁片
19	小型壺	+6	口ー(3.8) 底ー 高ー(5.7)	①砂粒混②酸化 ③褐灰色	外面：ケズリの後、ナデ。 内面：指ナデ。 小型で手捏ねに近い。	1/2
20	手捏	+3	口ー 3.4 底ー 1.5 高ー 1.2	①細砂粒混②酸化 ③外：にぶい 褐色、内：灰褐色	外面：ナデ。 内面：ナデ。	3/4
21	不明石製品	+1.5	長5.9、幅5.5、厚4.5、重60g		磨面3面。軽石製。砥石か。	完形

B区5号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	台付甕	+33	口- 18.7 底- - 高-(30.7)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部、横ナデ。胴部上半、斜位のハケメ後ナデ。胴部下半～底部、斜位のケズリ。 内面：口縁横ナデ。胴部～底部横位のナデ。接合痕あり。	脚部欠損
2	甕	+6	口- 13.8 底- 6.9 高- 19.2	①砂粒混②酸化 ③にぶい赤褐色	外面：口縁部、やや外反する。横ナデ。胴部上半、ナデの後、縦位・横位のミガキ。胴部下半、縦位のケズリ。底面、ケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、横位のナデ。器表面摩滅。	完形
3	台付甕	+5.5	口- 11.6 底- 6.8 高- 21.5	①砂粒混（粗砂粒混）②酸化 ③黒色	外面：口縁部やや外反し、胴部はほぼ直立する。口縁部～頸部、横ナデ。胴部上半、弱いハケメ。胴部下半、縦位のナデ。胴部下半、横位のナデ。脚部、ナデ。接合痕あり。 内面：口縁部横ナデ。胴部ナデ。脚部指ナデ。裾部に折り返し無し。接合痕あり。	ほぼ完形
4	台付甕	覆土	口-(17.2) 底- - 高-(4.2)	①砂粒混②酸化 ③暗灰黄色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、左下がりの斜位のハケメ。頸部に接合痕あり。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、横位・斜位のナデ。	口縁片
5	台付甕	-3	口-(15.4) 底- - 高-(4.3)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、左下がりのハケメ後、肩部に横位のハケメ。ハケ幅1mm程度。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、斜位のナデ。	口縁片
6	甕	+29～+39	口-(13.0) 底- - 高-(6.2)	①砂粒混（粗砂粒含む）②酸化 ③明黄褐色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、斜位のハケメ。一部横位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、横位のナデ。	破片
7	甕	覆土	口- 15.0 底- - 高-(6.5)	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい黄橙色	外面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。頸部～胴部上半、弱い斜位のハケメ。 内面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。頸部、ナデ。	破片
8	壺	+5	口- 13.8 底- - 高- 18.7	①粗砂粒混 ②酸化③橙色	外面：口縁部、ナデの後、左上がりのハケメ。頸部～胴部上半、ナデの後、ミガキ。胴部下半～底部、斜位のケズリ。 内面：器表面摩滅により、調整痕不明瞭。口縁部、横ナデ。頸部、ケズリ。頸部に接合痕あり。	ほぼ完形
9	壺	+10	口- 13.8 底- - 高- 19.1	①砂粒混（粗砂粒混）②酸化 ③にぶい橙色	外面：器表面摩滅により不明瞭。口縁部やや歪みあり。横ナデの後、一部ミガキ。頸部、ケズリ後ナデ。胴部下半～底部ケズリ後ナデ。 内面：口縁部、横ナデの後、縦位・横位のミガキ。頸部・胴部に接合痕あり。	ほぼ完形
10	壺	+10	口- 15.2 底- - 高-(6.0)	①砂粒混②酸化 ③明褐色	外面：横ナデの後、縦位に幅の広いミガキ。 内面：横ナデ。頸部に接合痕あり。	口縁部
11	壺	+7.5	口-(17.0) 底- - 高-(6.2)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい赤褐色	外面：上半部は外反する。横ナデ。下半部、ナデ。 内面：上半部に横ナデ、下半部、ある程度乾燥が進んでから横位のナデ。	口縁片
12	高坏	+37	口- 17.3 底- - 高-(7.5)	①砂粒混（粗砂粒混）②酸化 ③明赤褐色	外面：坏部、ケズリの後、横ナデ。最後に斜位のミガキ。坏底部、ケズリの後、縦位・横位のミガキ。稜を持つ。 内面：口縁部、横ナデ。坏部、ケズリの後ナデ、後ミガキ。	坏部
13	高坏	+33～+40	口-(20.4) 底- - 高-(7.5)	①砂粒混（粗砂粒混）②酸化 ③橙色	外面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。坏部～坏底部、斜位のケズリ。脚部との接合部に指紋付着。 内面：坏底部摩滅、剥離。口縁部、横ナデ。	坏部
14	小型甕	+1	口- 10.3 底- 3.6 高- 9.9	①砂粒混（粗砂粒混）②酸化 ③明赤褐色	外面：口縁部やや内湾。横ナデ。頸部～胴部上半、ハケメ後ナデ。胴部下半、ケズリ。下半のケズリは乾燥がかなり進んでから施されたものでミガキに近い。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、ナデ。頸部に接合痕あり。一部剥離している。	完形
15	器台	+1.5	口- - 底- 17.5 高-(9.0)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：脚部、横位のナデ。摩滅のため不明瞭だがミガキの痕跡あり。裾部、横ナデ。 内面：横位のナデ。裾部、横ナデ。	脚部
16	蓋	+7	口- 13.3 摘- 5.2 高- 6.0	①砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：上半ナデ、下半横ナデ。つまみ部分、指頭圧痕。 内面：横ナデ。一部器表面剥離。	3/4

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
17	壺?	覆土	口— 底— 厚 0.5	①砂粒混②酸化 ③明褐色	外面：横位の櫛描文を施す。 内面：ナデ。 在地系(樽式)のものと思われる。	破片
18	磨石	+29	長15.3, 幅6.0, 厚4.1, 重660g		表裏に使用面。粗粒輝石安山岩。	完形
19	敲石	+9	長 9.9, 幅5.4, 厚4.3, 重350g		磨面2面。磨面に付着物あり。粗粒輝石安山岩。	ほぼ完形
20	不明石製品	+7	長 4.9, 幅5.1, 厚3.5, 重 50g		磨面6面。軽石製。砥石か。	完形

B区6号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	甕	+46	口—(16.6) 底— 高—(7.0)	①砂粒混(粗砂粒混)②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部中ほどに弱い稜。上半横ナデ。下半ケズリ。工具のアタリ痕あり。胴部上半、縦位のケズリ。内面：口縁部、横ナデ。胴部上半、横位のケズリ、左下がりの斜位のケズリ。接合痕あり。	口縁片
2	甕	+31	口—(17.0) 底— 高—(6.0)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部上半、横ナデ。下半、斜位のハケメ。内面：口縁部、横ナデ。頸部、ナデ後、弱い横位のハケメ。接合痕あり。	口縁片
3	甕	-6~-15	口—(14.0) 底— 4.2 高— 26.4	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい褐色	外面：口縁部、縦位のケズリの後、横ナデ。胴部、縦位のケズリ。口縁部、胴部にすすが付着。内面：調整痕不明瞭。口縁部、横位の強いナデ。胴部、横位のナデ。	2/3
4	壺	+7	口—(24.9) 底— 高—(7.2)	①粗砂粒混②酸化 ③明黄褐色	外面：縦位のミガキの後、上半に横ナデ。下半~頸部、弱いナデ。内面：上半、横ナデ。下半、ナデ。接合痕あり。	口縁片
5	壺	+9~+45	口—(20.2) 底— 高—(8.2)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：上半、横ナデ。下半、弱い右下がりのハケメの後、横位のナデ。下半にハケメが残存。中ほどに突帯あり。内面：上半、横ナデ。下半、横位のハケメの後、横位のナデ。	口縁片
6	高坏	-9.5~ +46.5	口— 16.4 底—(12.6) 高— 15.4	①細砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部~坏部、横ナデ後ミガキ。坏底部、ナデ後、縦位のミガキ。脚部、縦位のミガキ。裾部、横ナデ。坏部に稜を持つ。内面：坏部横ナデ。ミガキの痕跡あり。脚部ナデ。積上げ痕あり。裾部横ナデ。	2/3
7	高坏	+8~+28	口— 17.4 底— 高—(6.0)	①粗砂粒混 ②酸化③明褐色	外面：器表面摩滅。坏部、ナデの後、縦位のミガキ。坏底部、横位のナデ。坏部に稜を持つ。内面：器表面摩滅。坏部~坏底部、斜位のナデ後、縦位のミガキ。	坏部2/3
8	高坏	+2	口— 17.8 底— 高—(6.4)	①砂粒混②酸化 ③明褐色	外面：坏部、横ナデ後、縦位のミガキ。坏底部、斜位のナデ。弱い稜を持つ。内面：横ナデ後、縦位のミガキ。	坏部
9	高坏	+9~+18	口— 16.5 底— 高—(7.0)	①砂粒混②酸化 ③暗灰黄色	外面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。坏部、斜位のケズリ。坏底部、ナデ。坏部に稜を持つ。内面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。坏部、縦位のミガキ。一部、縦位のナデ。坏底部、ナデ。	坏部
10	高坏	覆土	口—(16.5) 底— 高—(4.9)	①砂粒混②酸化 ③赤褐色	外面：口縁部、横ナデ。坏部、斜位のナデ後ミガキ。坏底部、ナデ。坏部に稜を持つ。接合痕あり。内面：器表面摩滅。一部剥離。横ナデ後ミガキ。	坏部1/3
11	高坏	-27	口— 17.6 底— 高—(4.8)	①砂粒混②酸化 ③赤褐色	外面：口縁部、横ナデ後、斜位のミガキ。坏底部は、斜位のケズリ。内面：口縁部、横ナデの後、縦位のミガキ。坏底部、ナデの後、縦位のミガキ。	坏部
12	高坏	+39.5	口— 底—(12.3) 高—(9.0)	①細砂粒混 ②酸化③灰黄色	外面：器表面やや摩滅。膨らみをもつ。縦位のミガキ。裾部、横ナデ。坏部との接合部、明瞭。内面：脚部、横位のケズリ。裾部、横ナデ。	脚部
13	高坏	0	口— 底— 高—(9.3)	①細砂粒混 ②酸化③灰褐色	外面：縦位のミガキ。透かし2つ。内面：上半、しぼり込み。下半積上げ痕あり。横位のナデ。	脚部
14	高坏	+11	口— 底— 11.2 高—(8.2)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 橙色	外面：ナデ後、縦位のミガキ。裾部、横ナデ後ミガキ。内面：しぼり込み。ナデ。裾部、横ナデ。	脚部

番号	種 器 類 種	出土位置	法 量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
15	高坏	+2	口ー 底ー 14.8 高ー (10.0)	①細砂粒混 ②酸化③褐色	外面：ナデ後、縦位のミガキ。膨らみをもつ。 内面：しぼり込み。横位のナデ。裾部、横ナデ。積上げ痕あり。	脚部
16	小型壺	+45～ +47	口ー 10.9 底ー 高ー 9.3	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 黄橙色	外面：口縁部、斜位ハケメ後横ナデ。頸部、ハケメ後ナデ。 胴部～底部、横位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、縦位のナデ。底部ケズリ。	2 / 3
17	小型壺	覆土	口ー (11.4) 底ー (4.0) 高ー 8.6	①砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、横位のナデ。胴部、斜位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、横位のナデ。接合痕あり。	1 / 4
18	小型壺	+49	口ー (9.2) 底ー 高ー (4.7)	①細砂粒混 ②酸化③黒褐色	外面：横ナデ。 内面：横ナデ。	口縁片
19	土製品	+12	長 3.0, 幅 1.1, 厚 0.9		一部欠損するが、丁寧なナデ。用途不明。	

B区7号住居

番号	種 器 類 種	出土位置	法 量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	甕	0～+2	口ー 16.2 底ー 高ー (9.7)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：口縁部、斜位ハケメ後横ナデ。ハケメ一部残る。指頭圧痕。頸部～胴部上半、ケズリ後ナデ。 内面：器表面やや摩滅。横ナデ。指頭圧痕。頸部～胴部、斜位のナデ。接合痕あり。	口縁部
2	甕	+6	口ー (16.4) 底ー 高ー (4.3)	①粗砂粒混 ②酸化③橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、縦位のナデ。 内面：口縁部、横ナデ。一部縦位のナデ。頸部に接合痕あり。	口縁片
3	甕	-0.5 (炉2内)	口ー 15.8 底ー 高ー (5.0)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 黄褐色	外面：横ナデ。 内面：横ナデ。	口縁片
4	台付甕	+5～+19	口ー (18.6) 底ー 高ー (3.8)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：口縁部外傾する。横ナデ。頸部～胴部上半、左下がりの斜位のハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、横位・斜位のナデ。胴部上半、ナデ。	口縁部
5	台付甕	覆土	口ー (17.0) 底ー 高ー (4.0)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、左下がりのハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、ナデ。	口縁片
6	小型甕	+6	口ー 11.9 底ー 5.8 高ー 12.7	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、斜位のハケメ。胴部、横位のナデ。底部、ケズリ。 内面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。胴部～底部、ナデ。胴部に接合痕あり。	完形
7	壺	覆土	口ー (21.4) 底ー 高ー (7.2)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 褐色	外面：口縁部、上半横ナデ。下半斜位ハケメの後横ナデ。 頸部、横位のナデ。中ほどに突帯あり。 内面：口縁部上半、横ナデ。下半、横位のナデ。	口縁片
8	壺	-1.5～ +8	口ー 14.6 底ー 高ー (5.8)	①細砂粒混②酸化 ③暗赤褐色	外面：横ナデの後、縦位のミガキ。 内面：横ナデの後、縦位のミガキ。	口縁部
9	高坏	+6.5	口ー 17.0 底ー 13.6 高ー 15.7	①砂粒混②酸化 ③赤色	外面：口縁部、横ナデ。坏部、斜位のナデ。坏底部、斜位のケズリ。脚部、ハケメ後ナデ、後ミガキ。下半にハケメ残る。坏部に稜をもつ。 内面：口縁部、横ナデ。縦位・横位のミガキ。脚部、しぼり込み。下半、横位ケズリ。積上げ痕あり。裾部、横ナデ。	3 / 4
10	高坏	-7～+1	口ー (17.5) 底ー 高ー (5.1)	①砂粒混②酸化 ③明褐色	外面：口縁部、横ナデ。一部指頭圧痕あり。坏部～坏底部、横位・斜位のナデ。一部ミガキの痕跡残る。 内面：ナデの後、横位・斜位のミガキ。	坏部 1 / 2
11	器台	+15	口ー (16.8) 底ー 高ー (3.2)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 黄褐色	外面：横位・縦位のミガキ。 内面：横位・縦位のミガキ。 B区3号住居-6と同一個体か。	器受部片
12	小型壺	+5.5	口ー 9.0 底ー 高ー 8.4	①粗砂粒混 ②酸化③赤褐色	外面：口縁部、横ナデ後、下半に指ナデ。胴部～底部、ナデの後、縦位・横位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、指頭圧痕。接合痕あり。胴部、斜位のナデ。	ほぼ完形

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
13	小型壺	+4.5	口ー 8.9 底ー 2.9 高ー 8.3	①粗砂粒混②酸化③にぶい橙色	外面：口縁部、横ナデ。下半、指ナデ。頸部～胴部上半、斜位のナデ。胴部中半～底部、ケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部～胴部上半、指頭圧痕。接合痕あり。胴部～底部、ナデ。	完形

B区8号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	台付甕	+17	口ー 14.3 底ー — 高ー (16.4)	①砂粒混②酸化③褐色	外面：口縁部横ナデ。胴部上半左下がりがハケメ。胴部下半、左上がりがハケメ。ハケ幅1mm程度。 内面：口縁部横ナデ。頸部ナデ。胴部指ナデ。斜位ハケメ。	1/4
2	台付甕	+13～+17	口ー — 底ー — 高ー (13.4)	①粗砂粒混 ②酸化③橙色	外面：胴部上半、左下がりのハケメ。胴部中半～下半、下部より左上がりのハケメ。ハケの間隔は1.5～2.0mm程度。 内面：胴部、指ナデ。一部横位のナデ。	胴部片
3	甕	+17	口ー (20.5) 底ー — 高ー (4.3)	①砂粒混②酸化③にぶい橙色	外面：上半、横ナデ。下半、横位のナデ。 内面：横ナデ。	口縁片
4	壺	+15	口ー (13.0) 底ー — 高ー (6.5)	①砂粒混②酸化③浅黄橙色	外面：器表面やや摩滅。口縁部、外反する。横ナデ。 内面：口縁部、横ナデ。一部、横ナデの後、横位のナデ。頸部、横位のケズリ。	口縁部
5	壺	+5～+39	口ー (14.4) 底ー — 高ー (5.8)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい黄橙色	外面：縦位ハケメ後横ナデ。最後に縦位のミガキ。 内面：横位ハケメ後横ナデ。最後に縦位のミガキ。	口縁片
6	小型甕	+20～+41	口ー (8.5) 底ー — 高ー (6.0)	①砂粒混②酸化③灰白色	外面：S字状口縁台付甕の系統。口縁部、横ナデ。頸部～胴部上半、左下がりのハケメ。頸部に横位のハケメ。胴部中半～下半、斜位のハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部～胴部、ナデ。頸部に接合痕あり。	1/4

B区9号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	台付甕	覆土	口ー (12.8) 底ー — 高ー (3.7)	①砂粒混②酸化③にぶい黄橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、左下がりの斜位のハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、斜位のナデ。	口縁片
2	台付甕	+5～+33	口ー (17.0) 底ー — 高ー (3.7)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい黄色	外面：口縁部横ナデ。頸部左下がりの斜位のハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、横位のナデ。	口縁片
3	台付甕	+5.5	口ー (14.2) 底ー — 高ー (3.2)	①砂粒混②酸化③褐色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、左下がりの斜位のハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、横位のナデ。	口縁片
4	台付甕?	+18	口ー (12.3) 底ー — 高ー (4.0)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい黄橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、横位のナデ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、横位のケズリ。	口縁片
5	甕	+4～+15	口ー (13.8) 底ー — 高ー (13.5)	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい橙色	外面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。胴部上半、横位・斜位のナデ。下半、斜位のケズリ。 内面：器表面激しく摩滅。口縁部、横ナデ。胴部、横位のケズリ。	口縁～胴部
6	甕	+4～+8	口ー (17.0) 底ー — 高ー (8.5)	①砂粒混②酸化③にぶい橙色	外面：口縁部、外反する。横ナデ。胴部上半、斜位のハケメ後、横位のケズリ。一部、ハケメの後、ナデ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、横位・斜位のナデ。	破片
7	甕	+1～+16.5	口ー 16.0 底ー — 高ー (6.4)	①粗砂粒混②酸化③にぶい橙色	外面：口縁部、下方からの斜位のハケメの後、横ナデ。頸部～胴部上半、上方からの斜位のハケメ。 内面：口縁部、横位のハケメの後、横ナデ。頸部～胴部上半、下方からの斜位のケズリ。接合痕あり。	口縁～胴部
8	甕	+5～+29	口ー 18.2 底ー — 高ー (12.1)	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい橙色	外面：口縁部やや外反する。横ナデ。頸部、縦位のナデ。胴部上半、斜位・横位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部～胴部上半、横位・斜位のケズリ。接合痕あり。	口縁部～胴部上半

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
9	甕	-0.5~ +4	口- (14.5) 底- - 高- (9.7)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部～胴部、横位・斜位のナデ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、横位のケズリ。	口縁～胴部
10	甕	+8.5~ +20	口- (17.5) 底- - 高- (7.2)	①砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：口縁部、横ナデ。接合痕あり。頸部、斜位・横位のケズリ。 内面：口縁部横ナデ。頸部、ナデ。接合痕あり。	口縁～胴部
11	甕	+1~+18	口- 16.7 底- - 高- (8.7)	①砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：口縁部やや外反する。横ナデ。下半、斜位のハケメ。 胴部上半、斜位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、横位のナデ。	口縁～胴部
12	甕	+10~ +17.5	口- 14.8 底- - 高- (10.0)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、縦位ナデ。胴部、斜位・横位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、横位ナデ。接合痕あり。	口縁～胴部
13	壺	+5~+23	口- - 底- 7.7 高- (14.5)	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい 橙色	外面：胴部下半、わずかにくびれあり。斜位、下方向のケズリ。器表面やや摩滅している。 内面：横位・斜位ケズリ。接合痕あり。	胴部～底部
14	高坏	+2	口- 19.1 底- 13.3 高- 14.2	①粗砂粒混② 酸化③橙色	外面：坏部、横ナデ。坏底部、横位・斜位のケズリ。脚部、縦位のナデ。裾部、横ナデ。 内面：坏部、横ナデ。坏底部、横位のナデ。脚部、横位のナデ。裾部、横ナデ。	4 / 5
15	高坏	+1~+8	口- 18.3 底- 14.2 高- 11.2	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 黄橙色	外面：口縁部、横ナデ。坏部、ナデ後、縦位のミガキ。接合痕あり。脚部、ナデ。裾部、横ナデ。 内面：口縁部、横ナデ。坏部、ナデ後ミガキ。脚部、しほり込み。積上げ痕あり。ナデ。裾部、横ナデ。	3 / 4
16	高坏	+7~ +16.5	口- 18.7 底- - 高- (5.5)	①砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：口縁部やや外反する。横ナデ後縦位ミガキ。坏部下半～坏底部、縦位のケズリの後、横位のミガキ。 内面：器表面摩滅により調整痕やや不明瞭。口縁部、横ナデ後ミガキ。坏部～坏底部、横位のケズリ。	坏部1 / 3
17	高坏	-35.5~ +4	口- 16.6 底- - 高- (6.1)	①粗砂粒混 ②酸化③橙色	外面：口縁部外反。横ナデ。坏部、斜位のナデ。ダレた稜をもつ。 内面：口縁部～坏部、横位のナデ。坏底部、ナデ。	坏部
18	高坏	+1.5	口- - 底- 12.5 高- (8.7)	①砂粒混②酸化 ③明褐色	外面：横位のナデ。幅広の縦位のミガキ。裾部、横ナデ。 内面：縦位・横位のナデ。裾部、横ナデ。	脚部
19	高坏	+9	口- - 底- 13.6 高- (12.6)	①細砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：坏底部、横位のミガキ。脚部、縦位のナデ後、縦位のミガキ。裾部、横ナデ。透かし2個。 内面：坏底部ナデ後ミガキ。脚部ケズリ。裾部横ナデ。	脚部
20	高坏	+5.5~ +15	口- - 底- 11.8 高- (10.2)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 黄橙色	外面：坏底部ナデ後ミガキ。脚部ナデ後、縦位ミガキ。裾部、横ナデ。 内面：坏底部ナデ後ミガキ。脚部しほり込み。積上げ痕あり。ナデ。	脚部
21	高坏	-48	口- - 底- - 高- (9.1)	①砂粒混②酸化 ③にぶい赤褐色	外面：横位のナデ。摩滅により不明瞭だがミガキの痕跡あり。 内面：しほり込み。横位のナデ。	脚部
22	小型甕	+10~ +24.5	口- (9.6) 底- 3.2 高- 9.3	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部、横ナデ。口縁部下半～頸部、横ナデ後、斜位のケズリ。胴部上半～下半、斜位のナデ。底部、横位のケズリ。 内面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。胴部～底部、横位・斜位のナデ。	1 / 3
23	小型壺	+7~+12	口- - 底- - 高- (8.5)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部欠損。口縁部、横ナデ。胴部、横位のナデ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、横位のナデ。指頭圧痕、接合痕あり。	1 / 4
24	小型壺	+3	口- (10.5) 底- - 高- (8.3)	①砂粒混②酸化 ③明褐色	外面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。頸部、ナデ。指頭圧痕。胴部、横位のナデ。 内面：器表面やや摩滅。口縁部横ナデ。胴部、横位のナデ。	1 / 4
25	小型甕	+7	口- (10.0) 底- - 高- (4.8)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：口縁部やや内湾する。横ナデ。頸部、縦位のナデ。 接合痕あり。 内面：口縁部、横ナデ。	口縁～頸部
26	鉢	+5	口- 13.9 底- 6.5 高- 5.8	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい 黄橙色	外面：横ナデ後、斜位のハケメ。 内面：口縁部、ケズリ後、横ナデ。横位・斜位のケズリ。	完形

C区1号住居

番号	種器類種	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況備考
1	台付甕	+15	口ー(17.0) 底ー 高ー(5.3)	①砂粒混②酸化 ③灰黄色	外面：器表面やや摩滅。口縁部～頸部、横ナデ。頸部～胴部上半、左下がりの斜位のハケメ。一部横位のナデ。 内面：器表面やや摩滅。口縁部、横ナデ。頸部～胴部上半、ナデ。接合痕あり。	口縁片
2	台付甕	+3	口ー(14.2) 底ー 高ー(3.6)	①砂粒混②酸化 ③黄褐色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、左下がりの斜位のハケメ。ハケ幅1mm程度。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、横位ナデ。頸部～胴部上半、指ナデ。	口縁片
3	台付甕	覆土	口ー 底ー6.0 高ー(4.3)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：斜位のナデの後、縦位のミガキ。 内面：横位・斜位のナデ。一部剝離。	脚部
4	高坏	+27	口ー(15.8) 底ー 高ー(5.6)	①砂粒混②酸化 ③にぶい赤褐色	外面：口縁部、横ナデ。坏部～坏底部、斜位のナデ。 内面：口縁部、横ナデ。坏部、横位のナデ後ミガキ。	坏部片
5	高坏	+25	口ー 底ー 高ー(6.2)	①細砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：ナデ。縦位の弱いハケメ。 内面：しぼり込み。指頭圧痕。積上げ痕あり。	脚部
6	小型壺	覆土	口ー(9.8) 底ー 高ー(7.5)	①細砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：口縁部、横ナデ。頸部～胴部上半、右下がりの斜位のハケメ。横位のナデ。胴部中半、横位ケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部～胴部上半、指ナデ。接合痕あり。	口縁～胴部
7	小型壺	+52	口ー 底ー3.0 高ー(7.9)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：斜位・横位のケズリ。 内面：器表面摩滅。横位のナデ。接合痕あり。	胴部～底部
8	有孔鉢	+33	口ー 底ー4.0 高ー(2.1)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：斜位のナデ。 内面：ナデ後ミガキ。	底部片
9	壺?	+44	口ー 底ー 厚ー(0.6)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 黄橙色	外面：櫛描文を施す。 内面：ナデを施す。 東関東系のもと思われる。	胴部片

C区2号住居

番号	種器類種	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況備考
1	甕	-19～+3 (貯蔵穴内)	口ー16.2 底ー4.1 高ー25.6	①砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：口縁部やや外反する。縦位のハケメの後、横ナデ。 胴部～底部、斜位のハケメの後、横位のケズリ。 内面：器表面摩滅し、調整痕不明瞭。口縁部、横位のハケメ後、横ナデ。胴部、調整痕不明瞭。接合痕あり。	ほぼ完形
2	甕	+2～+19	口ー17.6 底ー5.6 高ー26.6	①粗砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部、斜位のナデ後、横ナデ。頸部～胴部上半、斜位のナデ。胴部中半～底部、横位・斜位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、指頭圧痕。胴部横位のナデ。	ほぼ完形
3	甕	-2～+2	口ー15.4 底ー 高ー(16.1)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、ナデ。胴部、横位・斜位のケズリ。 内面：器表面摩滅。口縁部、横ナデ。頸部～胴部、横位のナデ。	1/2
4	甕	-1	口ー17.4 底ー5.6 高ー23.6	①砂粒混(粗砂粒含む)②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：口縁部、横ナデ。胴部上半、斜位のナデ。胴部下半、斜位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部～底部、横位のナデ。	3/4
5	甕	+1～+6	口ー 底ー6.8 高ー(22.0)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：胴部上半、斜位のハケメの後、ナデ。胴部中半、斜位のナデの後、斜位のミガキ。胴部下半～底部、斜位のケズリの後、斜位のナデ。一部弱いハケメ。 内面：器表面摩滅により調整痕やや不明瞭。胴部下半～底部、斜位のナデ。	口縁部欠損
6	甕	-2	口ー 底ー6.4 高ー(25.2)	①粗砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：胴部、斜位のケズリ。一部横位のナデ。 内面：縦位・横位のナデ後、わずかに縦位のミガキ。接合痕あり。	口縁部欠損

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
7	甕	-2~+7	口-(20.5) 底- 高-(11.5)	①粗砂粒混 ②酸化③橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部~胴部上半、縦位・横位のケズリ。ヘラ状工具による刺突痕。工具の当たりか。 内面：口縁部、横ナデ。頸部~胴部上半、横位・斜位のケズリ。一部横位のナデ。接合痕あり。	口縁~胴部
8	甕	貯蔵穴覆土	口- 底- 5.0 高-(9.7)	①砂粒混②酸化 ③黒褐色	外面：器表面やや摩滅。一部剝離。斜位のケズリ。 内面：器表面摩滅。横位のナデ。	胴部下半~ 底部
9	甕	0~+5	口-(22.8) 底- 高-(6.6)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：上半、横ナデ。下半、横位・斜位のナデ。 内面：横ナデ。	口縁片
10	台付甕	覆土	口-(16.0) 底- 高-(4.4)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、左下がりの斜位のハケメ。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、ナデ。	口縁片
11	台付甕	0	口- 底- 10.0 高-(8.1)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：横位・斜位のナデ。器表面摩滅。 内面：横位のナデ。下部に折り返しあり。上位に赤色の付着物の痕跡あり。転用品か。	脚部
12	小型甕	+5	口- 11.6 底- 4.0 高- 11.5	①砂粒混(粗砂 粒含む)②酸化 ③橙色	外面：胴部下半、器表面摩滅により調整痕やや不明瞭。一部剝離している部分あり。口縁部、横ナデ。下部に左上がりのハケメ。頸部、右下がりのハケメ。胴部、ナデの後、左下がりのハケメ。底部、横位のケズリ。 内面：器表面剝離あり。口縁部、横位ハケメ後横ナデ。一部ハケメ残る。胴部、横位のナデ。頸部に接合痕あり。	完形
13	壺	-1~+6	口- 18.2 底- 高-(6.6)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部やや外反する。上半、横ナデ。下半、縦位・横位のハケメ。 内面：上半、横ナデ。下半、横位のハケメ。	口縁部
14	壺	+13	口- 15.8 底- 高-(7.2)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：上半、横ナデ。下半、縦位のハケメ。 内面：器表面やや摩滅。上半、横ナデ。下半、ハケメ。接合痕あり。	口縁部
15	壺	0~+5	口-(21.4) 底- 高-(7.5)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口唇部、粘土帯折り返す。指頭圧痕。中半~下半、横位・斜位のナデ。 内面：口唇部、指頭圧痕。上半から中半、横位のナデ。	口縁部
16	壺	0~+6	口- 24.6 底- 高-(6.3)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口唇部、ヘラ状工具による凹みあり。上半、横ナデ。下半、斜位・横位のハケメ。中半に稜をもつ。 内面：横ナデ。下半、横ナデの後、横位の弱いハケメ。	口縁部
17	壺	+2~+3	口-(24.8) 底- 高-(6.2)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：上半、粘土帯貼り付け。横位のハケメ。指頭圧痕。指紋残存。下半、縦位・横位のナデ。 内面：横位のナデ。	口縁片
18	壺	+15	口-(21.8) 底- 高-(6.7)	①砂粒混(粗砂 粒含む)②酸化 ③橙色	外面：上半折り返し。横ナデ。中半~下半、弱い斜位のハケメ。 内面：器表面一部剝離。横ナデ。頸部、横位のハケメ。	口縁片
19	壺	-1~+6	口-(19.1) 底- 高-(6.0)	①砂粒混②酸化 ③赤褐色	外面：口縁やや外反する。縦位のハケメ後、上半横ナデ。下位、横位のナデ。 内面：横位ハケメ後、横ナデ。一部ハケメ残る。	口縁部
20	壺	+3~+19	口-(18.2) 底- 高-(5.9)	①砂粒混②酸化 ③黒褐色	外面：横ナデの後、縦位のナデ。指頭圧痕。 内面：横ナデの後、横位・斜位のナデ。頸部、縦位のナデ。	口縁部
21	小型壺	+33	口-(12.6) 底- 高-(6.5)	①砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：上半、横ナデ。下半、ハケメ後縦位のナデ。 内面：上半、横ナデ。下半、横位のナデ。	口縁片
22	高坏	0~+3	口- 18.0 底-(13.7) 高- 15.0	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：坏部、横ナデ後縦位のミガキ。坏底部、ナデ後ミガキ。稜をもつ。脚部、縦位のミガキ。 内面：器表面摩滅。坏部、横ナデ後、縦位のミガキ。脚部しぼり込み。積上げ痕あり。横位のケズリ。裾部、横ナデ。	3/4
23	高坏	+3	口- 底- 14.0 高-(9.6)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：脚部上半、やや膨らむ。脚部、縦位のミガキ。裾部、横位のナデ後、縦位のミガキ。 内面：脚部上半しぼり込み。脚部中半~下半、横位のケズリ。裾部大きく広がる。横位のナデ。積上げ痕あり。	脚部

番号	種器種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
24	高坏	0	口- 19.5 底- - 高- (7.2)	①砂粒混②酸化 ③明赤褐色	外面：口縁部、横ナデ。坏部～坏底部、斜位のケズリ後、縦位のミガキ。 内面：坏底部、器表面激しく剥離。横ナデの後、縦位のミガキ。剥離は二次的な被熱によるものと思われる。	坏部
25	高坏	+18	口- 17.0 底- - 高- (6.7)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：坏部、斜位のハケメ後、上半横ナデ。坏底部、ハケメ後斜位のケズリ。 内面：横位ハケメ後上半横ナデ、最後に縦位のミガキ。	坏部
26	高坏	覆土	口- (20.0) 底- - 高- (5.0)	①砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：口縁部、横ナデ。坏部、ナデ後、縦位のミガキ。坏底部、ケズリの後、縦位のミガキ。 内面：ナデ後、縦位・斜位のミガキ。	坏部片
27	高坏	+1～+5	口- 18.6 底- - 高- (7.3)	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③にぶい褐色	外面：器表面摩擦により調整痕やや不明瞭、口縁部、横ナデ。坏部、斜位のケズリ。稜をもつ。坏底部ややくびれる。脚部との接合痕明瞭。 内面：坏底部、器表面激しく剥離。二次的な加熱によるものと思われる。調整痕不明瞭。口縁部、横ナデ。坏部、横位のナデ。	坏部
28	高坏	+1	口- 16.6 底- - 高- (6.5)	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③にぶい褐色	外面：口縁部、ハケ状工具による横ナデ。坏部下半ナデ。底部、横位のケズリ。稜をもつ。 内面：口縁部上半、横ナデ。口縁部下半～坏底部、縦位・横位のナデ。	坏部
29	鉢	-4	口- 14.3 底- 4.3 高- 5.6	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③褐灰色	外面：器表面やや摩擦。口縁部、横ナデ。体部、縦位・横位のナデ。 内面：口縁部、横ナデ。体部、横位のナデ。底部にやや砂粒がまとまる。	ほぼ完形
30	脚付鉢?	+1～+7	口- 16.8 底- - 高- (6.3)	①粗砂粒混 ②酸化③赤褐色	外面：器表面摩擦。口縁部横ナデ。横・斜位ケズリ。体部ナデ。体部上位に工具による斜め刻みめぐる。 内面：器表面摩擦。口縁部、横ナデ。体部、ナデ。	1/3
31	有孔鉢	+8	口- - 底- - 高- (5.5)	①砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：横位・斜位のナデ。 内面：横位のナデ。	底部片
32	鉢	+18	口- 13.8 底- (5.3) 高- 6.2	①砂粒混②酸化 ③にぶい褐色	外面：口縁部やや内湾。体部、斜位のナデ。底部、斜位のケズリ。 内面：口縁部～底部、横位のナデ。底部、器表面剥離。	1/3
33	小型壺	+4	口- 10.0 底- 2.9 高- 8.4	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部やや外反する。横ナデ。頸部～胴部上半、ナデ。胴部中半～底部、縦位・横位のケズリ。 内面：器表面摩擦。口縁部、横ナデ。胴部～底部、ナデ。胴部に接合痕あり。	ほぼ完形
34	小型壺	0	口- 9.7 底- 3.3 高- 8.9	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③浅黄橙色	外面：器表面摩擦。口縁部、横ナデ。胴部～底部、ケズリ。 内面：器表面摩擦ひどく調整痕不明瞭。	ほぼ完形
35	小型壺	-2	口- 9.4 底- 2.0 高- 9.2	①粗砂粒混 ②酸化③明褐色	外面：器表面摩擦。口縁部横ナデ。胴部上半、斜位のハケメ後ナデ。胴部中半～下半、横位・斜位のケズリ。 内面：口縁部、横位のハケメ後横ナデ。一部ハケメ残る。胴部～底部、ナデ。	ほぼ完形
36	小型壺	-1	口- 9.6 底- 3.0 高- 9.0	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部～胴部上半、斜位のハケメの後、横位のナデ。胴部中半～下半、横位のケズリ。 内面：口縁部、横位・斜位のハケメ後横ナデ。頸部～底部、斜位のナデ。接合痕あり。	完形
37	小型壺	-1	口- 9.7 底- 1.8 高- 8.8	①細砂粒混 ②酸化③赤褐色	外面：器表面摩擦。口縁部、横ナデ。頸部～胴部上半、縦位のハケメ。胴部中半～底部、横位のケズリ。 内面：器表面摩擦。口縁部、横ナデ。頸部、指ナデ。胴部、横位のナデ。	ほぼ完形
38	小型壺	-2	口- 9.1 底- - 高- 9.0	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部やや外反。横ナデ。頸部、縦位・横位のナデ。胴部～底部、横位のケズリ。 内面：器表面一部剥離。口縁部、横ナデ。頸部、指ナデ。胴部、横位のナデ。接合痕あり。	完形
39	小型壺	+5	口- 9.3 底- 1.8 高- 9.4	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③にぶい褐色	外面：口縁部、横ナデ。胴部上半、ナデ。胴部中半～底部、斜位のケズリ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部、横位のナデ。	口縁部一部 欠損

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
40	小型壺	+13	口- 9.2 底- 3.4 高- 9.1	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③浅黄橙色	外面:口縁部、横ナデ。胴部上半~中半、縦位・横位のナデ。胴部下半~底部、ケズリ。接合痕あり。 内面:口縁部、横ナデ。胴部~底部、縦位・横位のナデ。	口縁部一部 欠損
41	小型壺	0~+3	口- 10.3 底- 5.6 高- 9.4	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③にぶい黄橙色	外面:器表面やや摩滅。胴部半分程度欠損。口縁部やや内湾。口縁部上半、横ナデ。口縁部下半、斜位のナデ。胴部ナデ、指ナデ。 内面:器表面激しく摩滅。剥離。口縁部、横ナデ。胴部、調整痕不明。	胴部一部 欠損
42	小型壺	+1~+3	口- 10.2 底- - 高-(10.0)	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③橙色	外面:口縁部、左上がりのハケメ後、上半に横ナデ。頸部~胴部上半、斜位のハケメ。胴部中半、ナデ。胴部下半~底部、横位のケズリ。 内面:口縁部、横位のハケメ。幅1~2mm程度。胴部、横位のナデ。頸部に接合痕あり。	底部欠損
43	小型壺	0	口- 9.8 底- 2.5 高- 10.8	①砂粒混②酸化 ③にぶい赤褐色	外面:器表面やや摩滅。一部剥離する。口縁部上半、横ナデ。下半、斜位のハケメ。頸部~胴部上半、縦位のハケメ。胴部中半~底部、横位・斜位のナデ。 内面:口縁部、横位のハケメ。胴部、横位のナデ。	ほぼ完形
44	小型壺	-18~+3	口- 9.1 底- - 高- 10.9	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面:器表面摩滅。口縁部、横ナデ。胴部~底部、ナデ。 内面:器表面摩滅。口縁部、横ナデ。胴部、摩滅により、調整痕不明。接合痕あり。	ほぼ完形
45	小型壺	+6	口-(9.5) 底- 2.0 高-(10.7)	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③にぶい黄橙色	外面:器表面摩滅により調整痕やや不明瞭。口縁部、横ナデ。頸部~底部、ケズリ。 内面:器表面摩滅により調整痕不明瞭。口縁部、横ナデ。胴部中半~底部、横位のナデ。接合痕あり。	口縁部一部 欠損
46	小型甕	+1	口- 11.4 底- 3.8 高- 9.9	①砂粒混(粗砂粒含む) ②酸化 ③明赤褐色	外面:口縁部上半、横ナデ。口縁部下半~頸部、縦位のケズリ。胴部、斜位のケズリ。 内面:口縁部横ナデ。胴部横位のナデ。頸部に接合痕あり。	ほぼ完形
47	小型壺	-18~+1	口- 11.6 底- 3.5 高- 11.4	①砂粒混②酸化 ③褐色	外面:器表面剥離。口縁部上半、横ナデ。口縁部下半~頸部、縦位のナデ。胴部下半~底部、斜位・横位のケズリ。 内面:器表面激しく剥離。胴部~底部、調整痕不明瞭。	ほぼ完形
48	小型壺	+1	口- 10.0 底- 3.7 高- 11.3	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面:器表面激しく摩滅。口縁部、縦位のナデ後横ナデ。頸部、縦位のナデ。胴部中半、横位のナデ。胴部下半~底部、ハケメの後ケズリ。 内面:胴部器表面やや摩滅。口縁部、横位のハケメ。頸部~底部、横位のナデ。	口縁部一部 欠損
49	小型壺	0	口- 9.2 底- 2.0 高- 9.2	①粗砂粒混 ②酸化③橙色	外面:口縁部、横ナデ。口縁部下半、縦位のナデ。頸部~胴部上半、斜位のナデ。胴部中半~底部、横位のケズリ。 内面:器表面やや摩滅し、調整痕不明瞭部分あり。口縁部、横ナデ。胴部下半~底部、横位のナデ。	ほぼ完形
50	小型壺	0~+6	口-(9.8) 底- - 高-(7.6)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面:口縁部、横ナデ。胴部上半、斜位のケズリ。胴部中半~下半、ナデの後、縦位のミガキ。 内面:口縁部横ナデ。胴部、横位のナデ。	1/4
51	小型壺?	0	口-(6.7) 底- 3.6 高- 7.2	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面:胴部に焼成前の穿孔あり。口縁部、横ナデ。胴部、ケズリの後、櫛描きを施す。 内面:口縁部、横ナデの後ミガキ。胴部、ナデ。胴部に接合痕あり。	ほぼ完形
52	手捏	覆土	口-(4.6) 底-(1.5) 高- 3.2	①細砂粒混②酸化 ③灰黄褐色	外面:ナデを施す。 内面:外面同様のナデを施す。	1/3
53	手捏	+6	口- - 底- 4.5 高-(2.4)	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面:縦位のケズリ。 内面:横位のケズリ。裾部、横位のナデ。	脚部
54	石製模造品	+26	長6.0, 幅2.4, 厚0.6, 重12g		剣形。滑石質蛇紋岩。	ほぼ完形
55	不明石製品	0	長5.1, 幅4.8, 厚3.3, 重40g		磨面3面。軽石製。砥石か。	完形

C区3号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	台付甕	-2	口- 16.5 底- 9.3 高- 29.0	①砂粒混②酸化 ③浅黄橙色	外面：口縁部、横ナデ。胴部上半、左下がりのハケメ。胴部中半～下半、左上がりのハケメ。脚部、斜位のハケメ。ハケ幅2mm程度。 内面：口縁部、横ナデ。胴部上半、指ナデ。胴部中半～底部、ナデ。横位のハケメ。脚部、指ナデ。折り返しあり。	ほぼ完形
2	台付甕	-4.5	口- 16.9 底- 10.3 高- 28.8	①砂粒混②酸化 ③浅黄橙色	外面：口縁部、横ナデ。胴部上半、左下がりのハケメ。胴部中半～下半、左上がりの斜位のハケメ。脚部、斜位のハケメ。ハケ幅2mm程度。脚部下半、わずかにくびれる。 内面：口縁部、横ナデ。胴部上半、指ナデ。胴部中半～底部、横位のナデ。斜位のハケメ。脚部、指ナデ。折り返しあり。底部・脚部に砂粒混粘土貼り付け。器壁やや厚い。	ほぼ完形
3	台付甕	-3～+1	口- 17.9 底- 9.8 高- 29.2	①砂粒混②酸化 ③灰黄色	外面：口縁部横ナデ。頸部～胴部上半、左下がりの強いハケメ。胴部中～下半、左上がりのハケメ。わずかにくびれる。脚部、斜位ハケメ。ハケ間隔1mm弱。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、指ナデ後、横位のナデ。胴部上半、指ナデ。胴部中半、横位のナデ。指頭圧痕。底部、弱いハケメ。脚部、縦位のナデ。折り返しあり。底部・脚部に砂粒混粘土貼り付け。器壁やや厚い。接合痕あり。	ほぼ完形
4	台付甕	-37 (貯蔵穴内)	口- 14.9 底- 9.2 高- 22.8	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：口縁部、横ナデ。頸部～胴部上半、左下がりのハケメ。横位のナデ。胴部中半～下半、左上がりのハケメ。わずかにくびれる。脚部、斜位ハケメ。ハケ幅2mm程度。 内面：口縁部～頸部、横ナデ。一部弱いケズリ。胴部上半～中半、縦位の指ナデ。胴部下半、ナデ。脚部、ナデ。折り返しあり。底部・脚部に砂粒混粘土貼り付け。器壁やや厚い。	完形
5	甕	-34 (貯蔵穴内)	口- 17.8 底- 5.0 高- 23.0	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：器表面やや摩滅。口縁部やや外反する。横ナデ。頸部～胴部中半、斜位のハケメ。胴部下半～底部、ある程度乾燥後、斜位のケズリ。 内面：器表面摩滅により調整痕不明瞭。口縁部、横位ハケメ後横ナデ。胴部下半～底部、斜位のナデ。弱いハケメ。胴部に接合痕あり。	完形
6	甕	+45	口- (15.6) 底- - 高- (4.5)	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：口縁部、斜位ハケメ後横ナデ。頸部、斜位の弱いハケメ。斜位のナデ。 内面：横ナデ。接合痕あり。	口縁片
7	甕	+13～+50	口- - 底- - 高- (11.6)	①細砂粒混 ②酸化③黒褐色	外面：口縁部～胴部、縦位・横位のミガキ。 内面：口縁部、横ナデ。胴部横位のナデ。	破片
8	壺	-10	口- 10.3 底- - 高- (14.3)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：口縁部、縦位のミガキ。胴部上半、ナデの後、縦位・横位のミガキ。胴部中半～下半、横位・斜位のナデ。 内面：口縁部上半、横ナデ。下半、横位のナデ。胴部、上半斜位のナデ、下位横位のナデ。	1/2
9	小型壺	+38～ +41.5	口- 11.8 底- - 高- (4.7)	①砂粒混②酸化 ③赤褐色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、斜位のナデ。 内面：器表面摩滅。口縁部、横ナデ。	口縁片
10	器台	-3	口- 9.0 底- 12.6 高- 8.6	①砂粒混②酸化 ③橙色	外面：器表面やや摩滅。器受部、横ナデ。脚部、横位・縦位のミガキ。透かし3つ。 内面：器表面やや摩滅。器受部、横ナデ後、縦位のミガキ。脚部、縦位のナデ。裾部、横ナデ。	ほぼ完形
11	器台	+3	口- (9.9) 底- - 高- (2.9)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 赤褐色	外面：口縁部、横ナデ後横位ミガキ。器受部、縦位・横位のミガキ。 内面：口縁部、横ナデ。器受部、横位・縦位のミガキ。	器受部
12	器台	+2	口- - 底- 14.6 高- (8.8)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄橙色	外面：器表面やや摩滅。脚部ハケメ後ナデ、後ミガキ。過半にハケメ残存。裾部、横ナデ。透かし2段、6つ。 内面：器表面やや摩滅。脚部、ナデ。裾部、横ナデ。	脚部
13	器台	0	口- - 底- 12.3 高- (7.2)	①砂粒混②酸化 ③黄橙色	外面：縦位のミガキ。透かし3つ。 内面：横位のナデ。裾部、横ナデ。	脚部

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
14	有孔鉢	-2	口- 17.0 底- 4.3 高- 11.3	①砂粒混②酸化 ③にぶい赤褐色	外面：口縁部粘土帯貼り付け。指頭圧痕。体部、斜位のナデ。全体的に歪みが大きい。 内面：口縁部～底部、横位、斜位のナデ。底部穿孔。	ほぼ完形
15	鎌	0	長14.3, 幅 3.6, 厚 1.6		先端部丸味あり。基部の一部には柄装着のための折れ曲がった部分の痕跡がみられる。刃部には研ぎべりと思われる痕跡がある。	ほぼ完形

C区4号住居

番号	種類	出土位置	法量	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	砥石?	-8	長(8.4), 幅1.8, 厚1.1, 重20g	掘方より出土。磨面6面。珪質粘板岩。	1/2?

C区5号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	台付甕	覆土	口-(16.0) 底- - 高-(3.5)	①砂粒混多②酸化 ③灰黄褐色	外面：横ナデ。頸部、左下がりのハケメ。 内面：横ナデ。頸部、横位のナデ。	口縁片
2	台付甕	+6	口-(18.4) 底- - 高-(4.0)	①細砂粒混 ②酸化③浅黄色	外面：口縁部、横ナデ。頸部、左下がりのハケメ。ハケ幅2mm程度。 内面：口縁部、横ナデ。頸部、横位のナデ。	口縁片
3	鉢	-5～+2	口- 10.0 底- 5.7 高- 5.7	①砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部やや内湾気味。横ナデ。胴部、ナデ。一部器表面摩滅。 内面：口縁部、横ナデ。稜をもつ。胴部、指ナデ。器表面摩滅。	ほぼ完形
4	器台	覆土	口-(7.4) 底- - 高-(2.0)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：口縁部、横ナデの後、ミガキ。器受部、ハケメの後、ミガキ。 内面：ナデの後、ミガキ。	破片

C区6号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	甕	+59	口-(16.6) 底- - 高-(4.5)	①細砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：横ナデ。頸部、横位のナデ。 内面：横ナデ。	口縁片
2	小型壺	-49～-37	口- 9.3 底- 4.1 高- 14.5	①粗砂粒混②酸化 ③にぶい橙色	外面：口縁部やや内湾。横ナデの後ミガキ。頸部～胴部中半、ナデの後ミガキ。胴部下半、横位のナデ。口縁部・胴部の一部剥離。 内面：口縁部、横ナデ。胴部～底部、ナデ。	完形
3	壺	+17～+31	口- - 底- 3.8 高-(14.8)	①砂粒混②酸化 ③浅黄色	外面：器表面摩滅。胴部・底部の一部剥離。口縁部、横ナデ。頸部～胴部上半、斜位のハケメ、ナデ。胴部中半～底部、ナデの後、縦位のミガキ。 内面：器表面摩滅。口縁部、横ナデ。胴部、ナデ。	口縁部欠損
4	高坏	-26～-19	口- 12.4 底- - 高-(7.0)	①細砂粒混 ②酸化③橙色	外面：横ナデ後、縦位のミガキ。坏底部、横位のケズリ。脚部、縦位のミガキ。 内面：横ナデ後、縦位のミガキ。脚部、弱いハケメ。	脚部欠損
5	甕?	覆土	口- - 底- - 厚- 0.6	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 黄褐色	外面：櫛描文を施す。 内面：器表面摩滅。調整痕不明瞭。 東関東系のものと思われる。	破片

C区7号住居

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	器台	-1	口- - 底- - 高-(4.8)	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 黄褐色	外面：縦位・横位のミガキ。透かしあり。 内面：脚部上半、横位のナデ。下半、横ナデ。	脚部破片
2	砥石	+2～+11	長10.0, 幅4.2, 厚2.0, 重100g		磨面4面。擦り切り痕あり。頁岩。	完形

B区194号土坑

番号	種類 器種	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	台付甕	+ 5	口- 14.5 底- 8.5 高- 22.8	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄色	外面：口縁部、横ナデ。頸部～胴部下半、左下がりの斜位のハケメ。胴部中半～下半、左上がりの斜位のハケメ。脚部、斜位のハケメ。ハケ幅2mm程度。脚部裏側に砂粒混の粘土を貼り付ける。脚部下半、わずかにくびれる。 内面：口縁部、横ナデ。胴部上半～中半、指ナデ。胴部下半、ナデ。底部に砂粒の集中見られる。脚部、折り返しあり。横位のナデ。指頭圧痕。	ほぼ完形

遺構外出土遺物

番号	種類 器種	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
1	台付甕	B区83号土坑	口- (16.6) 底- - 高- (4.0)	①砂粒混②酸化 ③にぶい黄褐色	外面：横ナデ。頸部、斜位のハケメ。 内面：横ナデ。頸部、横位のナデ。	口縁片
2	甕	C区7号井戸	口- (17.6) 底- - 高- (3.3)	①砂粒混②酸化 ③灰白色	外面：横ナデ。頸部、斜位のハケメ。 内面：横ナデ。頸部、横位のナデ。	口縁片
3	台付甕	B区表採	口- - 底- (8.0) 高- (4.8)	①細砂粒混 ②酸化③橙色	外面：縦位のナデ。 内面：横位のナデ。折り返しなし。	脚部片
4	壺		口- (13.4) 底- - 高- (1.5)	①細砂粒混 ②酸化③浅黄色	外面：横ナデ。口唇部、縄目文あり。 内面：横ナデ。	口縁片
5	高坏	C区3号井戸	口- - 底- (10.5) 高- (5.7)	①細砂粒混 ②酸化③橙色	外面：縦位・横位のミガキ。透かし3つ。 内面：横位のナデ。	脚部
6	鉢	B区137号土坑	口- - 底- 4.0 高- (4.8)	①粗砂粒混 ②酸化③橙色	外面：横位のミガキ。口縁部欠損。 内面：口縁部、横位のミガキ。横位のナデ。頸部に接合痕あり。	3/4
7	壺?	B区34号溝	口- - 底- - 厚- 0.6	①細砂粒混 ②酸化③にぶい 黄橙色	外面：付加条第2種と思われる縄文を横位に施す。 内面：ナデ。	破片
8	砥石?	C区9井戸	長7.7, 幅3.5, 厚2.4, 重120g		流紋岩。手持ちの砥石と思われる。	完形
9	埴輪 馬(頭)	C区表採	長- (26.6) 高- (24.3) 厚- 1.4	①細砂粒混 ②橙色	馬の頭部から右側頭部にかけての破片。外面：鬣は欠損。耳は側面からの幅で4.5cm耳部を頭に差し込み、ナデで接合する。耳部には全体にハケメを施す。面繋は剥離しているが、痕跡から2.5cm程度の幅が推定される。引手は幅1.1cmの粘土紐で表現されている。 内面：ナデを施す。	頭部片
10	埴輪 馬 (胸～脚)	C区表採	厚- 1.0～ 3.0	①細砂粒混 ②橙色	胸繋部分から脚部の破片と思われる。外面：胸繋と鈴が残存する。胸繋はヘラ状のもので刻みを入れ、赤色・白色で塗られている。幅3.8cm。鈴は径3.5cm程で飾りがある。鈴口はヘラで切り込まれる。前面に径4.5cmほど(推定)の透かしあり。 内面：ナデ。ハケメ。	胸部～脚部片
11	埴輪 馬(脚)	C区表採	径- 10.6 高- (17.8)	①細砂粒混 ②にぶい黄褐色	外面：径10.6cmほどの円筒状。縦位のハケメ。蹄の切り込みが認められる。 内面：ナデ。	脚部下半
12	埴輪 馬(脚)	C区表採	径- 11.0 高- (27.4)	①細砂粒混 ②橙色	外面：径11.0cmの円筒状。縦位のハケメ。蹄の切り込みが認められる。 内面：コンクリートが詰め込まれているため不明。	脚部下半
13	埴輪 馬(脚)	D区表採	厚- 1.4	①細砂粒混 ②橙色	脚部破片と思われる。器表面やや摩滅。外面：縦位のハケメ。 内面：ナデ後、縦位のハケメ。	破片
14	埴輪 馬(脚)	C区表採	径- (11.0) 高- (9.0)	①細砂粒混 ②にぶい黄褐色	外面：縦位のハケメ。蹄の切り込みが認められる。 内面：ナデ。	破片
15	埴輪 馬(脚)	C区表採	厚- 1.4	①細砂粒混 ②橙色	脚部破片と思われる。外面：縦位のハケメ。 内面：ナデ。	破片

番号	種類	出土位置	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
16	埴輪 馬(脚)	C区表採	厚-1.3 ~ 2.9	①砂粒 ②橙色	脚部、付け根部分と思われる。外面：縦位のハケメ。 内面：ナデ。	破片
17	高坏?	B区21号溝	口- - 底- - 高-(3.8)	①粗砂粒混 ②酸化③橙色	外面：ナデ後、下位に二段の鋸歯を描く。 内面：ナデ。 高坏の脚部破片か。	破片

*18~20は、観察表の最終頁に記載

波志江西宿遺跡中近世観察表

B区1号掘立柱建物

番号	種類	出土状況 残存状況	法量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	陶器 皿	覆土 口縁破片	口(14.0)	①微砂粒含む②や や不良③灰白色	志野ひだ皿。内外面に厚く長石釉施釉。	瀬戸・美濃。16C 末~17C初頭。

C区1号建物

番号	種類	出土状況 残存状況	法量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	磁器 碗	覆土 1/5	口(8.1) 底(3.5) 高 4.7	①均質②やや不良 ③灰白色	内外面施釉。染付有り。絵柄はアヤマカ。	肥前。18C後~19 C初頭。
2	陶器 灯明皿	覆土 1/4	口(8.0) 底(3.6) 高 1.5	①均質②良好 ③褐色	前面錆施釉後外面の釉を拭い取る。外面に重 ね焼きの痕跡残る。	瀬戸・美濃。18C 後~19C前半

A区2号井戸

番号	器種	法量(cm)	樹種	特徴
1	砧	長32.2 幅19.2 厚11.9	アカマツ	芯持材。工具痕等は不明。柄は削り出す。一部欠損。
2	桶側板	長37.3 幅 4.2 厚 0.9	ヒノキ	桁目材。上部に細長い小孔を穿ち把手を通す。外面にタガのアタ リ1ヶ所。一部欠損。
3	桶底板	径21.9 厚 1.0	針葉樹	板目材。内面平滑、外面は荒れてキズ多い。
4	桶側板	長17.6 幅 7.2 厚 1.1	スギ	桁目材。外面にタガのアタリ1ヶ所。一部欠損。

A区3号井戸

番号	種類	出土状況 残存状況	法量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	磁器 皿	覆土 底部破片	底 8.5	①均質②良好 ③明青灰色	内外面施釉。蛇の目凹形高台。高台内二重角 の渦福字銘。高台内無釉部分に砂附着。	肥前系。18C後~ 19C前半
2	磁器 皿	覆土 底部破片	底(5.1)	①均質②良好 ③灰白色	内面文様を線刻した上に濃青色の釉をかける。 蛇の目凹形高台。	瀬戸・美濃
3	磁器 段重?	覆土 破片	口(7.4) 底(6.3) 高 2.1	①均質②良好 ③白色	内外面に施釉するが、口唇部と高台外面のみ 無釉。外面にプリント。絵柄は松・竹。	瀬戸・美濃?
4	陶器 片口鉢	覆土 完形	口 16.6 底 12.4 高(9.5)	①砂粒含む②良好 ③浅黄色	内外面に施釉。内外面底部にトチン痕残る。	瀬戸・美濃
5	陶器 甕	覆土 口縁破片	口(17.2)	①細粒②良好 ③褐色	内外面に施釉。一部に鉄絵を施す。	笠間・益子
6	土器 カマド	覆土 口縁破片		①砂粒含む②軟質 ③にぶい橙色	内外面にスス付着。ロクロ調整。外面にハケ 目。	在地系土器 江戸~近現代
7	瓦 丸瓦	覆土 破片		①砂粒含む②軟質 ③灰色	左側、下部欠損。表面の剥落激しい。	江戸~近現代

番号	器種	出土状況 残存状況	法量 (cm・g)	石材	特徴
8	砥石	覆土 1/3	長(4.9) 幅 3.7 厚 2.5 重 84	砥沢石	表裏、両側に使用面。両側に使用頻度高く非常に平滑。上面を研磨。下部欠 損。

番号	器種	法量(cm)	樹種	特徴
9	桶底板	直径25.8 厚 1.2	ヒノキ	板目材。内面に鉄分凝集。他の底板との接合部に釘孔2ヶ所。
10	桶底板	長 22.7 幅 6.9 厚 1.2	ネズコ	板目材。内面に鉄分凝集。他の底板との接合部に釘孔2ヶ所、釘 1本残存。
11	桶底板	直径20.7 厚 1.1	スギ	板目材。他の底板との接合部に釘孔2ヶ所、1本が残存。
12	桶底板	長 20.4 幅 10.1 厚 1.1	スギ	板目材。他の底板との接合部に釘孔2ヶ所、2本が残存。
13	桶把手	直 30.9 径 2.3	クリ	芯持材。片側が「L」字状になる。側板とのアタリ有り。
14	桶側板	長 29.0 幅 6.0 厚 1.2	スギ	桁目材。把手孔有。外面タガのアタリ2ヶ所。内面下部に凹み。

番号	器種	法 量(cm)	樹 種	特 徴
15	桶側板	長 29.1 幅 6.1 厚 1.1	スギ	柁目材。把手孔有。外面タガのアタリ2ヶ所。内面下部に凹み。
16	桶側板	長 20.2 幅 6.3 厚 0.9	スギ	柁目材。外面タガのアタリ2ヶ所。内面下部に凹み。
17	桶側板	長 20.0 幅 3.6 厚 0.9	スギ	柁目材。外面タガのアタリ2ヶ所。内面下部に凹み。
18	桶側板	長 20.1 幅 6.7 厚 1.0	スギ	柁目材。外面タガのアタリ2ヶ所。内面下部に凹み。
19	桶側板	長 20.1 幅 6.8 厚 1.0	スギ	柁目材。外面タガのアタリ2ヶ所。内面下部に凹み。
20	桶側板	長 20.1 幅 7.0 厚 1.1	スギ	柁目材。外面タガのアタリ2ヶ所。内面下部に凹み。
21	桶側板	長 20.1 幅 7.6 厚 1.0	スギ	柁目材。外面タガのアタリ2ヶ所。内面下部に凹み。
22	桶側板	長 20.1 幅 6.1 厚 1.0	スギ	柁目材。外面タガのアタリ2ヶ所。内面下部に凹み。
23	桶側板	長 20.0 幅 7.4 厚 1.0	スギ	柁目材。外面タガのアタリ2ヶ所。内面下部に凹み。
24	桶側板	長 20.1 幅 7.3 厚 1.0	スギ	柁目材。外面タガのアタリ2ヶ所。内面下部に凹み。
25	桶側板	長 20.1 幅 3.9 厚 0.9	スギ	柁目材。外面タガのアタリ2ヶ所。内面下部に凹み。

A区4号井戸

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	磁器 碗	+101cm 4/5	口 9.7 底 4.3 高 5.3	①均質②良好 ③明緑灰色	内外面施釉。外面に染付。絵柄は梅。高台内 渦福。	肥前。18C前～中 葉
2	青磁 花瓶	+115cm 口縁部	口 9.9	①均質②良好 ③緑灰	外面と内面口縁部に施釉。仏花瓶と思われる。	肥前。
3	磁器 水滴	+120cm 破片	高 2.7	①均質②良好 ③灰白色	赤絵の水滴。上面は型により文様を浮き出さ せる。底部内外面布痕。	肥前。江戸時代
4	陶器 碗	+131cm 口縁破片	口(9.4)	①細粒②普通 ③灰白色	内面から外面上位に灰釉、外面胴～底部に鉄 釉。外面中位に沈線3本。いわゆる腰錆碗。	瀬戸・美濃。18C 後葉。
5	陶器 香炉	+139cm 1/4	底 6.6	①細砂含む②普通 ③淡黄色	外面上位に鉛釉施す。脚2個残存、本来は3 脚。	瀬戸・美濃。18C
6	陶器 香炉	覆土 口縁破片		①均質②普通 ③にぶい黄色	外面と内面口縁部に灰釉を施す。	瀬戸・美濃。18C 後半
7	陶器 德利	+153cm 破片		①砂粒含む②普通 ③灰白色	外面と内面上位に施釉。	瀬戸・美濃
8	土器 人形	覆土 頭部欠損		①砂粒含む②普通 ③浅黄橙色	頭部と裏面剝離。透明、もしくは浅黄色の釉 を薄く施す。	19～20C
9	土器 焙烙	+53cm 破片	口(33.6) 底(31.6) 高 5.0	①細砂含む②軟質 ③黒色	平底。外面に著しくスス付着。内耳欠損。	在地系土器。江戸 時代
10	土器 カマド	覆土 破片		①細砂含む②軟質 ③にぶい橙色	内面口縁部にスス付着。	
11	土器 罌受?	+143cm 2/3	幅 10.8 厚 2.8	①砂粒含む②軟質 ③黒色	側面に板状の胎土数枚貼り合わせた痕跡。一 側が内湾し、表面剝落した部分に格子状刻み。	在地系土器。江戸 ～近現代。

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
12	磨石	覆土 完形	長 7.2 幅 6.4 厚 2.8 重 140	粗粒輝石 安山岩	円盤状の円礫の表裏に研磨面。裏面は弱い、表面は平坦に削られている。
13	磨石	覆土 ほぼ完形	長 8.0 幅 8.2 厚 6.1 重 293	角閃石安 山岩	円礫の表裏に研磨痕。平滑ではあるが、面を成すには至らず。表裏に工具によるはつきり痕有り。
14	磨石	覆土 完形	長 9.4 幅 7.5 厚 3.5 重 237	角閃石安 山岩	円礫のほぼ全面が研磨される。特に表裏は強く、平坦な面をなす。表面に一部スス付着。
15	不明石 製品	覆土 1/4	長(17.9) 幅(13.2) 厚(11.0) 重 3542	粗粒輝石 安山岩	タガネ状工具により直方体状に整形。表、上下面に工具痕。右側は自然面。左側と裏面欠損。石造物の破片か。
16	石造物	覆土 完形	長 28.4 幅 26.3 厚 16.0 重13.95kg	粗粒輝石 安山岩	五輪塔の水輪。器表面に工具による調整痕残す。上下面に比べ、側面より丁寧調整。

番号	器種	法 量(cm)	樹 種	特 徴
17	桶底板	径 17.8 厚 1.7	ヒノキ?	板目材。片面をえぐるように加工しくぼませる。
18	タガ	長 29.0 幅 0.8	タケ	桶のタガと思われる。
19	タガ	長 26.5 幅 0.7	タケ	桶のタガと思われる。
20	タガ	長 24.1 幅 0.6	タケ	桶のタガと思われる。
21	タガ	長 17.8 幅 0.7	タケ	桶のタガと思われる。
22	タガ	長 22.7 幅 0.9	タケ	桶のタガと思われる。
23	タガ	長 16.9 幅 0.8	タケ	桶のタガと思われる。
24	タガ	長 16.9 幅 0.5	タケ	桶のタガと思われる。
25	タガ	長 8.0 幅 0.8	タケ	桶のタガと思われる。
26	タガ	長 5.2 幅 0.6	タケ	桶のタガと思われる。

A区5号井戸

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	土器 焙烙	覆土 1/3	口(35.9) 底(33.5) 高 5.6	①細砂含む②軟質 ③黒色	平底。ロクロ成形後内外面横ナデ。内面は平滑に仕上げる。内耳2個残る。外面スス付着。	在地系土器。江戸時代

A区6号井戸

番号	器種	法 量(cm)	樹 種	特 徴
1	桶側板	長(21.0) 幅 7.5 厚 0.7	ヒノキ	柁目材。上部に把手孔。外面にタガのアタリ1ヶ所。下部欠損。
2	桶側板	長(10.8) 幅 8.4 厚 0.5	ネズコ?	柁目材。下部欠損。
3	桶側板	長(10.7) 幅 9.2 厚 0.6	ヒノキ	柁目材。下部欠損。外面にタガのアタリ2ヶ所。
4	桶側板	長(13.7) 幅 9.5 厚 0.6	ヒノキ属	柁目材。外面にタガのアタリ1ヶ所。下部欠損。
5	桶側板	長(10.2) 幅 5.0 厚 0.5	ヒノキ属	柁目材。下部欠損。
6	桶底板	径 19.7 厚 1.1	ヒノキ	柁目材。中央に小孔1ヶ所有り。

A区7号井戸

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	陶器 皿	覆土 ほぼ完形	口 11.7 底 6.7 高 2.9	①細粒②やや不良 ③灰白色	内外面施釉。内面に型紙による文様。桔梗か。	瀬戸・美濃。18C初～中葉。
番号	器種	法 量(cm)	樹 種	特 徴		
2	丸棒	長(16.3) 径 1.8	アカマツ	釘状のものが2ヶ所遺存。一部欠損。用途不明。		
3	板	長(29.4) 幅 8.5 厚 1.4	ヒノキ科	板目材。一部欠損。		
4	木片	長(22.2) 幅 5.6 厚 1.1	ヒノキ科	枝の節2ヶ所。欠損。用途不明。		
5	木片	長(12.7) 幅 4.0 厚 1.1	クリ	柁目材と思われる。用途不明。		

A区8号井戸

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	砥石	覆土 一部欠損	長(10.6) 幅 3.1 厚 3.6 重 115	粗粒輝石 安山岩	表裏に使用面。表面は中央が高く、両側が斜めに落ちる。両側に平タガネ痕残る。両端わずかに欠損。

A区9号井戸

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	磨石	覆土 完形	長 16.4 幅 11.7 厚 4.5 重 1336	粗粒輝石 安山岩	盤状の円礫。表面に摩耗痕。ほぼ全面にスス付着。
番号	器種	法 量(cm)	樹 種	特 徴	
2	櫛	長(5.2) 幅 4.2 厚 1.1	カマツカ属	非常に細かく目の詰まった材を使用。右半欠損。	

C区1号井戸

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	磁器 碗	覆土 1/2	口(7.4) 底(3.0) 高 3.8	①均質②良好 ③明青灰色	外面に染付。絵柄は草花。	肥前(波佐見系) 18C中～19C初
2	磁器 鉢?	覆土 口縁破片	口(10.4)	①均質②良好 ③灰オリーブ色	胴部下位が張り出し口縁はやや外反。内外面施釉。	
3	陶器 碗	覆土 1/3	口(10.2) 底(4.8) 高 6.8	①均質②良好 ③灰色	陶胎染付。外面に染付、絵柄は山水。	肥前。17C末～18C中葉
4	陶器 碗	覆土 2/3	口(10.2) 底(4.0) 高 7.0	①均質②普通 ③オリーブ色	陶胎染付。外面に染付、絵柄は松か。	肥前。17C末～18C中葉
5	陶器 碗	覆土 1/3	口(11.1) 底(5.4) 高 6.8	①均質②良好 ③灰色	陶胎染付。外面に染付。	肥前。17C末～18C中葉
6	陶器 碗	覆土 ほぼ完形	口 8.0 底 3.1 高 4.7	①均質②普通 ③オリーブ色	内外面施釉。釉は濁り高台厚も不均一。	製作地不詳。江戸時代
7	陶器 碗	覆土 1/3	口(9.0) 底(4.1) 高 5.6	①細粒②普通 ③灰白色	外面上位と内面に灰釉、外面下半に鉄釉を施す。外面中位に沈線3本。いわゆる腰錆碗。	瀬戸・美濃。18C後半
8	陶器 碗	覆土 底部破片	底(4.0)	①均質②良好 ③黄褐色	内外面施釉。	肥前。
9	陶器 灯明受皿	覆土 皿受破片	口 6.3	①砂粒含む②良好 ③オリーブ色	内外面に灰釉施す。	瀬戸・美濃? 18C中葉

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
10	陶器 乗燭	覆土 破片	底 4.5	①均質②良好 ③オリーブ褐色	底部を除き全面施釉。底部回転糸切り。上部欠損。	瀬戸・美濃？ 18C中～後葉
11	土器 土鍋	覆土 破片	口(36.0) 底(18.3) 高 12.6	①細砂含む②軟質 ③黒色	平底。ロクロ成形後内面横ナデ、外面ナデ。外面にスス附着。	在地系土器。江戸時代
12	土器 土鍋	覆土 破片		①砂粒含む②軟質 ③黒色	紐作り。ロクロ成形。外面にスス附着。	在地系土器。江戸時代
番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴	
13	砥石	覆土 2/3	長(9.1) 幅 3.2 厚 2.3 重 90	砥沢石	表裏に使用面。中央内湾し薄くなる。両側、上面に櫛歯タガネ痕残る。下部欠損。	

C区2号井戸

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	凹石	覆土 1/3	長(23.1) 幅(15.2) 厚 9.9 重 1931	流紋岩質 凝灰岩	扁平な円礫の表面中央に凹み。表面にスス附着。剝落多い。

C区3号井戸

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	磨石	覆土 完形	長 11.1 幅 10.3 厚 3.6 重 648	粗粒輝石 安山岩	円盤状の円礫。表裏に摩耗痕。側面ほぼ全周に敲打痕有り。全面にスス附着。
番号	器種	法 量(cm)	樹 種	特 徴	
2	桶底板	直径 18.4 厚 0.9	アスナロ	板目材。他の底板との接合部に釘孔2個。木釘2本残存。	
3	桶底板	長 15.9 幅 5.5 厚 0.9	アスナロ	板目材。他の底板との接合部に釘孔1個残存。	

C区4号井戸

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	陶器 碗	覆土 破片	底(4.6)	①均質②良好 ③灰色	陶胎染付。内外面に厚く施釉。外面に染付、絵柄は不明。	肥前。17C末～18C中葉
2	陶器 鉢	覆土 1/3	口(11.3) 底(5.0) 高 6.4	①細粒②普通 ③灰白色	外面上半、内面に灰釉施す。内面にトチン痕有り。	瀬戸・美濃。 19C?
3	陶器 皿	覆土 底部破片	底 4.3	①均質②良好 ③灰白色	内面に青緑釉。見込蛇の目釉ハギ。内野山窯。	肥前。17C後～18C前葉
4	陶器 播鉢	覆土 破片		①粗砂含む②普通 ③にぶい赤褐色	内外面に錆釉施す。	瀬戸・美濃。江戸時代
5	土器 焙烙	覆土 破片	口(38.8) 底(35.0) 高 5.8	①砂粒含む②軟質 ③黒色	平底。ロクロ成形後、内面と外面上半横ナデ、外面下部ケズリ。	在地系土器。江戸時代
番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴	
6	砥石	覆土 1/2	長(8.2) 幅 4.1 厚 2.8 重 118	流紋岩	表面に使用面。裏面と下面には平タガネ痕残る。上部欠損。	
7	板碑	覆土 破片	長(21.8) 幅(9.0) 厚 1.6 重 539	緑色片岩	板碑の基部破片。上部と左側欠損。表面の剝落激しい。	

C区7号井戸

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	陶器 碗	覆土 1/2	口(11.0) 底 5.1 高 7.1	①まれに砂粒含む ②普通③オリーブ色	内面から高台脇胎釉。露胎部部分的に鉄化粧風に胎釉薄く施す。	瀬戸・美濃。18C前。
2	陶器 碗	覆土 破片	底 4.7	①均質②普通 ③オリーブ黄色	呉器手碗。内外面に厚く施釉。	肥前。17C後葉。
3	陶器 碗	覆土 破片	底 4.8	①細粒②普通 ③にぶい黄色	呉器手碗。内外面に厚く施釉。	肥前。17C後葉。
4	陶器 碗	覆土 破片		①均質②やや良 ③オリーブ色	内外面施釉。	瀬戸・美濃
5	土器 土鍋	覆土 破片	口(35.0)	①細砂含む②軟質 ③黒色	紐作り、ロクロ成形。外面にスス附着。	在地系土器 江戸時代

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
6	土器 焙烙	覆土 破片	口(38.2) 底(35.9) 高 5.2	①砂粒含む②軟質 ③黒色	平底。ロクロ成形後、内面・外面上位横ナデ、 外面下位指による強いナデ。内面に刻み。	在地系土器 江戸時代
番号	器種	法 量(cm)	樹 種	特 徴		
7	漆塗皿	口(10.9)	ブナ属	挽物。横木取り。内外面赤色の漆塗彩。高台欠損。		
8	漆塗碗		ブナ属	挽物。横木取り。上部、高台端部欠損。内外面赤色の漆塗彩。		
9	漆塗碗	口 12.6	ブナ属	挽物。横木取り。内面赤色、外面と高台内面黒色の漆塗彩。		
10	漆塗碗		ブナ属	挽物。横木取り。内外面赤色の漆塗彩。口縁、高台欠損。		
11	漆塗碗	底 4.8	ブナ属	挽物。横木取り。内面赤色、外面と高台内面黒色の漆塗彩。		
12	漆塗碗		クリ	挽物。横木取り。内外面赤色の漆塗彩。口縁、高台欠損。		
13	刀鞘	長 26.5 幅 2.8 厚 0.8	アスナロ	柾目材。鞘の半裁。黒色漆の痕跡わずかに残る。断面「コ」の字状。		
14	刀鞘	長(17.7) 幅 2.6 厚 1.2	ヒノキ	柾目材。鞘の半裁。断面「コ」の字状。		
15	曲物	長 21.5 幅 10.0 厚 3.8	ヒノキ	曲物の側板。木の皮で合わせ目を樫止め。底部無し。上部欠損。		
16	タガ	長 20.6 幅 1.1	タケ	桶、もしくは樽のタガ。		
17	タガ?	長 14.7 幅 1.1	アスナロ	幅狭く薄い木片。桶、もしくは樽のタガか。		
18	タガ?	長 6.3 幅 1.3	アスナロ	幅狭く薄い木片。桶、もしくは樽のタガか。		
19	柄杓	口 4.1 底 4.5 高 6.2	タケ	竹の節を利用。側面に柄を通す孔。内面に柄のアタリ。		
20	木片	長 14.0 幅 11.2 厚 4.0	マツ属複雑管束亜属	木芯付近の板目材。方形で、表裏の角わずかにくぼむ。用途不明。		
21	板	長 15.6 幅 11.9 厚 3.0	コナラ節	柾目材。板の中央部方形に加工し穴をあける。用途不明		
22	木片	長 9.8 幅 2.4 厚 4.7	コナラ節	柾目材。長方形を呈する。用途不明。		

C区8号井戸

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	磨石	覆土 完形	長 6.1 幅 5.7 厚 3.7 重 116	粗粒輝石 安山岩	円礫の表面研磨し、かどの丸い三角推状に整形。表面の研磨最も強い。表面中央に深さ7mm程の小孔と、それを通る断面「V」字状の刻み有り
番号	器種	法 量(cm)	樹 種	特 徴	
2	桶把手	長(17.3) 径 2.2	コナラ節 or シイノキ属	芯持材。木釘が折れて遺存。「T」字状で、根元にアタリ有り。	

C区9号井戸

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	磁器 碗	覆土 破片	口(9.4) 底(6.0) 高 4.3	①均質②良好 ③明青灰色	内外面に染付。外面唐草、内面萩唐草。	肥前。18C前～中葉
2	陶器 碗	覆土 破片	底 3.6	①細粒②普通 ③外：暗褐色・内：灰白	外面に鉄釉、内面に灰釉施す。上位欠損。腰 鏝碗。	瀬戸・美濃。18C 中～後葉
3	陶器 碗	覆土 底部破片	底 5.1	①細粒②普通 ③灰白色	呉器手碗。内外面に透明釉施釉。	肥前。17C末～18 C前葉
4	陶器 播鉢	覆土 破片	底(14.9)	①粗砂含む②普通 ③赤褐色	焼締。ロクロ成形後外面ヘラゲスリ。内面使 用により平滑。	堺・明石。18C後 ～19C中葉
番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴	
5	石臼	覆土 1/4	直径(36.7) 厚 10.0 重 4487	粗粒輝石 安山岩	上臼。使用面には調整痕粗く残り、使用の痕跡みられない。未成品か。	
6	石臼	覆土 1/6	長(18.0) 幅(17.4) 厚 9.5 重 2825	粗粒輝石 安山岩	上臼。持ち手穴欠損。	
番号	器種	法 量(cm)	樹 種	特 徴		
7	桶底板	径 16.5 厚 1.0	ネズコ	板目材。他の底板との接合部に釘穴2ヶ所。屋号彫られる。		

D区1号井戸

番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	磁器 碗	覆土 完形	口 9.7 底 3.4 高 4.9	①均質②良好 ③明緑灰色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹。高台内に不明 銘。	肥前(波佐見)。 18C中～19C初
2	磁器 碗	覆土 一部欠損	口 9.5 底 3.6 高 5.0	①均質②良好 ③灰白色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹。高台内に不明 銘。	肥前(波佐見)。 18C中～19C初
3	磁器 碗	覆土 2/3	口(9.3) 底 3.6 高 4.8	①均質②良好 ③灰白色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹。高台内に不明 銘。	肥前(波佐見)。 18C中～19C初
4	磁器 碗	覆土 1/2	口 9.5 底 4.0 高 5.5	①均質②良好 ③灰白色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹。高台内に不明 銘。	肥前(波佐見)。 18C中～19C初

番号	種類	出土状況 残存状況	法量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
5	磁器 碗	覆土 口縁破片	口(9.2)	①均質②良好 ③灰白色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹か。	肥前(波佐見)。 18C中～19C初
6	磁器 碗	覆土 2/3	口(9.6) 底 4.0 高 5.0	①均質②良好 ③明青灰色	体部外面に染付、絵柄は山水。内面底部に不明銘。高台内に不明銘。	瀬戸・美濃。19C 前～中葉。
7	磁器 碗	覆土 破片	口(7.1) 底(3.4) 高 4.9	①均質②やや良 ③灰白色	筒形碗。体部外面に染付、絵柄は菊花散らし文。底部内面五弁花。	肥前。18C中～19C 初頭。
8	磁器 碗	覆土 3/4	口 7.2 底 3.8 高 5.8	①均質②やや不良 ③灰白色	筒形碗。体部外面に染付、絵柄は菊花散らし文。底部内面五弁花。	肥前。18C中～19C 初頭。
9	磁器 碗	覆土 1/2	口(7.2) 底 3.3 高 4.9	①均質②良好 ③明青灰色	筒形碗。体部外面に染付、絵柄は窓絵に菊と井桁。底部内面五弁花。	肥前。18C中～19C 初頭。
10	磁器 青磁鉢	覆土 1/3	底 12.6	①均質②良好 ③明青灰色	内外面に染付、体部外面唐草、底部内面山水。体部内面に青磁器釉。蛇ノ目凹形高台。	肥前。18C中～後葉
11	磁器 蓋	覆土 1/2	口(9.5) 摘(5.3) 高 3.0	①均質②良好 ③明青灰色	広東形碗蓋。外面に染付、絵柄は瓢箪。内面天井部に染付、絵柄は不明。	肥前。19C前葉。
12	磁器 皿	覆土 一部欠損	口 13.8 底 7.7 高 3.0	①均質②良好 ③明青灰色	内面に染付、絵柄は雪輪梅樹。底部内面にコンニャク版による五弁花。内面蛇ノ目軸ハギ	肥前(波佐見)。 18C中～19C初
13	磁器 皿	覆土 1/2	口(12.9) 底(6.8) 高 3.7	①均質②良好 ③明青灰色	内外面染付。内面に草花、外面唐草。	肥前(波佐見)。 18C中～19C初
14	磁器 鉢	覆土 1/4	口(15.1) 底(11.1) 高 6.2	①均質②良好 ③明青灰色	口縁端部と内面釉をかき取る。外面染付、絵柄は微塵唐草。焼継痕有り。高台内に焼継印	肥前。18C後～19C 前葉
15	磁器 水滴	覆土 1/3	高 3.0	①均質②良好 ③明青灰色	表面と型押しと染付によって文様描く。絵柄は草花か。穿孔2ヶ所。	肥前。18～19C
16	陶器 碗	覆土 一部欠損	口 10.2 底 4.4 高 5.8	①細砂含む②普通 ③灰白色	外面上位と内面に灰釉、外面下半に鉄釉。体部外面に沈線3本。いわゆる腰鏝碗。	瀬戸・美濃。18C 後葉
17	陶器 碗	覆土 1/3	口(9.9) 底 3.5 高 5.4	①細粒②普通 ③灰白色	外面上位と内面に灰釉、外面下半に鉄釉。体部外面に沈線3本。いわゆる腰鏝碗。	瀬戸・美濃。18C 後～19C前葉
18	陶器 香炉	覆土 1/4	口(11.8) 底(9.3) 高 5.1	①細砂含む②良好 ③オリブ色	外面と内面口縁部に施釉。外面体部に陰刻。脚1個残存、本来は3個貼付か。	瀬戸・美濃。18C 後～19C前葉。
19	陶器 灯明皿?	覆土 一部欠損	口 10.1 底 4.1 高 2.1	①砂粒含む②良好 ③暗褐色	外面口縁以下釉を拭い取る。内面底部に重焼きの痕跡有り。	瀬戸・美濃。18C 末～19C前葉。
20	陶器 灯明受皿	覆土 完形	口 10.3 底 4.7 高 2.3	①砂粒わずか含む ②普通③褐色	外面口縁部以下の釉を拭い取る。内面に突帯、切れ目1ヶ所。外面に重焼きの痕跡。	瀬戸・美濃。19C 前葉。
21	陶器 灯明受皿	覆土 ほぼ完形	口 10.7 底 5.3 高 2.4	①砂粒含む②やや良 ③にぶい黄褐色	外面口縁部以下釉を拭い取る。内面に突帯、切れ目1ヶ所。内面に油の痕跡。	瀬戸・美濃。18C 末～19C前葉
22	陶器 灯明受皿	覆土 底部破片	底 5.3	①砂粒含む②普通 ③極暗褐色	底部除き全面に鉄釉施す。底部回転糸切り。	瀬戸・美濃。18C 後～19C。
23	陶器 片口鉢	覆土 1/3	口(17.0) 底(8.0) 高 7.9	①若干の細砂含む ②普通③オリブ色	底部除き全面に施釉。底部回転ヘラケズリ。	瀬戸・美濃。19C 前葉。
24	陶器 練鉢	覆土 1/5	口(29.3) 底(13.4) 高 15.0	①細粒②良好 ③灰白色	底部除き全面に灰釉施す。	瀬戸・美濃。18C 後～19C前葉。
25	陶器 播鉢	覆土 2/3	口 28.5	①粗砂含む②良好 ③暗赤褐色	ロクロ成形。体部外面ヘラケズリ。わずかに片口部作る。	堺・明石。18C末 ～19C中葉。
26	陶器 播鉢	覆土 口縁破片	口(33.4)	①砂粒含む②良好 ③褐色	ロクロ成形後外面下位ヘラケズリ。全面に鏝釉。D区2溝-65と同一個体か。	瀬戸・美濃。19C 前葉
27	陶器 徳利	覆土 1/4	底(7.9)	①砂粒含む②普通 ③オリブ色	ロクロ成形。底部回転ヘラケズリ。外面体部下位から底部釉を拭い取る。	瀬戸・美濃。18C 後葉。
28	陶器 土瓶	覆土 破片	口(7.1)	①細粒②普通 ③オリブ灰色	外面と内面上位に施釉。	製作地不詳。19C 前～中葉。
29	土器 蓋	覆土 破片	口(8.6) 高 2.5	①細砂含む②やや不良 ③黒色	天井部外面回転ヘラケズリ。内面の受け部欠損。	在地系土器。江戸 時代以降
30	土器 焙烙	覆土 1/6	口(35.6) 底(33.2) 高 5.2	①砂・赤色粒含む ②軟質③黒褐色	平底。内面に耳1個残存。体部に補修孔1個。底部に焼成以前穿孔の小孔1個。内外面スス	在地系土器。江戸 時代
31	土器 甕	覆土 口縁破片	口(17.3)	①砂・赤色粒含む ②軟質③灰褐色	ロクロ成形。器表面荒れ。	在地系土器。江戸 ～近現代。
32	土器 火鉢	覆土 破片	高 9.4	①細砂含む②軟質 ③にぶい橙色	箱型。四足貼付。内外面にスス付着。	在地系土器。江戸 時代。
番号	器種	出土状況 残存状況	法量 (cm・g)	石材	特 徴	
33	砥石	覆土 1/2	長(5.7) 幅 3.1 厚 1.9 重 50	砥沢石	表裏、両側面に使用面。両側の使用度高い。上部欠損。	

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
34	不明石 製品	覆土 1/3	長(5.2) 幅 6.1 厚 1.6 重 93	砂岩	全面を研磨し、薄い板状に整形。上部欠損。温石か。
35	石造物	覆土 1/2	長(22.0) 幅(16.9) 厚(13.0) 重 2940	流紋岩質 凝灰岩	五輪塔の空風輪。夾雑物の多い石材のため、器表面の剥落激しい。表裏欠損。
36	石造物	覆土 ほぼ完形	長 26.4 幅 25.9 厚 17.5 重 8950	流紋岩質 凝灰岩	五輪塔の水輪。夾雑物の多い石材のため器表面に多くの凹凸有り。表面の剥落も激しい。
番号	器種	法 量(cm)	樹 種	特 徴	
37	漆塗椀		ブナ属	挽物。横木取り。内外面赤色の漆塗彩。底部外面に文字。	
38	木片	長 11.4 幅 11.7 厚 4.9	ヒノキ属	木口材。のこ引きで芯材を中心とする方形に切り落とす。この際に引いた黒色の線が残存。	

A区386号土坑

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	陶器 灯明皿	覆土 破片	口(11.5)	①均質②良好 ③暗灰黄色	外面上位と内面に施釉。	志戸呂?18C。
番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴	
2	砥石	覆土 1/3	長(5.0) 幅 2.6 厚 2.4 重 54	砥沢石	表裏に使用面。表面使用頻度高く平滑、裏面頻度低く調整痕残る。両側、上面に楕歯タガネ痕あり。	

A区389号土坑

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	陶器 碗	覆土 底部破片	底(7.3)	①砂粒含む②普通 ③灰白色	底部を除き全面に浅黄色の釉施す。内面に焼成時の積み重ねの痕跡あり。	瀬戸・美濃。

A区405号土坑

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	砥石	覆土 1/4	長(5.3) 幅 3.2 厚 2.0 重 47	粗粒輝石 安山岩	表裏に使用面。裏面、両側に平タガネ痕残る。上下両端欠損。

B区57号土坑

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	基石	覆土 完形	長 2.2 幅 2.2 厚 0.5 重 3.81	頁岩	前面を研磨して整形。

B区90号土坑

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	砥石	覆土 一部欠損	長(10.4) 幅 3.0 厚 2.9 重 87	砥沢石	表裏に使用面。表面は非常に平滑、裏面には一部調整痕残る。表裏ともに中央右下がりの稜を境として上下に落ちる。両側に平タガネ痕。

C区49号土坑

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	陶器 皿	+17cm ほぼ完形	口 10.2 底 4.1 高 2.3	①細砂含む②普通 ③灰白色	内面から外面口縁部に灰釉。内面に目痕3ヶ所有り。口縁部に灯芯痕1ヶ所。	信楽? 19C。
2	陶器 碗	+12cm 完形	口 7.8 底 4.1 高 3.9	①砂粒含む②普通 ③にぶい黄橙色	内面から高台脇まで黄釉施す。	瀬戸・美濃。18C後~19C前葉
3	陶器 碗	+10cm ほぼ完形	口 7.7 底 4.0 高 3.7	①砂粒含む②普通 ③黄褐色	内面から高台脇まで黄釉施す。	瀬戸・美濃。18C後~19C前葉。
4	陶器 碗	+11cm ほぼ完形	口 7.9 底 4.1 高 4.0	①砂粒含む②普通 ③黄褐色	内面から高台脇まで黄釉施す。	瀬戸・美濃。18C後~19C前葉。
5	陶器 碗	+7cm ほぼ完形	口 7.8 底 3.3 高 3.9	①砂粒含む②普通 ③黄褐色	内面から高台脇まで黄釉施す。	瀬戸・美濃。18C後~19C前葉。
6	陶器 碗	+9cm 完形	口 11.3 底 4.8 高 7.5	①砂わずかに含む ②普通③オリーブ	内面から高台脇に鉛釉。露胎部鉄化粧風に鉛釉うすく施す。	瀬戸・美濃。18C前葉。

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
7	陶器 碗	+16cm 2/3	口 11.3 底 5.5 高 7.0	①細粒②普通 ③極暗赤褐色	内面から高台脇鉄釉を薄く施す。露胎部うすい鉄化粧。	瀬戸・美濃。18C 前葉。

C区284号土坑

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	砥石	覆土 1/3	長(4.6) 幅 2.9 厚 1.6 重 31	砥沢石	表裏に使用面。表面の使用頻度より高い。両側に平タガネ痕残る。両端欠損。

C区927号土坑

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	土器 皿	+ 9cm 1/3	口(8.5) 底(6.0) 高 2.2	①砂・赤色粒含む ②やや良③橙色	ロクロ成形。底部回転糸切り。	在地系土器。江戸 時代。

C区1017号土坑

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	土器 釜輪?	覆土 破片		①砂粒含む②やや 良③褐色	外面のみ器表面残存。ロクロ成形。	在地系土器。江戸 ～近現代。

C区1018号土坑

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	磨石	+13cm ほぼ完形	長 8.3 幅 6.9 厚 3.0 重 73	スコリア 質安山岩	円礫のほぼ全面を研磨し、扁平な円盤状に整形。研磨面はいずれもよく磨かれており、平滑。

C区1019号土坑

番号	種類	出土状況 残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	床面直上	直径 2.44 厚 0.14 重 2.33	錆激しく判読不能。天禧通寶か
2	古銭	+10cm	直径 2.40 厚 0.10 重 2.06	元祐通寶(篆書)。
3	古銭	覆土	直径 2.35 厚 0.11 重 1.51	政和通寶(篆書)。
4	古銭	覆土	直径 2.28 厚 0.11 重 2.53	表面劣化激しい。聖宋元寶(行書)か。
5	古銭	覆土	直径 2.29 厚 0.10 重 2.32	元符通寶(篆書)。
6	古銭	覆土	1/2 厚 0.11 重 1.30	嘉祐通寶(篆書)。

C区1039号土坑

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	磁器 小杯	覆土 1/2	口(7.4) 底(3.0) 高 4.2	①泡状の空隙有り ②普通③灰白色	外面に染付、絵柄は笹か。	肥前。18C。
2	土器 不明	覆土 破片	底(25.3)	①砂粒含む②軟質 ③にぶい黄橙色	欠損激しく器種・用途不明。穿孔1ヶ所有り。	在地系土器。江戸 ～近現代。

C区1067号土坑

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	磨石	覆土 完形	長 8.7 幅 6.1 厚 2.5 重 145	粗粒輝石 安山岩	盤状の円礫。表裏に研磨面。
2	石臼	覆土 破片	長(8.9) 幅(5.6) 厚(6.7) 重 358	粗粒輝石 安山岩	破損のため形状は不明。上臼の持ち手部分の破片と思われる。上面は摩耗。

C区1076号土坑

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	直径 2.46 厚 0.13 重 2.19	明道元寶(真書)
2	古銭	覆土	直径 2.39 厚 0.11 重 2.42	表面劣化激しい。開元通寶か。
3	古銭	覆土	直径 2.39 厚 0.11 重 1.60	天聖元寶(篆書)。
4	古銭	覆土	直径 2.38 厚 0.09 重 2.35	元豊通寶(篆書)。表面劣化激しい。

C区1096号土坑

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	砥石	覆土 1/3	長(6.1) 幅 2.9 厚 2.1 重 60	砥沢石	表面に使用面。裏面、両側に櫛歯タガネ痕残る。両端欠損。
2	板碑	覆土 破片	長(9.1) 幅(11.3) 厚 1.8 重 253	緑色片岩	板碑破片。表面に梵字一部残る。

C区1109号土坑

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	床面直上 完形	直径 2.35 厚 0.10 重 3.36	元豊通寶(行書)。
2	古銭	床面直上 完形	直径 2.41 厚 0.10 重 2.33	聖宋元寶(行書)。
3	古銭	床面直上 ほぼ完形	直径 2.33 厚 0.11 重 2.37	元豊通寶(篆書)。
4	古銭	床面直上 完形	直径 2.35 厚 0.12 重 2.51	政和通寶(篆書)。
5	古銭	床面直上 完形	直径 2.37 厚 0.11 重 2.38	景德元寶。
6	古銭	床面直上 完形	直径 2.39 厚 0.11 重 1.77	皇宋通寶(真書)。

D区1号土坑

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	磁器 碗	覆土 底部破片	底(3.4)	①均質②良好 ③緑灰色	内面に染付、絵柄は不明。外面には青磁釉。	肥前。18C中葉?
2	陶器 碗	覆土 口縁破片	口(9.9)	①細粒②普通 ③灰白色	内面から外面上位に灰釉、外面下半に鉄釉施す。いわゆる腰鎗碗。	瀬戸・美濃。18C後～19C前葉。

D区2号土坑

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	磁器 鉢	覆土 1/6	口(16.2)	①均質②良好 ③明青灰色	内外面に染付。八角形状を呈する。	肥前。19C前～中葉。
2	陶器 碗	覆土 2/3	口 7.5 底 4.5 高 5.7	①均質②良好 ③褐色	内面から高台脇まで鉄釉施す。	瀬戸・美濃。江戸時代。
番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴	
3	石臼	覆土 破片	長(21.0) 幅(15.4) 厚(7.6) 重 1668	粗粒輝石 安山岩	上臼の持ち手部分の破片。	

A区15号溝

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	陶器 皿	覆土 底部破片		①砂粒含む②やや不良 ③灰白色	内外面に施釉。	瀬戸・美濃。17C
2	陶器 碗	覆土 4/5	口 9.2 底 5.0 高 5.7	①均質②普通 ③浅黄色	外面高台部分除いて全面に施釉。外面に染付、絵柄は不明。高台内に押印。	肥前。17C後半。
3	陶器 碗	覆土 底部破片	底 5.2	①均質②普通 ③灰白色	外面高台部分除いて全面に施釉。高台内に菱形に梅花文の押印。	肥前。17C後半。
番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴	
4	砥石	覆土 2/3	長(7.0) 幅 2.8 厚 1.2 重 42	砥沢石	表裏に使用面。両側、上面には櫛歯タガネ痕残る。下部欠損。	

A区23号溝

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	磁器 碗	覆土 底部破片	底 4.7	①均質②普通 ③明青灰色	陶胎染付。外面に染付。	肥前。17C末～18C中葉。
2	陶器 碗	覆土 1/3	底(5.0)	①細粒②やや不良 ③灰白色	内面から高台脇まで施釉。外面に染付、絵柄は不明。高台内に「中村」の押印有り。	肥前。17C後半。

A区29号溝

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	磁器 碗	覆土 底部破片	底(3.1)	①均質②やや不良 ③灰白色	外面に染付。	肥前。
2	陶器 碗	+15cm ほぼ完形	口10.7 底4.7 高7.6	①細粒②普通 ③緑灰色	陶胎染付。外面に染付、絵柄は山水か。	肥前。17C末~18C中葉。
3	陶器 灯明皿	覆土 1/4	口(10.4) 底5.1 高1.9	①細粒②良好 ③にぶい赤褐色	ロクロ成形。底部回転ヘラケズリ。内面から外面体部上位まで施釉。口縁内外にスス付着。	志戸呂。
4	陶器 小鉢?	覆土 口縁破片		①均質②良好 ③褐色	内外面に鉄釉施す。	製作地不詳。江戸時代?
5	土器 焙烙	+29cm 破片	口(42.0) 底(37.9) 底5.3	①細砂含む②軟質 ③黒色	紐作り、ロクロ成形。平底。内耳1個残存。外面にスス付着。	在地系土器。江戸時代。
6	土器 土鍋	+27cm 一部欠損	口37.1 底19.3 高12.1	①砂粒含む②軟質 ③黒色	紐作り、ロクロ成形。平底。内面底部に「大極上」の押印有り。外面にスス付着。	小泉焼か。江戸時代?
7	瓦 棧瓦	覆土 破片		①砂粒含む②軟質 ③灰色	表面に離れ砂痕残る。	
番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴	
8	キセル	覆土	完形	長6.0 幅1.0 厚1.1 重4.2	キセルの吸口。表面中央に継ぎ目。	
番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	石 材	特 徴
9	磨石	覆土 完形		長11.8 幅8.5 厚5.0 重278	角閃石安山岩	円礫の表裏に研磨面。擦痕等は見られない。表面が最も研磨度強く、平坦に面取りされている。

A区36号溝

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	陶器 碗	覆土 底部破片	底5.0	①細砂含む②やや良 ③オリーブ色	内面から高台脇に胎釉施釉。	瀬戸・美濃。18C
番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴	
2	ハサミ	覆土	1/3	長(9.5) 幅1.4 厚0.7 重10.9	握りバサミの破片。表裏錆による劣化激しい。	

A区37号溝

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	磁器 猪口	覆土 底部破片	底(3.0)	①均質②良好 ③灰白色	外面に染付、絵柄は不明。	瀬戸・美濃。
2	磁器 碗	覆土 底部破片	底(3.0)	①均質②良好 ③明青灰色	外面にコンニャク版による染付、絵柄は不明。	肥前。18C中~19C初頭。
3	陶器 碗	覆土 底部破片	底(4.3)	①細粒②やや不良 ③明青灰色	陶胎染付。外面に染付。	肥前。17C末~18C中葉。
4	陶器 菊皿	覆土 1/4	口(13.0) 底6.9 高3.3	①細砂含む②やや不良 ③浅黄色	内面から外面上位に施釉。白色釉施釉後に緑釉かける。	瀬戸・美濃。17C後半。
5	陶器 徳利	覆土 破片		①細砂含む②普通 ③にぶい赤褐色	内外面に鉄釉施す。	製作地不詳。18~19C。
6	土器 十能	覆土 破片	高3.9	①砂・赤色粒含む ②軟質③褐灰色	底面に離れ砂痕。体部外面上位に接合痕。	在地系土器。江戸~近代。
7	瓦 軒棧瓦	覆土 破片		①砂粒含む②軟質 ③灰色	軒棧瓦の瓦当面。表面に8弁の花文。	時期不詳。
番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	石 材	特 徴
8	砥石	覆土 2/3		長(9.3) 幅3.4 厚3.0 重142	砥沢石	両側に使用面、右側使用頻度高く非常に平滑。左側は極弱い使用。表裏に櫛歯タガネ痕。下部欠損。

A区38号溝

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	陶器 灯明受皿	覆土 1/3	口(11.4) 底(4.9) 高1.8	①細粒②普通 ③橙色	内面から外面上位に施釉。内面に突帯、一對のくり抜き有り。	志戸呂。18C。
2	陶器 碗	覆土 1/3	口(12.6) 底(5.5) 高7.5	①細粒②やや不良 ③灰白色	内外面に施釉。外面に絵付け、絵柄は唐草か。	製作地不詳。江戸時代。

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
3	陶器 搦鉢	覆土 底部破片	底(10.5)	①粗砂含む②やや良③橙色	焼締。内面使用により平滑。	堺・明石。
4	土器 焙烙	覆土 口縁破片		①砂粒含む②普通 ③にぶい黄色	丸底。外面口縁部にスス付着。	在地系土器。近現代。
番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴	
5	磨石	覆土 ほぼ完形	長 7.7 幅 5.4 厚 4.5 重 103	角閃石安 山岩	円礫の一端を斜めに切り落としたようにして研磨。裏面一部欠損。	
6	砥石	覆土 2/3	長(8.3) 幅 2.7 厚 1.5 重 50	砥沢石	表裏に使用面、使用度高く平滑。両側、下面に櫛歯状工具による調整痕残る。上部欠損。	

A区39号溝

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	陶器 皿	覆土 口縁破片		①細粒②普通 ③灰白色	内外面に施釉。	
2	陶器 灯明皿	覆土 破片	口(8.3) 底(3.0) 高 1.8	①細砂含む②やや良③灰白色	内面から口縁部外面に鉛釉施す。釉は白濁。口縁に粒状の陶土貼付。	瀬戸・美濃。18C 中～後葉。
3	陶器 香炉	覆土 口縁破片	口(9.6)	①細砂わずか含む ②普通③灰白色	内面口縁から外面体部に灰釉施釉。	瀬戸・美濃。19C 前葉。
4	陶器 香炉	覆土 口縁破片	口(15.9)	①均質②やや良 ③褐色	内外面施釉。外面に沈線5本。	瀬戸・美濃？
5	陶器 鉢	覆土 口縁破片		①均質②良好 ③オリーブ灰色	内外面に施釉。口縁部内外面に肥厚。	笠間・益子。
6	陶器 秉燭	覆土 破片		①細粒②普通 ③暗褐色	底部除き鉄釉施す。底部回転糸切り。	瀬戸・美濃？

B区1号溝

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴	
1	砥石	覆土 1/2	長(6.6) 幅 2.9 厚 2.3 重 58	砥沢石	左側に使用面、非常に平滑。表裏、右側、下面には平タガネ痕残る。上半、下端欠損。	

B区17号溝

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	陶器 碗	覆土 破片	底(4.3)	①黒色微粒子含む ②やや不良③灰白	内外面に施釉、外面釉切れ有り。外面に染付。	肥前。
2	陶器 碗	覆土 1/3	口(10.9) 底 4.2 高 7.4	①細粒②普通 ③黒褐色	天目碗。内面から外面上半に鉄釉施す。高台貼付。	瀬戸・美濃。18C 初～中葉。
3	陶器 碗	覆土 1/5	口(10.4)	①均質②良好 ③暗褐色	天目碗。内面から外面上半に鉄釉施す。	瀬戸・美濃。18C 初～中葉。
4	陶器 碗	覆土 底部破片	底(4.4)	①砂粒含む②良好 ③黒褐色	天目碗。内面から外面上位に鉄釉施す。	瀬戸・美濃。18C 初～中葉。
5	陶器 碗	覆土 底部破片	底 4.3	①細砂含む②良好 ③灰オリーブ色	天目碗。内面から外面上位に鉄釉施す。	瀬戸・美濃。18C 後半。
6	陶器 皿	覆土 口縁破片	口(13.8)	①均質②良好 ③灰色	内面から外面口縁部に灰釉施釉。	瀬戸・美濃。17C ～18C。
7	陶器 鉢？	覆土 底部破片	底(6.5)	①細砂含む②普通 ③灰色	内外面に厚く施釉。	瀬戸・美濃。
8	陶器 鉢	覆土 破片		①細粒②良好 ③暗灰黄色	体部内面白化粧の後施釉。下部は白土による刷毛目。	肥前。江戸時代。
9	陶器 鉢	覆土 口縁破片		①砂粒含む②軟質 ③灰色	胎土焼成不良で軟質。搦鉢の口縁部分か。	
番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴	
10	不明石 製品	覆土 破片	長(12.9) 幅(16.1) 厚(10.1) 重 1395	流紋岩質 凝灰岩	直方体状に整形したものであるが、欠損激しく形状不明。表面に弱いスス付着。石造物の破片か。	

B区21号溝

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	石造物	覆土 破片	長(18.8) 幅(11.4) 厚(9.6) 重 1159	流紋岩質 凝灰岩	五輪等の空風輪破片。表面に工具による調整痕残す。上下、裏面欠損。

C区17号溝

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	土器 甕	覆土 1/2	口 22.5 底 14.8 高 15.0	①砂・赤色粒含む ②軟質③浅黄橙色	ロクロ成形後、内外面横ナデ。器表面の剥落激しい。	
番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴	
2	砥石	覆土 1/3	長(3.4) 幅 2.9 厚 1.5 重 23	砥沢石	表面に使用面、横方向の擦痕有り。裏・両側面に平タガネ痕残る。上部と下端の一部欠損。	

C区18号溝

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
1	砥石	覆土 ほぼ完形	長 22.3 幅 7.9 厚 7.5 重 2478	流紋岩	表、両側に使用面。特に両側の使用度高い。裏、上下面には平タガネ痕残る。裏面褐鉄附着。

C区26号溝

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	磁器 碗	覆土 2/3	口 7.6 底 3.0 高 4.1	①均質②良好 ③明青灰色	外面に染付、絵柄は草花。	肥前。18C前半。
2	磁器 碗	覆土 2/3	口(7.9) 底 3.1 高 4.0	①均質②良好 ③灰白色	外面に染付、絵柄は草花。	肥前。18C前半。
3	磁器 碗	覆土 1/4	口(9.9) 底(3.1) 高 5.0	①均質②良好 ③灰白色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹。高台内に不明銘。	肥前(波佐見)。 18C中～19C初
4	磁器 碗	覆土 底部破片	底(3.9)	①均質②良好 ③明青灰色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹か。高台内に不明銘。	肥前(波佐見)。 18C中～19C初
5	磁器 碗	覆土 1/5	口(9.9) 底(4.0) 高 4.8	①均質②良好 ③明青灰色	内外面に染付、絵柄は二重網目文。高台内に銘、渦福か。	肥前。18C前半。
6	磁器 猪口	覆土 2/3	口 6.9 底 3.7 高 5.0	①均質②良好 ③明青灰色	外面に染付、絵柄は雨降文。	肥前。18C前半。
7	磁器 皿	覆土 1/6	口(11.4) 底(4.8) 高 2.9	①均質②やや不良 ③明青灰色	内面に染付、絵柄は草花網目文か。生掛け。	肥前。17C中葉。
8	磁器 皿	覆土 破片	口(9.5) 底(3.5) 高 2.9	①均質②良好 ③明青灰色	内外面に染付、絵柄は外面草花、内面楓と草花。	肥前。
9	磁器 皿	覆土 底部破片	底(8.5)	①均質②良好 ③明青灰色	内外面染付、絵柄蛸唐草、見込みに三方割銀杏。高台内筒江銘。蛇ノ目凹形高台。	肥前。18C後半。
10	陶器 碗	覆土 1/2	口(10.6) 底 4.2 高 6.7	①細粒②普通 ③灰色	陶胎染付。外面に染付、絵柄は山水か。	肥前。17C末～18C中葉。
11	陶器 碗	覆土 口縁破片	口(9.9)	①均質②普通 ③オリーブ灰色	陶胎染付。外面に染付、絵柄は不明。	肥前。17C末～18C中葉。
12	陶器 碗	覆土 1/3	底 4.2	①均質②やや不良 ③灰色	陶胎染付。外面に染付、絵柄は不明。	肥前。17C末～18C中葉。
13	陶器 碗	覆土 1/3	底 4.9	①微砂含む②普通 ③灰色	陶胎染付。外面に染付、絵柄は山水か。	肥前。17C末～18C中葉。
14	陶器 碗	覆土 破片	底 5.2	①均質②普通 ③灰色	陶胎染付。外面に染付、絵柄は不明。	肥前。17C末～18C中葉。
15	陶器 碗	覆土 底部破片	底 4.8	①細粒②普通 ③灰色	陶胎染付。外面に染付、絵柄は不明。	肥前。17C末～18C中葉。
16	陶器 碗	覆土 1/4	口(7.0) 底(2.9) 高 3.9	①細粒②普通 ③灰白色	内外面に施釉。	瀬戸・美濃。18C中～後葉。
17	陶器 碗	覆土 1/2	口(9.7) 底 4.3 高 5.5	①細砂含む②普通 ③灰白色	内面から外面上半に灰釉、外面下半に鉄釉施す。体部外面に沈線4本。いわゆる腰鎗碗。	瀬戸・美濃。18C後半。
18	陶器 碗	覆土 3/4	口 10.6 底 5.0 高 7.6	①細粒②普通 ③オリーブ色	内面から高台脇に施釉。口縁部は白色の釉再度かける。尾呂茶碗。	瀬戸・美濃。18C前半。

番号	種類	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
19	陶器 碗	覆土 2/3	口(11.9) 底 5.4 高 6.9	①砂粒含む②普通 ③オリーブ色	内面から高台脇に施釉。口縁部内外面にうの ふ釉再度かける。尾呂茶碗。	瀬戸・美濃。18C 前半。
20	陶器 碗	覆土 口縁破片	口(10.5)	①細砂含む②普通 ③オリーブ色	内面から外面高台脇に施釉。口縁内外面に白 色釉再度かける。尾呂茶碗。	瀬戸・美濃。18C 前半。
21	陶器 碗	覆土 3/4	口 11.3 底 4.5 高 7.6	①均質②やや良 ③にぶい黄橙色	内外面に透明釉施釉。	肥前。17C後半。
22	陶器 碗	覆土 口縁破片	口(11.4)	①細砂含む②普通 ③オリーブ色	内面から外面高台脇まで施釉。尾呂茶碗。	瀬戸・美濃。18C 前半。
23	陶器 碗	覆土 1/4	底 4.2	①細砂含む②普通 ③オリーブ色	内面から外面上半に施釉。	瀬戸・美濃。
24	陶器 皿	覆土 3/4	口 11.5 底 6.5 高 3.2	①砂粒含む②普通 ③浅黄色	内面から外面高台脇に灰釉施釉。内面に型紙 による文様。絵柄は草花。内面トチン痕有り	瀬戸・美濃。18C 初～中葉。
25	陶器 皿	覆土 1/3	口(11.2) 底(7.4) 高 2.5	①細粒②良好 ③灰白色	内面から外面上位に灰釉施す。見込み輪ハギ。	瀬戸・美濃。18C 前半。
26	陶器 皿	覆土 底部破片	底(6.1)	①細砂含む②普通 ③灰黄色	内面から高台内長石釉。高台内の施釉は部分 的。高台内1、内底に2個円錐ピン痕残る。	瀬戸・美濃。17C
27	陶器 菊皿	覆土 破片		①砂粒わずか含む ②普通③オリーブ灰色	灰釉に銅緑釉を流す。	瀬戸・美濃。17C
28	陶器 香炉	覆土 完形	口 12.2 底 8.8 高 6.7	①細粒②普通 ③明黄褐色	外面から内面口縁部に鉄釉施す。脚3個貼付。 内面の剝落激しい。外面に引っ付き痕。	瀬戸・美濃。17C 後～18C初頭。
29	陶器 香炉	覆土 破片	口(5.4)	①細粒②やや不良 ③灰白色	口縁部から体部外面に施釉。釉は白濁する。	瀬戸・美濃。18C ～19C前葉。
30	陶器 德利	覆土 2/3	底 6.5	①細粒②普通 ③灰白色	外面と内面口縁部に透明釉施す。	瀬戸・美濃。
31	陶器 搦鉢	覆土 1/5		①粗砂含む②普通 ③極暗褐色	器形の歪み激しい。内外面鉄釉施す。内面使 用により平滑。	瀬戸・美濃。大塚 期。16C後～末
32	陶器 搦鉢	覆土 1/3	底(15.4)	①粗砂多く含む ②やや良③赤褐色	焼締陶。胎土にまれに小礫含む。	信楽?
33	陶器 搦鉢	覆土 底部破片	底(15.8)	①粗砂含む②良好 ③赤色	焼締陶。内面使用により平滑。	堺・明石。
34	陶器 搦鉢	覆土 口縁破片	口(32.7)	①砂粒含む②やや 良③褐色	内外面に錆釉施す。	瀬戸・美濃。
35	陶器 搦鉢	覆土 破片		①粗砂含む②普通 ③暗赤褐色	全面に錆釉施す。	瀬戸・美濃。江戸 時代。
36	土器 人形	覆土 1/3		①砂粒含む②良好 ③橙色	土製人形。恵比寿か。中は中空。	
37	土器 焙烙	覆土 一部欠損	口 38.9 底 33.4 高 5.6	①砂粒含む②軟質 ③黒色	紐作り。ロクロ成形後、内面と外面上半丁寧 な横ナデ、外面下部強い指ナデ。	在地系土器。江戸 時代。
38	土器 焙烙	床面直上 1/2	口 34.5 底 32.0 高 5.3	①砂粒含む②軟質 ③黒色	紐作り、ロクロ成形。平底。内面に耳2個残 存。外面にスス附着。	在地系土器。江戸 時代。
39	土器 焙烙	覆土 破片	口(35.3) 底(33.7) 高 5.3	①砂粒含む②軟質 ③黒色	紐作り。ロクロ成形後内外面横ナデ。内耳2 個残存。外面にスス附着。	在地系土器。江戸 時代。
40	土器 焙烙	覆土 破片	口(40.5) 底(37.6) 高 5.6	①細砂含む②軟質 ③黒色	紐作り。ロクロ成形後、内面横と外面口縁横 ナデ、外面下半ケズリ。平底。外面スス附着。	在地系土器。江戸 時代。
41	土器 焙烙	覆土 1/5	口(36.2) 底(33.8) 高 5.1	①砂粒含む②軟質 ③黒色	紐作り、ロクロ成形。平底。外面にスス附着。	在地系土器。江戸 時代。
42	土器 焙烙	覆土 破片	口(36.2) 底(33.8) 高 5.4	①細砂含む②軟質 ③黒色	紐作り、ロクロ成形。平底。内面に耳の剝落 痕1ヶ所。底部に補修孔1個。	在地系土器。江戸 時代。
43	土器 焙烙	覆土 破片	口(36.6) 底(33.4) 高 5.3	①砂粒含む②軟質 ③黒色	紐作り、ロクロ成形。平底。内面に耳の剝落 痕1ヶ所。	在地系土器。江戸 時代。
44	土器 焙烙	覆土 破片	口(37.0) 底(34.0) 高 5.1	①細砂含む②軟質 ③黒色	紐作り、ロクロ成形。平底。内外面に接合痕。 内耳の痕跡1個。内外面スス附着。	在地系土器。江戸 時代。
45	土器 焙烙	覆土 1/4	口(36.4) 底(25.0) 高 8.9	①砂粒含む②軟質 ③黒色	紐作り。ロクロ成形後内面丁寧な横ナデ、外 面ケズリ。平底。内面底部剝落激しい。	在地系土器。江戸 時代。
46	土器 土鍋	覆土 一部欠損	口 34.9 底 20.3 高 11.8	①砂粒含む②軟質 ③黒色	紐作り。ロクロ成形後、内面と外面上半横ナ デ、外面下半ケズリ。平底。外面に被熱痕。	在地系土器。江戸 時代。
47	土器 土鍋	覆土 1/4	口(37.1) 底(18.2) 高 11.5	①細粒②軟質 ③黒色	紐作り。ロクロ成形後、内外面横ナデ。平底。 外面にスス附着。	在地系土器。江戸 時代。
48	土器 土鍋	覆土 破片		①砂・赤色粒含む ②軟質③黒色	紐作り、ロクロ成形。平底。外面にスス附着。	在地系土器。江戸 時代。

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
49	砥石	覆土 一部欠損	長(10.7) 幅 2.9 厚 1.8 重 81	砥沢石	表面に使用面、下部わずかに内湾。裏面、両側に櫛歯タガネ痕有り。両端欠損。
50	砥石	覆土 3/4	長(11.7) 幅 3.3 厚 1.5 重 85	砥沢石	表面に使用面、非常に平滑。中央わずかに内湾。裏面、両側に櫛歯タガネ痕。上端の一部と下端を欠損。
51	不明石 製品	覆土 完形	長 8.5 幅 4.3 厚 3.1 重 131	粗粒輝石 安山岩	全面を研磨。表裏は特に平滑。小型の砥石か。
52	磨石	覆土 完形	長 4.9 幅 4.4 厚 1.2 重 45	粗粒輝石 安山岩	全面を研磨して薄い盤状に整形。表裏の研磨度高い。
53	磨石	覆土 完形	長 7.4 幅 6.6 厚 3.0 重 162	粗粒輝石 安山岩	円盤状の円礫。表裏に研磨面。
54	石鉢	覆土 口縁破片	口(33.6) 重 519	粗粒輝石 安山岩	金属製の工具で整形。内面と口唇部は研磨される。内面の研磨は使用痕の可能性有り。

C区27号溝

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	磁器 皿	覆土 2/3	口(11.8) 底 5.0 高 2.8	①均質②良好 ③明青灰色	内面に染付、絵柄は草花網目文。外面に釉ムラ。生掛け。	肥前。17C中葉。
2	陶器 灯明受皿	覆土 2/3	口 11.1 底 5.0 高 2.1	①細砂含む②良好 ③極暗赤褐色	内面から外面上位に施釉。内面に突帯、大半は欠損。くり抜き3ヶ所。内外面油煙付着。	志戸呂。
3	土器 焙烙	床面直上 破片	口(38.6) 底(35.6) 高 5.0	①砂粒含む②軟質 ③黒色	紐作り。ロクロ成形後、内外面横ナデ。内耳1個残存。	在地系土器。江戸時代。

C区33号溝

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	鎌	覆土 一部欠損	長(15.9) 幅2.4 厚0.3 重29.3	表裏錆による劣化激しい。両端欠損。

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
2	砥石	覆土 3/4	長(13.4) 幅 4.2 厚 3.3 重 253	砥沢石	表裏、両側面に使用面。表面・左側使用度高く、裏面、右側は低い。上面に平タガネ痕残る。

D区2号溝

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	磁器 碗	覆土 ほぼ完形	口 9.7 底 3.6 高 4.8	①均質②良好 ③明青灰色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹。高台内に不明銘。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
2	磁器 碗	覆土 2/3	口 10.3 底 4.0 高 5.4	①均質②やや良 ③青灰色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹。高台内に不明銘。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
3	磁器 碗	覆土 2/3	口 9.9 底 4.3 高 5.3	①均質②良好 ③明青灰色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹。高台内に不明銘。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
4	磁器 碗	覆土 1/3	口(9.2) 底(3.5) 高 5.0	①均質②良好 ③緑灰色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹か。高台内に不明銘。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
5	磁器 碗	覆土 1/2	口(8.4) 底(3.2) 高 4.4	①均質②やや良 ③明青灰色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹か。	肥前(波佐見)。18C後～19C前
6	磁器 碗	覆土 1/3	口(9.8) 底(4.3) 高 5.2	①均質②やや不良 ③灰白色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹か。高台内に不明銘。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
7	磁器 碗	覆土 1/4	口(9.1) 底(3.5) 高 5.0	①均質②普通 ③灰白色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹か。	肥前(波佐見)。18C後～19C前
8	磁器 碗	覆土 底部破片	底(4.0)	①均質②良好 ③明緑灰色	外面に染付、絵柄は雪輪梅樹か。高台内に不明銘。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
9	磁器 碗	覆土 1/4	口(9.7) 底 3.7 高 5.1	①均質②普通 ③明緑灰色	外面にコンニャク版による染付。高台内に銘、渦福か。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
10	磁器 碗	覆土 一部欠損	口 8.4 底 2.7 高 4.5	①均質②良好 ③白色	内外面に染付。線刻した後にダミを入れる。絵柄は草花か。	瀬戸・美濃。19C前～中葉。
11	磁器 碗	覆土 2/3	口 7.6 底 3.2 高 3.7	①均質②良好 ③明青灰色	外面に染付、絵柄は葉か。内面底部に「寿」。	瀬戸・美濃。19C前葉。
12	磁器 碗	覆土 底部破片	底 3.3	①均質②良好 ③白色	外面に染付、絵柄は不明。内面底部に簡略化した松竹梅。高台内焼継のサイン有り。	瀬戸・美濃。19C中～後葉。
13	磁器 碗	覆土 底部破片	底(4.0)	①均質②良好 ③明青灰色	内外面に染付。	瀬戸・美濃。19C前～中葉。

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
14	磁器 碗	覆土 1/4	口(10.6) 底(3.6) 高 5.5	①均質②良好 ③明青灰色	内外面に染付。外面絵柄は不明だが、13と同じ。	瀬戸・美濃。19C前～中葉。
15	磁器 碗	覆土 2/3	口 6.8 底 3.1 高 4.7	①均質②良好 ③明青灰色	内外面に染付。	瀬戸・美濃。19C前～中葉。
16	磁器 碗	覆土 1/3	口(10.6) 底 4.5 高 5.8	①均質②やや良 ③白色	内外面に染付、外面絵柄は兎と草花。高台内面に不明銘。	製作地不詳。
17	磁器 碗	覆土 1/3	口(6.8) 底(3.4) 高 5.3	①均質②良好 ③白色	白磁。内面底部に型による施文。高台内に押印。口錆。	瀬戸・美濃。19C前～中葉。
18	磁器 碗	覆土 1/3	口(6.9) 底(2.9) 高 4.7	①均質②良好 ③白色	白磁。内面底部型による施文。口錆。	瀬戸・美濃。19C前～中葉。
19	磁器 碗	覆土 1/5	口(7.3) 底(3.7) 高 6.0	①均質②良好 ③白色	外面に染付、絵柄は松竹梅か。	肥前? 19C中葉。
20	磁器 碗	覆土 口縁破片	口(7.1)	①均質②良好 ③灰白色	筒型碗。外面に染付、絵柄は菊花。	肥前。18C中～19C初頭。
21	磁器 碗	覆土 1/3	口(7.1) 底 3.2 高 5.0	①均質②普通 ③灰白色	筒型碗。外面に染付、絵柄は菊花。見込みに五弁花。	肥前。18C中～19C初頭。
22	磁器 碗	覆土 底部破片	底 3.6	①均質②不良 ③灰白色	筒型碗。外面染付、絵柄は体部に雪輪、底部に折れ松葉。見込みコンニャク版の五弁花。	肥前。18C中～後葉。
23	磁器 小碗	覆土 1/2	口(7.6) 底(2.6) 高 3.5	①均質②良好 ③明青灰色	外面に染付、絵柄は笹。	肥前(波佐見)。18C後～19C前
24	磁器 杯	覆土 2/3	口(6.4) 底 2.7 高 3.5	①均質②良好 ③白色	外面に染付。口縁部端反り。	瀬戸・美濃。19C前～中葉。
25	磁器 皿	覆土 2/3	口(13.3) 底(6.8) 高 3.0	①均質②普通 ③明緑灰色	内面に染付、絵柄は唐草。見込みにコンニャク版による五弁花。内面蛇ノ目軸ハギ。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
26	磁器 皿	覆土 3/4	口 13.4 底 6.4 高 3.0	①均質②良好 ③明緑灰色	内面に染付、絵柄は唐草。見込みにコンニャク版による五弁花。内面蛇ノ目軸ハギ。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
27	磁器 皿	覆土 1/5	口(13.7) 底(7.6) 高 3.0	①均質②良好 ③明緑灰色	内面に染付、絵柄は唐草。内面蛇ノ目軸ハギ、見込みに五弁花か。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
28	磁器 皿	覆土 1/4	口(12.8) 底(6.9) 高 3.8	①均質②普通 ③緑灰色	内外面に染付、外面唐草、内面草花。高台内に銘、渦福か。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
29	磁器 皿	覆土 破片	口(12.7) 底(6.4) 高 3.8	①均質②普通 ③緑灰色	内外面染付、外面唐草、内面草花。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
30	磁器 皿	覆土 底部破片	底(6.8)	①均質②良好 ③明緑灰色	内外面に染付、外面唐草。見込みにコンニャク版による五弁花。高台内崩れ「渦福」銘。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
31	磁器 皿	覆土 1/3	口 13.2 底 7.9 高 3.5	①均質②普通 ③緑灰色	内外面に染付、外面唐草。内面雪持ち笹。	肥前(波佐見)。18C中～19C初
32	磁器 猪口	覆土 口縁破片	口(7.3)	①均質②やや良 ③灰白色	内外面に染付、外面絵柄は格子文。	肥前。18C後～19C前葉。
33	磁器 鉢	覆土 1/4	口(10.8) 底(4.8) 高 4.4	①均質②良好 ③明青灰色	内外面に染付。八角鉢。	肥前。19C前～中葉。
34	磁器 鉢	覆土 一部欠損	口 8.3 底 4.4 高 7.5	①均質②良好 ③明青灰色	内外面に染付。高台内に「太化年製」の崩れ銘。	肥前。19C前～中。
35	磁器 鉢	覆土 1/4	口(17.7)	①均質②良好 ③明青灰色	外面青磁釉、内面透明釉。内面に染付、口縁部に派頭文。	肥前。18C中葉。
36	磁器 鉢	覆土 1/4	口(18.6) 底(10.0) 高 8.4	①黒色微粒子含む ②良好③明青灰色	内外面に青磁釉。蛇ノ目凹形高台。	肥前。
37	磁器 香炉?	覆土 1/3	口(9.4) 底(7.4) 高 4.9	①均質②良好 ③緑灰色	内外面に青磁釉。蛇ノ目高台。高台蛇ノ目部分に鉄泥施す。	肥前。18～19C。
38	磁器 器種不明	覆土 底部破片	底 5.3	①均質②良好 ③緑灰色	外面の施釉厚くオリーブ灰色呈する。外面に染付、絵柄は木か。外面底部に鉄泥施す。	肥前? 江戸時代。
39	磁器 蓋	覆土 1/2	口(9.3) 摘 4.6 高 2.8	①均質②良好 ③灰白色	広東形碗の蓋。内外面に染付、外面稲束に鳥。	肥前。18C末～19C前葉。
40	陶器 碗	覆土 1/2	口(9.6) 底 4.3 高 5.8	①細粒②やや不良 ③灰白色	内面から外面上半に灰釉、外面下半に鉄釉施す。外面体部に沈線3本。いわゆる腰錆碗。	瀬戸・美濃。18C後葉。
41	陶器 碗	覆土 1/4	口(9.5) 底(4.2) 高 5.7	①細粒②普通 ③灰白色	内面から外面上位に灰釉、外面下半に鉄釉施す。外面体部に沈線4本。いわゆる腰錆碗。	瀬戸・美濃。18C後葉。
42	陶器 碗	覆土 3/4	口 9.0 底 4.2 高 5.8	①細粒②普通 ③灰白色	内面から外面上位に灰釉、外面下半に鉄釉施す。体部に沈線4本。いわゆる腰錆碗。	瀬戸・美濃。18C後葉。
43	陶器 碗	覆土 口縁破片	口(9.3)	①細粒②普通 ③灰白色	内面から外面上位に灰釉、外面下半に鉄釉施す。いわゆる腰錆碗。	瀬戸・美濃。19C前半。

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
44	陶器 碗	覆土 1/4	口(7.9)	①細砂含む②やや不良③灰白色	内面から外面上位に灰釉、外面下半に鉄釉施す。外面上位に沈線2本。いわゆる腰錆碗。	瀬戸・美濃。19C前半。
45	陶器 碗	覆土 破片	口(9.9)	①細粒②普通③灰白色	内面から外面上位に灰釉、外面下半に鉄釉施す。外面体部に沈線3本。いわゆる腰錆碗。	瀬戸・美濃。18C後葉。
46	陶器 碗	覆土 1/2	口(12.4) 底(4.3) 高 6.2	①細粒②やや不良③緑灰色	内面から外面高台脇に施釉。外面に鉄絵具により松状の文様。	瀬戸・美濃。18C末～19C前葉。
47	陶器 碗	覆土 1/3	口(9.8)	①細粒②やや不良③にぶい黄橙色	内面白化粧。外面鉄絵具と白土より梅花文描く。貫入のある透明釉全面に施釉。	瀬戸・美濃? 19C前～中葉。
48	陶器 碗	覆土 口縁破片	口(9.9)	①細粒②やや不良③淡黄色	内面から高台脇まで貫入のある透明釉施す。外面に染付、絵柄は不明。	瀬戸・美濃。18C後葉。
49	陶器 碗	覆土 1/3	口(16.3) 底(9.0) 高 8.6	①細粒②普通③浅黄色	内面から外面高台脇に灰釉施す。内面底部に目痕1ヶ所残る。	瀬戸・美濃。18C中葉。
50	陶器 碗	覆土 1/3	口(7.0) 底(3.5) 高 5.4	①細粒②やや不良③灰白色	筒形碗。外面に染付、絵柄は菊花。見込み略した五弁花。	瀬戸・美濃。18C後～19C前葉。
51	陶器 灯明皿	覆土 2/3	口 11.5 底 4.5 高 2.5	①均質②良好③灰白色	内面～口縁部に貫入ある灰釉。内面三条のカキ目、目痕3ヶ所。外面にトチン痕。油付着。	信楽? 19C前～中葉。
52	陶器 灯明皿	覆土 1/5	口(10.0) 底(4.4) 高 1.3	①均質②良好③暗赤褐色	外面口縁部以下釉を拭い取る。内面錆釉。焼け歪み激しい。底部内外面に重ね焼の痕跡。	瀬戸・美濃。19C前葉。
53	陶器 灯明受皿	覆土 2/3	口(9.8) 底 4.4 高 2.1	①均質②良好③暗褐色	全面錆釉施後、外面口縁部以下を拭い取る。内面に突帯、切れ目1ヶ所。外面に重ね焼痕。	瀬戸・美濃。18C後～末。
54	陶器 灯明受皿	覆土 2/3	口 10.6 底 4.0 高 2.0	①均質②やや良③灰白色	内面から外面口縁部に灰釉施す。内面に突帯、切れ目1ヶ所。内外面スス付着。	信楽? 19C。
55	陶器 灯明受皿	覆土 一部欠損	口 8.3 底 3.8 高 1.5	①均質②やや良③灰白色	内面に灰釉施す。内面に突帯、切れ目1ヶ所。口縁に一部油煙付着。	信楽? 19C。
56	陶器 灯明受皿	覆土 1/2	口(10.0) 底(4.4) 高 1.7	①砂粒含む②やや良③極暗褐色	全面錆釉施後、外面口縁部以下を拭き取る。内面に突帯、切れ目1ヶ所。内面油付着。	瀬戸・美濃。18C後～末。
57	陶器 皿	覆土 1/3	口(14.2) 底(8.7) 高 3.0	①細粒②普通③灰白色	内面から高台脇に灰釉施す。内面に鉄絵。底部内面と高台端部に目痕3～4ヶ所残る。	益子。19C中～後葉。
58	陶器 皿	覆土 底部破片	底(7.8)	①砂粒含む②普通③明赤褐色	内面褐色釉、外面焦げ茶色の釉を雑に施す。小さい脚2個残る。本来は3個貼付か。	製作地不詳。
59	陶器 乗燭	覆土 破片	口(3.9)	①細砂含む②やや良③黒褐色	手付瓶形乗燭。内外面鉄釉、蓋受部は無釉。灯心受片口状に突出。下段油皿部1対の小孔。	製作地不詳。18～19C。
60	陶器 香炉	覆土 2/3	口 5.4 底 3.2 高 4.7	①砂粒含む②やや良③灰白色	内面口縁から外面体部に灰釉施す。	瀬戸・美濃。18～19C。
61	陶器 土瓶蓋	覆土 ほぼ完形	底 7.6 高 2.3	①砂粒含む②良好③灰白色	外面に灰釉施す。天井部内面は回転ヘラケズリにより抉り込む。	瀬戸・美濃? 江戸時代。
62	陶器 徳利	覆土 1/3		①均質②やや不良③浅黄橙色	外面に透明釉、口縁部には銅緑釉施す。口縁は窩口。	瀬戸・美濃? 19C。
63	陶器 搦鉢	覆土 口縁破片	口(29.0)	①粗砂含む②良好③暗赤褐色	焼締陶。内外面に施釉。	堺・明石。
64	陶器 搦鉢	覆土 底部破片	底(15.9)	①砂粒含む②良好③暗赤褐色	焼締陶。外面底部除き内外面に施釉。内面底部にも搦目。	堺・明石。18C後～19C中葉。
65	陶器 搦鉢	覆土 破片		①砂粒含む②普通③暗赤褐色	全面に錆釉施す。D区1井-26と同一個体か。	瀬戸・美濃。19C前葉。
66	土器 焙烙	覆土 破片	口(35.8) 底(31.5) 高 4.7	①砂粒含む②軟質③にぶい黄橙色	紐作り。ロクロ成形後、内外面横ナデ、外面下部強いナデ。平底。内耳1個残存。	在地系土器。江戸時代。
67	土器 焙烙	覆土 破片	口(41.2) 底(37.8) 高 5.7	①細砂含む②軟質③黒色	紐作り。ロクロ成形後内外面横ナデ、外面下部ヘラケズリ。外面に指頭痕。底部に補修孔	在地系土器。江戸時代。
68	土器 焙烙	覆土 破片	口(34.9) 底(32.7) 高 5.1	①細砂含む②軟質③黒色	紐作り。ロクロ成形後内外面横ナデ、外面下部ヘラケズリ。平底。補修孔1対。内耳1個	在地系土器。江戸時代。
69	土器 焙烙	覆土 破片	口(39.1) 底(35.8) 高 4.9	①細砂含む②軟質③浅黄橙色	紐作り。ロクロ成形後内外面横ナデ。平底。内耳1個残存。内外面にスス付着。	在地系土器。江戸時代。
70	土器 焙烙	覆土 破片	口(40.7) 底(37.7) 高 5.6	①砂・赤色粒含む②軟質③灰黄褐色	平底。紐作り。ロクロ成形後内外面横ナデ、外面下部ヘラケズリ。内耳1個残存。	在地系土器。江戸時代。
71	土器 壺	覆土 2/3	口 21.5 底 15.9 高 16.7	①砂粒含む②軟質③褐色	ロクロ調整。内面斜め方向のナデ。器表面の剝落激しい。	在地系土器。江戸時代。
72	土器 火鉢	覆土 1/3	口(20.0) 底(14.1) 高 9.4	①砂粒含む②軟質③黒色	ロクロ調整。外面口縁下に沈線2本、その下位に型による施文。底部に脚2個残存。	在地系土器。江戸時代。
73	土器 土鍋	覆土 破片	口(31.8)	①砂粒含む②軟質③黒色	紐作り、ロクロ成形後内外面横ナデ。外面に指頭痕。	在地系土器。江戸時代。

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
74	土器 火鉢	覆土 破片	高 9.6	①粗砂含む②軟質 ③橙色	土師質。方形。板作りで四足貼付と思われる。 外面に一部スス付着。	在地系土器。江戸 時代？
75	土器 器種不明	覆土 一部欠損	長 26.0 幅 6.2 高 6.7	①粗砂含む②軟質 ③橙色	器種・用途不明。側面に補修孔1対、底面に 小穴4個。外面にスス付着。	在地系土器？江戸 ～近現代。
76	土器 火もらい	覆土 1/5		①砂粒含む②やや 良③暗褐色	土師質。ロクロ成形。上部に橋形の持ち手。 正面に大窓、裏面に通気用の小穴。	在地系土器。江戸 ～近現代。
番号	器種	出土状況	残存状況	法 量 (cm・g)	特 徴	
77	不明	覆土	基部破片	長(8.6) 幅 1.9 厚 1.1 重 22.2	基部表面に小孔2個、裏面に1個。間に斜めに細い棒状の金属通 す。両側表面に棒状金属を接合した痕跡。	
番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴	
78	不明石 製品	覆土 1/2	長(5.7) 幅 3.0 厚 1.9 重 47	砂岩	全面研磨し、端部がすばまり丸味を帯びた角柱状に整形。表裏の研磨度強く 平滑。上部欠損。小型の砥石か。	
79	砥石	覆土 1/3	長(7.9) 幅(2.7) 厚 2.2 重 52	頁岩	表裏に使用面。左側は工具で調整後弱い研磨。両端、右側欠損。	
80	磨石	覆土 一部欠損	長(7.4) 幅 4.5 厚 2.4 重 80	粗粒輝石 安山岩	盤状の円縁の表裏に研磨面。表面は研磨度強く平坦な面をなすが、裏面は弱 い。	
81	板碑	覆土 破片	長(6.2) 幅(10.4) 厚 2.0 重 281	緑色片岩	板碑破片。上下両端と左側欠損。裏面に整形時の工具痕残る。右側辺には研 磨痕見られる。破損後に再利用したものか。	
82	石鉢	覆土 1/2	長(14.6) 幅 10.0 重 970	粗粒輝石 安山岩	全面に製作時の調整痕残すが、外面はより丁寧に仕上げている。内面底部に わずかにススが付着。	

遺構外

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	D区表採 底部破片	底 6.1	①砂・赤色粒含む ②普通③橙色	ロクロ成形。外面底部から体部回転ヘラズ リ。酸化炎焼成。	8C前半。
2	陶器 耳付水注	C区表採 破片	口(3.9)	①細粒②普通 ③暗褐色	内外面に鉄釉。注口部分一部欠損。	瀬戸・美濃。大窯 期。16C中葉。
3	陶器 甕	C区表採 破片		①砂粒含む②普通 ③灰オリーブ色	甕の頸部破片。外面に施釉。内面に接合痕、 指頭圧痕有り。	知多窯。14～15C。
4	磁器 碗	C区表採 1/2	口(8.2) 底(3.8) 高 4.3	①均質②良好 ③明青灰色	外面に染付、絵柄は草花か。	肥前(波佐見)。 19C前～中葉。
5	磁器 碗	D区表採 破片	底(3.5)	①均質②良好 ③明青灰色	外面に染付、絵柄は不明。	肥前(波佐見)。 18C中～後葉。
6	磁器 碗	C区表採 破片	口(9.4)	①均質②良好 ③灰白色	内外面染付、絵柄は不明。	瀬戸・美濃。
7	磁器 碗	B区表採 1/4	口(9.4) 底(3.0) 高 4.8	①均質②良好 ③明青灰色	内外面に染付、絵柄は外面菊、内面口縁に幾 何学文。焼継ぎ有り。	瀬戸・美濃。19C 中～後葉。
8	磁器 小杯	A区表採 底部破片	底 3.0	①均質②良好 ③灰白色	外面に染付、絵柄は草か。	肥前。18C
9	磁器 碗	D区表採 1/2	口(7.9) 底(4.0) 高 6.5	①均質②良好 ③灰白色	筒形碗。外面青磁、内面に染付。底部内面コ ンヤク版による五弁花。	肥前。18C中～後 葉。
10	磁器 仏飯器？	C区表採 破片	口(7.6)	①均質②良好 ③灰白色	外面に染付、絵柄は笹。	肥前(波佐見)。18 ～19C。
11	磁器 皿	B区表採 底部破片	底(6.9)	①均質②良好 ③明青灰色	内面に染付、絵柄は不明。	肥前。
12	磁器 香炉	B区表採 破片	口(13.2)	①均質②良好 ③明緑灰色	口縁部内面から体部外面に青磁釉。内面に砂 付着。	肥前。18C後～19 C。
13	磁器 香炉？	B区表採 底部破片	底(11.5)	①均質②良好 ③灰白色	外面に染付、絵柄は不明。釉に貫入する。内 面にロクロ目残る。底部に脚1ヶ所残存。	肥前。17～18C。
14	磁器 レンゲ	C区表採 完形	長 11.0 幅 4.5 高 4.5	①均質②良好 ③白色	高台端部のみ無釉。内面に濃み地白抜きによ る菊花文？	製作地不詳。清朝 か？ 19C？
15	磁器 戸車	C区表採 ほぼ完形	直径 7.5 厚 1.7	①均質②良好 ③灰白色	側面と中央穴の内側に施釉。表裏の外周に沿 って使用痕。側面・内面使用により平滑。	肥前？ 19C？
16	磁器 戸車	C区表採 1/3	直径(9.2) 厚 1.9	①均質②良好 ③灰白色	側面全周と表裏外縁、内面に施釉。施釉部は 使用による摩耗有り。	肥前？ 19C？
17	陶器 碗	D区表採 2/3	口(9.6) 底 3.6 高 4.9	①均質②普通 ③灰白色	内面白土がけ。高台端部除き貫入ある灰釉。 口縁外面に白土で梅花、鉄絵具で枝を描く。	瀬戸・美濃。19C 中～後葉。

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
18	陶器 碗	C区表採 底部破片	底 4.9	①均質②良好 ③灰オリーブ色	内面から高台脇に灰釉施す。内面に目痕3ヶ所。	製作地不詳。江戸時代。
19	陶器 碗	B区表採 破片	口(6.6) 底(2.8) 高 5.6	①均質②やや不良 ③灰色	筒形碗。外面に染付、絵柄は菊花。	瀬戸・美濃。18C後～19C前葉。
20	陶器 碗	C区表採 ほぼ完形	口 7.5 底 4.4 高 3.4	①砂粒含む②良 ③明黄褐色	内面から体部外面に黄釉施す。釉薬は降灰により白濁する。	瀬戸・美濃。 18C?
21	陶器 碗	B区表採 2/3	口(7.8) 底 3.3 高 3.4	①細砂含む②やや良 ③暗褐色	外面体部上位と内面に鉄釉施す。	瀬戸・美濃。
22	陶器 碗	C区表採 2/3	口 8.4 底 3.9 高 3.0	①均質②良好 ③にぶい橙色	内面から外面口縁に黄釉。焼き締め弱く、素地は黄灰色。高台シャープな削り出し。	製作地不詳。江戸時代。
23	陶器 菊皿	B区表採 底部破片	底(6.4)	①砂粒含む②やや良 ③にぶい黄褐色	底部内面菊花状押印。体部内外面も花卉表す。内面～高台脇に灰釉。体部内面銅緑釉流す。	瀬戸・美濃。 17C。
24	陶器 皿	B区表採 破片	口(11.8) 底(6.4) 高 2.0	①砂粒含む②普通 ③灰白色	志野丸皿。内外面に施釉。	瀬戸・美濃。 17C。
25	陶器 皿	B区表採 破片	口(15.7) 底(8.1) 高 2.5	①砂粒含む②普通 ③灰白色	輪壳皿。内面から高台脇に灰釉施す。	瀬戸・美濃。18C前葉。
26	陶器 皿	C区表採 破片	口(11.8) 底 4.2 高 3.4	①均質②良好 ③灰白色	内面から外面口縁に青緑釉。内面蛇ノ目釉ハギ。内野山窯。	肥前。18C中～後葉。
27	陶器 皿	C区表採 底部破片	底 4.8	①均質②良好 ③灰白色	京焼風。内面鉄絵。内面～高台脇に細かい貫入する透明釉。素地焼き締め釉の光沢強い。	肥前。17C中～後葉。
28	陶器 皿	C区表採 破片		①細砂含む②やや良 ③暗オリーブ褐色	内外面黒褐色釉を施すが、底部内面は弧状に釉剥ぎが認められる。	肥前?江戸時代。
29	陶器 灯明受皿	B区表採 1/4	口(9.2) 底(3.9) 高 2.9	①砂粒含む②やや良 ③灰白色	内面から外面口縁に灰釉施す。内面に突帯。外面底部に粘土帯付着。	信楽?19C。
30	陶器 灯明受皿	D区表採 3/4	口 7.5 底 3.0 高 1.7	①細砂含む②良好 ③黒褐色	全面に鉄釉施した後に外面体部以下の釉を拭き取る。内面に突帯、切れ目1ヶ所。	瀬戸・美濃。
31	陶器 灯明受皿	A区表採 3/4	口 8.4 底 6.1 高 5.4	①均質②良好 ③灰白色	内外面に灰釉施す。器受部に突帯、切れ目1ヶ所。底部回転糸切り後ナデ。	製作地不詳。19C中～後葉。
32	陶器 乗燭	C区表採 3/4	口 3.6 底 2.9 高 4.0	①細砂含む②普通 ③橙色	土師質で焼き締め有り。内面に突起、突起部分に本体の固定穴あける。外面に透明釉。	製作地不詳。時期不詳。
33	陶器 香炉	C区表採 2/3	口 10.0 底 7.2 高 6.0	①細砂含む②良 ③灰白色	内面口縁から体部外面に黄釉施す。3足貼付。外面に1ヶ所丸ノミで松状の文様施す。	瀬戸・美濃。18C中～後葉。
34	陶器 香炉	C区表採 破片	口(9.4) 底(6.0) 高 5.4	①黒色微粒子含む ②良③灰白色	口縁内面から体部外面に胎釉施す。目痕1ヶ所残存。	瀬戸・美濃。18C中～後葉。
35	陶器 香炉	C区表採 底部破片	底(5.2)	①均質②やや良 ③オリーブ灰色	外面に灰釉施す。脚1個残存。	瀬戸・美濃。18C～19C。
36	陶器 香炉	C区表採 破片	底(5.1)	①細粒②普通 ③褐色	外面体部に施釉。	瀬戸・美濃。
37	陶器 徳利?	C区表採 破片		①細粒②良好 ③暗褐色	内面から外面体部下端に鉄釉施す。釉は非常に光沢強い。前橋藩窯陶器。	19C前～中葉。
38	陶器 仏飯器	C区表採 破片		①細粒②普通 ③灰白色	内外面に灰釉施す。	瀬戸・美濃。18C～19C。
39	陶器 水注?	D区表採 底部破片	底 6.0	①砂粒含む②良好 ③灰白色	内面から高台脇に灰釉。内面の施釉薄い。体部外面に1ヶ所鉄絵。外面に把手。	瀬戸・美濃。 18C
40	陶器 片口鉢	D区表採 1/2	口(11.7) 底 5.2 高 5.6	①細粒②普通 ③オリーブ色	内面から高台脇に施釉。	瀬戸・美濃。 19C。
41	陶器 練鉢	C区表採 底部破片	底(15.7)	①砂粒含む②普通 ③灰白色	内面から高台脇に灰釉施す。内面に重ね焼き時に粘土玉を置いた痕跡残る。	瀬戸・美濃。 19C。
42	陶器 播鉢	D区表採 口縁破片	口(29.9)	①砂粒含む②良好 ③暗赤褐色	焼締陶。ロクロ成形後体部外面ヘラケズリ。	堺・明石?18C末～19C。
43	陶器 播鉢	C区表採 底部破片	底 14.0	①多量の砂粒含む ②やや良③赤褐色	ロクロ成形。体部外面ヘラケズリ。内面の播目はやや崩れたいわゆるウールマーク。	堺・明石。18C後～19C中葉。
44	土器 器台	D区表採 底部破片	底 5.0	①砂粒含む②普通 ③橙色	ロクロ成形。底部回転糸切り後穿孔。その後内面に突帯貼付。	在地系土器?
45	土器 皿	C区表採 2/3	口 9.8 底 6.2 高 2.4	①砂粒含む②普通 ③橙色	ロクロ成形。底部は左回転糸切り後ナデ。	在地系土器。江戸時代。
46	土器 皿	D区表採 破片	口(9.4) 底(6.3) 高 1.8	①砂・赤色粒含む ②普通③橙色	ロクロ成形。器表面摩滅。	在地系土器。江戸時代。
47	土器 皿	C区表採 底部破片	底 6.0	①砂粒含む②やや不良 ③橙色	底部左回転糸切り、無調整。	在地系土器。江戸時代。

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
48	土器 皿	C区表探 底部破片	底 5.7	①砂・赤色粒含む ②普通③橙色	底部左回転糸切り、無調整。	在地系土器。江戸時代？
49	土器 焙烙	D区表探 破片	口(34.7) 底(35.2)	①砂粒含む②普通 ③橙色	丸底。内耳1個残存。外面にスス付着。	在地系土器。19C中～後葉
50	土器 焙烙	C区表探 破片	口(36.7) 底(34.0) 高 4.9	①細砂含む②軟質 ③黒色	外型型作り、ロクロ調整。平底。外面体部にスス付着。	在地系土器。江戸時代。
51	土器 焙烙	D区表探 破片	口(33.8) 底(34.6)	①砂・赤色粒含む ②軟質③橙色	丸底。内耳1個残存。内外面にスス付着。	在地系土器。19C中～後葉
52	土器 焙烙	D区表探 破片		①赤色粒含む②普通 ③橙色	外型作り、ロクロ調整。丸底。内耳の痕跡1ヶ所残る。	在地系土器。幕末～近現代。
53	土器 土鍋	C区表探 1/3	底(18.5)	①細砂含む②軟質 ③黒色	平底。ロクロ成形後内外面横ナデ。内外面黒色仕上げ。	在地系土器。19C～近現代。
54	土器 手あぶり	D区表探 1/2	口 22.6 底(16.6) 高 8.4	①赤色粒含む②軟質 ③鈍い黄褐色	ロクロ成形後、体部外面粗いミガキ。3足貼付と思われる。	在地系土器。江戸～近現代。
55	土器 火鉢	A区表探 破片	口(40.7)	①細砂含む②軟質 ③褐色	ロクロ成形後、体部外面下部ケズリ、他はナデ。内面から口唇部にミガキ。	
56	土器 風炉	B区表探 1/3	口(39.0) 底(29.4) 高(29.3)	①多量の粗砂含む ②普通③褐色	底部に切れ目。内外面スス付着。	在地系土器？ 江戸～近代。
57	土器 火鉢？	A区表探 破片	底(16.9)	①砂粒含む②軟質 ③灰黄色	外面に暗赤褐色の塗彩一部残る。高台端部は摩滅する。	在地系土器。江戸～近現代。
58	土器 植木鉢？	D区表探 破片	口(15.4)	①砂粒含む②やや 軟質③黒色	ロクロ成形。外面に指頭圧痕有り。器表面黒色仕上げ。	在地系土器。江戸～近現代。
59	土器 植木鉢	B区表探 底部破片	底 18.2	①赤褐色粒子含む ②普通③黒褐色	型作りか。ロクロ調整後、外面ヘラケズリ。底部外面に3足貼付。	在地系土器。江戸～近現代。
60	土器 十能	D区表探 柄破片		①砂粒含む②軟質 ③浅黄褐色	土師質。外型による型作り。柄・内面ナデ。柄は断面半円形。ススわずかに付着。	在地系土器。江戸～近代。
61	土器 十能	D区表探 柄破片		①砂粒含む②やや 良③橙色	土師質。外型による型作り。柄下面はケズリで形整える。柄に小孔あける。	在地系土器。江戸～近代。
62	土製品 緒じめ玉	C区表探 完形	直径 1.6 厚 1.5 重 3.44g	①細粒②良好 ③橙色	土製の緒じめ玉か。中央に穿孔。側面に刺突痕連続する。	江戸～近現代。
63	磁器 碗	C区表探 1/2	口(8.1) 底 2.5 高 4.6	①均質②良好 ③灰白色	外面ゴム印による施文。	製作地不詳。昭和。
64	磁器 猪口	C区33溝 2/3	口 4.9 底 1.6 高 2.7	①均質②普通 ③白色	白磁。外面に染付、絵柄は朝顔か。	瀬戸・美濃。明治？
65	磁器 小杯	C区表探 完形	口 2.8 底 0.9 高 1.6	①均質②良好 ③灰白色	型押し成形。外面に絵付けがあるが、剥落しているため絵柄は不明。ままと道具。	近現代。
66	磁器 皿	C区表探 破片	口(10.2) 底(6.2) 高 2.0	①均質②良好 ③白色	内面型紙による染付有り。	瀬戸・美濃。近代
67	磁器 碗	C区33溝 1/3	口(8.4) 底(3.3) 高 4.9	①均質②良好 ③白色	口縁外面緑色2条の染付線間にオレンジ色上絵線。体部外面オレンジ色幅広上絵線2条。	底部に統制番号。美濃。昭和。
68	磁器 碗	C区表探 3/4	口 8.1 底 3.5 高 4.9	①均質②良好 ③白色	口縁外面緑色2条染付線間オレンジ色上絵線。体部外面オレンジ色幅広上絵線。上位にも。	高台内統制番号。美濃。昭和。
69	磁器 碗	C区表探 一部欠損	口 8.7 底 3.2 高 4.8	①均質②良好 ③白色	口縁外面緑色2条染付線間オレンジ色上絵線。体部外面オレンジ色幅広上絵線。上位にも。	高台内統制番号。美濃。昭和。
70	磁器 碗	C区33溝 1/3	口(7.7) 底(2.8) 高 5.3	①均質②良好 ③白色	白磁。底部外面の統制番号のみ酸化コバルトによる染付。	美濃。昭和。
71	磁器 器種不明	C区33溝 完形	口 6.4 底 6.2 高 5.3	①均質②良好 ③灰白色	内面上半から外面に施釉。外面底部に「セ759」の統制番号有り。	美濃。昭和。
72	磁器 皿	C区33溝 破片	口(11.2) 底(6.0) 高 2.2	①均質②良好 ③灰白色	内面底部に染付、絵柄は松。高台内に型押しによる統制番号の一部残る。	瀬戸・美濃。昭和。
73	磁器 碗	C区33溝 3/4	口 7.4 底 3.1 高 5.1	①均質②普通 ③白色	白磁。外面に絵付け、桜か。	瀬戸・美濃？
74	磁器 碗	D区表探 完形	口 7.1 底 3.0 高 5.0	①均質②良好 ③白色	白磁。釉下彩。	昭和。
75	磁器 杯	C区表探 3/4	口 7.3 底 2.9 高 2.9	①均質②良好 ③白色	白磁。内面に砲台と「野戦重砲」、「除隊」・、高台内に「細井」の文字有り。	瀬戸・美濃。昭和
76	磁器 杯	C区表探 1/2	口(7.5) 底(3.0) 高 3.5	①均質②良好 ③白色	白磁。内面に桐と旗の絵、「歩兵」の文字。内面の金彩はほとんど剥落。	瀬戸・美濃。昭和
77	陶器 碗	C区表探 破片	底(3.5)	①均質②やや不良 ③灰白色	高台端部除き貫入のある透明釉施す。外面に酸化コバルトによる染付有り。	製作地不詳。近現代。

番号	種類	出土状況	残存状況	法	量	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考	
78	陶器 急須	D区2溝	口縁破片			①均質②良好 ③灰白色	体部外面白化粧部に染付。口縁から体部外面に灰釉。	笠間・益子?近現代。	
79	陶器 甕	C区33溝	破片	底(16.6)		①砂粒含む②良好 ③褐色	底部除き内外面に施釉。内面底部にトチン痕残存。	笠間・益子	
80	土器 徳利	C区33溝	完形	長 16.1 幅 7.5 高 9.2		①砂含む②やや不良 ③にぶい黄褐色	土師質土器。上部に把手が付く。板状に押し込んだものを貼り合わせて成形。	在地系土器。	
81	土器 釜	B区表採	破片			①砂粒含む②普通 ③にぶい橙色	内面から外面鏝上面に透明釉施す。外面下半にスス付着。	搬入系土器。近現代。	
82	土器 風炉	地区不明	1/3	口(24.2) 底(23.1) 高 14.7		①粗砂含む②軟質 ③赤褐色	筒形。脚は3足と思われる。内面にスス、灰付着。瓶掛け3ヶ所と思われ、2個残存。	在地系土器?近現代。	
83	土器 風炉	B区表採	破片	口(29.2)		①多量の粗砂含む ②軟質③灰褐色	外型による型作り。外面縦位突帯は型による。外面スス付着。	在地系土器?近現代。	
84	土器 七輪	B区表採	破片	底(16.6)		①粗砂含む②軟質 ③橙色	型作り。胎土は珪藻土か。3足貼付。火力調節窓有り。内面スス付着。	搬入系土器。近現代。	
85	土器 コンロ	B区表採	破片	底(14.2)		①砂、小礫含む ②普通③赤褐色	コンロの内筒部。外型による型作り。内面にスス付着。	在地系土器?近現代。	
86	土器 コンロ	C区表採	破片	底(30.2)		①多量の粗砂含む ②軟質③明褐色	土師質。外型による型作り。外面縦位突帯は型による。内面に突帯。切れ込み2ヶ所残存。		
87	土器 練炭おこし	B区表採	通気孔部			①砂粒含む②やや良 ③橙色	土師質。練炭おこしの通気孔部分破片。外面にスス、灰付着。量産品。	搬入系土器。近現代。	
88	土器 カマド	C区33溝		口(40.0)		①砂・赤色粒含む ②軟質③灰黄褐色	ロクロ成形。胴部上位に穿孔2ヶ所残存。外面穿孔付近に横位のハケメ。口縁にスス付着	在地系土器。江戸～近現代。	
89	土器 器種不詳	B区表採	破片	底(21.7)		①粗砂含む②やや軟質③極暗褐色	外型による型作り。外面凹凸は外型に施された文様。	近現代。	
番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)		特 徴			
90	古銭	C区表採	1/2	厚 0.08	重 1.10	表面劣化により判読不能。No90・91は一括して出土。			
91	古銭	C区表採	1/2	直径 2.43	厚 0.12	重 1.59	天聖元寶(真書)。		
92	古銭	C区表採	完形	直径 2.37	厚 0.11	重 2.04	開元通寶。No92～97は一括して出土。		
93	古銭	C区表採	完形	直径 2.33	厚 0.10	重 2.68	元祐通寶(行書)。		
94	古銭	C区表採	2/3	厚 0.12	重 1.81	開元通寶。			
95	古銭	C区表採	3/4	直径 2.39	厚 0.13	重 2.41	永樂通寶。		
96	古銭	C区表採	一部欠損	直径 2.50	厚 0.12	重 2.38	祥符通寶。		
97	古銭	C区表採	一部欠損	直径 2.40	厚 0.14	重 2.58	元豊通寶(篆書)。		
98	古銭	C区表採	ほぼ完形	直径 2.41	厚 0.09	重 2.11	永樂通寶。No98～101は一括して出土。		
99	古銭	C区表採	一部欠損	直径 2.37	厚 0.10	重 2.09	熙寧元寶(真書)。		
100	古銭	C区表採	完形	直径 2.39	厚 0.10	重 2.92	熙寧元寶(篆書)。		
101	古銭	C区表採	破片	重 0.30	小破片のため詳細不明。				
102	古銭	不詳	1/2	厚 0.10	重 1.27	皇宋通寶(篆書)と思われる。			
103	古銭	B区表採	完形	直径 2.22	厚 0.12	重 2.74	洸武通寶。No103と104は一括して出土。		
104	古銭	B区表採	完形	直径 2.32	厚 0.09	重 2.29	嘉祐通寶(真書)。		
105	古銭	B区表採	完形	直径 2.37	厚 0.11	重 2.71	寛永通寶(古寛永)。		
106	古銭	不詳	完形	直径 2.27	厚 0.10	重 2.94	寛永通寶(新寛永)。		
107	古銭	A区表採	完形	直径 2.26	厚 0.08	重 2.19	寛永通寶(新寛永)。		
108	古銭	A区表採	完形	直径 2.43	厚 0.12	重 3.59	寛永通寶(新寛永)。		
109	古銭	C区表採	完形	直径 2.16	厚 0.09	重 1.82	寛永通寶(新寛永)。		
110	古銭	C区表採	完形	直径 2.25	厚 0.09	重 2.59	寛永通寶(新寛永)。		
111	古銭	C区表採	完形	直径 2.63	厚 0.10	重 4.39	文久永寶四文銭(真書)。裏11波。		
112	古銭	C区表採	完形	長 4.48 幅 3.19 厚 0.22 重 17.97	天保通寶。				
113	古銭	C区表採	完形	直径 2.71	厚 0.13	重 6.82	一銭銅貨。明治18年発行。		
114	鉄砲玉	C区表採	完形	直径 1.2	重 12.36	鉛玉。表面剥落。			
115	キセル	C区表採	完形	長8.4 幅1.1 厚1.0	重 8.34	キセルの吸口。表面中央に継ぎ目。			
116	キセル	C区表採	完形	長7.7 幅1.2 厚1.0	重 16.52	キセルの吸口。表面中央に継ぎ目。			
117	キセル	C区表採	ほぼ完形	長7.3 幅1.2 厚1.1	重 9.85	キセルの吸口。表面中央に継ぎ目。先端わずかに欠損。			
番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)		石 材	特 徴		
118	砥石	C区表採	完形	長 13.7 幅 3.8 厚 3.2 重 233		流紋岩	表裏に使用面。両面とも左上から右下に器体を斜めにねじれるように内湾。両側、両端に平タガネ痕残る。		
119	砥石	C区表採	2/3	長(7.9) 幅 3.1 厚 2.0 重 57		砥沢石	表裏に使用面。裏、両側に櫛歯タガネ痕残る。上部と下端の一部欠損。		

番号	器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm・g)	石 材	特 徴
120	砥石	C区表採 破片	長(2.3) 幅 2.8 厚 0.9 重 10	砥沢石	表裏に使用面。両側に歯歯タガネ痕残る。端部破片。
121	不明 石製品	C区表採 ほぼ完形	長 4.9 幅 2.1 厚 0.7 重 17	滑石	表裏に研磨面。両側、両端に金属製の工具によるはつり痕。小型の砥石か。
122	不明 石製品	C区表採 完形	長 7.4 幅 1.9 厚 1.2 重 20	粗粒輝石 安山岩	全面研磨し、両端がすばまった角柱状に整形。裏面、右側に擦痕。小型の砥石か。
123	不明 石製品	C区表採 ほぼ完形	長 7.2 幅 2.7 厚 2.0 重 39	砥沢石	ほぼ全面を研磨。平滑。断面三角形。小型の砥石か。
124	石臼	D区表採 2/3	直径 37.8 厚 9.7 重 12.75kg	粗粒輝石 安山岩	上臼。挽き目左回り6分割。持ち手接合部分欠損後に再加工か。

伊勢山遺跡観察表

1号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	完形	直径 2.36 厚 0.12 重 3.20	寛永通寶(古寛永)。
2	古銭	覆土	完形	直径 2.39 厚 0.09 重 2.68	寛永通寶(古寛永)。
3	古銭	覆土	完形	直径 2.37 厚 0.10 重 3.09	寛永通寶(古寛永)。
4	古銭	覆土	完形	直径 2.37 厚 0.13 重 4.09	寛永通寶(古寛永)。
5	古銭	覆土	完形	直径 2.33 厚 0.10 重 2.74	寛永通寶(古寛永)。
6	古銭	覆土	完形	直径 2.39 厚 0.11 重 3.30	寛永通寶(古寛永)。
7	古銭	覆土	1/2	厚 0.10 重 0.91	寛永通寶(古寛永)。
8	古銭	覆土	完形	重 4.31	2枚付着。うち1枚は寛永通寶(古寛永)。他は銭種不明。

2号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	一部欠損	直径 2.40 厚 0.13 重 2.43	寛永通寶(古寛永)。
2	古銭	覆土	完形	直径 2.38 厚 0.12 重 3.25	寛永通寶(古寛永)。
3	古銭	覆土	ほぼ完形	直径 2.36 厚 0.10 重 1.94	寛永通寶(古寛永)。
4	古銭	覆土	2/3	直径 2.42 厚 0.09 重 1.68	寛永通寶(古寛永)。
5	古銭	覆土	一部欠損	重 5.48	2枚付着。ともに寛永通寶(古寛永)。

3号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	完形	直径 2.33 厚 0.11 重 3.59	寛永通寶(古寛永)。
2	古銭	覆土	完形	直径 2.43 厚 0.11 重 3.76	寛永通寶(古寛永)。
3	古銭	覆土	完形	直径 2.42 厚 0.09 重 2.85	寛永通寶(文銭)。
4	古銭	覆土	完形	直径 2.47 厚 0.11 重 3.61	寛永通寶(文銭)。
5	古銭	覆土	完形	直径 2.44 厚 0.09 重 3.17	寛永通寶(文銭)。
6	古銭	覆土	完形	直径 2.39 厚 0.11 重 3.93	寛永通寶(古寛永)。
7	古銭	覆土	完形	直径 2.46 厚 0.10 重 3.85	寛永通寶(古寛永)。
8	古銭	覆土	完形	直径 2.42 厚 0.11 重 4.05	寛永通寶(文銭)。
9	古銭	覆土	完形	直径 2.2 厚 0.09 重 2.63	寛永通寶(古寛永)。
10	古銭	覆土	完形	直径 2.32 厚 0.09 重 3.19	寛永通寶(古寛永)。
11	古銭	覆土	完形	直径 2.45 厚 0.10 重 3.25	寛永通寶(文銭)。

4号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	完形	直径 2.22 厚 0.12 重 2.33	判別不能。
2	古銭	覆土	1/2	重 6.85	3枚付着。錆による付着のため判別不能。
3	古銭	覆土	1/2	重 5.04	2枚付着。錆による付着のため判別不能。

5号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	完形	直径 2.25 厚 0.07 重 2.02	寛永通寶(新寛永)。
2	古銭	覆土	完形	直径 2.41 厚 0.10 重 2.30	寛永通寶(文銭)。
3	古銭	覆土	完形	直径 2.43 厚 0.09 重 2.66	寛永通寶(文銭)。
4	古銭	覆土	ほぼ完形	直径 2.77 厚 0.11 重 4.55	寛永通寶(真鍮四文銭)。裏11波。
5	古銭	覆土	完形	直径 2.75 厚 0.11 重 4.02	寛永通寶(真鍮四文銭)。裏11波。

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量 (cm・g)	特 徴
6	古銭	覆土	完形	直径 2.61 厚 0.11 重 2.95	文久永寶四文銭 (真書)。裏11波。

6号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量 (cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	完形	直径 2.25 厚 0.08 重 1.67	寛永通寶 (古寛永)。
2	古銭	覆土	完形	重 4.11	2枚付着。ともに新寛永。
3	古銭	覆土	完形	重 7.65	3枚付着。うち1枚は寛永通寶 (新寛永)、他は銭種不明。
4	古銭	覆土	完形	重 16.76	5枚付着。うち2枚寛永通寶 (文銭1、新寛永1)、他銭種不明。

8号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量 (cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	完形	直径 2.72 厚 0.14 重 6.46	一銭銅貨。大正。
2	古銭	覆土	ほぼ完形	重 11.75	4枚付着。銭種不明だが、鉄銭含む。

9号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量 (cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	完形	直径 2.24 厚 0.10 重 2.59	寛永通寶 (新寛永)。
2	古銭	覆土	完形	直径 2.38 厚 0.11 重 1.89	寛永通寶 (古寛永)。
3	古銭	覆土	ほぼ完形	直径 2.33 厚 0.10 重 2.45	寛永通寶 (新寛永)。
4	古銭	覆土	完形	直径 2.46 厚 0.11 重 2.87	寛永通寶 (新寛永)。
5	古銭	覆土	一部欠損	直径 2.29 厚 0.12 重 1.73	寛永通寶 (新寛永)。木質付着。
6	古銭	覆土	一部欠損	直径 2.28 厚 0.10 重 1.62	寛永通寶 (新寛永)。
7	古銭	覆土	ほぼ完形	直径 2.14 厚 0.10 重 1.82	寛永通寶 (新寛永)。
8	古銭	覆土	一部欠損	直径 2.28 厚 0.11 重 2.20	寛永通寶 (新寛永)。
9	古銭	覆土	一部欠損	直径 2.57 厚 0.18 重 1.28	判別不能。
10	古銭	覆土	完形	重 5.10	2枚付着。うち1枚は寛永通寶 (新寛永)、他は銭種不明。
11	古銭	覆土	1/3	厚 0.21 重 0.61	錆のため判別不能。磁性を帯び、鉄銭と思われる。

10号土墳墓

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	土器 小皿	覆土 完形	口 6.7 底 3.1 高 1.4	①砂粒含む②やや 良③にぶい橙色	外型作り。外面に型離れをよくするための銀 白色の付着物残る。紅皿の模造品。	在地系土器。 18C後～19C。
2	土器 小皿	覆土 完形	口 6.6 底 2.9 高 1.6	①砂粒含む②やや 良③橙色	1と同一の型による。外面に型離れをよくす るための銀白色の付着物残る。	在地系土器。 18C後～19C。

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量 (cm・g)	特 徴
3	古銭	覆土	ほぼ完形	直径 2.26 厚 0.07 重 1.60	寛永通寶 (鉄一文銭)。
4	古銭	覆土	完形	直径 2.22 厚 0.07 重 2.18	寛永通寶 (新寛永)。
5	古銭	覆土	完形	直径 2.27 厚 0.10 重 2.61	寛永通寶 (新寛永)。
6	古銭	覆土	完形	直径 2.45 厚 0.10 重 3.75	寛永通寶 (文銭)。
7	古銭	覆土	完形	直径 2.44 厚 0.10 重 3.94	寛永通寶 (文銭)。
8	古銭	覆土	完形	厚 0.44 重 9.46	4枚付着し、銭種不明。磁性帯びており、鉄銭を含む。

12号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量 (cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	一部欠損	重 14.64	6枚付着。うち1枚は寛永通寶 (新寛永)、他は銭種不明。
2	古銭	覆土	一部欠損	重 12.50	6枚付着か。銭種不明。

13号土墳墓

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	土器 皿	覆土 一部欠損	口 9.6 底 6.0 高 2.0	①細砂含む②普通 ③にぶい橙色	ロクロ成形。底部左回転糸切り。器形かなり 歪む。口縁内外面に一部油煙付着。	在地系土器。江戸 時代。

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量 (cm・g)	特 徴
2	古銭	覆土	ほぼ完形	直径 2.23 厚 0.11 重 1.39	寛永通寶 (新寛永)。
3	古銭	覆土	完形	直径 2.16 厚 0.08 重 1.77	寛永通寶 (新寛永)。
4	古銭	覆土	完形	直径 2.12 厚 0.09 重 1.73	寛永通寶 (新寛永)。
5	古銭	覆土	ほぼ完形	直径 2.20 厚 0.09 重 1.54	寛永通寶 (新寛永)。
6	古銭	覆土	完形	直径 2.14 厚 0.09 重 2.20	寛永通寶 (新寛永)。
7	古銭	覆土	ほぼ完形	直径 2.11 厚 0.09 重 1.91	寛永通寶 (新寛永)。
8	古銭	覆土	完形	直径 2.14 厚 0.11 重 1.88	寛永通寶 (新寛永)。

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
9	古銭	覆土	ほぼ完形	重 7.66	4枚付着。うち2枚は寛永通寶(新寛永)。他は銭種不明。

15号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	完形	重 1.64	5枚付着。うち1枚は寛永通寶(新寛永)。
2	古銭	覆土	ほぼ完形	重 32.93	11枚付着か。うち1枚は寛永通寶(古寛永)か。他は銭種不明。

16号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	ほぼ完形	直径 2.26 厚 0.10 重 1.77	元祐通寶(篆書か)。
2	古銭	覆土	完形	直径 2.23 厚 0.09 重 2.22	寛永通寶(新寛永)。
3	古銭	覆土	完形	直径 2.26 厚 0.11 重 2.74	寛永通寶(新寛永)。
4	古銭	覆土	完形	直径 2.20 厚 0.08 重 2.13	寛永通寶(新寛永)。
5	古銭	覆土	完形	直径 2.41 厚 0.13 重 3.32	寛永通寶(文銭)。
6	古銭	覆土	ほぼ完形	重 3.44	2枚付着。うち1枚は寛永通寶(古寛永)、他は銭種不明。
7	古銭	覆土	ほぼ完形	重 6.20	3枚付着。銭種不明。
8	古銭	覆土	一部欠損	重 6.66	4枚付着。銭種不明。

17号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	一部欠損	厚 0.09 重 0.89	寛永通寶(古寛永)。
2	古銭	覆土	1/2	厚 0.11 重 0.60	寛永通寶(古寛永)。
3	古銭	覆土	ほぼ完形	重 15.99	6枚付着。うち1枚は寛永通寶(古寛永)、他は銭種不明。

18号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	完形	直径 2.39 厚 0.13 重 3.44	寛永通寶(新寛永)。
2	古銭	覆土	一部欠損	重 4.15	3枚付着。うち1枚は寛永通寶(新寛永)か。他は銭種不明。
3	古銭	覆土	完形	重 9.37	5枚付着。うち1枚は寛永通寶、他は銭種不明。

20号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	一部欠損	重 18.32	7枚付着。うち3枚寛永通寶(文銭1、新寛永2)。他は銭種不明。
2	古銭	覆土	ほぼ完形	重 7.40	4枚付着。うち2枚は寛永通寶(新寛永)。他は銭種不明。

21号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	一部欠損	重 8.17	6枚付着。うち2枚は寛永通寶(新寛永)。他は銭種不明。
2	古銭	覆土	1/3	重 0.44	寛永通寶(新寛永)。

23号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	完形	直径 2.38 厚 0.12 重 2.98	寛永通寶(古寛永)。
2	古銭	覆土	ほぼ完形	直径 2.45 厚 0.14 重 3.43	寛永通寶(古寛永)。
3	古銭	覆土	ほぼ完形	直径 2.08 厚 0.11 重 1.40	寛永通寶(新寛永か)。
4	古銭	覆土	一部欠損	直径 2.24 厚 0.11 重 1.22	寛永通寶(新寛永)。
5	古銭	覆土	1/2	厚 0.11 重 0.76	寛永通寶(古寛永か)。
6	古銭	覆土	1/2	厚 0.09 重 0.81	寛永通寶(新寛永か)。
7	古銭	覆土	1/3	厚 0.09 重 0.33	寛永通寶。
8	古銭	覆土	1/3	厚 0.11 重 0.43	寛永通寶(新寛永)。
9	古銭	覆土	1/3	厚 0.13 重 0.71	銭種不明。寛永通寶か。
10	古銭	覆土	破片	重 1.67	破片のため銭種不明。

24号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	完形	重 10.44	4枚付着。うち2枚は寛永通寶(新寛永)。他は銭種不明。
2	古銭	覆土	一部欠損	直径 2.39 厚 0.10 重 1.51	寛永通寶(古寛永)。

26号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量(cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	ほぼ完形	重 11.82	5枚付着。銭種不明だが、鉄銭含む。
2	古銭	覆土	一部欠損	重 12.63	6枚付着。うち1枚寛永通寶(新寛永)。他銭種不明だが鉄銭含む。

27号土墳墓

番号	器種	出土状況	残存状況	法 量 (cm・g)	特 徴
1	古銭	覆土	完形	直径 2.37 厚 0.11 重 2.67	寛永通寶 (古寛永)。
2	古銭	覆土	完形	直径 2.24 厚 0.08 重 2.08	寛永通寶 (新寛永)。

1号溝

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	土器 皿	覆土 破片	口(9.6) 底(6.6) 高 1.8	①細砂含む②普通 ③明赤褐色	ロクロ成形。底部回転糸切り。	在地系土器。江戸時代。
2	土器 皿	覆土 1/2	口(8.2) 底(6.0) 高 1.9	①赤色粒含む②や や不良③橙色	ロクロ成形。底部左回転糸切り。	在地系土器。中世後期～江戸初。

中近世遺構外

番号	種 類 器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
1	陶器 徳利	表採 破片		①細粒②やや良 ③暗灰黄色	ロクロ成形。外面頸部に細い沈線螺旋状にめぐる。外面胎釉、体部にワラ灰釉かかる。	瀬戸・美濃。18C。
2	陶器 壺蓋	表採 2/3	口(12.8) 底 5.7 高 3.0	①砂粒含む②やや 不良③鈍い黄褐色	ロクロ成形。底部右回転糸切り。内面底部につまみ。内～外面上位に雑に鉄泥を施す。	瀬戸・美濃。江戸時代。
3	陶器 灯明皿?	表採 1/5	口(10.0) 底(4.4) 高 1.8	①細粒②良好 ③赤色	ロクロ成形。底部回転糸切り。全面に鉄泥を施す。外面に重ね焼きの痕跡残る。	製作者不詳。江戸時代。
4	陶器 片口鉢	表採 口縁破片		①砂粒含む②普通 ③黄灰色	ロクロ成形後、内外面横ナデ。口縁下位に弱い稜線もつ。	常滑。13C。
5	土器 皿	G-20Gr 一部欠損	口 9.2 底 5.7 高 2.7	①赤色粒含む②普 通③橙色	ロクロ成形。底部右回転糸切り。	中世?
6	土器 皿	表採 一部欠損	口 9.0 底 6.4 高 1.8	①砂粒含む②やや 不良③明赤褐色	ロクロ成形。底部右回転糸切り。	在地系土器。江戸時代。
7	土器 皿	A区 完形	口 8.3 底 6.2 高 2.3	①細砂含む②不良 ③灰黄色	ロクロ成形。底部左回転糸切り。器形やや歪む。器表面の剝落激しい。	在地系土器。江戸時代。
8	土器 皿	D-5Gr 一部欠損	口 9.6 底 4.7 高 2.5	①細砂含む②普通 ③橙色	ロクロ成形。底部右回転糸切り。口縁内外に油煙付着。	在地系土器。江戸時代。
9	土器 皿	F-10Gr 1/3	口(9.0) 底(5.6) 高 2.0	①細砂含む②やや 不良③にぶい橙色	ロクロ成形。底部右回転糸切り。	在地系土器。江戸時代。
10	土器 皿	H-0Gr 1/3	口(9.0) 底(6.0) 高 2.0	①細砂含む②普通 ③にぶい橙色	ロクロ成形。底部回転糸切り。	在地系土器。江戸時代。
11	土器 皿	F-10Gr 1/4	口(8.0) 底(5.0) 高 2.1	①赤色粒含む②や や不良③橙色	ロクロ成形。底部右回転糸切り。	中近世。
12	土器 皿	F-20Gr 1/4	口(8.8) 底(6.0) 高 2.2	①赤色粒含む ②普通③橙色	ロクロ成形。ロクロ左回転。底部回転糸切り。	時期不詳。
13	土器 人形	H-0Gr 1/4		①赤色粒含む②や や良③にぶい橙色	型作り。内部は中空。外面に銀白色の付着物わずかに残る。底部ヘラで円形に穴をあける。	
14	土器 土鍋	表採 口縁破片		①細砂含む②軟質 ③黒色	紐作りロクロ成形後、内外面横ナデ。内面は丁寧に仕上げる。外面に多量のスス付着。	在地系土器。江戸時代。
15	土器 土鍋	表採 口縁破片		①細砂含む②軟質 ③黒褐色	紐作りロクロ成形後、口縁部内外面横ナデ、内面ナデ。外面にスス付着。	在地系土器。江戸時代。
16	土器 土鍋	表採 口縁破片		①細砂含む②軟質 ③にぶい橙色	紐作りロクロ成形後、内外面横ナデ。口縁部外側に短く屈曲。	在地系土器。江戸時代。
17	土器 土鍋	表採 口縁破片		①細砂含む②軟質 ③黒褐色	紐作りロクロ成形後、内面丁寧なナデ、外面口縁横ナデ。外面にスス付着。	在地系土器。江戸時代。
18	土器 十能	表採 破片		①細砂含む②やや 軟質③暗灰黄色	先端部破片。型作り。内面と縁の部分はナデ。外面は型肌残す。	在地系土器。江戸～近代。
19	土器 火鉢?	表採 口縁破片	口(28.4)	①砂粒含む②普通 ③にぶい黄褐色	ロクロ成形。外面口縁を除きケズリ後ミガキ。内面中位、帯状に赤変。口縁に弱いスス付着。	在地系土器。江戸～近代。
20	土器 焙烙	表採 破片		①細砂含む②軟質 ③紫灰色	ロクロ成形後、内面・外面上位横ナデ。外面下位強いナデ。	在地系土器。江戸時代。
21	土器 焙烙	表採 口縁破片		①赤色粒含む ②軟質③黒色	紐作りロクロ成形。内面横ナデ、外面上位横ナデ、下位ケズリ。内面スス付着。	在地系土器。江戸時代。
22	土器 焙烙	A区 口縁破片		①細砂・赤色粒含 む②軟質③赤黒色	紐作りロクロ成形後内面横ナデ、外面上位横ナデ、下部強いナデ。	

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備 考
23	土器 焙烙	表採 口縁破片			内耳部分の破片。	在地系土器。江戸時代。
番号	器種	出土状況	残存状況	法 量 (cm・g)	特 徴	
24	仏像	Cトレンチ	完形	長5.6 幅1.8 厚1.2 重17.46	台座の木質部残る。	
25	古銭	F-10Gr	完形	直径 2.30 厚 0.07 重 2.37	熙寧元宝(真書)。	
26	古銭	A区	完形	直径 2.41 厚 0.11 重 3.56	寛永通寶(古寛永)。	
27	古銭	A区	完形	直径 2.34 厚 0.11 重 2.02	寛永通寶(古寛永)。	
28	古銭	A区	完形	直径 2.46 厚 0.14 重 4.15	寛永通寶(古寛永)。	
29	古銭	F-20Gr	完形	直径 2.35 厚 0.08 重 2.76	寛永通寶(古寛永)。	
30	古銭	E-20Gr	完形	直径 2.33 厚 0.10 重 3.80	寛永通寶(古寛永)。	
31	古銭	E-20Gr	完形	直径 2.41 厚 0.11 重 3.42	寛永通寶(古寛永)。	
32	古銭	表採	完形	直径 2.43 厚 0.08 重 2.35	寛永通寶(古寛永)。	
33	古銭	A区	完形	直径 2.43 厚 0.14 重 2.83	寛永通寶(文銭)。	
34	古銭	E-20Gr	完形	直径 2.46 厚 0.12 重 4.04	寛永通寶(文銭)。	
35	古銭	A区	完形	直径 2.12 厚 0.08 重 1.77	寛永通寶(新寛永)。	
36	古銭	A区	完形	直径 2.28 厚 0.09 重 2.29	寛永通寶(新寛永)。	
37	古銭	A区	完形	直径 2.40 厚 0.11 重 2.89	寛永通寶(新寛永)。	
38	古銭	A区	完形	直径 2.09 厚 0.10 重 1.46	寛永通寶(新寛永)。	
39	古銭	A区	完形	直径 2.41 厚 0.12 重 3.26	寛永通寶(新寛永)。	
40	古銭	A区	完形	直径 2.23 厚 0.11 重 2.14	寛永通寶(鉄一文銭)。	
41	古銭	E-20Gr	完形	直径 2.73 厚 0.10 重 5.04	寛永通寶(精鉄四文銭)。裏11波。	
42	古銭	E-20Gr	完形	直径 2.72 厚 0.09 重 4.47	寛永通寶(精鉄四文銭)。裏11波。	
43	古銭	F-20Gr	完形	直径 2.56 厚 0.06 重 1.87	文久永寶四文銭(真書?)。裏11波。	
44	古銭	G-35Gr	完形	直径 2.63 厚 0.10 重 3.61	文久永寶四文銭(草書)。裏11波。	
45	古銭	E-20Gr	完形	直径 2.62 厚 0.09 重 2.94	文久永寶四文銭(草書)。裏11波。	
46	古銭	G-35Gr	完形	直径 2.61 厚 0.09 重 3.46	文久永寶四文銭(草書略宝)。裏11波。	
47	古銭	E-20Gr	完形	直径 2.58 厚 0.09 重 3.16	文久永寶四文銭(草書略宝)。裏11波。	
48	古銭	H-0Gr	完形	長 4.86 幅 3.20 厚 0.22 重17.85	天保通寶。	

遺構外出土遺物

番号	種類 器種	出土位置	法 量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備 考
49	縄文土器 深鉢	G-0 Gr		①白色粒・繊維 ②良好③黄褐色	横粒に半截竹管による連続爪形文を施す。内面研磨。	口縁破片 有尾式
50	縄文土器 深鉢	H-0 Gr		①白色粒・繊維 ②普通③橙褐色	小突起を持つ波状口縁。半截竹管による連続爪形文で菱形状、弧状の文様を描く。	口縁破片 有尾式
51	縄文土器 深鉢	H-0 Gr		①白色粒・繊維 ②普通③橙褐色	No.50と同一個体。	胴部破片 有尾式
52	縄文土器 深鉢	G-10Gr		①細砂・繊維 ②良好③に 黄褐色	単節LR縄文を施文。	口縁破片 黒浜式
53	縄文土器 深鉢	H-0 Gr		①白色粒・石英 ・繊維②普通 ③黒褐色	単節RL縄文を施文。内面研磨。	口縁破片 黒浜式
54	縄文土器 深鉢	H-0 Gr		①白色粒・繊維 ②普通③に 橙色	降帯を縦位や、横位に鈎状にめぐらし、以下、単節RL縄文を施文。	胴部破片 黒浜式
55	縄文土器 深鉢	G-0 Gr		①白色・黒色粒 ・繊維②普通 ③に 黄褐色	横位の平行沈線間に刺突文を施し、以下、単節LR RL縄文を羽状施文。	胴部破片 黒浜式
56	縄文土器 深鉢	G-10Gr		①白色粒・繊維 ②普通③に 橙褐色	横位の平行沈線を重ね、以下単節RL縄文を施文。	胴部破片 黒浜式
57	縄文土器 深鉢	H-0 Gr		①白色粒・繊維 ②良好③に 黄褐色	単節RL縄文を施文。	胴部破片 黒浜式

番号	種類	出土位置	法量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
58	縄文土器 深鉢	H-0 Gr		①白色粒・繊維 ②良好③に ぶい 橙色	単節 R L 縄文を施文。	胴部破片 黒浜式
59	縄文土器 深鉢	H-0 Gr		①白色粒・繊維 ②良好③に ぶい 橙色	単節 L R 縄文を施文。内面研磨。	胴部破片 黒浜式
60	縄文土器 深鉢	H-0 Gr		①細砂・白色粒 ・繊維②普通 ③にぶい 橙色	単節 R L 縄文を施文。内面研磨。	胴部破片 黒浜式
61	縄文土器 深鉢	H-0 Gr		①細砂・繊維 ②普通③ 橙色	単節 L R 縄文を施文。	胴部破片 黒浜式
62	縄文土器 深鉢	14 土墳墓 覆土		①白色粒・繊維 ②良好③ 橙色	単節 R L、L R 縄文を羽状施文。	胴部破片 黒浜式
63	縄文土器 深鉢	H-0 Gr		①白色粒・繊維 ②やや悪い③に ぶい 橙色	単節 R L 縄文を施文。	胴部破片 黒浜式
64	縄文土器 深鉢	14 土墳墓 覆土		①細砂・白色粒 ・繊維②普通 ③にぶい 橙褐色	単節 L R 縄文を施文。	胴部破片 黒浜式
65	縄文土器 深鉢	G-10Gr		①白色粒・繊維 ②やや悪い ③にぶい 赤褐色	単節 L R、R L 縄文を羽状施文。	胴部破片 黒浜式
66	縄文土器 深鉢	G-10Gr		①白色粒・石英 ・繊維②普通 ③にぶい 黄褐色	単節 L R 縄文を施文。	胴部破片 黒浜式
67	縄文土器 深鉢	B 区表探		①白色粒・繊維 ②やや悪い ③にぶい 赤褐色	わずかに上げ底を呈する。	底部破片 黒浜式
68	縄文土器 深鉢	1 溝覆土		①細砂②良好 ③にぶい 橙色	わずかに内湾する口縁部破片。横位に平行沈線を重ねる。 内面研磨。	口縁破片 諸磯 b 式古
69	縄文土器 深鉢	E-20Gr		①白色粒②良好 ③にぶい 黄褐色	小突起を持つ波状口縁。口縁下に半截竹管による連続爪形文を横位に1条めぐらし、以下、平行沈線で文様を描く。	口縁破片 諸磯 b 式古
70	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①白色・黒色粒 ②普通 ③明黄 橙色	半截竹管による連続爪形文を横位、木の葉状に施す。空間に円形刺突。	胴部破片 諸磯 b 式古
71	縄文土器 深鉢	G-10Gr		①白色・黒色粒 ②良好③ 褐色	平行沈線を横位に重ねて区画し、区画内に平行沈線によるワラビ手状のモチーフを描く。	胴部破片 諸磯 b 式古
72	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①白色粒②普通 ③明黄 橙色	平行沈線を横位に重ねる。	口縁破片 諸磯 b 式
73	縄文土器 深鉢	表探		①白色・黒色粒 ②普通③明黄 橙色	口縁部に近い部位。単節 R L 縄文を地文とし、平行沈線を横位に重ねる。	胴部破片 諸磯 b 式
74	縄文土器 深鉢	A 区		①白色・黒色粒 ②普通③ 橙色	突起を持つ波状口縁。平行沈線を横位・斜位に重ねて文様を描出。	口縁破片 諸磯 b 式
75	縄文土器 深鉢	E-20Gr		①白色粒②良好 ③明黄 褐色	小突起を持つ波状口縁。半截竹管による連続爪形文を横位にめぐらす。	口縁破片 諸磯 b 式
76	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①白色粒②普通 ③暗 褐色	小突起を持つ波状口縁。単節 R L 縄文を地文とし、半截竹管による連続爪形文を横位に施す。	口縁破片 諸磯 b 式
77	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①白色粒②良好 ③明黄 褐色	単節 R L 縄文を地文とし、半截竹管による連続爪形文を横位にめぐらす。内面研磨。	口縁破片 諸磯 b 式
78	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①細砂②良好 ③明黄 褐色	単節 R L 縄文を地文とし、半截竹管による連続爪形文を横位にめぐらす。内面研磨。	胴部破片 諸磯 b 式
79	縄文土器 深鉢	B 区表探		①細砂②良好 ③灰 褐色	半截竹管による連続爪形文を横位・斜位に施し、文様を描出。内面研磨。	胴部破片 諸磯 b 式
80	縄文土器 深鉢	G-10Gr		①細砂・石英 ②普通③に ぶい 橙色	半截竹管による連続爪形文を斜位に施し、空間に円形刺突を施す。	胴部破片 諸磯 b 式
81	縄文土器 深鉢	G-20Gr		①細砂・石英 ②普通③に ぶい 橙色	No80 と同一個体。	胴部破片 諸磯 b 式

番号	種類	出土位置	法量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
82	縄文土器 深鉢	1 溝覆土		①細砂・石英 ②普通③にぶい 橙色	Na80と同一個体。	胴部破片 諸磯b式
83	縄文土器 深鉢	E-0・ F-10・ H-0Gr	口 - (40.0)	①細砂②普通 ③明黄橙色	キャリバー状の器形を呈し、緩やかな波状口縁になると思われる。単節RL縄文を地文とし、刻みを付した浮線文を3条1組として、5段重ねる。口縁部には1条、独立した浮線文を施す。	口縁～胴部 破片 諸磯b式
84	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①白色・黒色粒 ②普通③橙色	単節RL縄文を施文。	胴部破片 諸磯b式古
85	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①白色・黒色粒 ②普通③橙色	Na84と同一個体。	胴部破片 諸磯b式古
86	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①白色・黒色粒 ②普通③橙色	Na84と同一個体。	胴部破片 諸磯b式古
87	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①白色・黒色粒 ②良好③黄橙色	LRとLの付加条縄文を縦位施文。	胴部破片 諸磯b式古
88	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①白色・黒色粒 ②普通③にぶい 橙色	無節L縄文を施文。	底部破片 諸磯b式古
89	縄文土器 深鉢	表採		①白色・黒色粒 ②良好③にぶい 黄橙色	波状口縁。単節LR縄文を施文。内面研磨。	口縁破片 諸磯b式
90	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①白色粒②普通 ③灰褐色	単節RL縄文を施文。内面研磨。	胴部破片 諸磯b式
91	縄文土器 深鉢	E-0・ F-10Gr		①白色・黒色粒 ②良好③にぶい 黄橙色	単節RL縄文を施文。内面研磨。	胴部破片 諸磯b式
92	縄文土器 深鉢	G-10Gr		①白色・黒色粒 ②普通③にぶい 橙色	LRとLの付加条縄文を縦位施文。	胴部破片 諸磯b式
93	縄文土器 深鉢	E-0Gr		①白色粒②普通 ③明黄橙色	単節RL縄文を施文。	胴部破片 諸磯b式
94	縄文土器 深鉢	G-10Gr		①白色粒②普通 ③明黄橙色	単節RL縄文を施文。	胴部破片 諸磯b式
95	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①細砂・白色・ 黒色粒②良好 ③にぶい橙色	単節RL縄文を施文。内面研磨。	胴部破片 諸磯b式
96	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①白色粒②良好 ③灰褐色	半截竹管による平行沈線、連続爪形文を施す。	口縁破片 浮島式
97	縄文土器 深鉢	F-10Gr		①白色粒②普通 ③にぶい黄橙色	数条の平行沈線をまばらに施文。	胴部破片 浮島式
98	縄文土器 深鉢	B区表採		①白色粒②普通 ③にぶい黄橙色	Na97と同一個体。	胴部破片 浮島式
99	縄文土器 深鉢	A区表採		①白色・黒色粒 ②良好③にぶい 赤褐色	L燃糸文を斜位に施文。内面研磨。器厚薄手。	胴部破片 浮島式
番号	器種	出土状況 残存状況	法量 (cm・g)	石材	特 徴	
100	石鉢	E-20Gr 完形	長 2.7 幅 1.7 厚 0.45 重 1.79	黒色安山 岩	凹基無茎鉢。表裏全面に押圧による剥離加えて調整。	
番号	種類	出土位置	法量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
101	土師器 台付甕	4 土墳墓 覆土	口-(16.9) 底- 高-(9.3)	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい 黄橙色	外面：口縁部横ナデ。頸部～胴部上半縦位のハケメ後、横位のハケメ。胴部下半左上がりのハケメ。 内面：口縁部横ナデ。胴部上半指ナデ。器表面剥落激しい。	口縁～胴部 片
102	土師器 小型甕	4 土墳墓 覆土	口-(10.4) 底- 高-(3.4)	①粗砂粒混②酸 化③淡赤橙色	外面：口縁部横ナデ。頸部左下がりのハケメ。以下左上がりのハケメ。 内面：口縁部横ナデ。頸部指ナデ。	口縁片

番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状況 備考
103	土師器 器台	4 土墳墓 覆土	口-(10.0) 底- - 高-(2.5)	①細砂粒混②酸化③に ぶい橙色	外面：ヘラケズリ後一部ミガキ施す。 内面：丁寧なナデ。	器受部片
104	土師器 鉢	A区	口-(11.0) 底- - 高-(3.9)	①粗砂粒混 ②酸化③赤褐色	外面：横ナデ後ミガキ。 内面：口縁上位横ナデ、下位横ナデ後ミガキ。	口縁片
105	土師器 小型甕	E-20Gr	口-(7.0) 底- - 高-(3.5)	①粗砂粒混 ②酸化③にぶい 黄橙色	外面：口縁部横ナデ。胴部斜位のハケメ。 内面：口縁部横ナデ。胴部ナデ。頸部に接合痕あり。	口縁～胴部 破片

波志江西宿遺跡古墳時代遺構外観表(補遺)

番号	種類	出土位置	法量 (cm)	特徴	残存状況
18	不明土製品	A区表採	長 3.8 幅 2.2 厚 1.2	勾玉状の形状呈する。供物の模造品か。	ほぼ完形
19	不明土製品	A区表採	長 2.7 幅 1.3 厚 0.8	粘土を細長い盤状に丸めたもの。供物の模造品か。	完形
20	不明土製品	B区表採	長 2.6 幅 0.9 厚 0.7	薄い粘土板を丸めたもの。供物の模造品か。	完形

報告書抄録

ふりがな	はしえにしじゆくいせきいち (こふんじだい・ちゅうきんせいへん)・いせやまいせき
書名	波志江西宿遺跡 I (古墳時代・中近世編)・伊勢山遺跡
副書名	北関東自動車道 (高崎～伊勢崎) 地域埋蔵文化財調査報告書
巻次	第16集
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第307集
編集者名	杉田茂俊 桜井美枝
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784-2 TEL 0279 (52) 2511
発行年月日	西暦2002年12月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はしえにしじゆく 波志江西宿	ぐんまけんいせきまし 群馬県伊勢崎市 はしえまち 波志江町	10204	10005- 00539	36° 20' 1"	139° 11' 9"	1998/09/01～ 2000/06/30	10,366	北関東自動車道建設に伴う事前調査
いせやま 伊勢山	同上	10204	10204- 00895	36° 20' 1"	139° 11' 8"	1999/12/13～ 2000/03/22	2,312	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
波志江西宿	集落	古墳時代前期	竪穴住居跡19棟 掘立柱建物2棟 その他 土坑等	土師器・石製品 砥石・鎌	斧形石製模造品
		中近世	掘立柱建物1棟 建物跡1棟 井戸24基、溝45条 その他 土坑等	陶磁器・近世土器 木製品・石製品 金属製品・古銭	近世陶磁器の一括資料
伊勢山	墓	旧石器時代	石器分布1カ所	剥片	
		縄文時代		縄文土器・石器	
		古墳時代前期		土師器	
		近世	墓28基、溝2条 その他 土坑等	近世土器・古銭	

写真図版



調査区遠景（南上空から）



調査区遠景（西上空から）



A区1号住居使用面全景（南から）



A区1号住居セクション（南から）



A区1号住居掘方（南から）



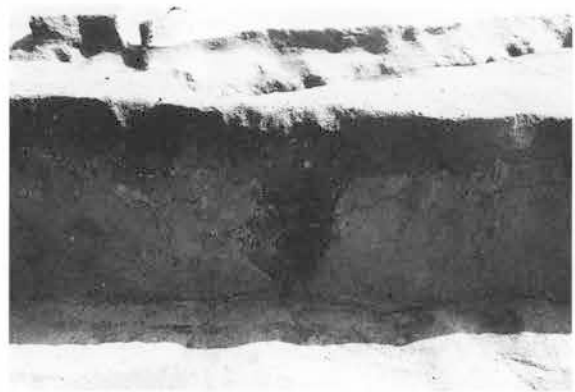
A区2号住居使用面（南西から）



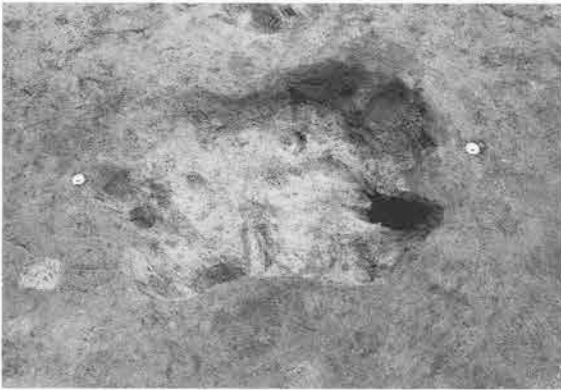
A区2号住居遺物出土状況（北東から）



A区2号住居セクション (北から)



A区2号住居セクション (北から)



A区2号住居炉1 (西から)



A区2号住居炉1セクション (東から)



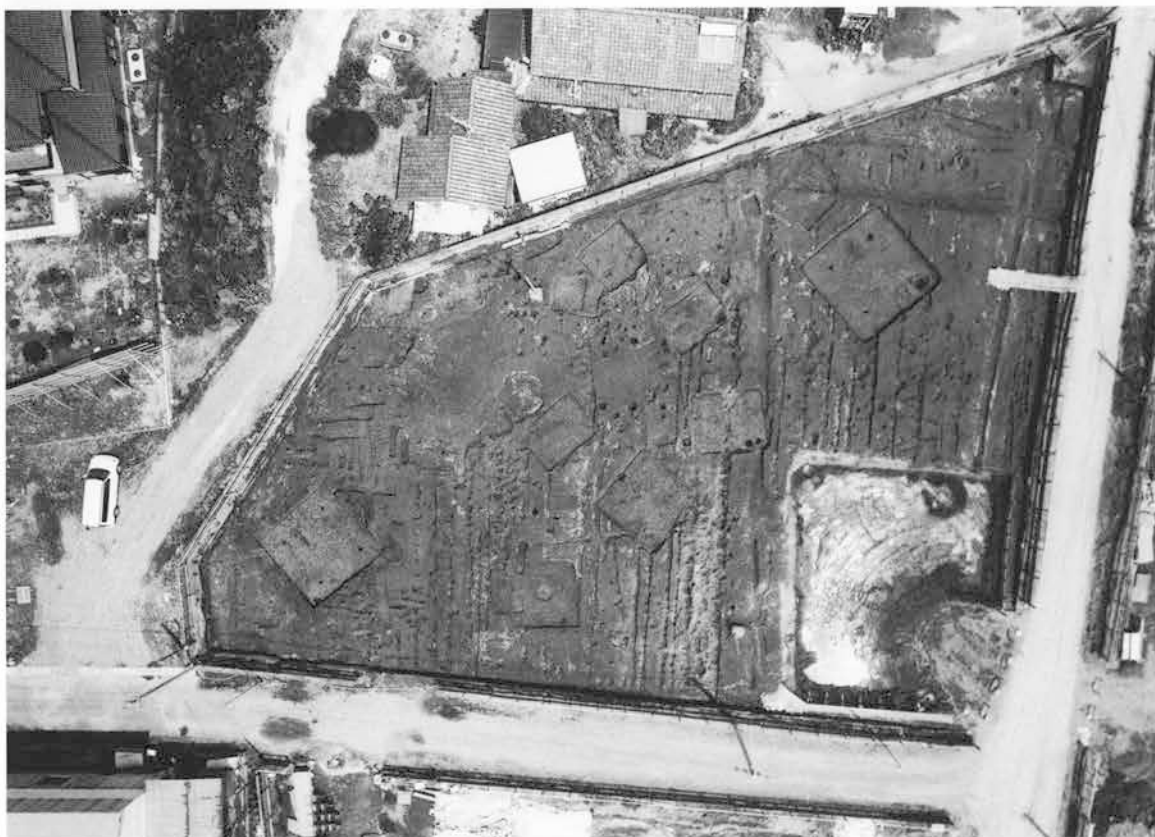
A区2号住居炉2 (南東から)



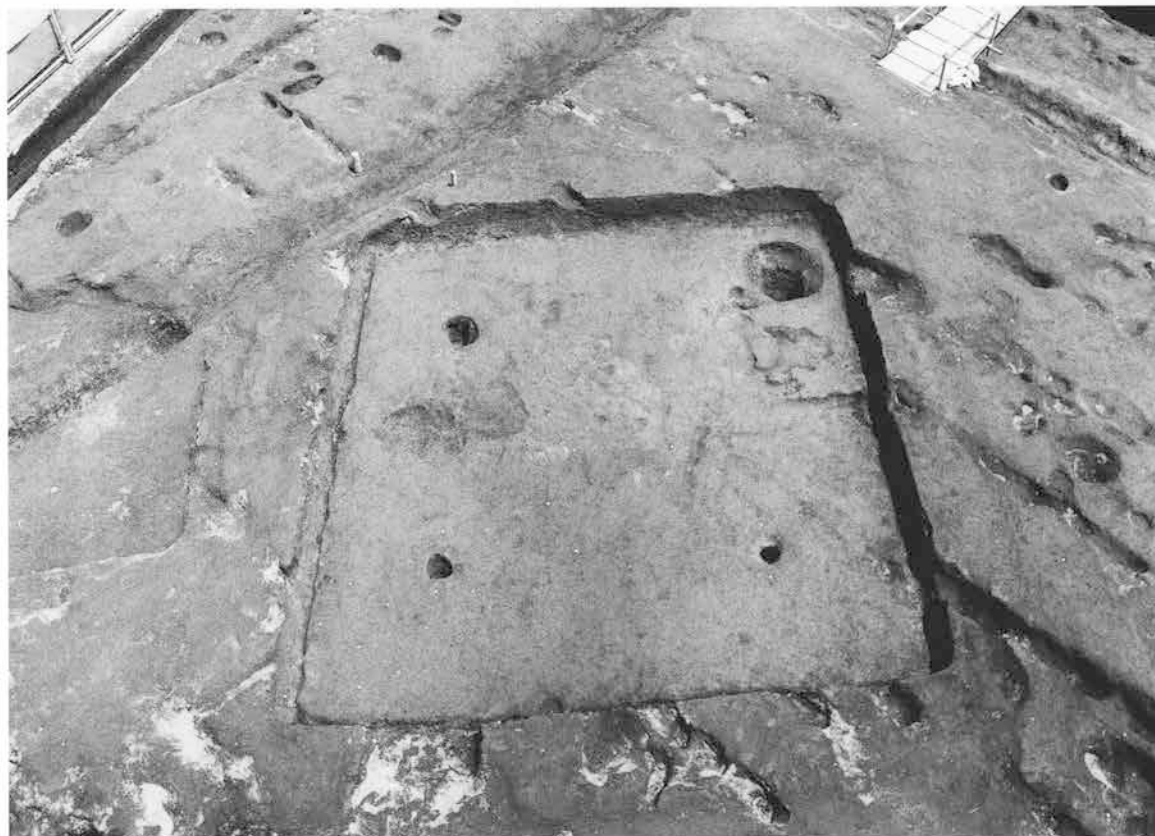
A区2号住居炉2セクション (北から)



A区2号住居掘方 (南西から)



B区古墳時代前期住居全景（上空から）



B区1号住居使用面全景（南西から）



B区1号住居遺物出土状況（南東から）



B区1号住居遺物出土状況（北西から）



B区1号住居遺物出土状況（勾玉）



B区1号住居掘方全景（南東から）



B区2号住居使用面全景（南西から）



B区2号住居セクション（南から）



B区2号住居掘方全景（南東から）



B区3号住居使用面全景（西から）



B区3号住居遺物出土状況



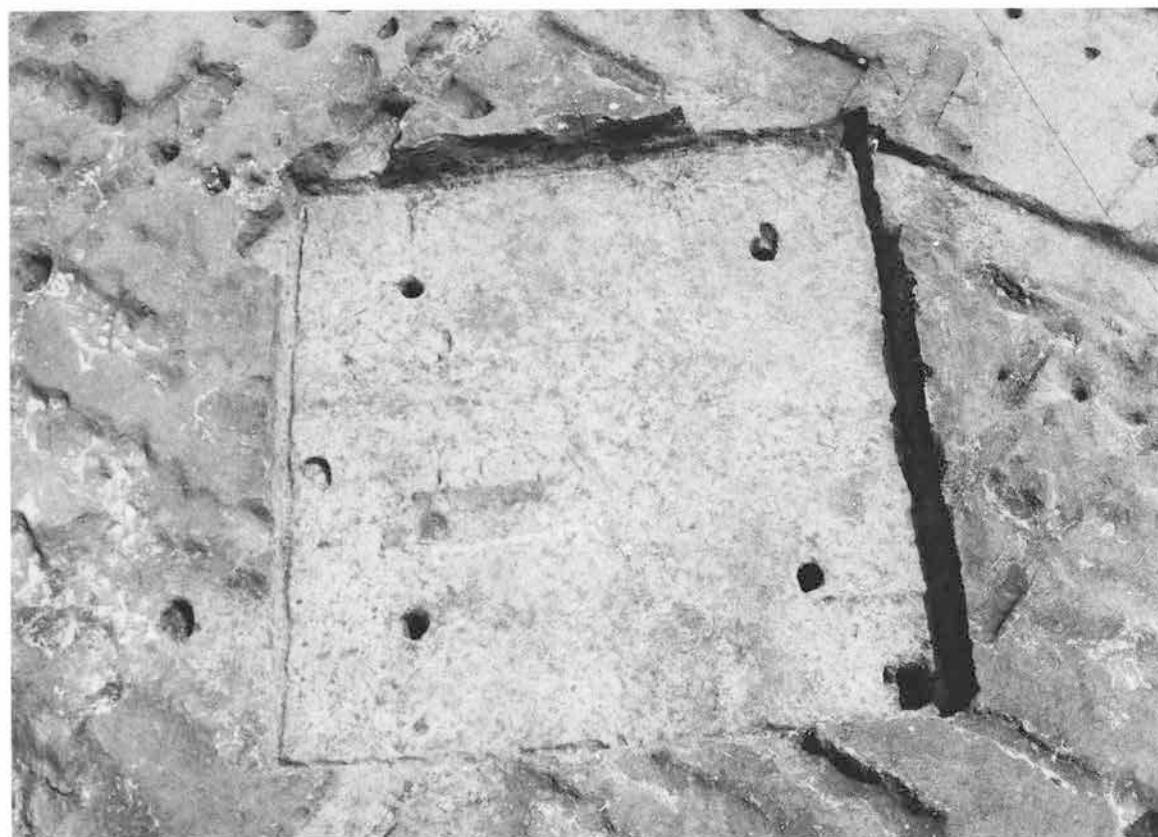
B区3号住居掘方全景（南から）



B区4号住居使用面全景（南西から）



B区4号住居掘方全景（南東から）



B区5号住居使用面全景（南西から）



B区5号住居遺物出土状況（北東から）



B区5号住居遺物出土状況（南から）



B区5号住居遺物出土状況



B区5号住居掘方全景（南東から）



B区6号(奥)、10号(手前)住居使用面全景（南西から）



B区6号住居遺物出土状況（西から）



B区6号住居掘方全景（北東から）



B区7号住居使用面全景（南西から）



B区7号住居遺物出土状況（南から）



B区8号住居使用面全景（西から）



B区8号住居掘方全景（南から）



B区9号住居使用面全景（南西から）



B区9号住居セクション（東から）



B区9号住居掘方全景（南東から）



B区10号住居掘方全景（南から）



C区東側古墳時代前期住居全景（南西から）



C区1号住居使用面全景（南東から）



C区1号住居セクションA-A' (南東から)



C区1号住居セクションB-B' (南西から)



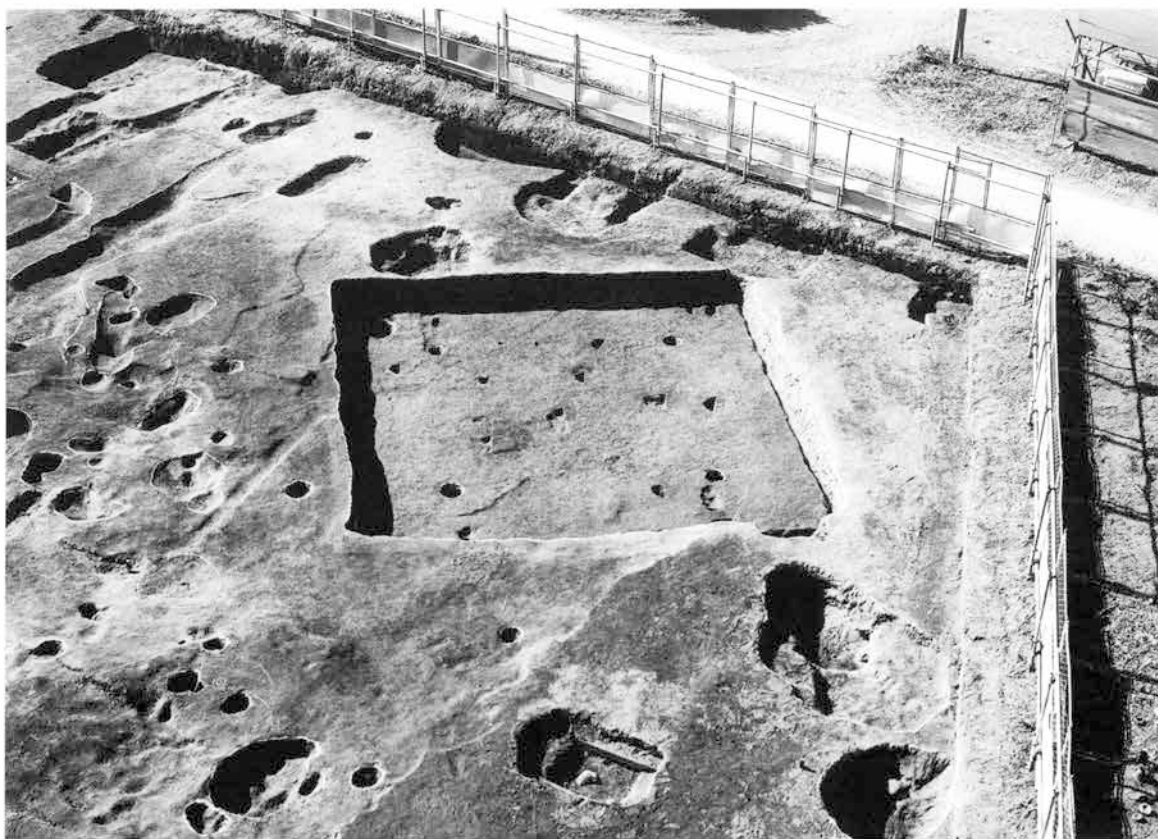
C区1号住居炉 (南東から)



C区1号住居炉セクション (南西から)



C区1号住居掘方全景 (南東から)



C区2号住居使用面全景（北東から）



C区2号住居遺物出土状況（北東から）



C区2号住居遺物出土状況（南東から）



C区2号住居遺物出土状況（南から）



C区3号住居使用面全景（南東から）



C区3号住居遺物出土状況（南から）



C区3号住居貯蔵穴遺物出土状況（南東から）



C区4号住居使用面全景（北東から）



C区4号住居掘方全景（北東から）



C区5号住居使用面全景（南西から）



C区5号住居粘土確認状況（西から）



C区5号住居遺物出土状況（北西から）



C区5号住居掘方全景（南西から）



C区6号住居使用面全景（南東から）



C区6号住居遺物出土状況（南東から）



C区6号住居貯蔵穴遺物出土状況（南から）



C区6号住居貯蔵穴遺物出土状況（南から）



C区6号住居掘方全景（南東から）



C区7号住居使用面全景（南東から）



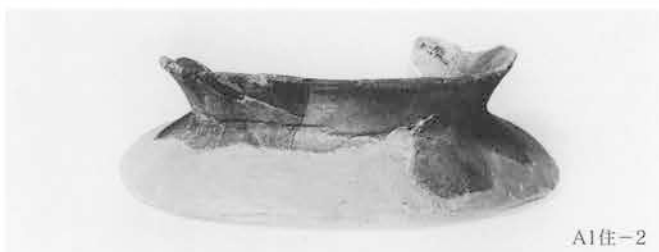
C区7号住居遺物出土状況（南西から）



C区7号住居掘方全景（南東から）



A1住-1



A1住-2



A1住-5



A1住-4



A1住-8



A1住-3



A1住-6



A1住-9



A1住-7



A1住-12



A1住-10



A1住-11



A1住-14



A1住-15



A1住-13



A1住-20



A1住-16



A1住-18



A2住-1



A1住-19



A2住-3



A2住-4



B1住-4



A2住-2



A2住-5



B1住-3



B1住-8



B1住-7



B1住-5



B1住-39



B1住-33



B1住-34



B1住-2



B1住-1



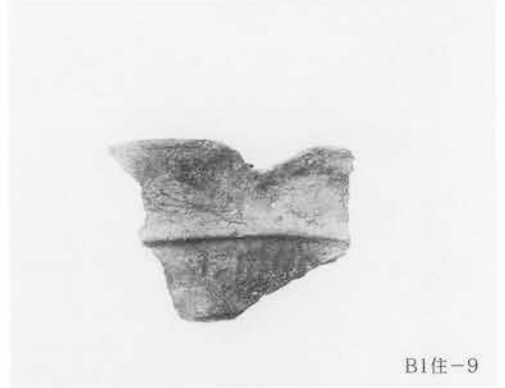
B1住-32



B1住-29



B1住-6



B1住-9



B1住-10



B1住-35



B1住-36



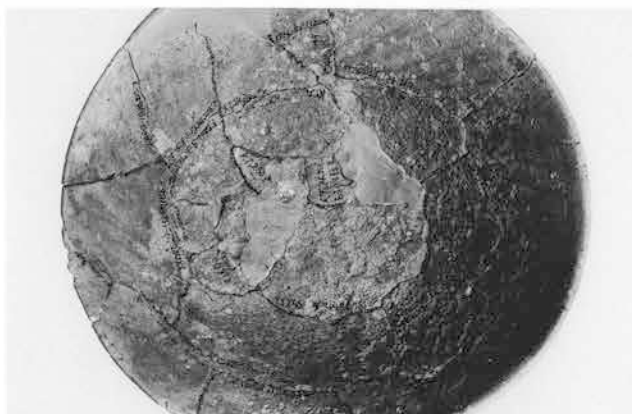
B1住-38



B1住-20



B1住-31



B1住-21



B1住-22



B1住-23



B1住-26



B1住-24



B1住-25



B1住-28



B1住-27



B1住-30



B1住-17



B1住-19



B1住-18



B1住-15



B1住-16



B1住-11



B1住-14



B1住-13



B1住-12



B2住-1



B2住-2



B2住-6



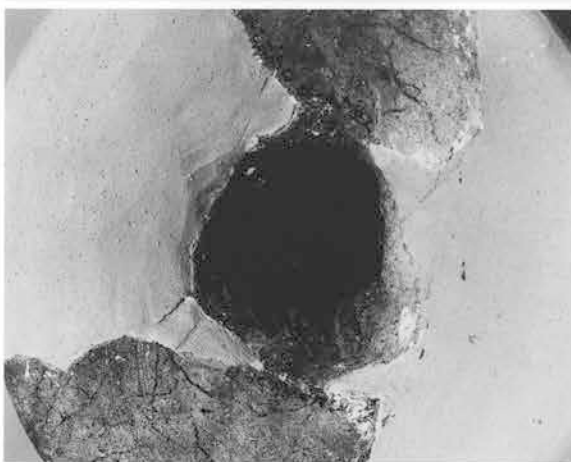
B2住-5



B2住-4



B2住-3



B3住-1







B4住-16



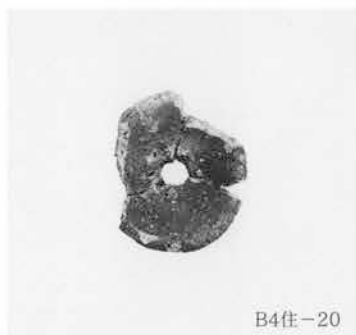
B4住-14



B4住-13



B4住-19



B4住-20



B4住-21



B5住-3



B5住-2



B5住-4



B5住-5



B5住-7



B5住-1



B5住-6



B5住-10



B5住-9





B6住-3



B6住-1



B6住-2



B6住-6



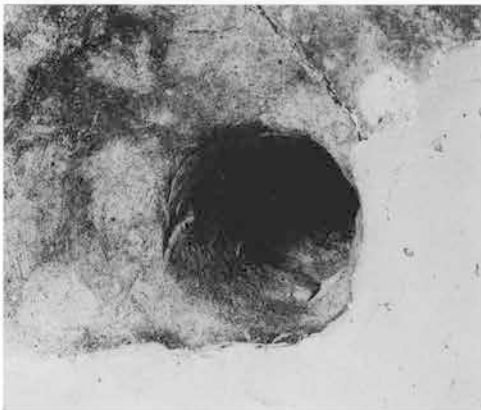
B6住-5



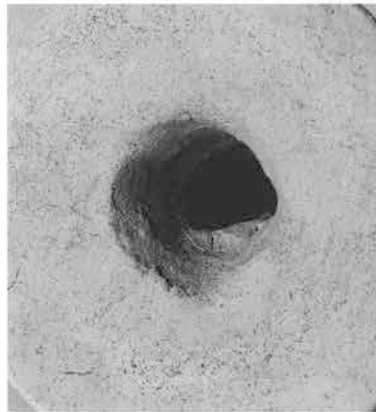
B6住-4

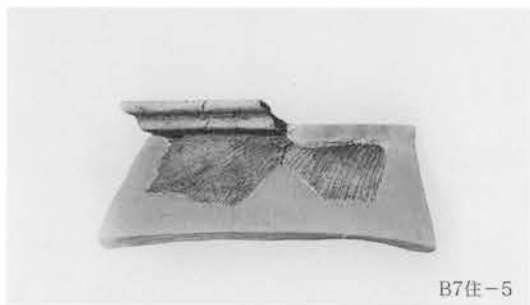


B6住-13

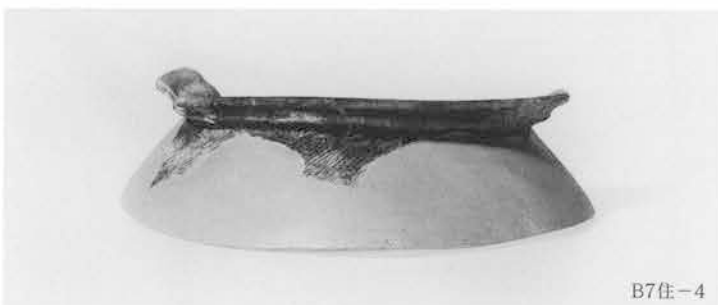


B6住-8





B7住-5



B7住-4



B7住-6



B7住-3



B7住-2



B7住-7



B7住-1



B7住-9



B7住-10



B7住-11



B7住-8



B7住-13



B7住-12



B8住-6



B8住-1



B9住-2



B9住-1



B8住-2



B9住-10



B9住-3



B9住-4



B8住-5



B8住-4



B8住-3



B9住-8



B9住-11



B9住-6



B9住-7



B9住-5



B9住-9



B9住-12



B9住-13



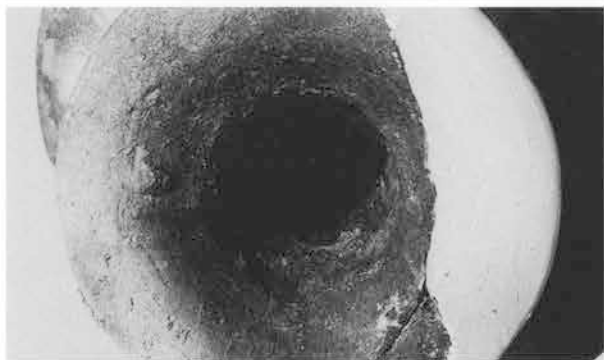
B9住-20



B9住-15



B9住-14

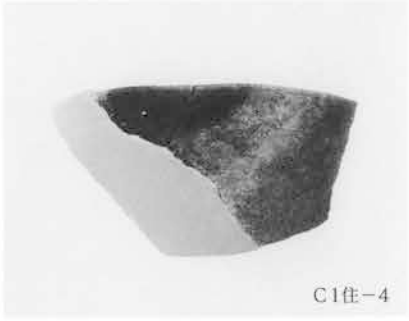


B9住-21



B9住-16







C2住-4



C2住-3



C2住-6



C2住-7



C2住-8



C2住-5



C2住-10



C2住-11









C2住-49



C2住-47



C2住-50



C2住-29



C2住-32



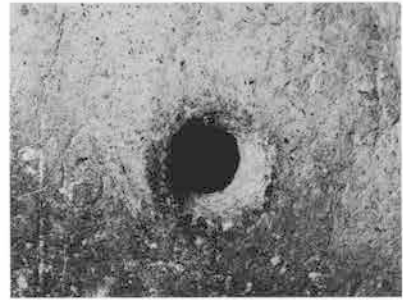
C2住-51



C2住-52



C2住-30



C2住-31



C2住-53



C2住-55



C2住-54



C3住-14



C3住-11



C3住-9





C3住-4



C3住-2



C3住-5



C3住-15



C3住-8



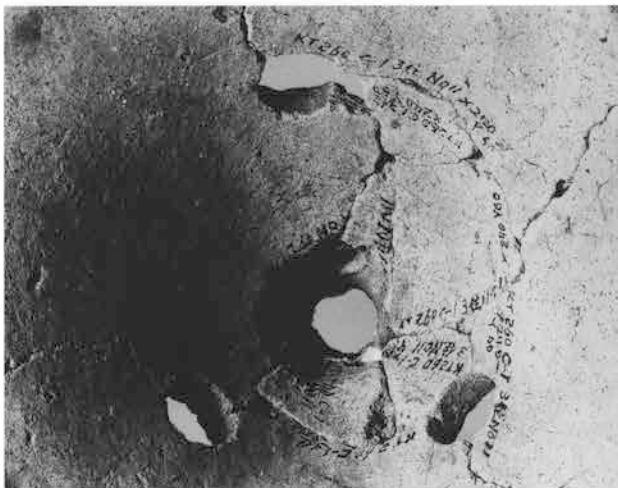
C3住-10



C3住-12



C3住-13



C4住-1



C5住-1



C5住-4

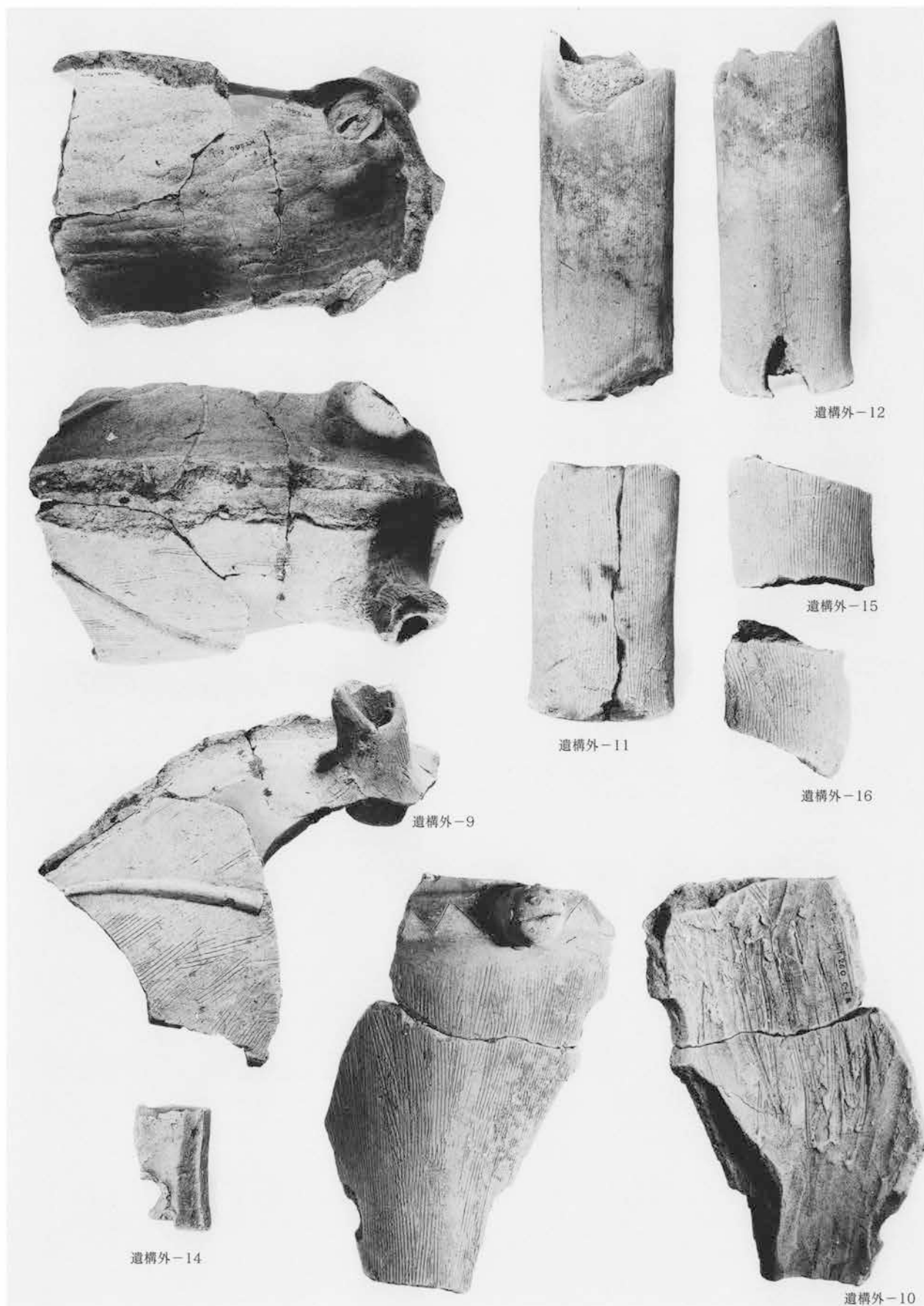


C5住-2



C5住-3







A区東側中近世面（南東から）



A区西側中近世面（東から）



A区4号井戸遺物出土状況（南西から）



A区4号井戸（南西から）



A区5号井戸（南東から）



A区6号井戸（南西から）



A区7号井戸（西から）



A区8号井戸（南から）



A区9号井戸（北から）



A区366号土坑（南から）



A区374号土坑 (西から)



A区405~408号土坑 (南から)



A区422号土坑 (南から)



A区425号土坑 (東から)



A区429号土坑 (南から)



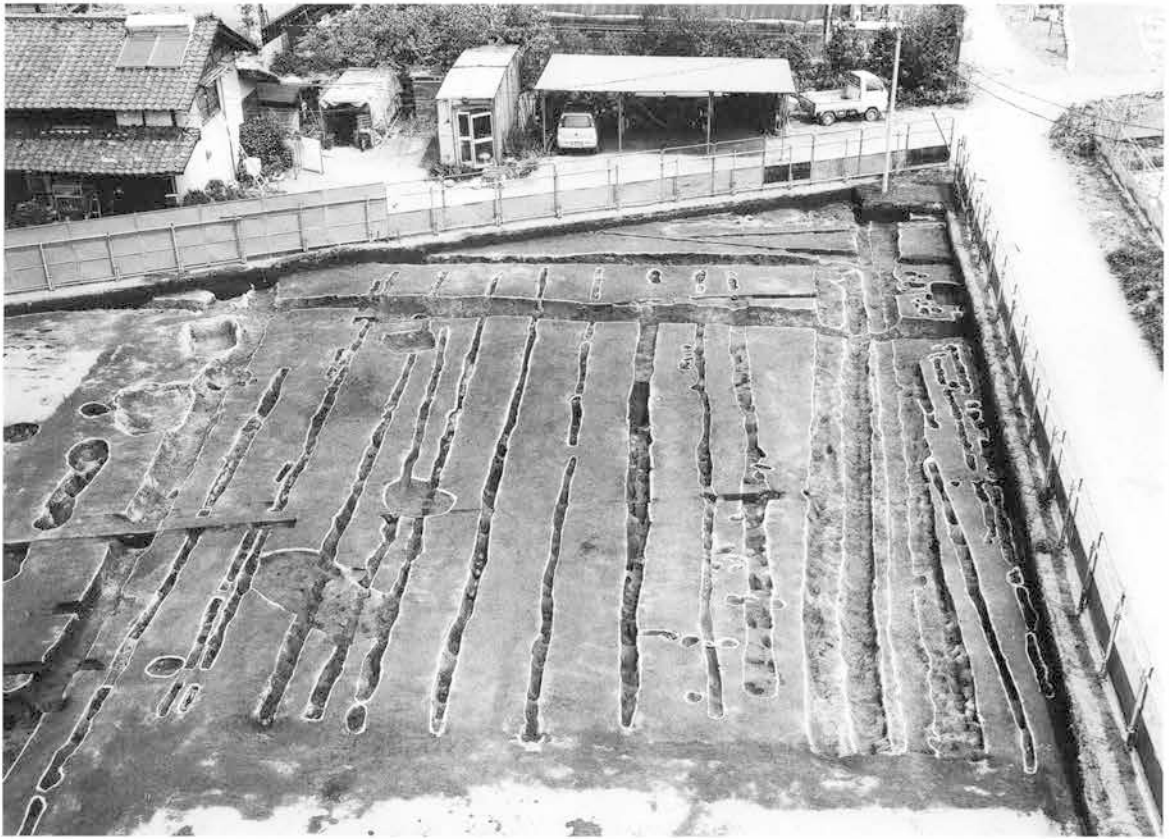
A区29号溝遺物出土状況 (西から)



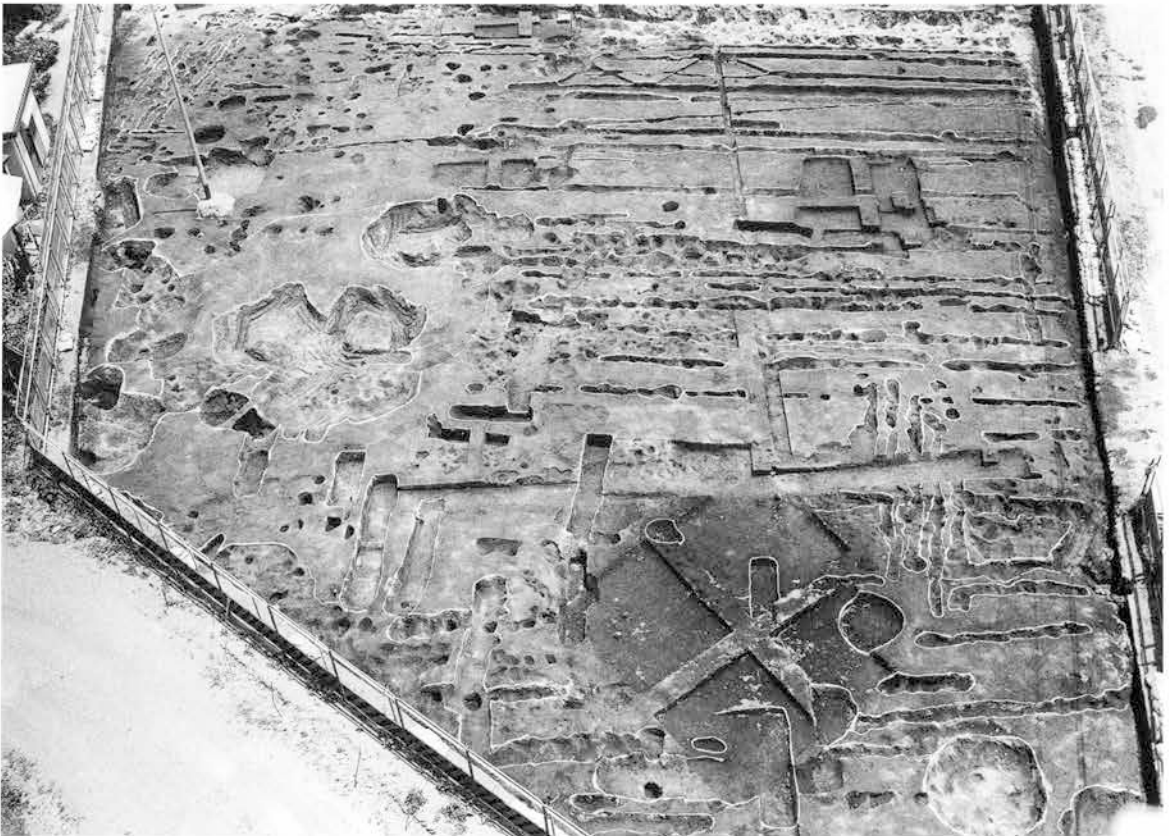
A区29号溝遺物出土状況近景 (西から)



A区36~39・42号溝 (南から)



B区東側中近世面（南から）



B区西側中近世面（西から）



B区北西隅中近世面



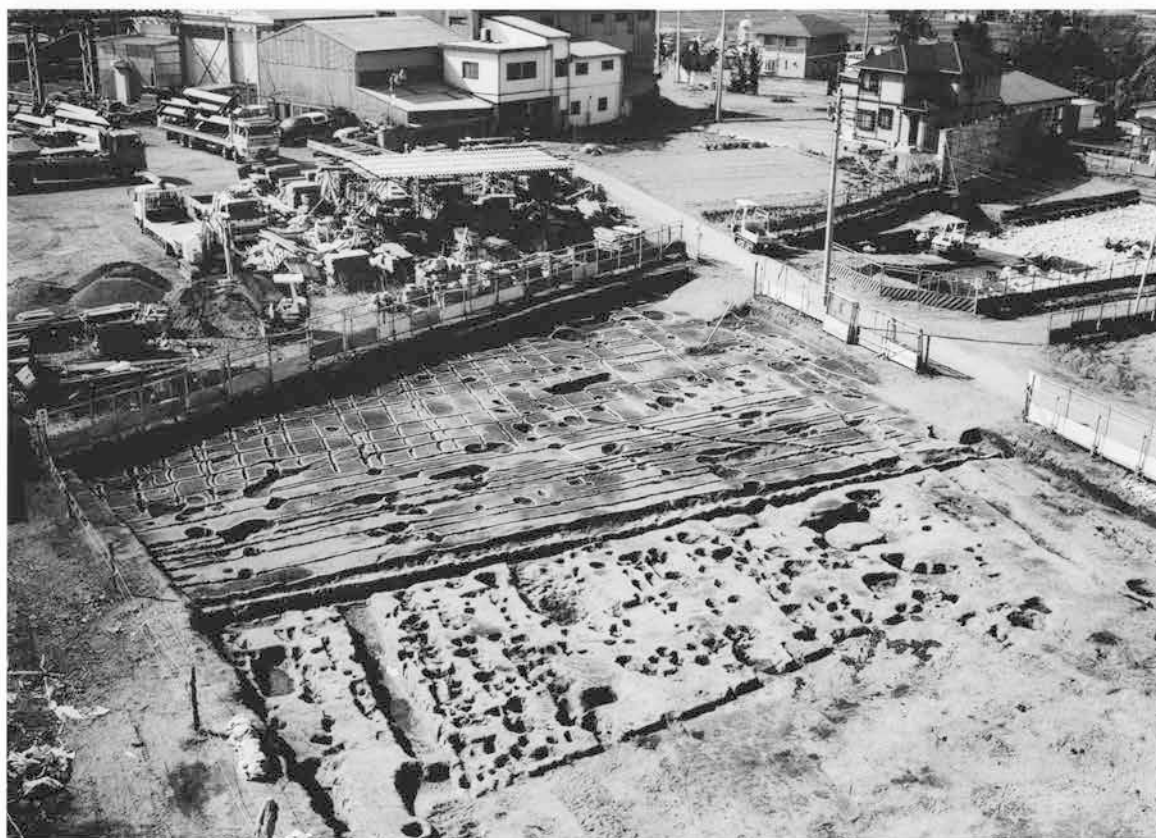
B区南東隅中近世面（西から）



B区1号掘立柱建物（南から）



B区1・2号溝（南から）



C区西側中近世面（北東から）



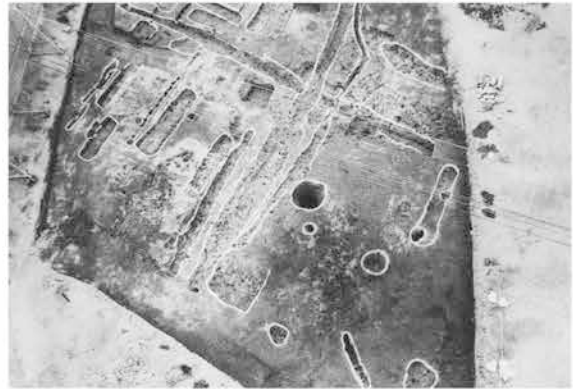
C区西側中近世面（南から）



C区東側中近世面（上空から）



C区南側中近世面（東から）



C区南側中近世面（東から）



C区1号建物（南から）



C区1号建物柱穴



C区1号建物柱穴



C区1号建物柱穴（南から）



C区1号井戸（東から）



C区2号井戸（南から）



C区3号井戸 (南から)



C区4号井戸 (南から)



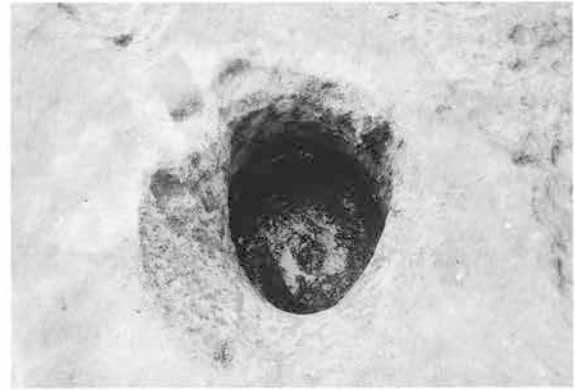
C区5号井戸 (南から)



C区6号井戸 (西から)



C区7号井戸 (南から)



C区8号井戸 (東から)



C区9号井戸 (西から)



C区10号井戸 (南から)



C区49号土坑遺物出土状況（北東から）



C区927号土坑（北から）



C区952～954号土坑（南から）



C区990号土坑（東から）



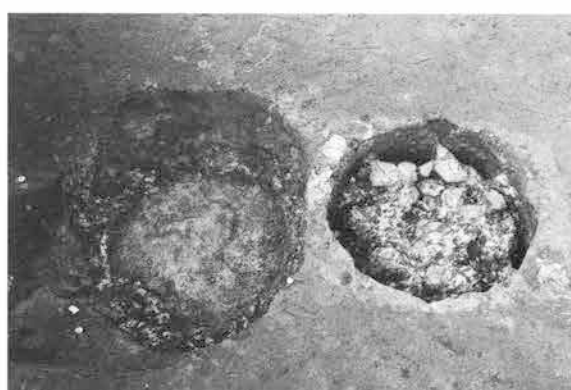
C区996号土坑（東から）



C区1005号土坑（東から）



C区1011（奥）、1012（手前）号土坑（南から）



C区1014（左）、1015（右）号土坑（南から）



C区1017号土坑（北西から）



C区1018号土坑（南から）



C区1019号土坑（東から）



C区1059号土坑（南から）



C区1065号土坑（北から）



C区1067号土坑遺物出土状況（北から）



C区1076号土坑（南から）



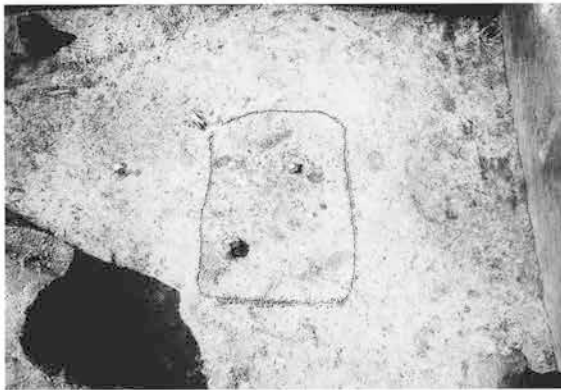
C区1081号土坑（東から）



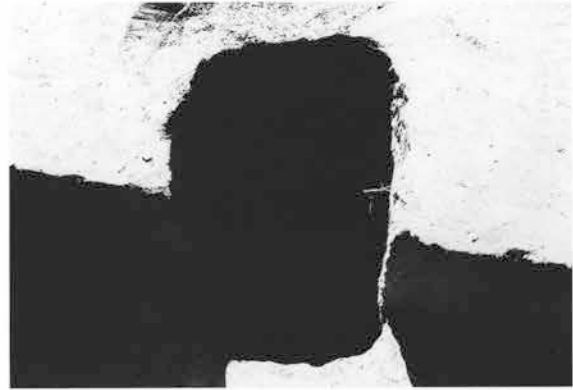
C区1087号土坑 (西から)



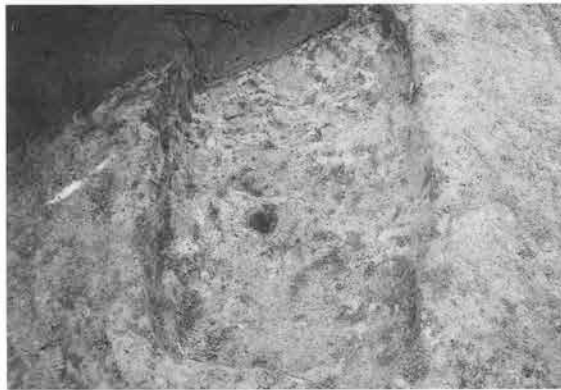
C区1094号土坑 (東から)



C区1109号土坑 (北東から)



C区1115号土坑 (北から)



C区1116号土坑 (南から)



C区12~15号溝 (北から)



C区18号溝 (北西から)



C区26号溝 (北西から)



C区33号溝 (上空から)



C区42号溝 (南から)



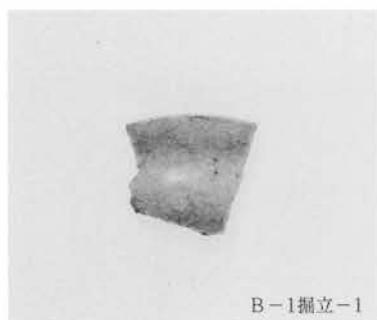
D区中近世面 (西から)



D区1号井戸 (南から)



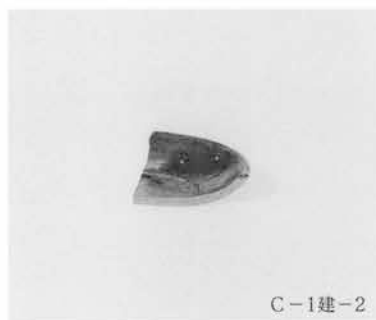
D区2・3号溝 (西から)



B-1掘立-1



C-1建-1



C-1建-2



A-2井-1



A-2井-3



A-2井-4



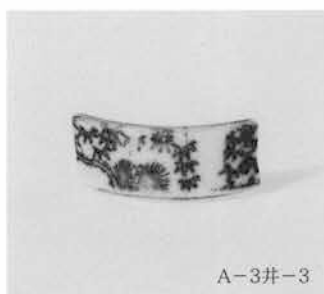
A-2井-2



A-3井-1



A-3井-2



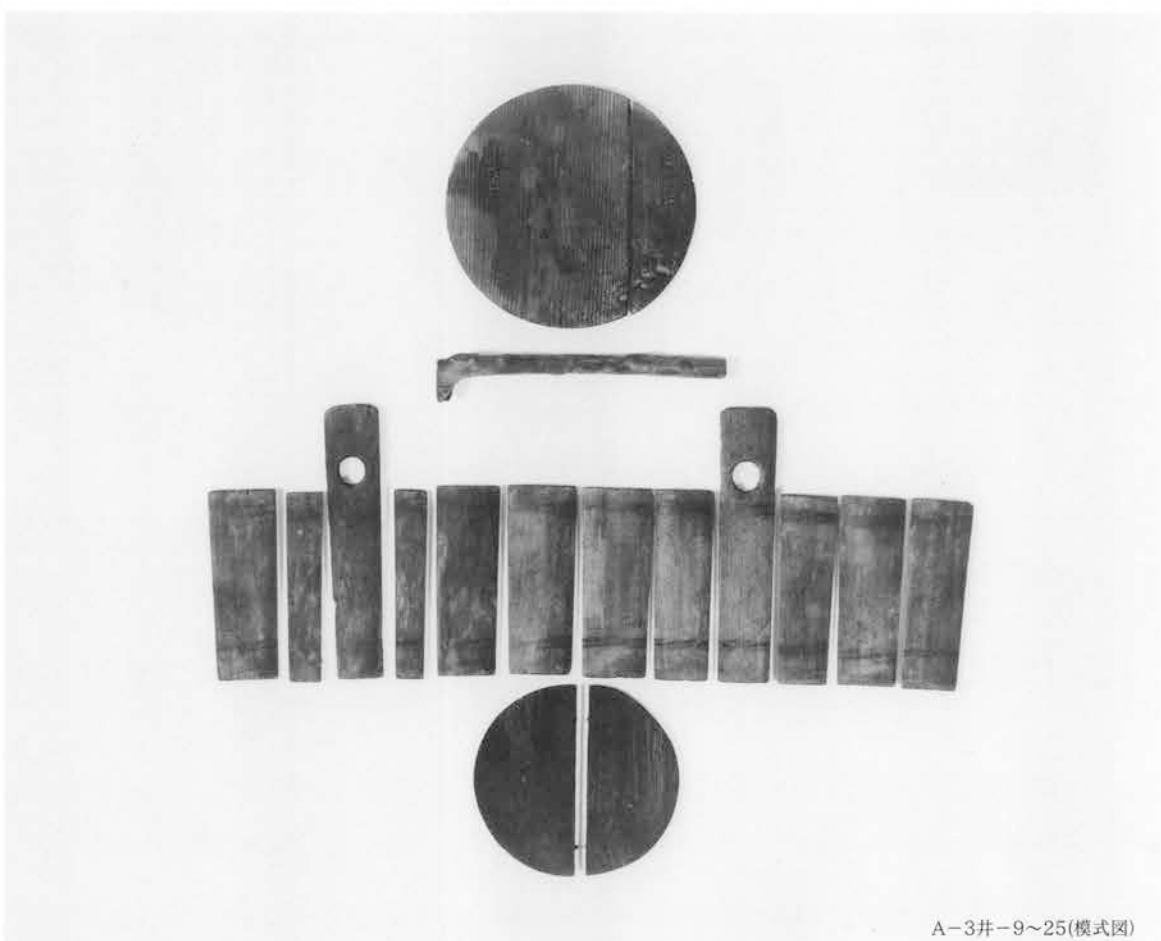
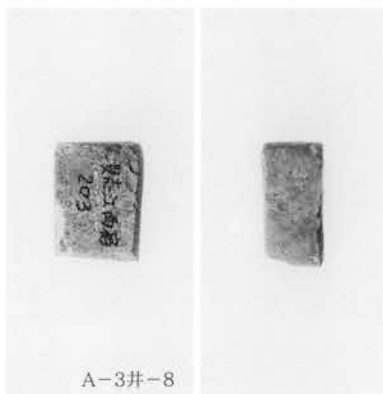
A-3井-3



A-3井-4

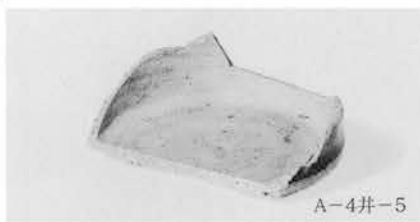


A-3井-5





A-4井-4



A-4井-5



A-4井-6



A-4井-7



A-4井-8



A-4井-9



A-4井-10



A-4井-11



A-4井-13



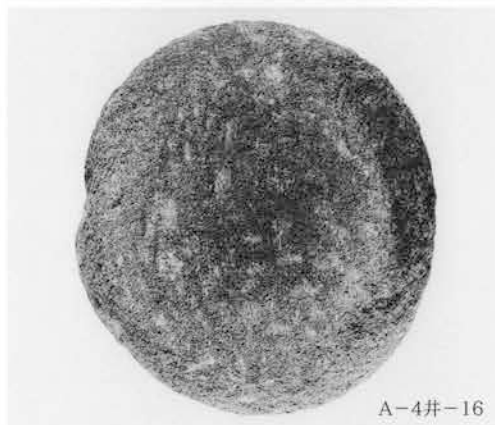
A-4井-14



A-4井-12



A-4井-15



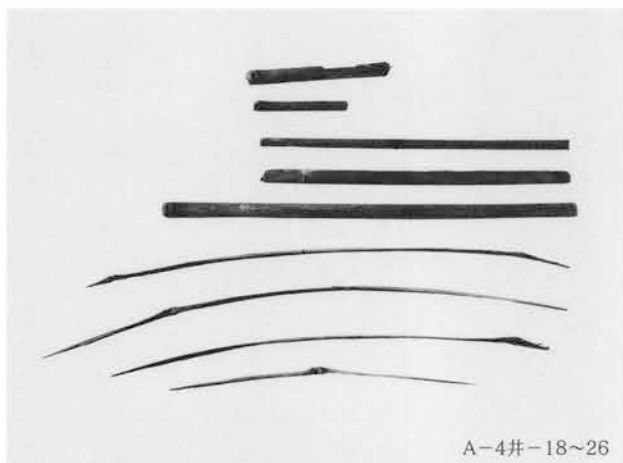
A-4井-16



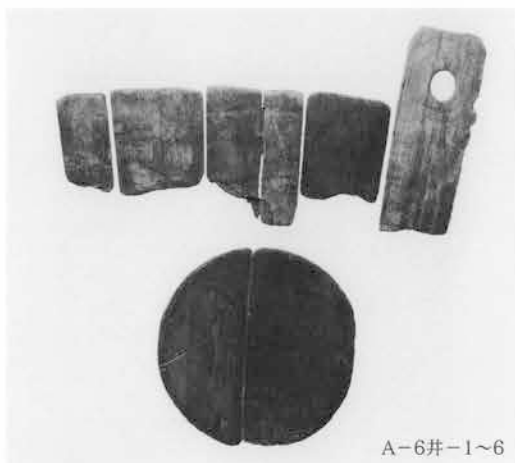
A-4井-17



A-5井-1



A-4井-18~26



A-6井-1~6



A-7井-1



A-7井-2



A-7井-5



A-7井-3



A-7井-4



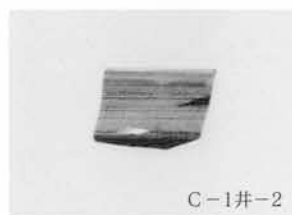
A-8井-1



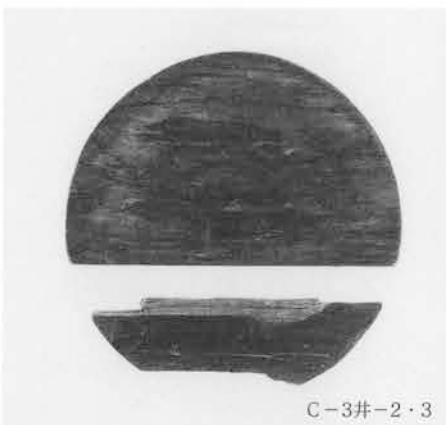
A-9井-1



C-1井-1

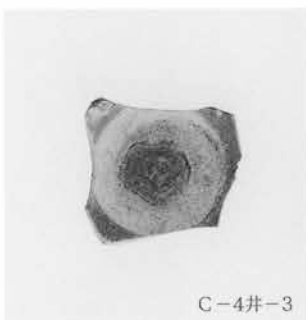


C-1井-2





C-4井-2



C-4井-3



C-4井-4



C-4井-5



C-4井-7



C-4井-6



C-7井-1



C-7井-2



C-7井-3



C-7井-4



C-7井-5



C-7井-6



C-7井-7



C-7井-8



C-7井-9



C-7井-10



C-7井-11



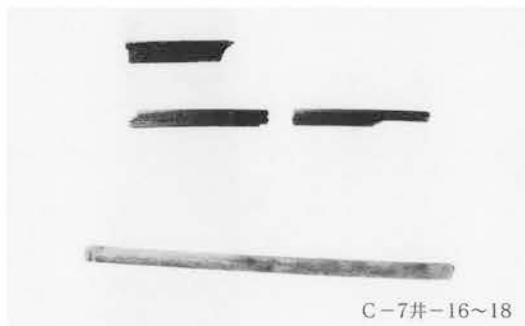
C-7井-12



C-7井-13・14



C-7井-15



C-7井-16~18



C-7井-19



C-7井-20



C-7井-21



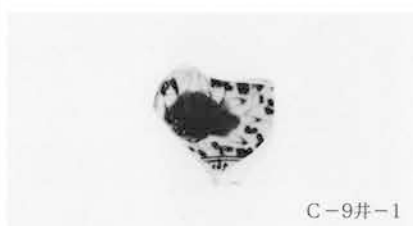
C-7井-22



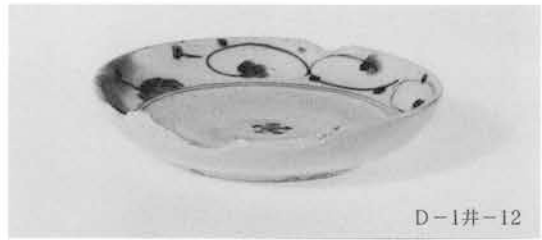
C-8井-1



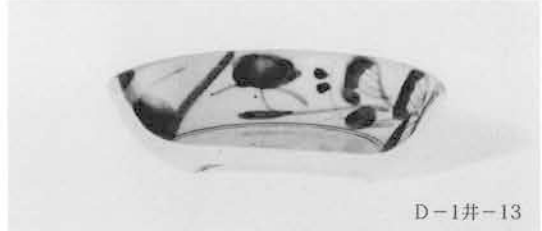
C-8井-2



C-9井-1



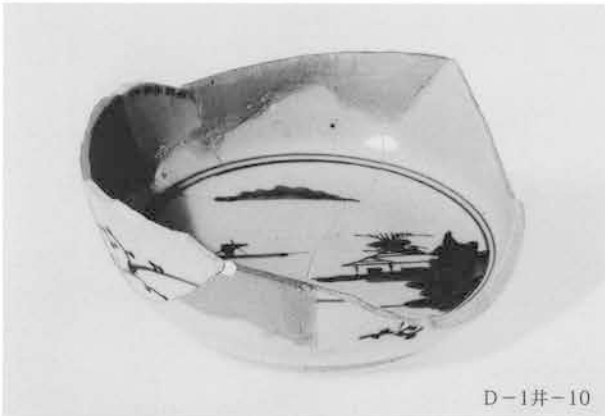
D-1井-12



D-1井-13



D-1井-14



D-1井-10



D-1井-15



D-1井-16



D-1井-17



D-1井-18



D-1井-19



D-1井-21



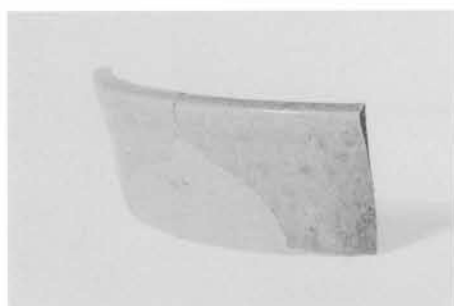
D-1井-20



D-1井-22



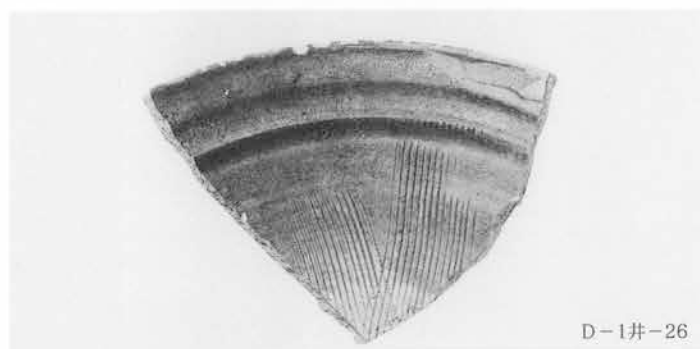
D-1井-23



D-1井-25



D-1井-24



D-1井-26



D-1井-27



D-1井-28



D-1井-29



D-1井-30



D-1井-31



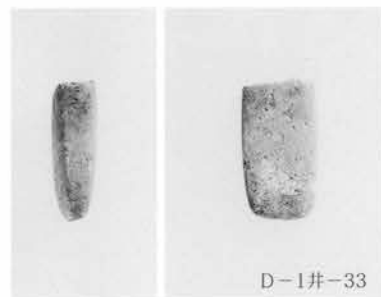
D-1井-32



D-1井-34



D-1井-37



D-1井-33



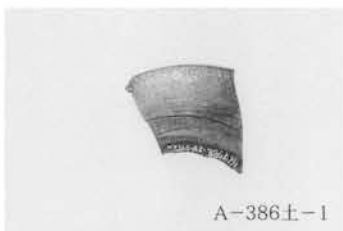
D-1井-35



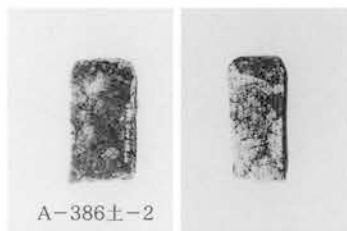
D-1井-38



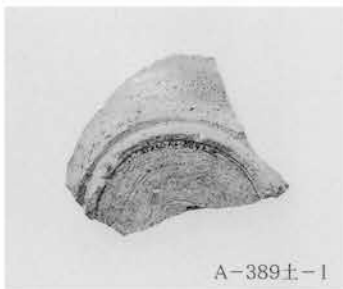
D-1井-36



A-386±-1



A-386±-2



A-389±-1



A-405±-1



B-57±-1



B-90±-1



C-49±-1



C-49±-2



C-49±-3



C-49±-4



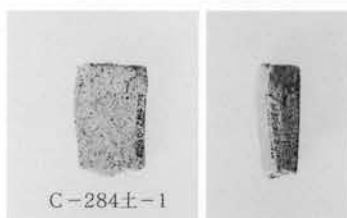
C-49±-5



C-49±-6



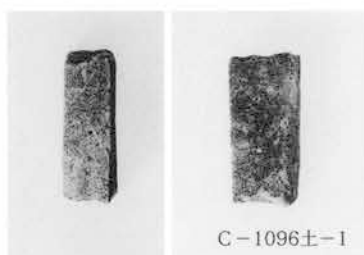
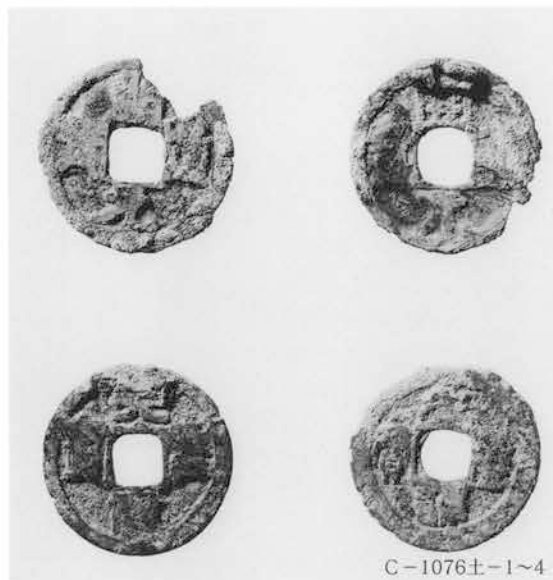
C-49±-7

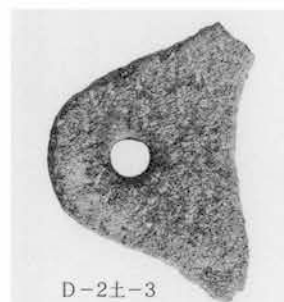
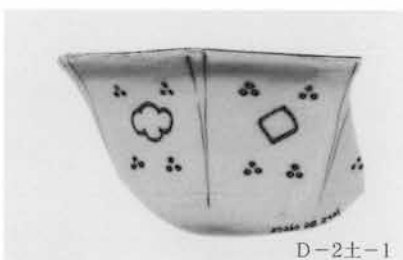
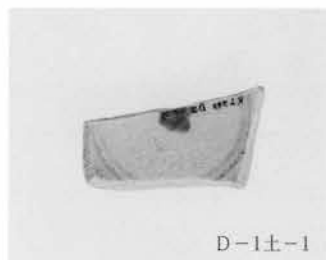


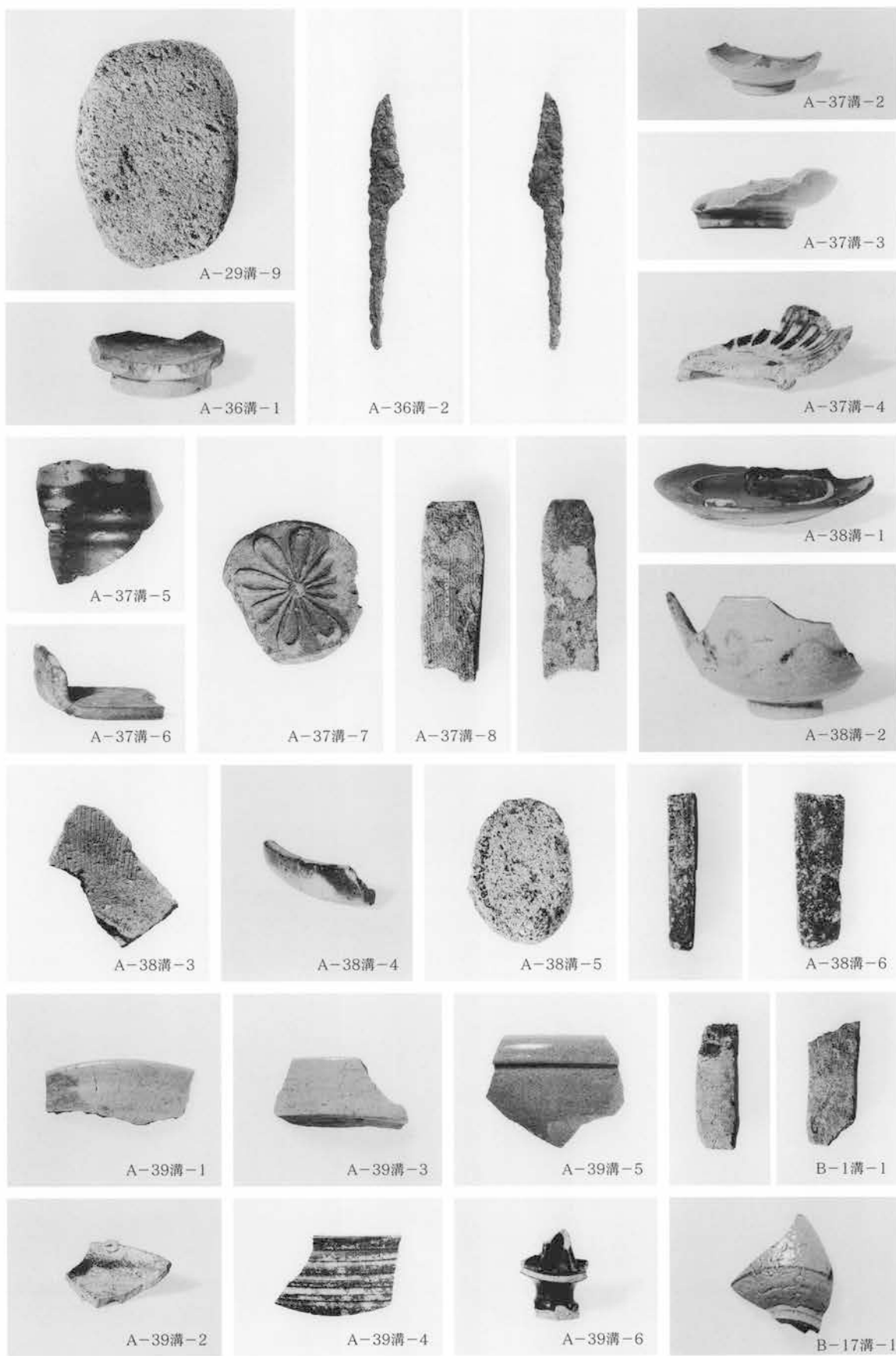
C-284±-1



C-927±-1





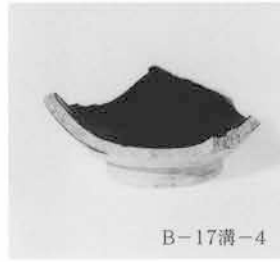




B-17溝-2



B-17溝-3



B-17溝-4



B-17溝-5



B-17溝-6



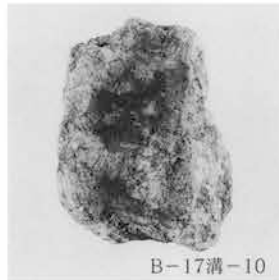
B-17溝-7



B-17溝-8



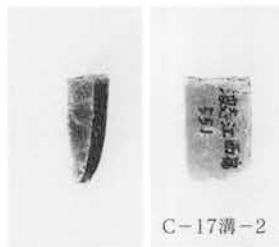
B-17溝-9



B-17溝-10



B-21溝-1



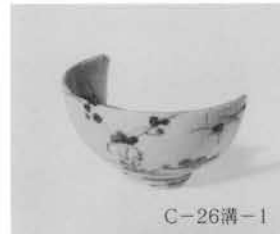
C-17溝-2



C-17溝-1



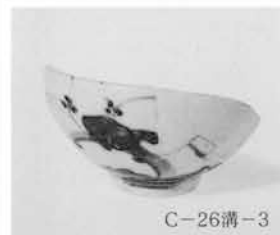
C-18溝-1



C-26溝-1



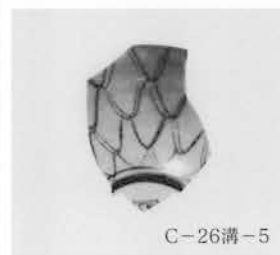
C-26溝-2



C-26溝-3



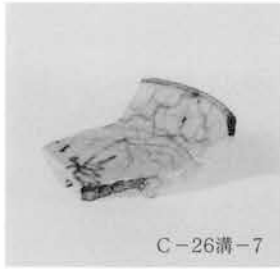
C-26溝-4



C-26溝-5



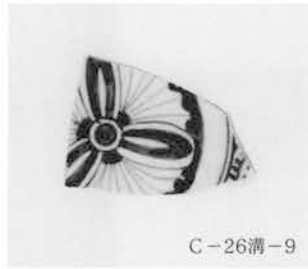
C-26溝-6



C-26溝-7



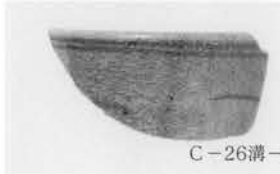
C-26溝-8



C-26溝-9



C-26溝-10



C-26溝-11



C-26溝-12



C-26溝-13



C-26溝-16



C-26溝-14



C-26溝-15



C-26溝-17



C-26溝-20



C-26溝-18



C-26溝-19



C-26溝-21



C-26溝-22



C-26溝-24



C-26溝-23



C-26溝-25



C-26溝-28



C-26溝-27



C-26溝-29



C-26溝-30



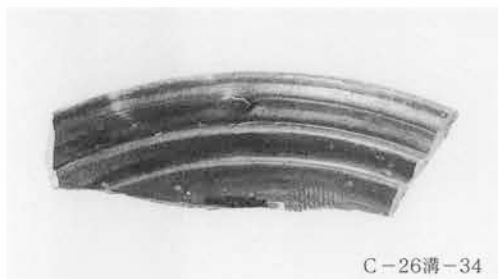
C-26溝-31



C-26溝-32



C-26溝-33



C-26溝-34



C-26溝-35



C-26溝-36



C-26溝-37



C-26溝-38



C-26溝-40



C-26溝-39



C-26溝-41



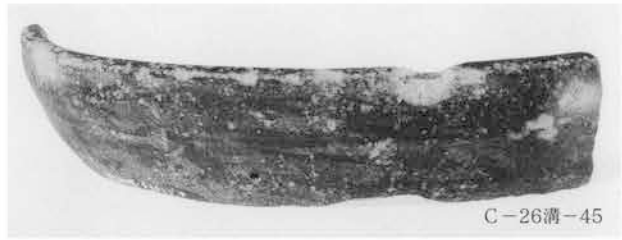
C-26溝-42



C-26溝-43



C-26溝-44



C-26溝-45



C-26溝-46



C-26溝-48



C-26溝-47



C-26溝-49



C-26溝-50



C-26溝-51



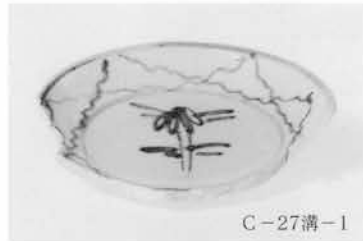
C-26溝-52



C-26溝-53



C-26溝-54



C-27溝-1



C-27溝-3



C-27溝-2



C-33溝-1



C-33溝-2



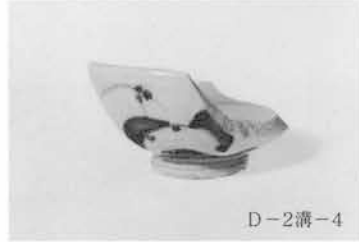
D-2溝-1



D-2溝-2



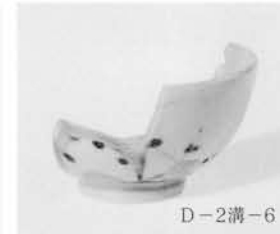
D-2溝-3



D-2溝-4



D-2溝-5



D-2溝-6



D-2溝-7



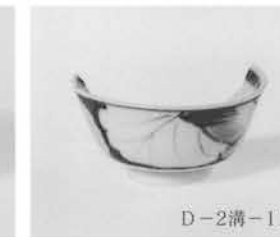
D-2溝-8



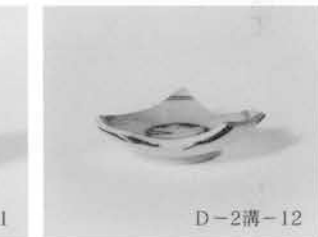
D-2溝-9



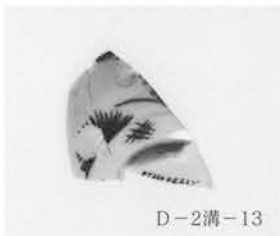
D-2溝-10



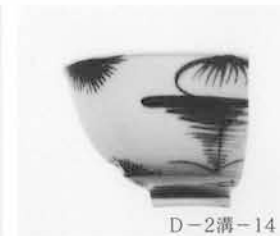
D-2溝-11



D-2溝-12



D-2溝-13



D-2溝-14



D-2溝-15



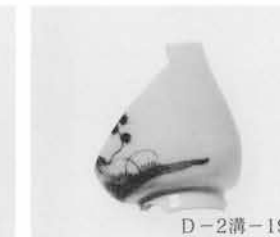
D-2溝-16



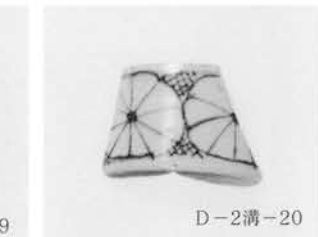
D-2溝-17



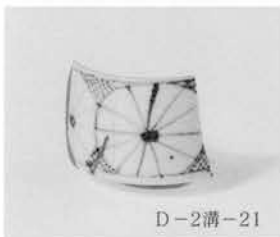
D-2溝-18



D-2溝-19



D-2溝-20



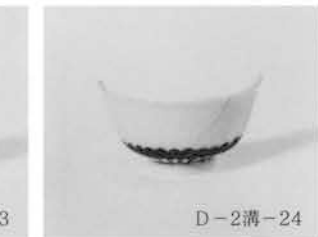
D-2溝-21



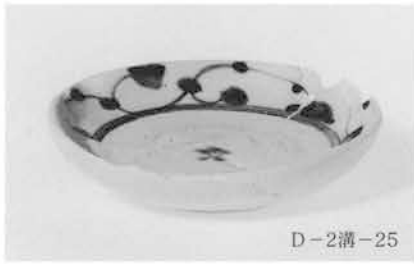
D-2溝-22



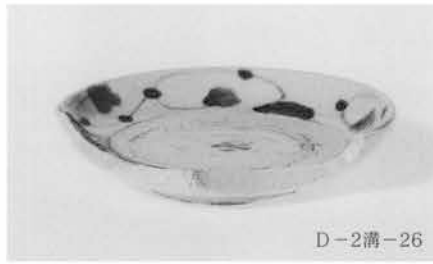
D-2溝-23



D-2溝-24



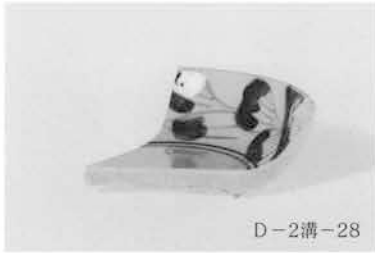
D-2溝-25



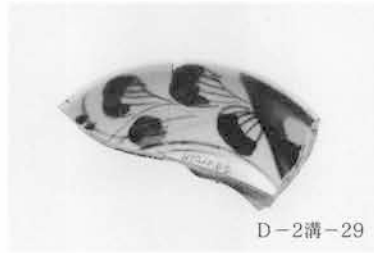
D-2溝-26



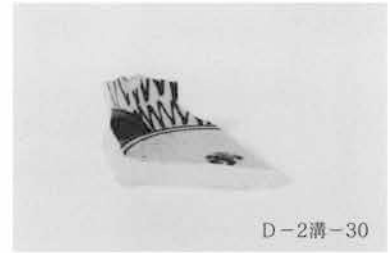
D-2溝-27



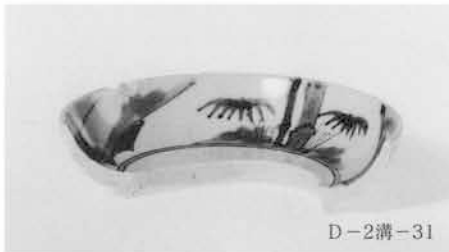
D-2溝-28



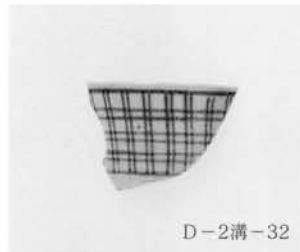
D-2溝-29



D-2溝-30



D-2溝-31



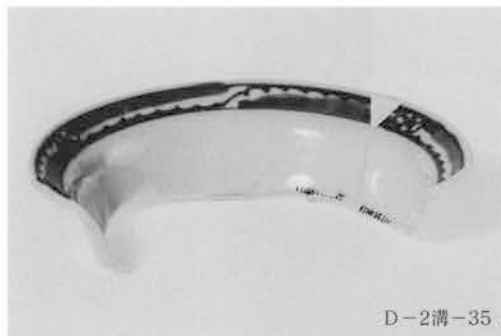
D-2溝-32



D-2溝-33



D-2溝-34



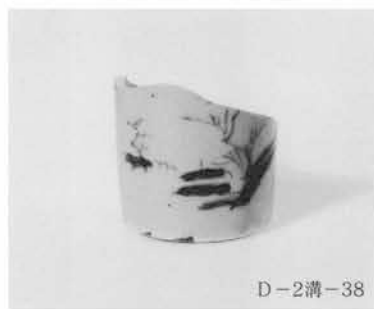
D-2溝-35



D-2溝-36



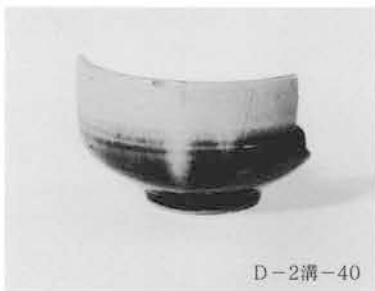
D-2溝-37



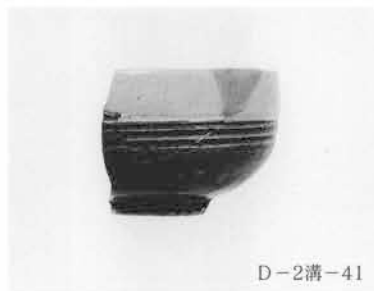
D-2溝-38



D-2溝-39



D-2溝-40



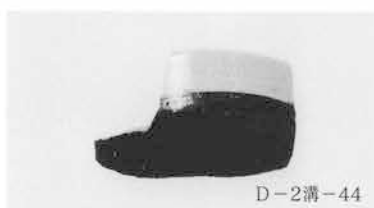
D-2溝-41



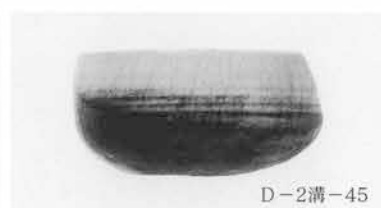
D-2溝-42



D-2溝-43



D-2溝-44



D-2溝-45



D-2溝-46



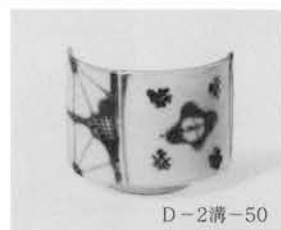
D-2溝-47



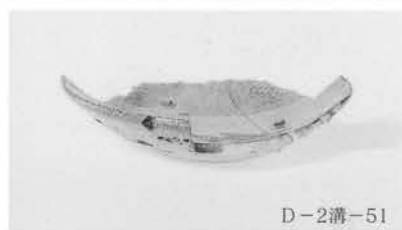
D-2溝-48



D-2溝-49



D-2溝-50



D-2溝-51



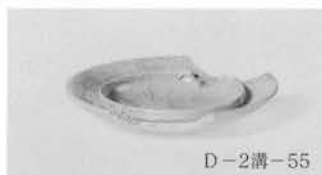
D-2溝-52



D-2溝-53



D-2溝-54



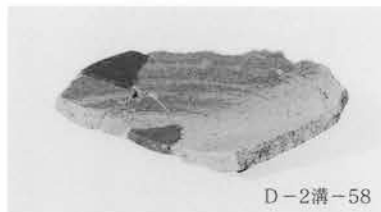
D-2溝-55



D-2溝-56



D-2溝-57



D-2溝-58



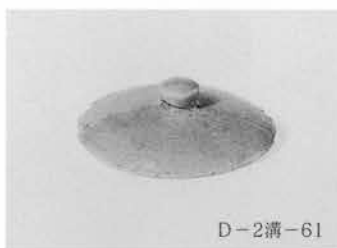
D-2溝-59



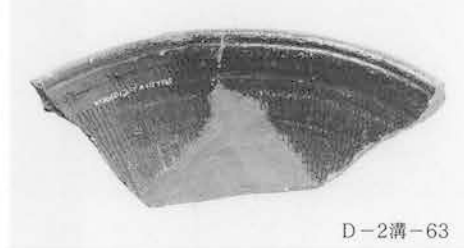
D-2溝-62



D-2溝-60



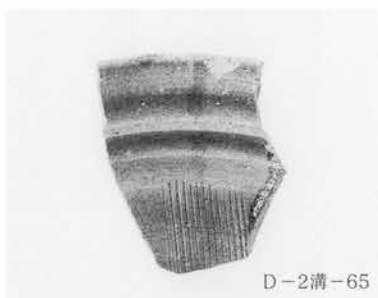
D-2溝-61



D-2溝-63



D-2溝-64



D-2溝-65



D-2溝-66



D-2溝-67



D-2溝-68



D-2溝-70



D-2溝-69



D-2溝-72



D-2溝-71



D-2溝-73



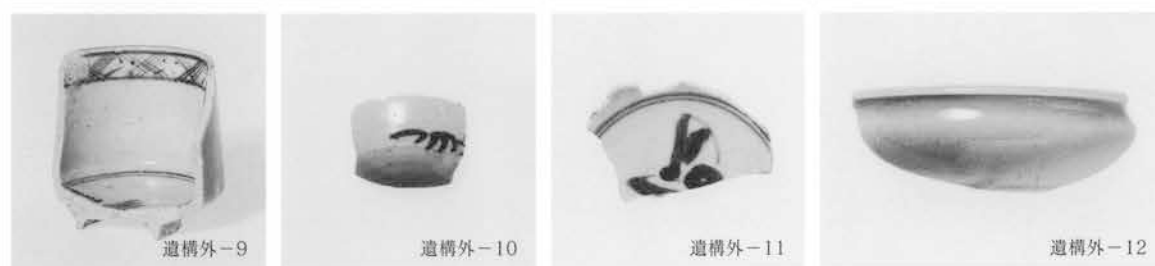
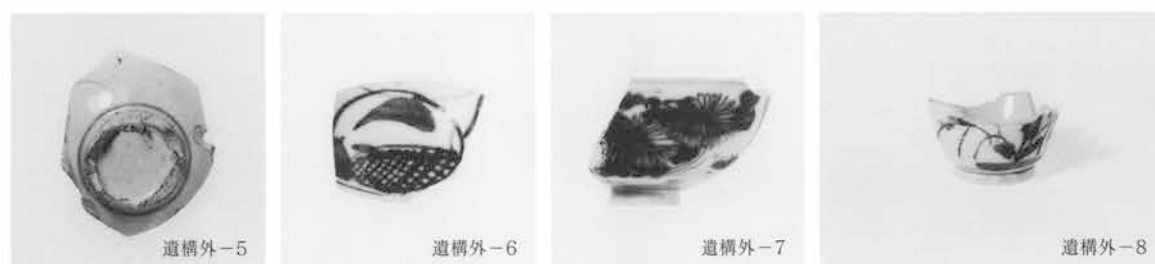
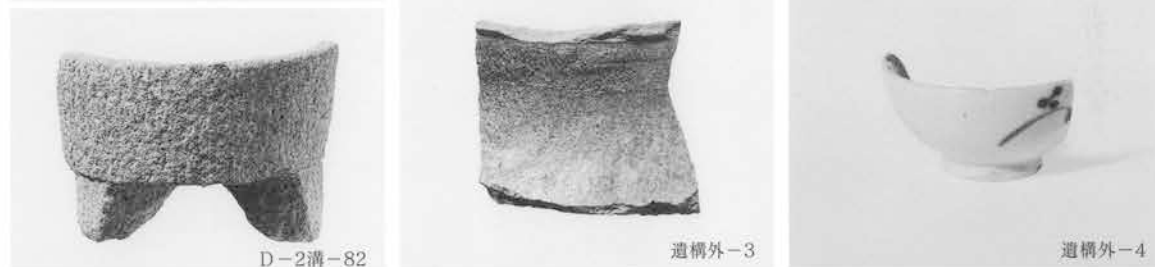
D-2溝-74



D-2溝-75



D-2溝-76

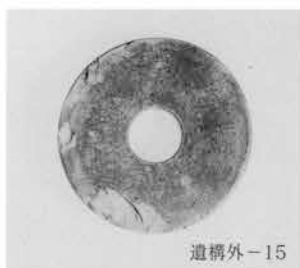




遺構外-13



遺構外-14



遺構外-15



遺構外-16



遺構外-17



遺構外-18



遺構外-19



遺構外-20



遺構外-21



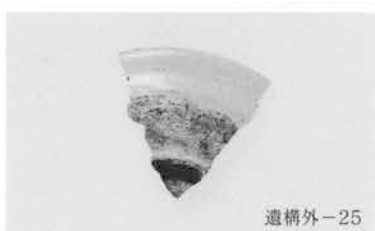
遺構外-22



遺構外-23



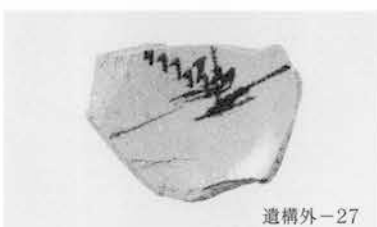
遺構外-24



遺構外-25



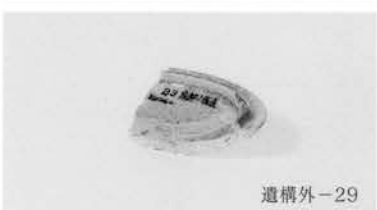
遺構外-26



遺構外-27



遺構外-28



遺構外-29



遺構外-30



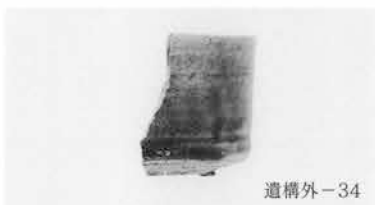
遺構外-33



遺構外-31



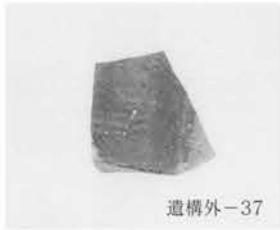
遺構外-32



遺構外-34



遺構外-36



遺構外-37



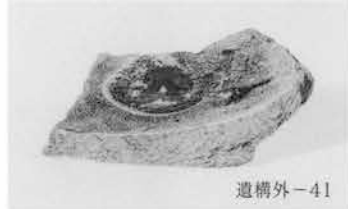
遺構外-38



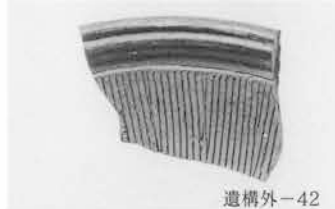
遺構外-39



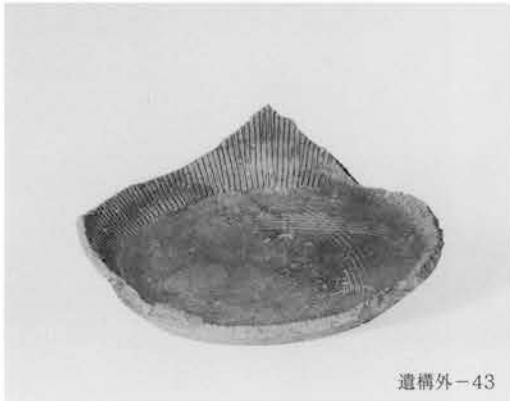
遺構外-40



遺構外-41



遺構外-42



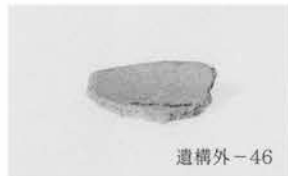
遺構外-43



遺構外-44



遺構外-45



遺構外-46



遺構外-49



遺構外-50



遺構外-51



遺構外-52



遺構外-53



遺構外-55



遺構外-54



遺構外-56



遺構外-57



遺構外-58



遺構外-59



遺構外-60



遺構外-61



遺構外-62



遺構外-63



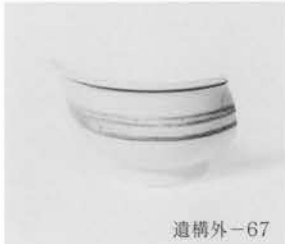
遺構外-64



遺構外-65



遺構外-66



遺構外-67



遺構外-68



遺構外-69



遺構外-70



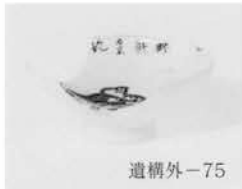
遺構外-71



遺構外-73



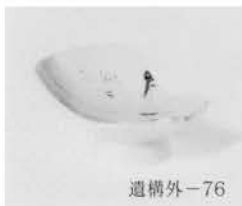
遺構外-74



遺構外-75



遺構外-77



遺構外-76



遺構外-78



遺構外-79



遺構外-80



遺構外-81



遺構外-83



遺構外-82



遺構外-86



遺構外-84



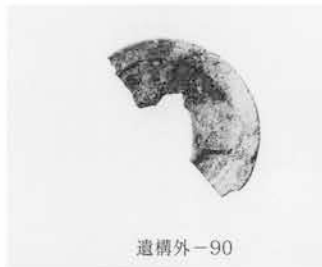
遺構外-85



遺構外-88



遺構外-87



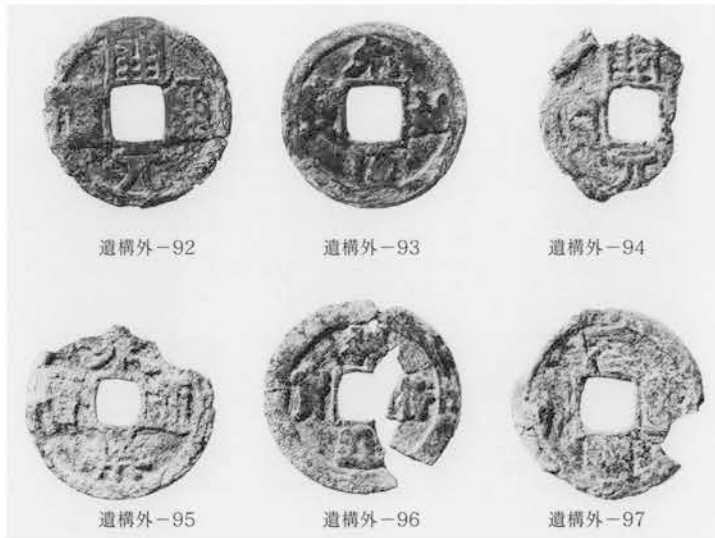
遺構外-90



遺構外-91



遺構外-89



遺構外-92

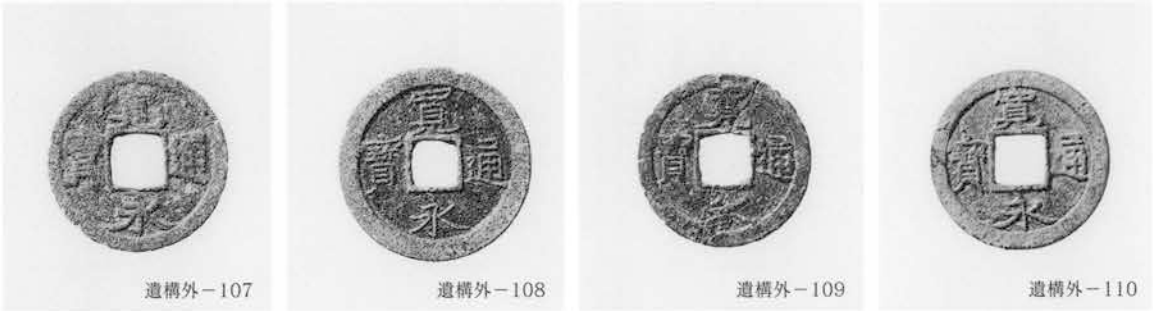
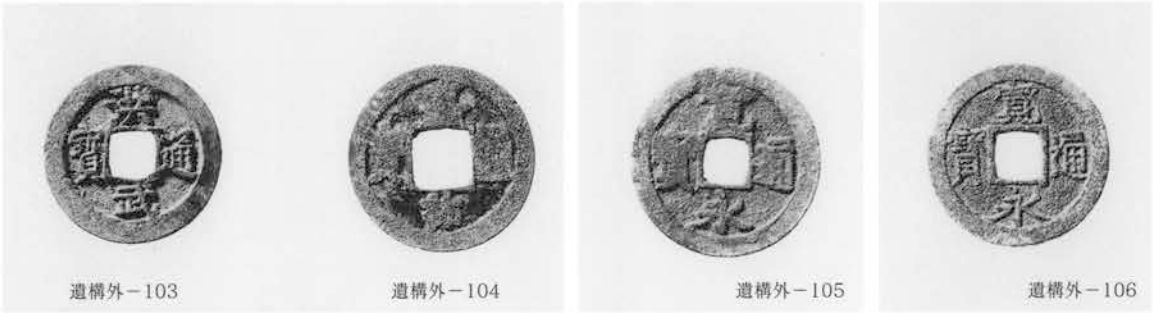
遺構外-93

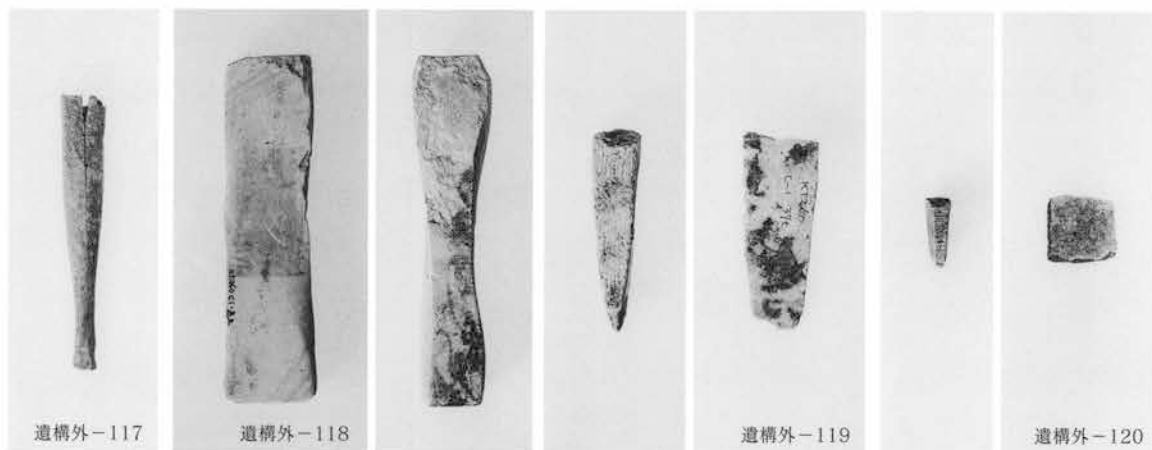
遺構外-94

遺構外-95

遺構外-96

遺構外-97







A区全景（東から）



A区全景（南東から）



B区全景（西から）



7号土壙墓（西から）



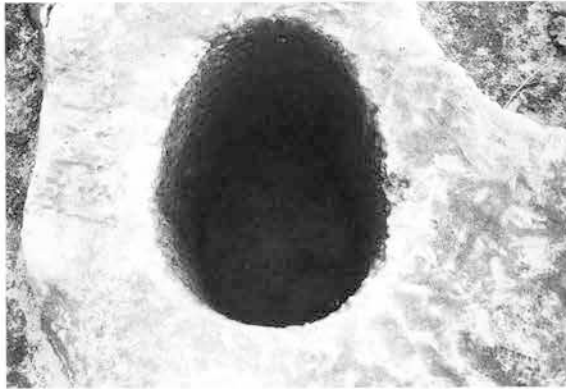
8号土壙墓（北から）



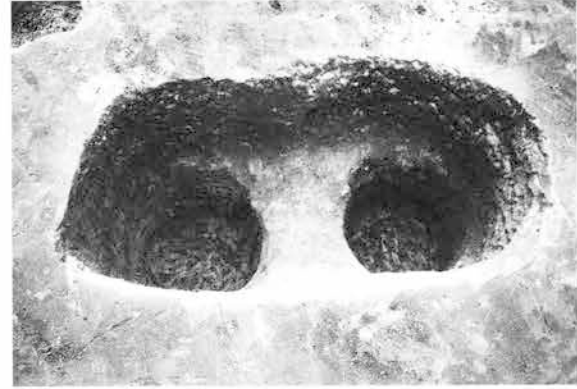
10号土壙墓 (東から)



16号土壙墓 (東から)



17号土壙墓 (北から)



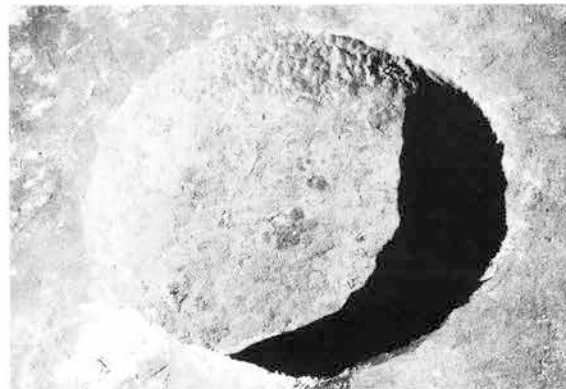
18(右)・19(左)号土壙墓 (北から)



23号土壙墓 (東から)



24号土壙墓 (南から)



1号土坑 (西から)



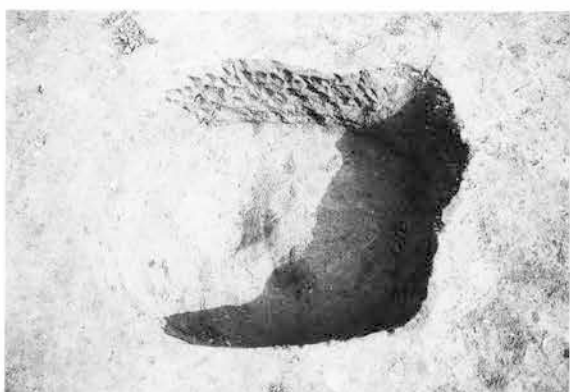
3号土坑 (西から)



4号土坑 (西から)



5号土坑 (西から)



6号土坑 (西から)



8号土坑 (南から)



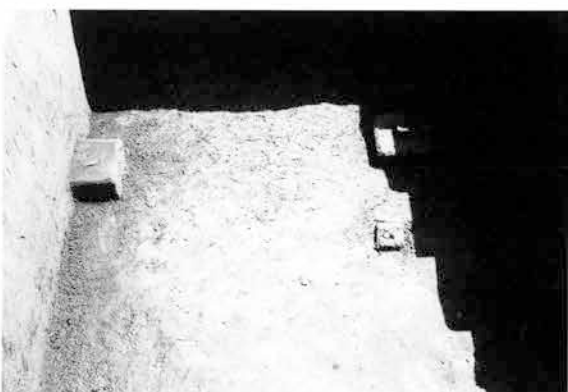
1号溝 (北から)



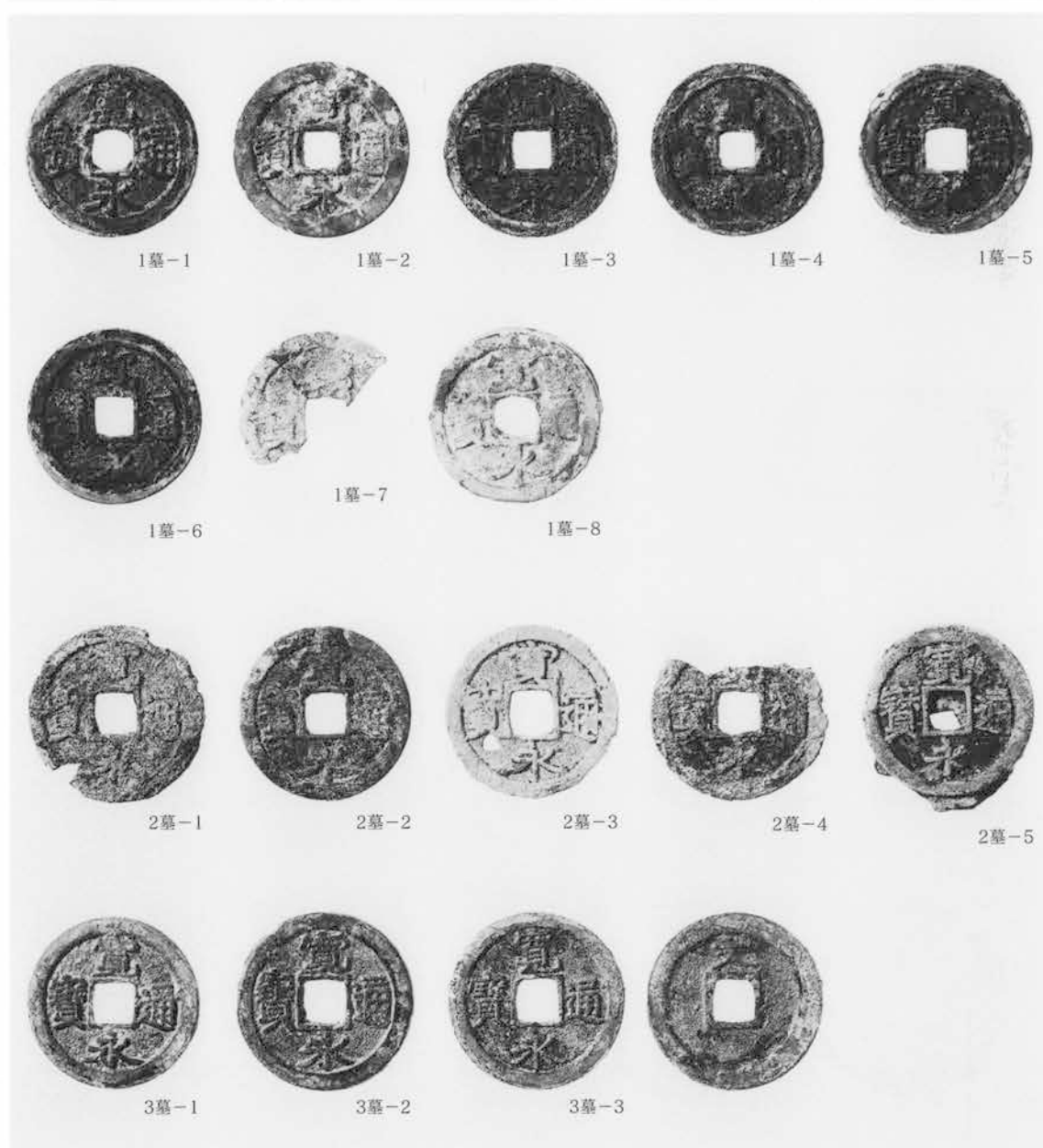
2号溝 (北から)

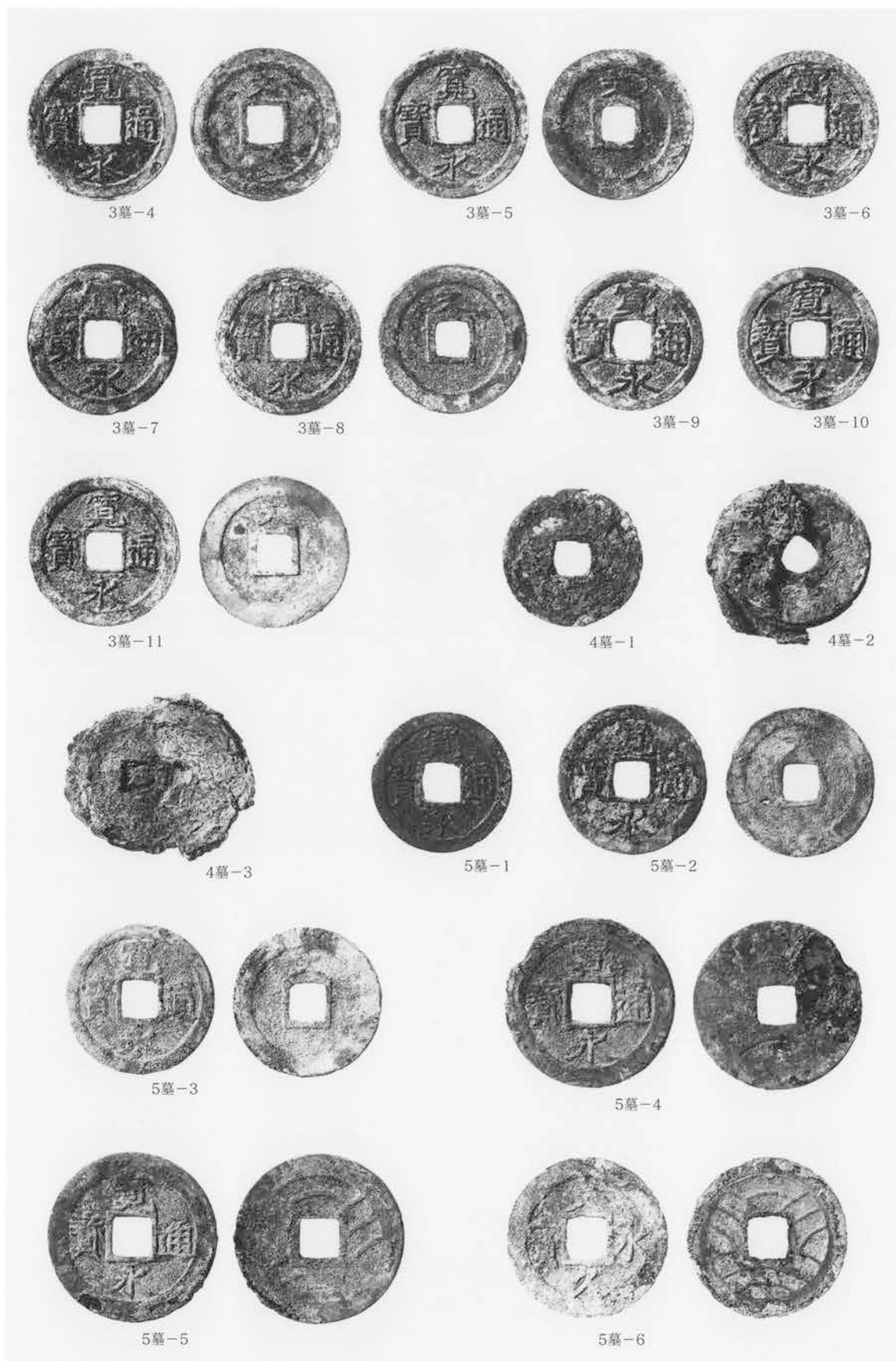


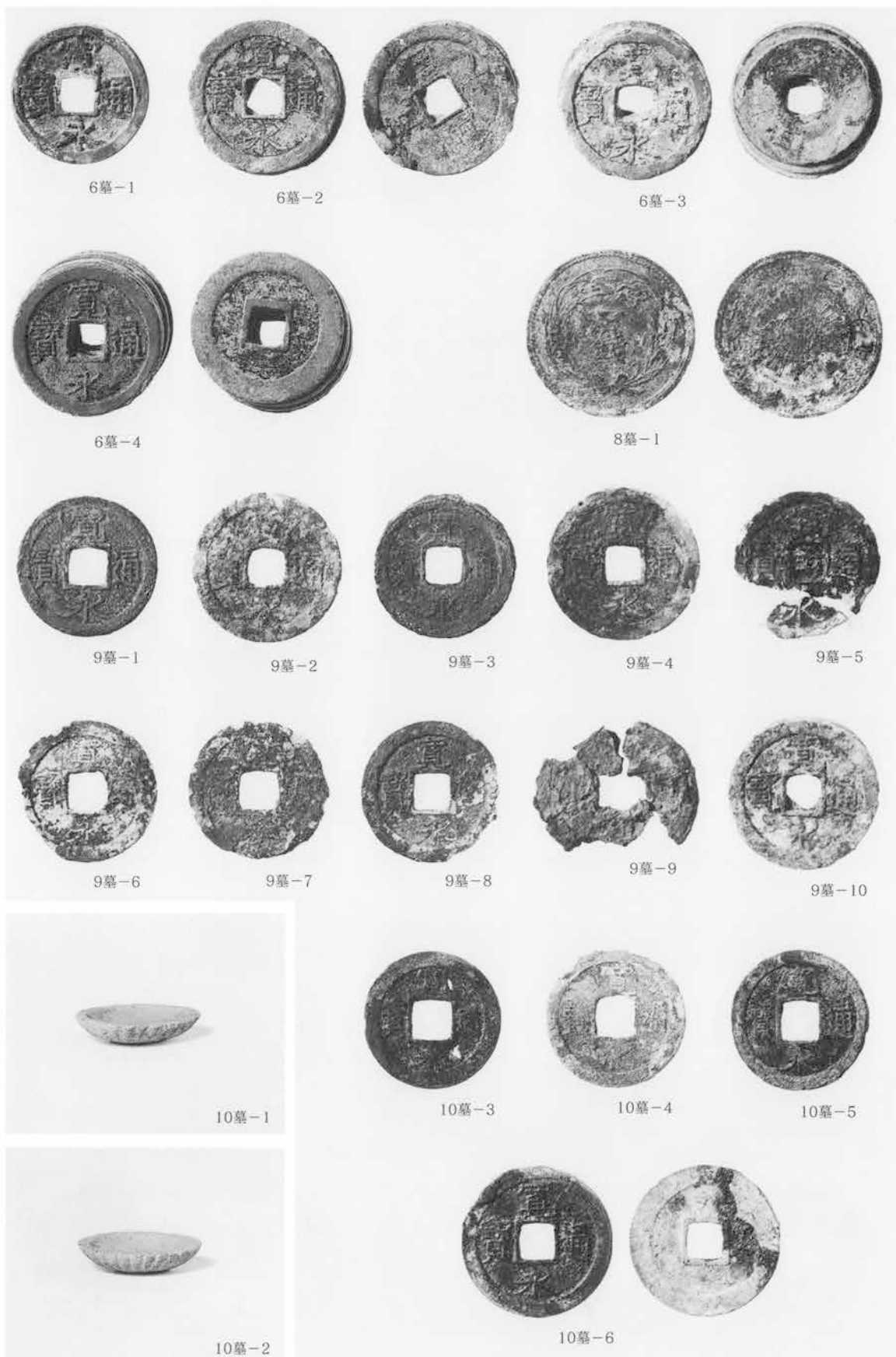
旧石器Gトレンチ北壁セクション (南から)

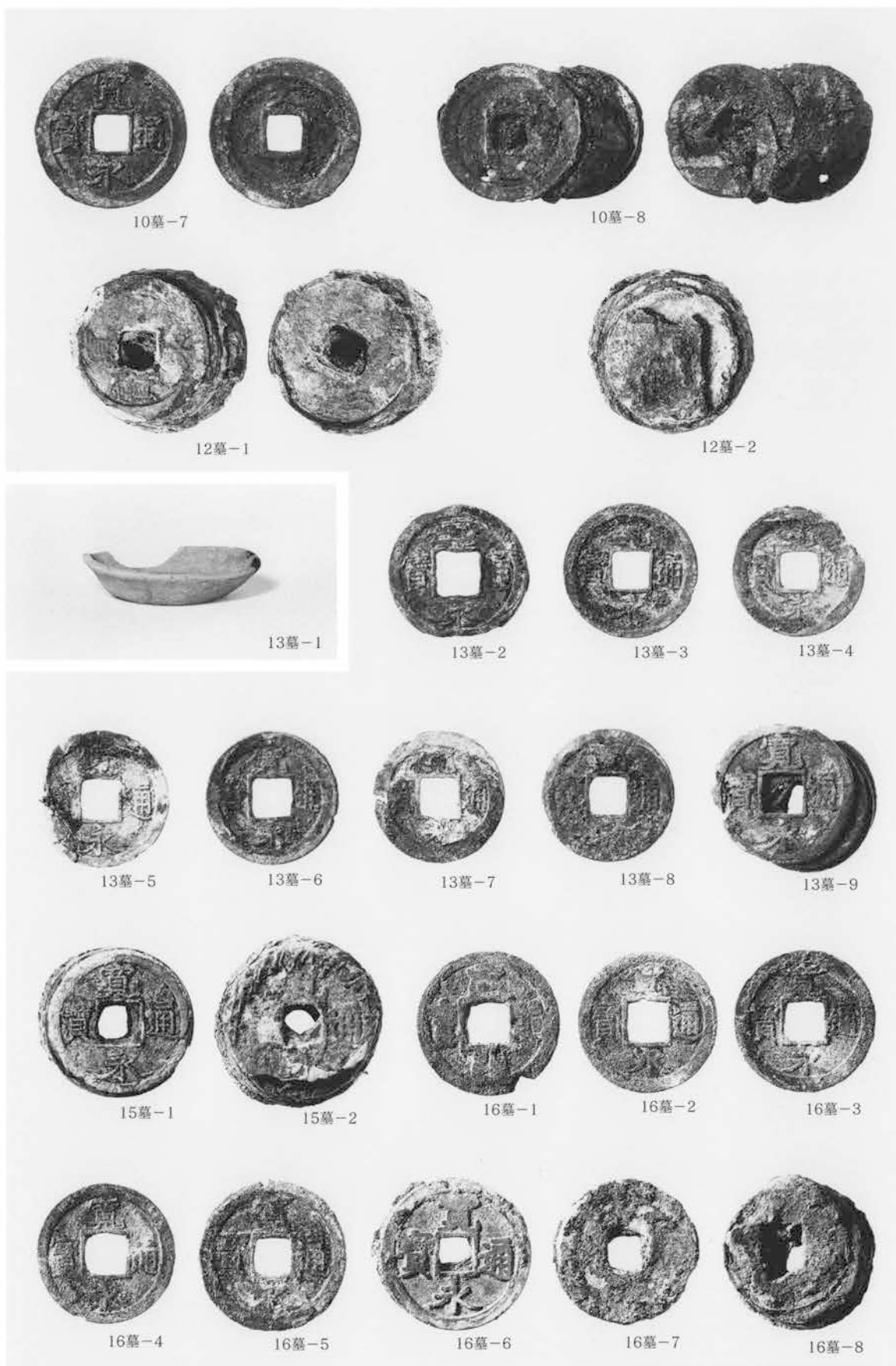


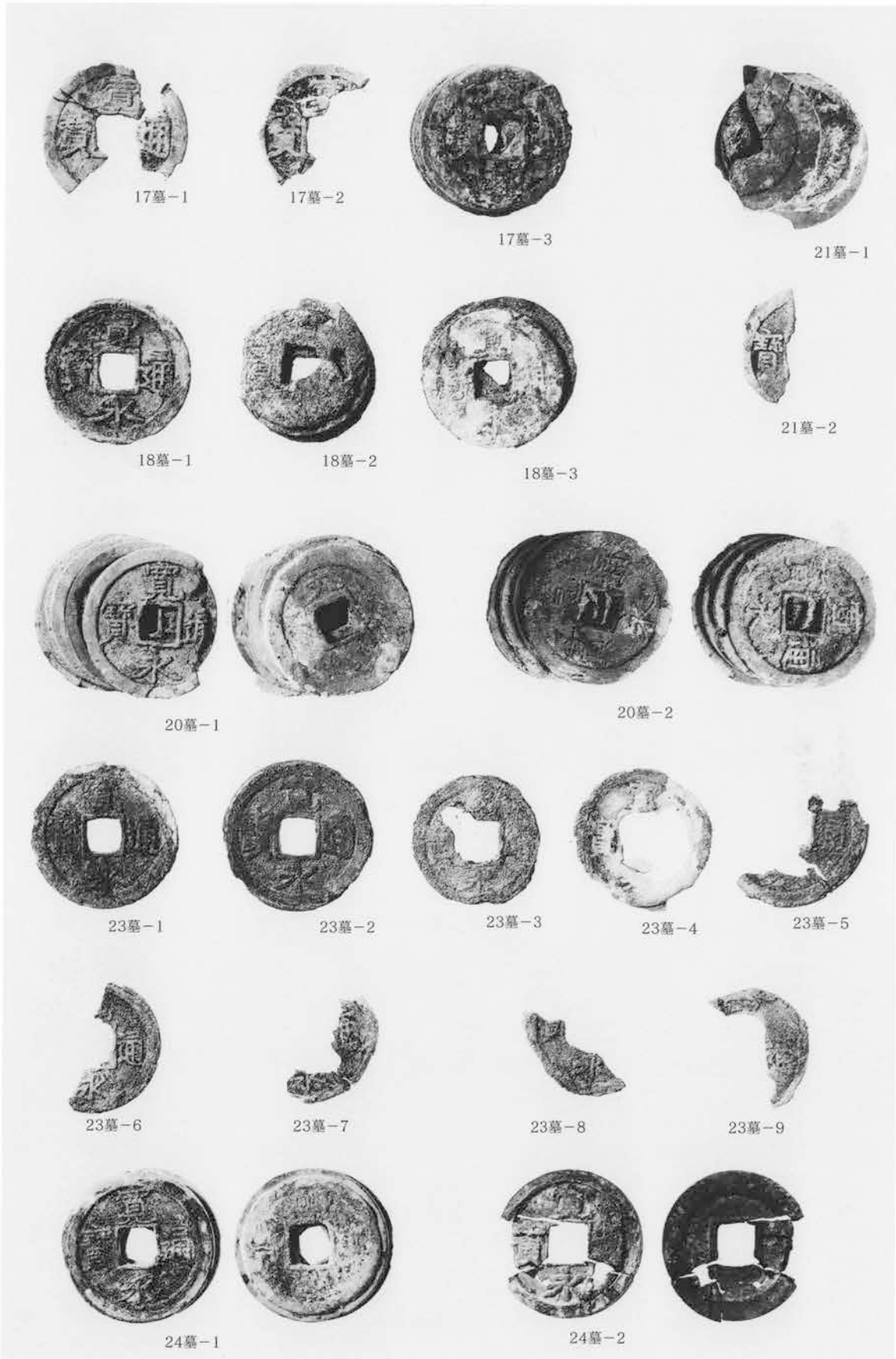
旧石器出土状況 (北から)

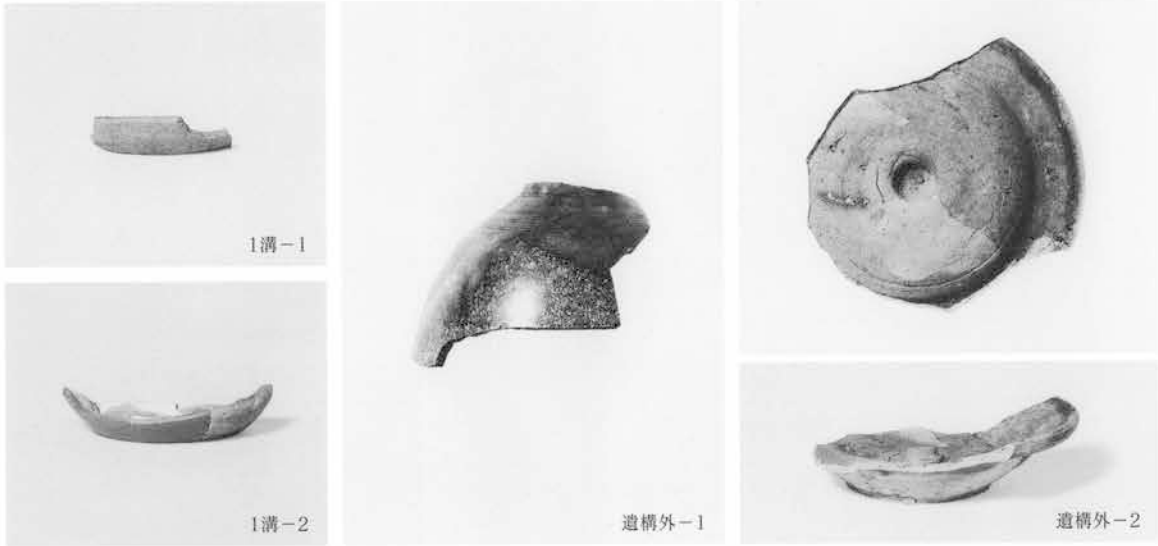
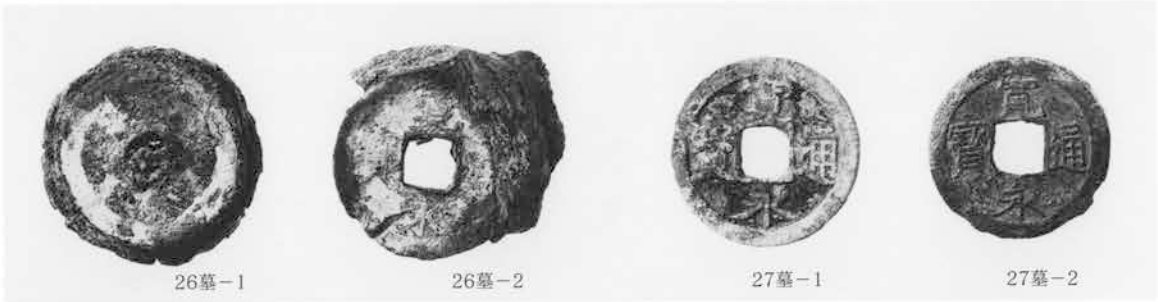














遺構外-14



遺構外-15



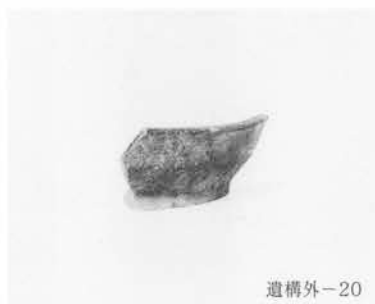
遺構外-16



遺構外-17



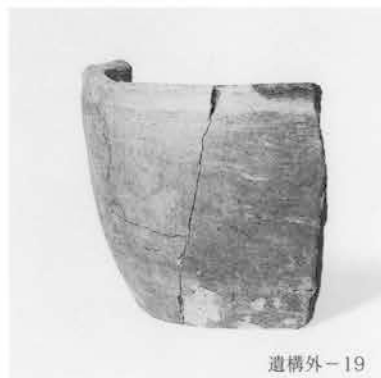
遺構外-18



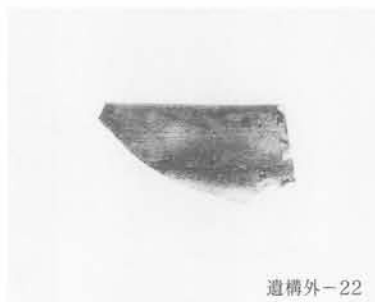
遺構外-20



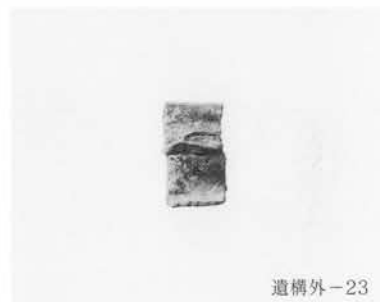
遺構外-21



遺構外-19



遺構外-22

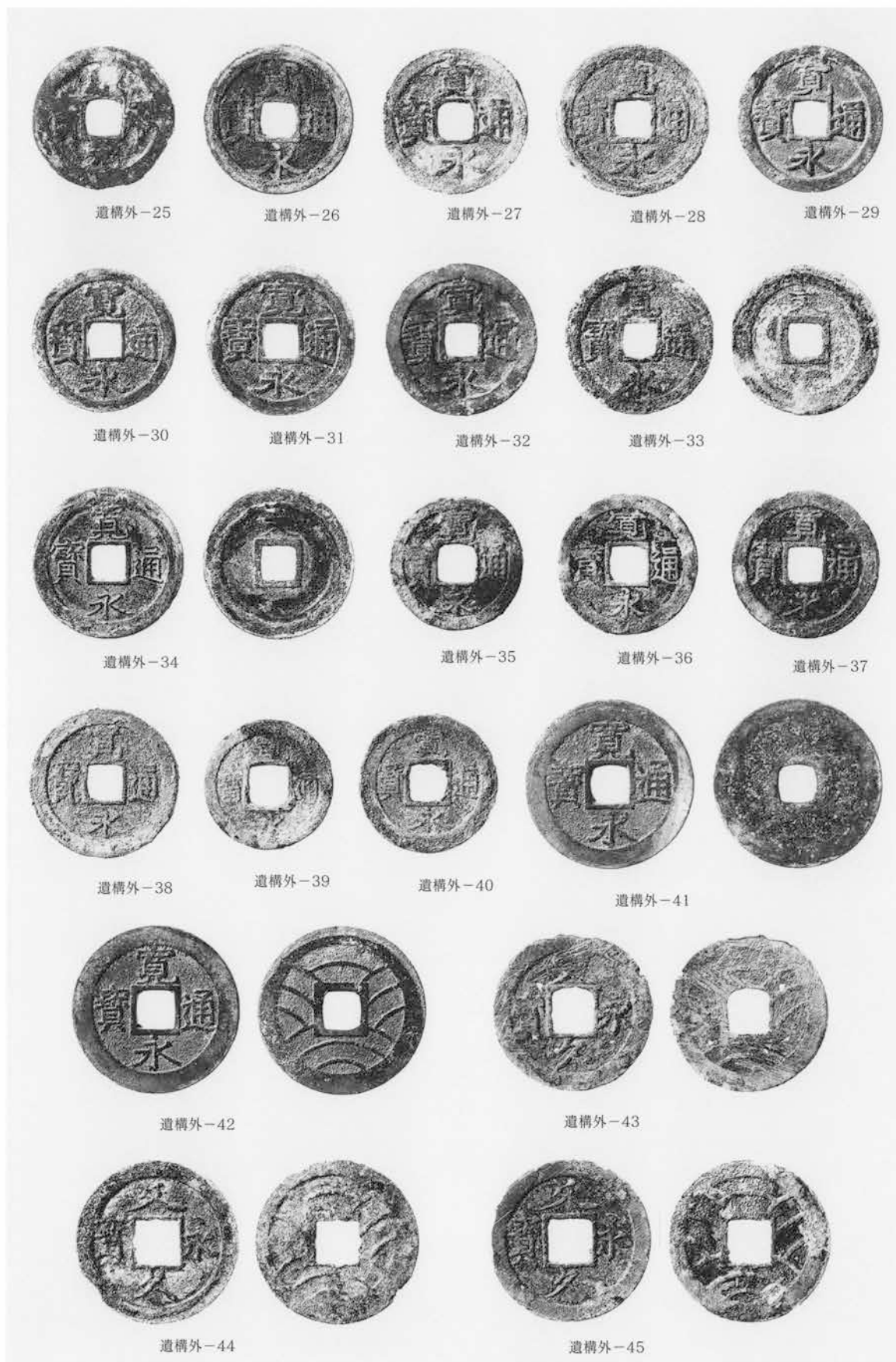


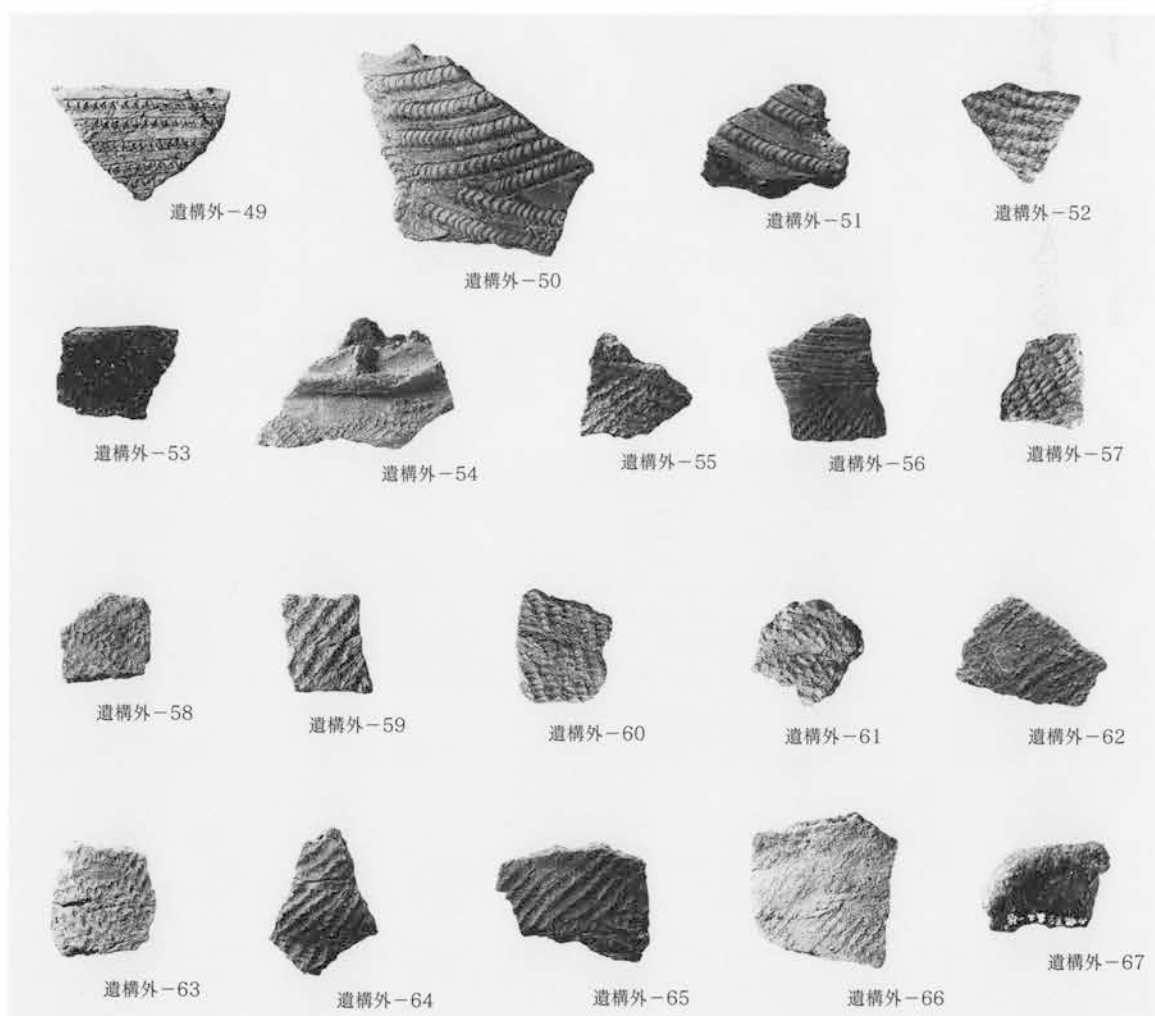
遺構外-23

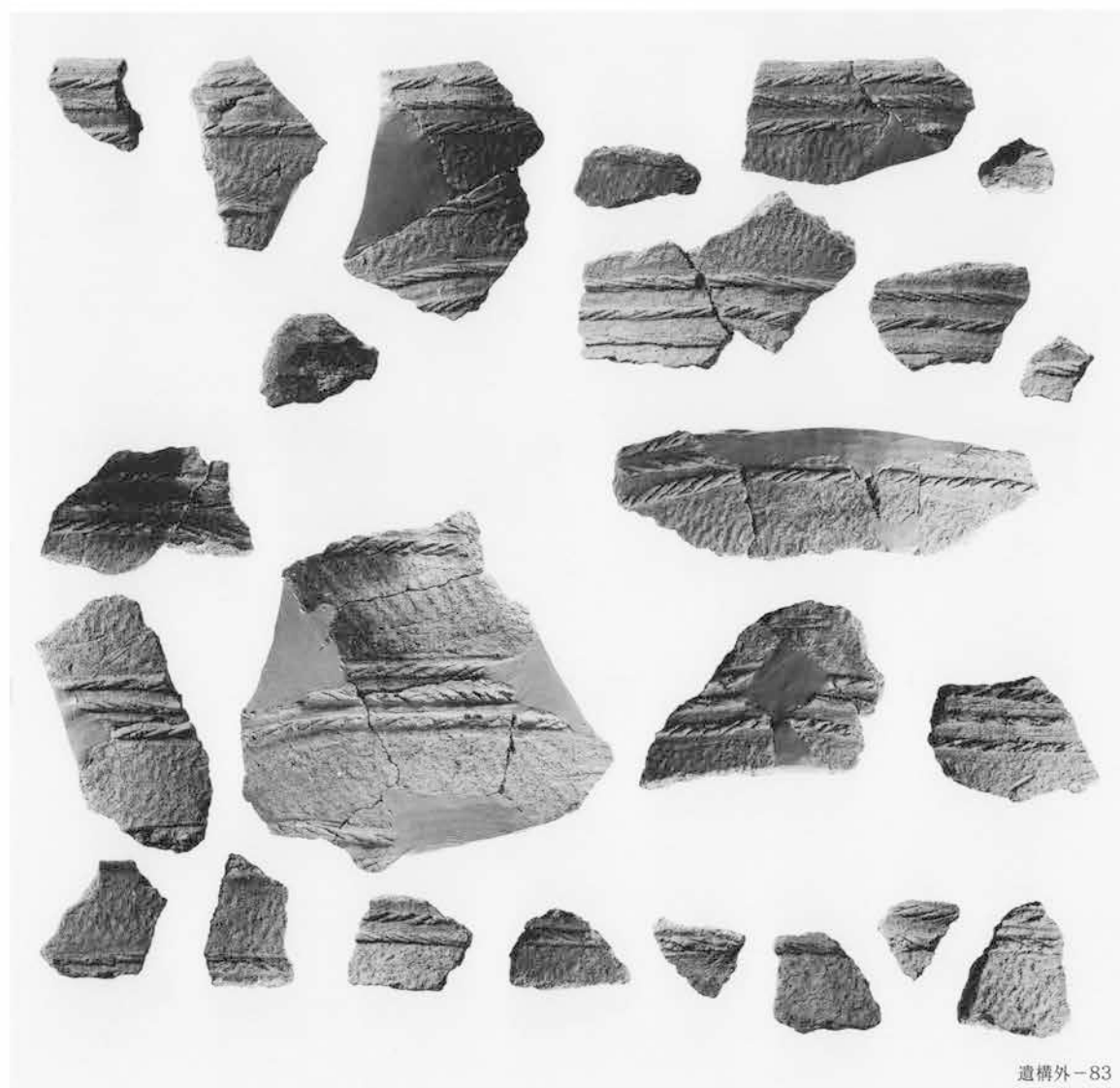
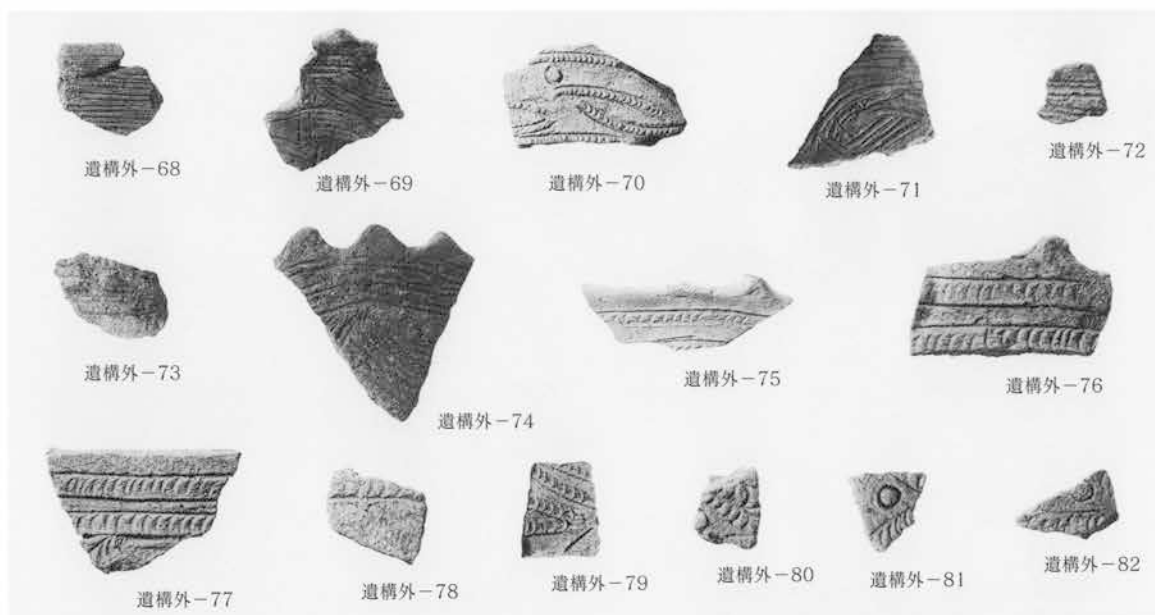


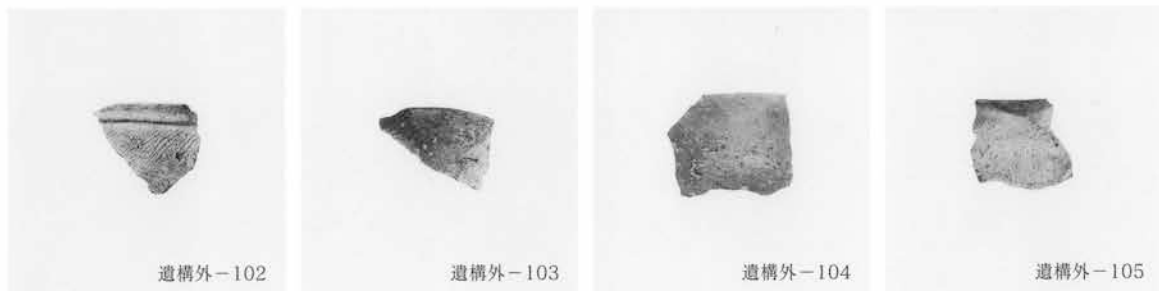
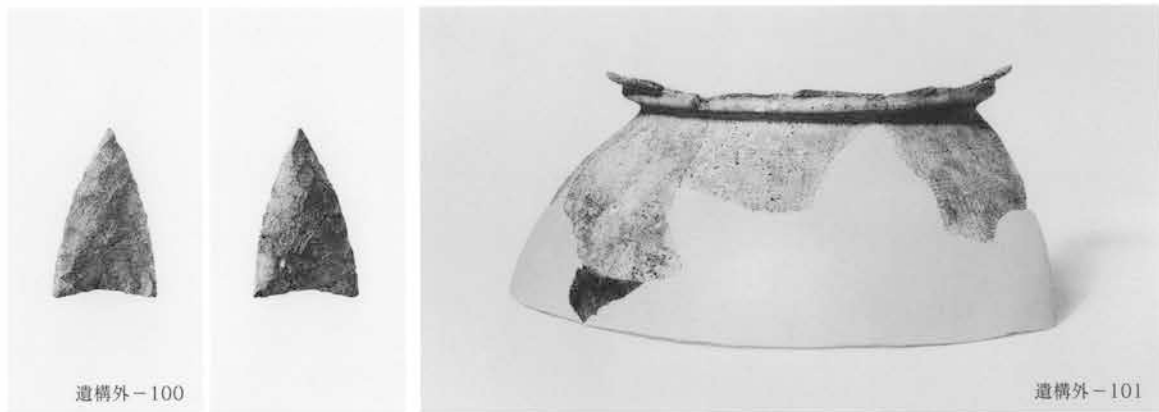
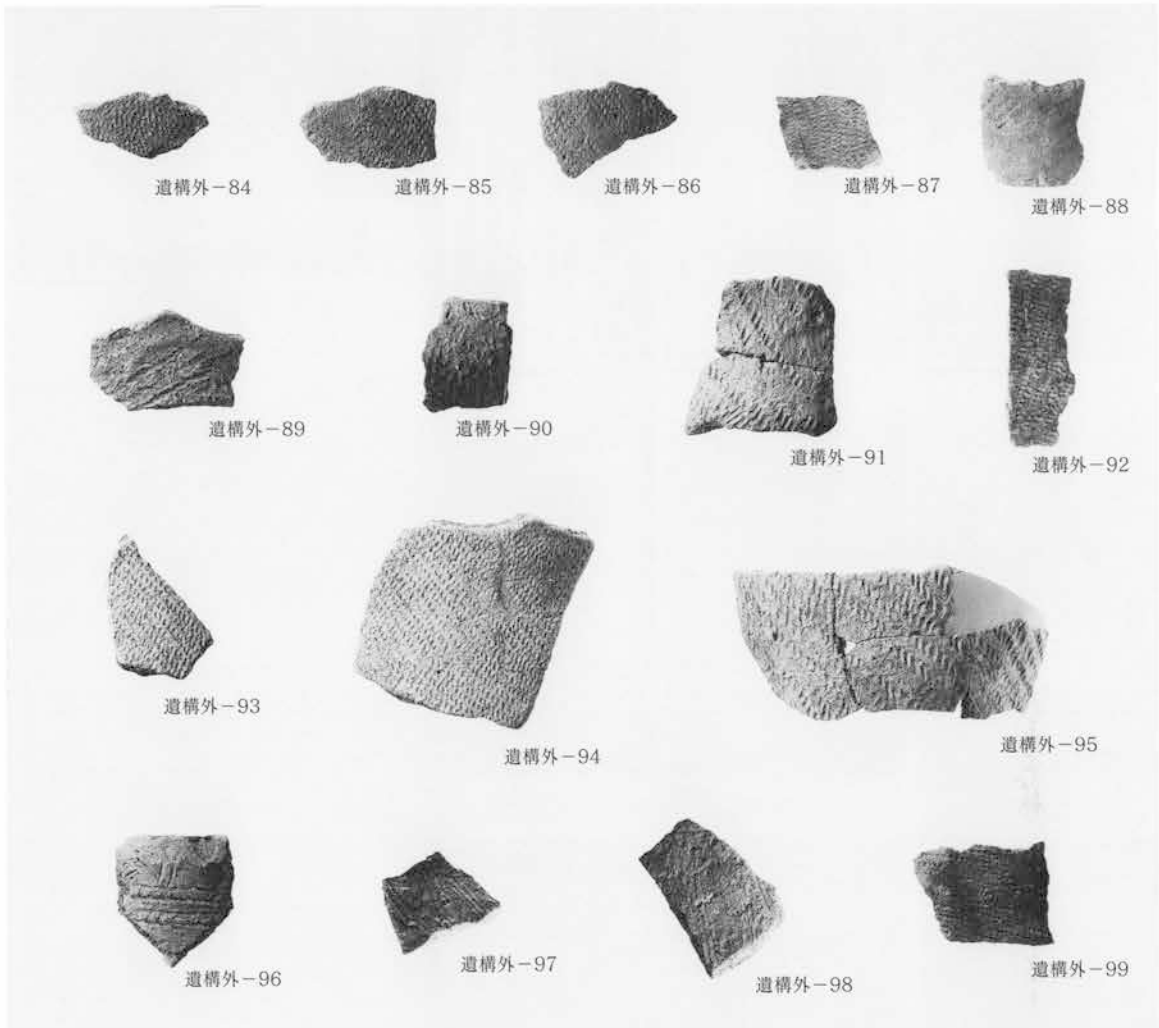
遺構外-24



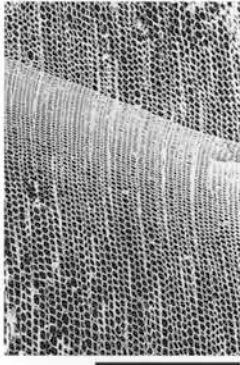








PL-100 波志江西宿遺跡住居跡出土炭化材樹種



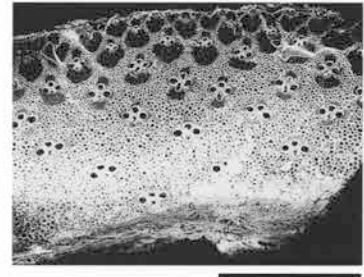
1a ヒノキ科(横断面)
C区3号住貯蔵穴 bar:0.5mm



1b ヒノキ科(接線断面)
C区3号住貯蔵穴 bar:0.5mm



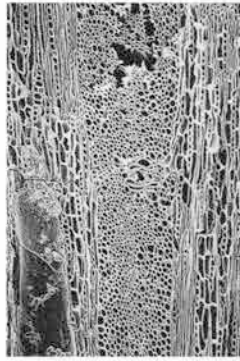
1c ヒノキ科(放射断面)
C区3号住貯蔵穴 bar:0.1mm



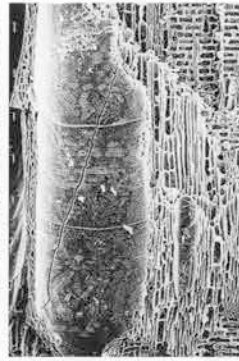
4 タケノ科(横断面)
C区3号住No.32 bar:1.0mm



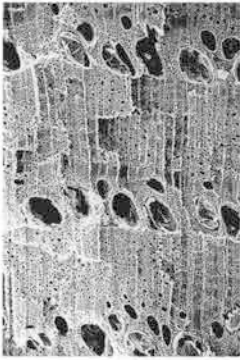
2a クスギ節(横断面)
C区2号住No.3 bar:0.5mm



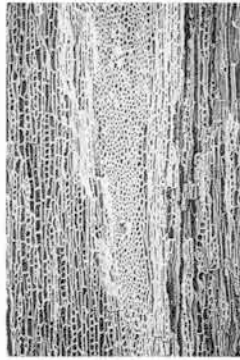
2b クスギ節(接線断面)
C区2号住No.3 bar:0.5mm



2c クスギ節(放射断面)
C区2号住No.3 bar:0.5mm



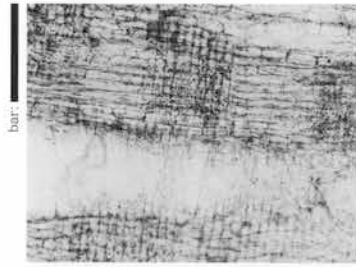
3a コナラ節(横断面)
C区2号住No.12 bar:0.5mm



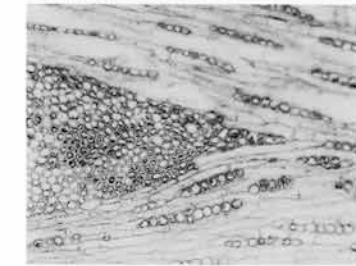
3b コナラ節(接線断面)
C区2号住No.12 bar:0.5mm



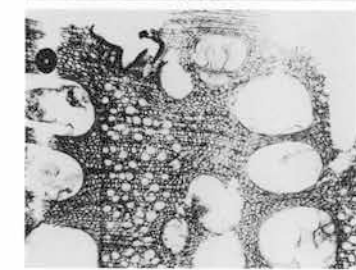
3c コナラ節(放射断面)
C区2号住No.12 bar:0.5mm



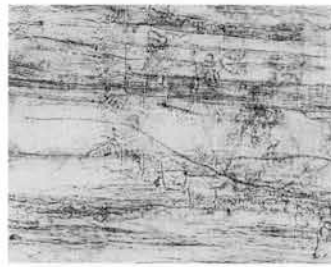
7c コナラ節 (放射断面)
標本No.35 bar:0.2mm



7b コナラ節 (接線断面)
標本No.35 bar:0.2mm



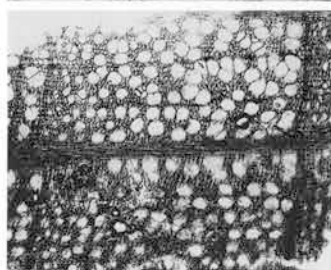
7a コナラ節 (横断面)
標本No.35 bar:0.5mm



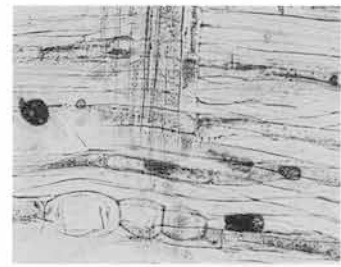
8c フナ属 (放射断面)
標本No.52 bar:0.1mm



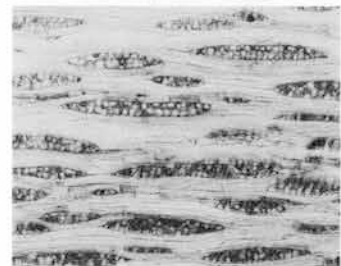
8b フナ属 (接線断面)
標本No.52 bar:0.2mm



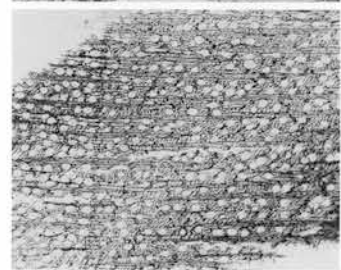
8a フナ属 (横断面)
標本No.52 bar:0.5mm



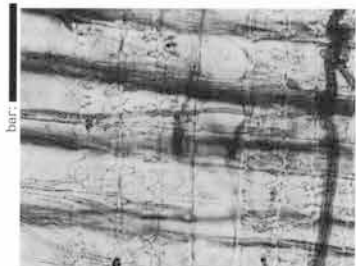
9c カマツカ (放射断面)
標本No.22 bar:0.1mm



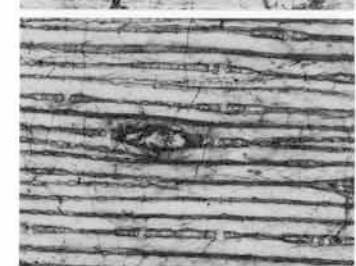
9b カマツカ (接線断面)
標本No.22 bar:0.2mm



9a カマツカ (横断面)
標本No.22 bar:0.5mm



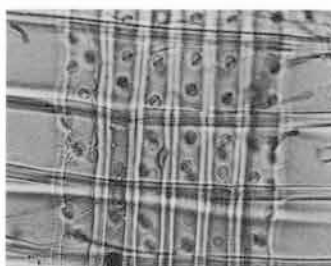
1c アカマツ (放射断面)
標本No.1 bar:0.05mm



1b アカマツ (接線断面)
標本No.1 bar:0.2mm



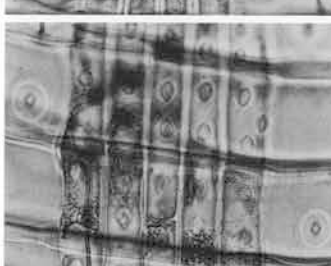
1a アカマツ (横断面)
標本No.1 bar:0.2mm



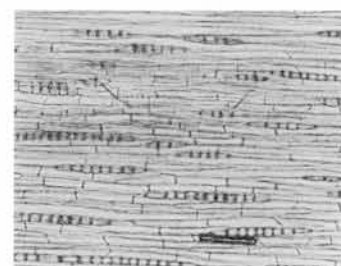
4 ヒノキ (放射断面)
標本No.19 bar:0.05mm



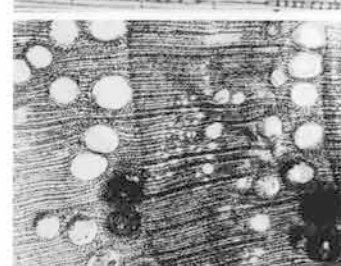
3 ネズコ (放射断面)
標本No.20 bar:0.05mm



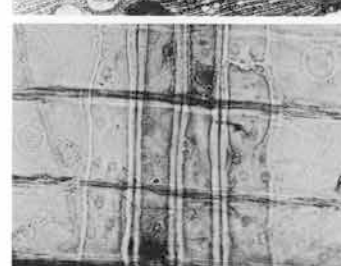
2 アサギ (放射断面)
標本No.17 bar:0.05mm



6b クリ (接線断面)
標本No.26 bar:0.2mm

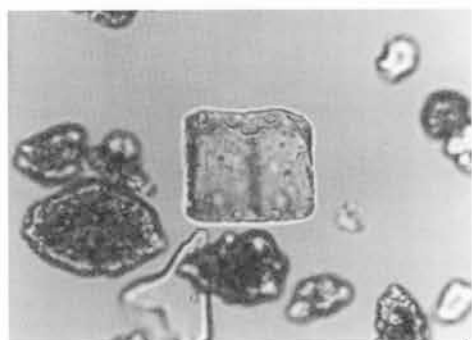


6a クリ (横断面)
標本No.26 bar:0.5mm

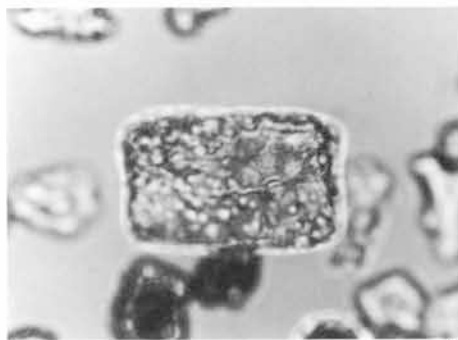


5 アスナロ (放射断面)
標本No.48 bar:0.5mm

PL-102 伊勢山遺跡植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真



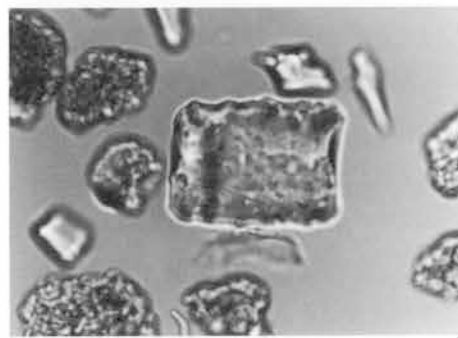
1



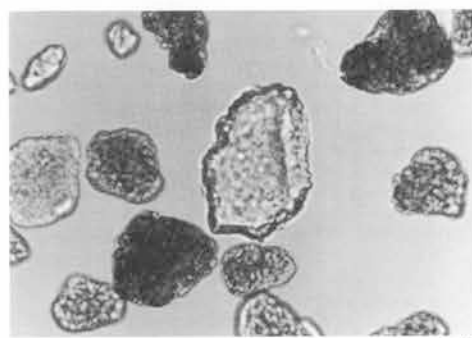
2



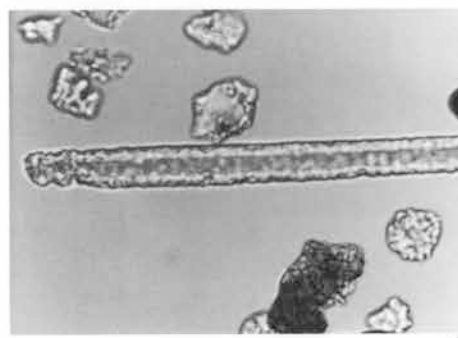
3



4



5



6

0 50 100 μm

No.	分類群	地点	試料名
1	ウシクサ族A	Aトレンチ	1
2	イネ科B	Aトレンチ	1
3	イネ科B	Eトレンチ	6
4	ネザサ節型	Eトレンチ	2
5	クマザサ属型	Eトレンチ	5
6	棒状珪酸体	Aトレンチ	1



財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第307集

波志江西宿遺跡Ⅰ

(古墳時代・中近世編)

伊勢山遺跡

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第16集

平成14年12月20日 印刷

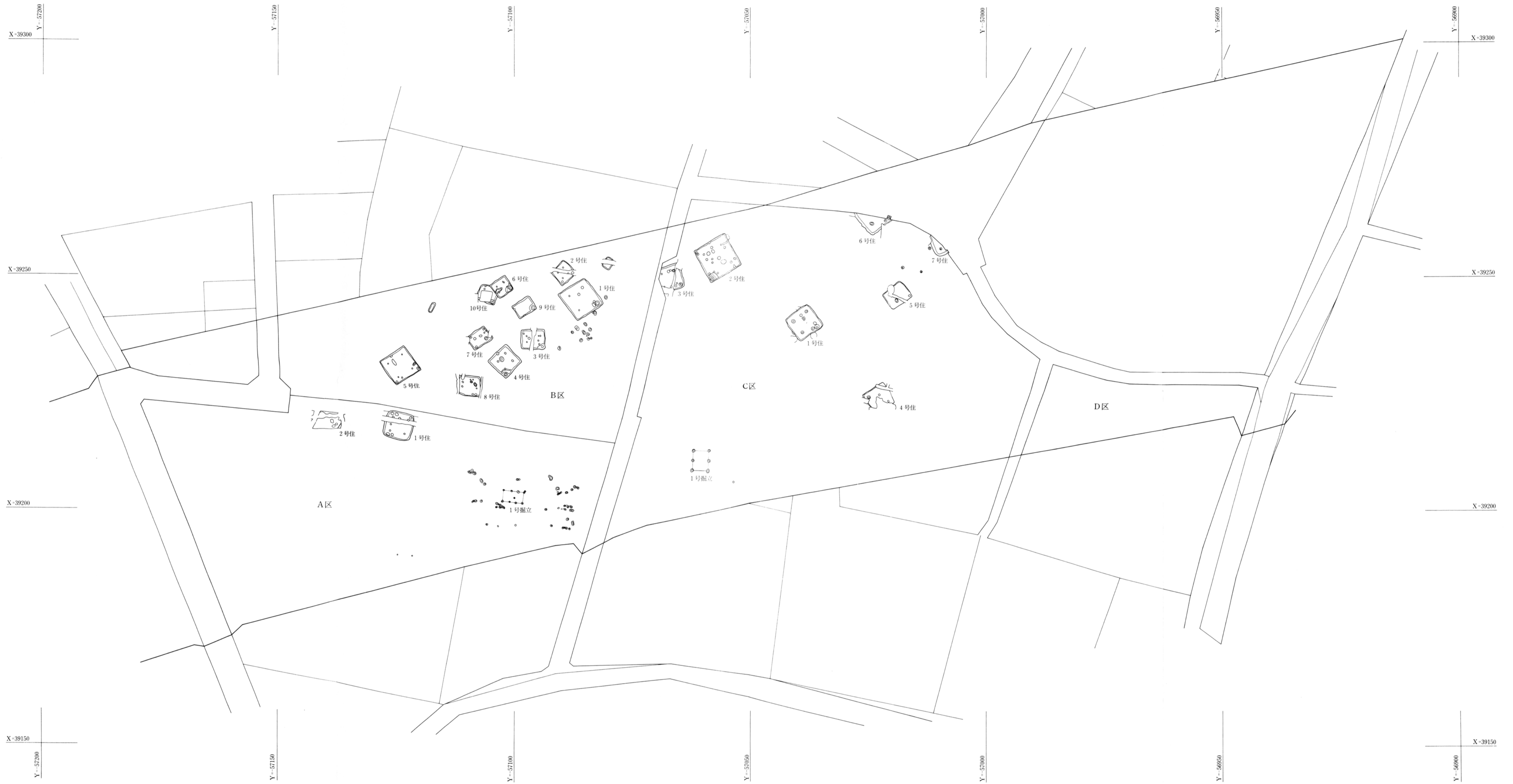
平成14年12月25日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

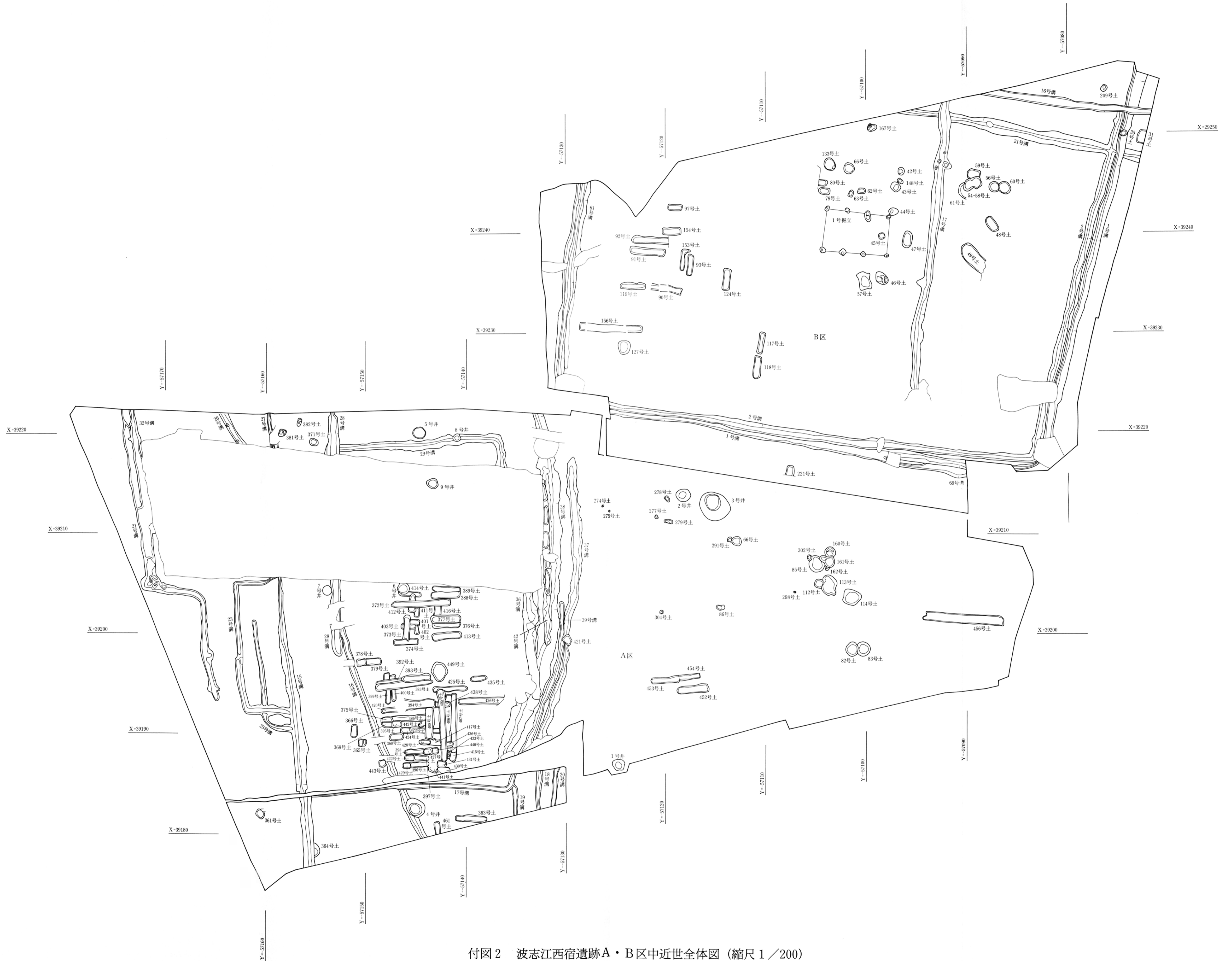
〒377-8555 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

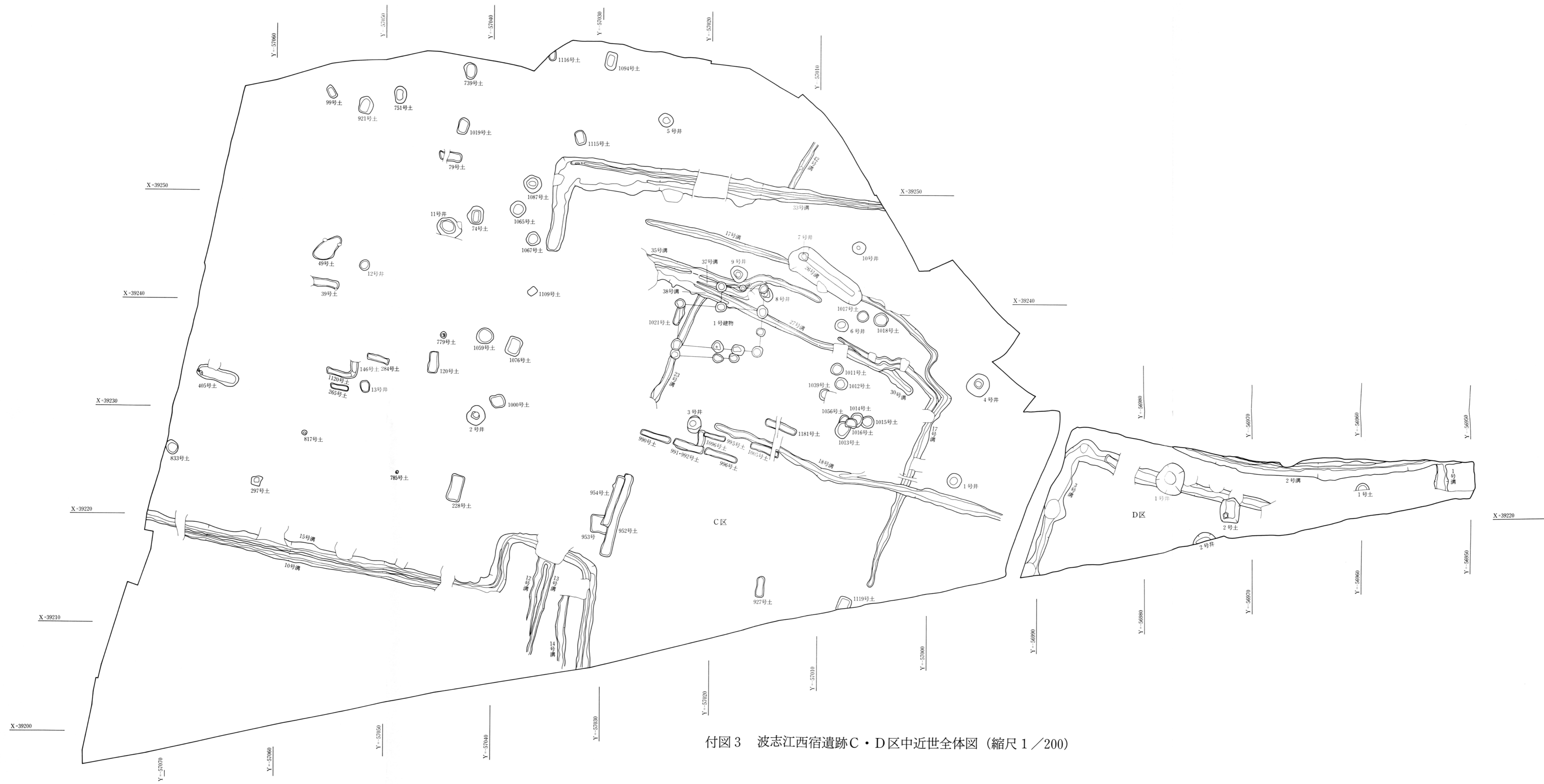
印刷／上毎印刷工業株式会社



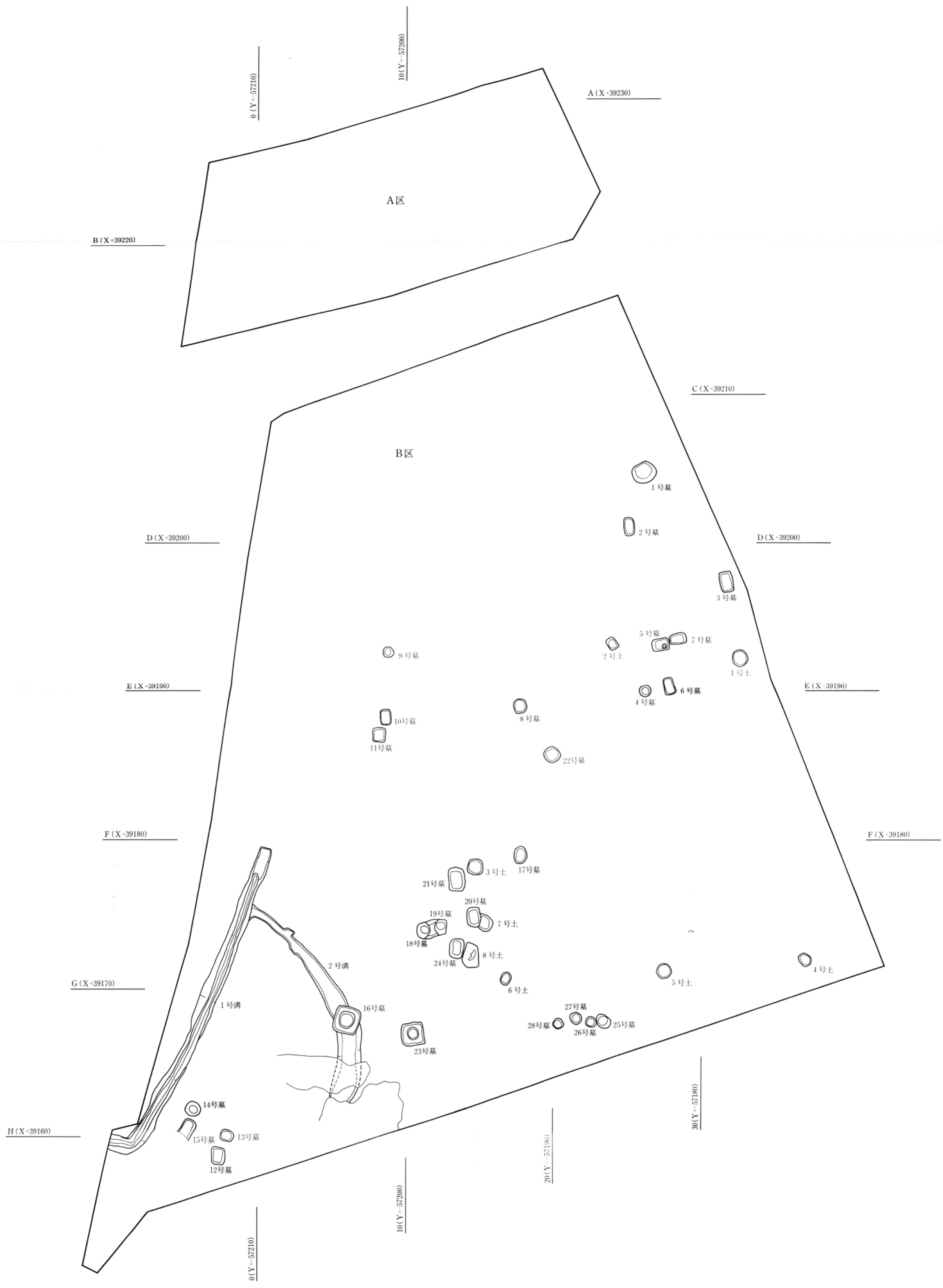
付图1 波志江西宿遺跡古墳時代全体図 (縮尺 1/500)



付图2 波志江西宿遺跡A・B区中近世全体図(縮尺1/200)



付图3 波志江西宿遺跡C・D区中近世全体図(縮尺1/200)



付図4 伊勢山遺跡全体図 (縮尺 1/200)